茨城県明野町埋蔵文化財発掘調査報告書第２集

倉　持　遺　跡

―第２年次調査―

1984.3

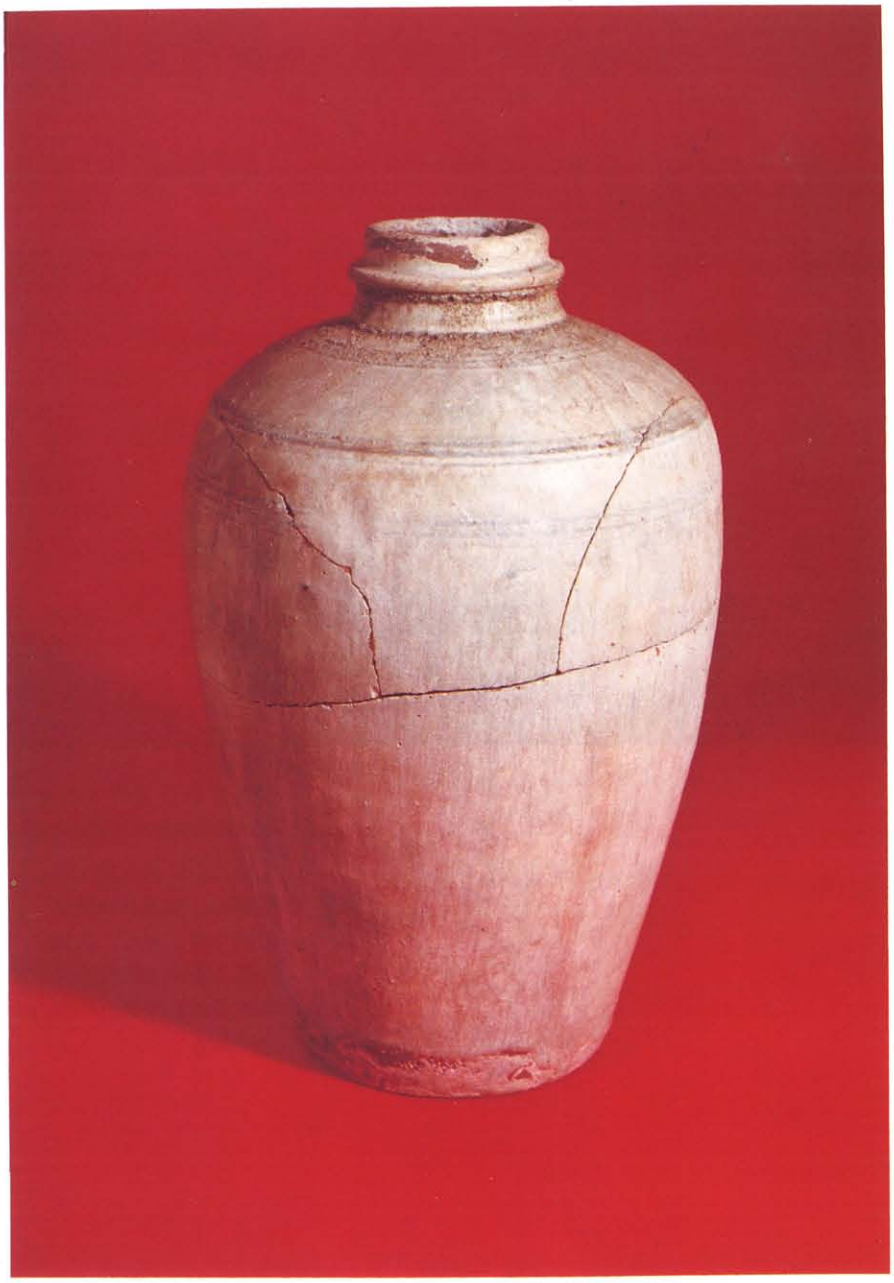
明野町教育委員会

倉持遺跡

—第2年次調査—

発掘された古代人の生活の跡
（倉持遺跡の発掘調査から）

大地に刻まれた古代の遺跡は、物言わぬ歴史の語り部であり、大地に眠る者から現代人に届けられた未来への伝言である。



瓶　子

発刊のことば

私たちのふるさと明野町は、桜川と小貝川に挟まれた広大な台地と河岸低地からなり、しかも豊かな自然に恵まれて、古くから先人たちの生活の舞台となっておりました。

文化財は、私たちの郷土の歴史や文化を正しく理解するために、重要な役割を果たすものでありますから後世のために大切に永く保存していく義務があります。

再度、町の事業として第２年次の倉持遺跡の発掘調査を実施し、ここに多くの成果を得られましたことは、明野町の原始、古代がさらに究明され、歴史の一端が明らかになったことと確信しております。さらにこうした成果が生きた教材として広く活用されることを願うとともに、町民の文化財に対する認識を深めることにもなるものと念じております。なお、当遺跡の調査は今後その全貌を明らかにする所存でありますので、関係各位の御協力と御指導をお願い申し上げます。

今回の調査に際しましては、たくさんの方々の御協力御理解をいただき、ここに改めて厚く御礼申し上げまして発刊のあいさつといたします。

昭和59年３月31日

明野町長　加倉井正利

例　　言

1．本報告書は、明野町教育委員会が昭和57年10月28日から昭和58年３月１日にかけて実施した倉持遺跡（茨城県真壁郡明野町大字倉持）の第２年次発掘調査の報告書である。

2．調査は今後継続的に実施し、年度ごとに報告するものとし、遺跡全体の調査が終了した後総合して研究編を刊行する予定である。

3．調査は町単費で実施され、事務局を明野町教育委員会社会教育課（課長山口晴道）においた。調査担当者は田口崇(明野町社会教育指導員)で、領域研究会、地元倉持の方々の協力を得た。

4．本書の編集は田口崇が担当し、出土品の整理にあたっては下記の方々の協力を得た。

（土器の拓本）　阿久津久、瓦吹堅、鶴見貞雄、山野井哲雄、岩松和光、安田厚子、斉藤信明、小坏弘子、真壁高校郷土史クラブ

（土器の実測・分類）　瓦吹堅、山野井哲雄、岩松和光、鶴見貞雄、水柿順子、市毛美津子

（石器の実測）　三浦茂三郎、飯島克巳、市毛美津子、田口崇

（図版作成・写真撮影・原稿執筆）　田口崇 、島田則夫

5．出土した遺物はすべて明野町教育委員会に保管してある。

6．調査期間中は下記の方々の御協力、御指導をいただき、ここに改めまして感謝の意を表する次第である。（敬称略、順不同）

阿久津久、高崎光司、原田昌幸、本田勉、鶴見貞雄、安田厚子、山野井哲雄、水柿順子、飯島庄一、山口徳次郎、皆川孫四郎、松本毅一、山口民三郎、真壁高校郷土史クラブ

（作業員）

皆川孫四郎、武井良平、瀬尾多喜三、大木栄子、外山やす子、飯島允、皆川隆子、広瀬カネ、酒寄平

（事務局）明野町教育委員会社会教育課

山口晴道、古宇田久、飯村英子 、尾見有史、島田公夫、鈴木毅

目　　次

発刊のことば……明野町長　加倉井正利… i
例言…… ii

第１章　遺跡の位置と環境…… 1
第１節　遺跡の位置と地理的環境…… 1
第２節　遺跡周辺の歴史的環境…… 1

第２章　発掘調査に至る経緯…… 5
第１節　第２年次発掘調査に至る経緯…… 5
第２節　第２年次調査の方法…… 5
第３節　第１年次調査の概要…… 6
第４節　第２年次調査の概要…… 6

第３章　検出された遺構…… 8
第１節　第１トレンチ…… 8
第２節　第２トレンチ…… 9
第３節　堆積土層……10
第４節　縄文時代の遺構……10
第５節　弥生時代の遺構……25
第６節　古墳時代の遺構……25
策７節　歴史時代の遺構……29

第４章　出土遺物……89
第１節　旧石器時代の遺物……89
第２節　縄文時代の遺物……89
第３節　弥生・古墳時代の遺物……92
第４節　歴史時代の遺物……92

第５章　総括……101

挿図目次

第１図　明野町の遺跡…… 2
第２図　遺跡現況図…… 4
第３図　第１次・第２次調査区…… 5
第４図　第１年次調査遺構全図…… 7
第５図　遺跡全体図…… 8
第６図　遺構図…… 11
第７図　土層断面図…… 11
第８図　第１・２トレンチ遺構図…… 12
第９図　第１トレンチ出土遺物…… 13
第10図　第２トレンチ出土遺物…… 14
第11図　縄文時代の遺構…… 15
第12図　遺構図１－住居跡…… 16
第13図　遺構図２－住居跡・小竪穴…… 17
第14図　遺構図３－住居跡・小竪穴…… 19
第15図　遺構図４－袋状土壙…… 20
第16図　遺構図５－埋甕・ピット・集石遺構…… 21
第17図　遺構図６－土壙・ピット…… 23
第18図　遺構図７－土壙・ピット…… 24
第19図　弥生時代・古墳時代の遺構…… 25
第20図　遺構図８－弥生時代の住居跡…… 26
第21図　遺構図９－３号方形周溝墓…… 27
第22図　歴史時代の遺構…… 28
第23図　遺構図10－溝跡・築地状遺構…… 31
第24図　遺構図11－土壙・ピット…… 32
第25図　遺構図12－土壙・ピット…… 33
第26図　遺構図13－土壙・ピット…… 34
第27図　畝状遺構…… 35
第28図　出土遺物（１）縄文土器拓影…… 36
第29図　出土遺物（２）縄文土器拓影…… 37
第30図　出土遺物（３）縄文土器拓影…… 38
第31図　出土遺物（４）縄文土器拓影…… 39
第32図　出土遺物（５）縄文土器拓影…… 40
第33図　出土遺物（６）縄文土器拓影…… 41
第34図　出土遺物（７）縄文土器拓影…… 42
第35図　出土遺物（８）縄文土器拓影…… 43
第36図　出土遺物（９）縄文土器拓影…… 44
第37図　出土遺物（10）縄文土器拓影…… 45
第38図　出土遺物（11）縄文土器拓影…… 46
第39図　出土遺物（12）縄文土器拓影…… 47
第40図　出土遺物（13）縄文土器拓影…… 48
第41図　出土遺物（14）縄文土器拓影…… 49
第42図　出土遺物（15）縄文土器拓影…… 50
第43図　出土遺物（16）縄文土器拓影…… 51
第44図　出土遺物（17）縄文土器拓影…… 52
第45図　出土遺物（18）縄文土器拓影…… 53
第46図　出土遺物（19）縄文土器拓影…… 54
第47図　出土遺物（20）縄文土器拓影…… 55
第48図　出土遺物（21）縄文土器拓影…… 56
第49図　出土遺物（22）縄文土器拓影…… 57
第50図　出土遺物（23）縄文土器拓影…… 58
第51図　出土遺物（24）縄文土器拓影…… 59
第52図　出土遺物（25）縄文土器拓影…… 60
第53図　出土遺物（26）縄文土器拓影…… 61
第54図　出土遺物（27）縄文土器拓影…… 62
第55図　出土遺物（28）縄文土器拓影…… 63
第56図　出土遺物（29）縄文土器拓影…… 64
第57図　出土遺物（30）縄文土器拓影…… 65
第58図　出土遺物（31）縄文土器拓影…… 66
第59図　出土遺物（32）縄文土器拓影…… 67
第60図　出土遺物（33）縄文土器拓影…… 68
第61図　出土遺物（34）縄文土器拓影…… 69
第62図　出土遺物（35）縄文土器拓影…… 70
第63図　出土遺物（36）縄文土器拓影…… 71
第64図　出土遺物（37）縄文土器拓影…… 72
第65図　出土遺物（38）縄文土器拓影…… 73
第66図　出土遺物（39）縄文土器拓影…… 74
第67図　出土遺物（40）縄文土器拓影…… 75
第68図　出土遺物（41）縄文土器拓影…… 76
第69図　出土遺物（42）縄文土器拓影…… 77
第70図　出土遺物（43）縄文土器拓影…… 78
第71図　出土遺物（44）縄文土器拓影…… 79
第72図　出土遺物（45）縄文土器拓影…… 80
第73図　出土遺物（46）縄文土器拓影…… 81
第74図　出土遺物（47）縄文土器拓影…… 82
第75図　出土遺物（48）縄文土器拓影…… 83
第76図　出土遺物（49）縄文土器拓影…… 84
第77図　出土遺物（50）縄文土器拓影…… 85
第78図　出土遺物（51）縄文土器拓影…… 86
第79図　出土遺物（52）縄文土器拓影…… 87
第80図　出土遺物（53）土製品…… 88
第81図　出土遺物（54）弥生土器…… 89
第82図　出土遺物（55）灯明皿・杯形土器…… 90
第83図　出土遺物（56）内耳・習り鉢…… 91
第84図　出土遺物（57）石器実測図(1)…… 92
第85図　出土遺物（58）石器実測図(2)…… 93
第86図　出土遺物（59）石器実測図(3)…… 94
第87図　出土遺物（60）石器・骨角器実測図(4)…… 95
第88図　出土遺物（61）石器実測図(5)…… 96
第89図　出土遺物（62）石器実測図(6)…… 97

第90図　出土遺物（63）石器実測図(7)…98
第91図　出土遺物（64）石器・石製品
実測図(8)……99
第92図　出土遺物（65）石器・石製品
実測図(9)……100

図版目次

図版１　上一遺跡近景（西側より）……115
下一遺跡全景（南側より）……115
図版２　上一第１トレンチ
（南側より）……116
下一遺跡西側一溝跡
（南側より）……116
図版３　上一路状遺構（南側より）……117
下一築地状遺構と周辺の
遺物出土状況……117
図版４　上一遺跡西側の遺構検出状況
（南側より）……118
下一遺跡中央部の遺構検出状況
況（南側より）……118
図版５　上一遺跡北側一路状遺構と溝跡
（西側より）……119
下一遺跡北側の遺構検出状況一
住居跡と土壙（西側より）……119
図版６　上一遺跡東南側の遺構検出状況
（東側より）……120
下一遺跡西側の遺構検出状況
（西側より）……120
図版７　上一方形周溝墓と周辺の遺構
（南側より）……121
下一１号方形周溝墓の北西隅
（南側より）……121
図版８　上一第１トレンチ一南側部分
（東側より）……122
中一第１トレンチ一小竪穴１
（東側より）……122
下一第１トレンチ一柱穴群
（東側より）……122
図版９　上一第１トレンチ(南側より)…123
中一第１トレンチ一土壙群
（北側より）……123
下一第１トレンチ一土壙内遺物
出土状況（西側より）……123
図版10　上一第２トレンチ
（南側より）……124
中一第２トレンチ一土壙
（北側より）……124
下一第２トレンチ一遺物出土状
況（北側より）……124
図版11　上一遺跡西側一遺構プラン確認
状況（南側より）……125
中一遺跡中央部一畝状遺構確認
状況（東側より）……125
下一遺跡中央部一遺構検出状況
（南側より）……125
図版12　上一円形土壙（７Ｇ15Ｐ４）の
堆積土層（南側より）……126
中一円形土壙（７Ｇ15Ｐ２）の
堆積土層（東側より）……126
下一円形土壙（７Ｇ10Ｐ２）の
堆積土層（京側より）……126
図版13　上一遺跡北側の遺構検出状況
（西側より）……127
中一遺跡北側の遺構一住居跡と
土壙（東側より）……127
下一遺構南側の遺構検出状況
（西側より）……127
図版14　上一遺跡北側の土壙検出状況
（東側より）……128
中一遺跡東側の遺構検出状況
（南側より）……128
下一遺跡東側の遺構検出状況
（東側より）……128
図版15　上一路状遺構と小竪穴
５（７Ｆ24)(東側より）……129
中一３号方形周溝墓と円形土壙
６（７Ｆ24）……129
下一１号方形周溝墓の底面に検
出された小竪穴10（８Ｆ11)
（北側より）……129
図版16　上一袋状土壙７（７Ｆ15）の堆
積土層（東側より）……130
中一袋状土壙７の土器出土状況
（南側より）……130
下一袋状土壙７の土器出土状況
（西側より）……130
図版17　上一袋状土壙１（７Ｆ14)
（東側より）……131
中一袋状土壙４（７Ｇ４・９）
（南側より）……131
下一袋状土壙７（７Ｆ15)
（西側より）……131

図版18　上一埋甕３と周辺の遺物出土状況（南側より）……132
中一埋甕３と周辺の遺物出土状況（南側より）……132
下一埋甕３の近景（南側より）……132
図版19　上一２号方形周溝墓と住居跡２（７Ｆ18)(北側より）……133
中一２号方形周溝墓南西隅部分の遺物出土状況（東側より）…133
下一石棒（兼凹石）の出土状況（北側より）……133
図版20　上一袋状土壙５（７Ｇ９）の遺物出土状況……134
中一遺物（凹石・縄文土器）出土状況（８Ｆ13）……134
下一集石遺構（８Ｆ７）……134
図版21　上一弥生時代の住居跡２（８Ｆ17・18)(西側より）……135
中一弥生時代の住居跡（南側より）……135
下一弥生時代の住居跡（床面の弥生土器）……135
図版22　上一３号方形周溝墓西側（南側より）……136
中一３号方形周溝墓南側（東側より）……136
下一３号方形周溝墓東側溝北壁の断面（南側より）……136
図版23　上一路状遺構と土壙９(７Ｇ４）（東側より）……137
中一路状遺構と溝跡（西側より）……137
下一路状遺構と溝跡遺物出土状況（南側より）……137
図版24　上一溝跡と土壙群（７Ｇ10)（西側より）……138
中一溝跡と土壙群（西側より）……138
下一溝跡と周辺の遺構（東側より）……138
図版25　上一土器焼成遺構（８Ｆ12）の粘土堆積状況（北側より）……139
中一土器焼成遺構の遺物出土状況と堆積土層（東側より）……139
下一土器焼成遺構の遺物出土状況（南側より）……139
図版26　上一瓶子出土状況（８Ｆ12―東側より）……140
中一瓶子出土状況（８Ｆ12―西側より）……140
下一遺物出土状況（８Ｆ13―北側より）……140
図版27　上一発掘作業風景（西側より）……141
中一遺跡見学会……141
下一遺跡見学会……141
図版28　出土遺物１　縄文土器……142
図版29　出土遺物２　縄文土器・土製品……143
図版30　出土遺物３　旧石器……144
図版31　出土遺物４　石製品・剥片……145
図版32　出土遺物５　石鏃……146
図版33　出土遺物６　磨製石斧・打製石斧……147
図版34　出土遺物７　礫器・叩き石……148
図版35　出土遺物８　石製品・骨角器…149
図版36　出土遺物９　石棒・凹石・石皿…150
図版37　出土遺物10　弥生土器・灯明皿・杯形土器……151
図版38　出土遺物11　瓶子……152
図版39　出土遺物12　内耳・硯・砥石・石臼……153

表目次

表１　明野町の遺跡……3
表２　検出された遺構（縄文時代）……18
表３　検出された遺構（縄文時代）……19
表４　検出された遺構（縄文時代）……22
表５　検出された遺構（歴史時代）……29
表６　検出された遺構（歴史時代）……30
表７　出土遺物…縄文土器……102
表８　出土遺物…縄文土器……103
表９　出土遺物…縄文土器……104
表10　出土遺物…縄文土器……105
表11　出土遺物…縄文土器……106
表12　出土遺物…縄文土器……107
表13　出土遺物…弥生土器・内耳灯明皿・土製品……108
表14　出土遺物…石　器……110
表15　出土遺物…石　器……110
表16　出土遺物…石　器……111

第１章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と地理的環境

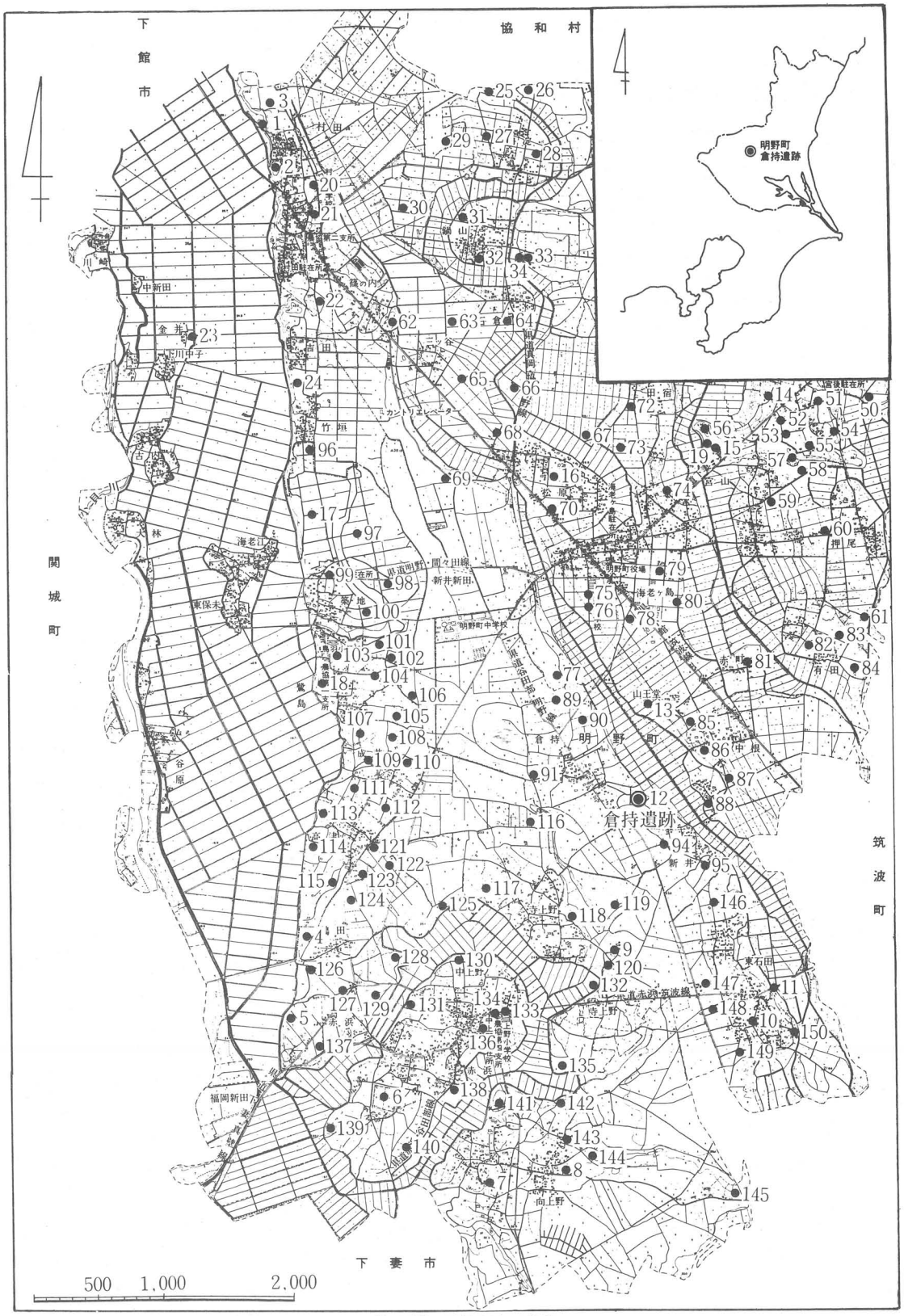
倉持遺跡は茨城県真壁郡明野町大字倉持に位置する。東は霞ヶ浦に南流する桜川と、西は利根川に流れ込む小貝川、旧小貝川が造り出した河岸段丘と台地からなる地形で形成されており、遺跡はこの台地の縁辺部に立地している。東側には霊峰筑波山（標高687 m）を眼前に控え、眼下には水田が北西部から南東部にかけて細長く展開している。水田面との比高差は約10m で、遺跡の中央部には、東側の台地下の水田地帯から小支谷が入り込んでおり、倉持遺跡はこの谷を取り囲むように形成されている。

遺跡の標高は35m 、東側に向かって緩やかに傾斜しており、台地のすぐ下には薬師池とよばれる池が存在している。なお、遺跡周辺にはこうした水源がいくつか確認されている。遺跡は現在畑地となっており、土器や石器等遺物の散布する範囲は台地沿に約450m 、台地の奥部へ約150m 程であり、遺跡の規模もこの範囲でとらえられるであろう。

河川（旧河川も含めて）が形成した河岸段丘と広大な台地は、筑波山を仰ぎつつ傘下の真壁地方に大きく大自然のパノラマを展開しており、１万年以上も前から古代人の生活する舞台となっていたことを想像させる。倉持遺跡もこうした真壁地方の遺跡の１つとして存在している。

第２節　遺跡の周辺の歴史的環境

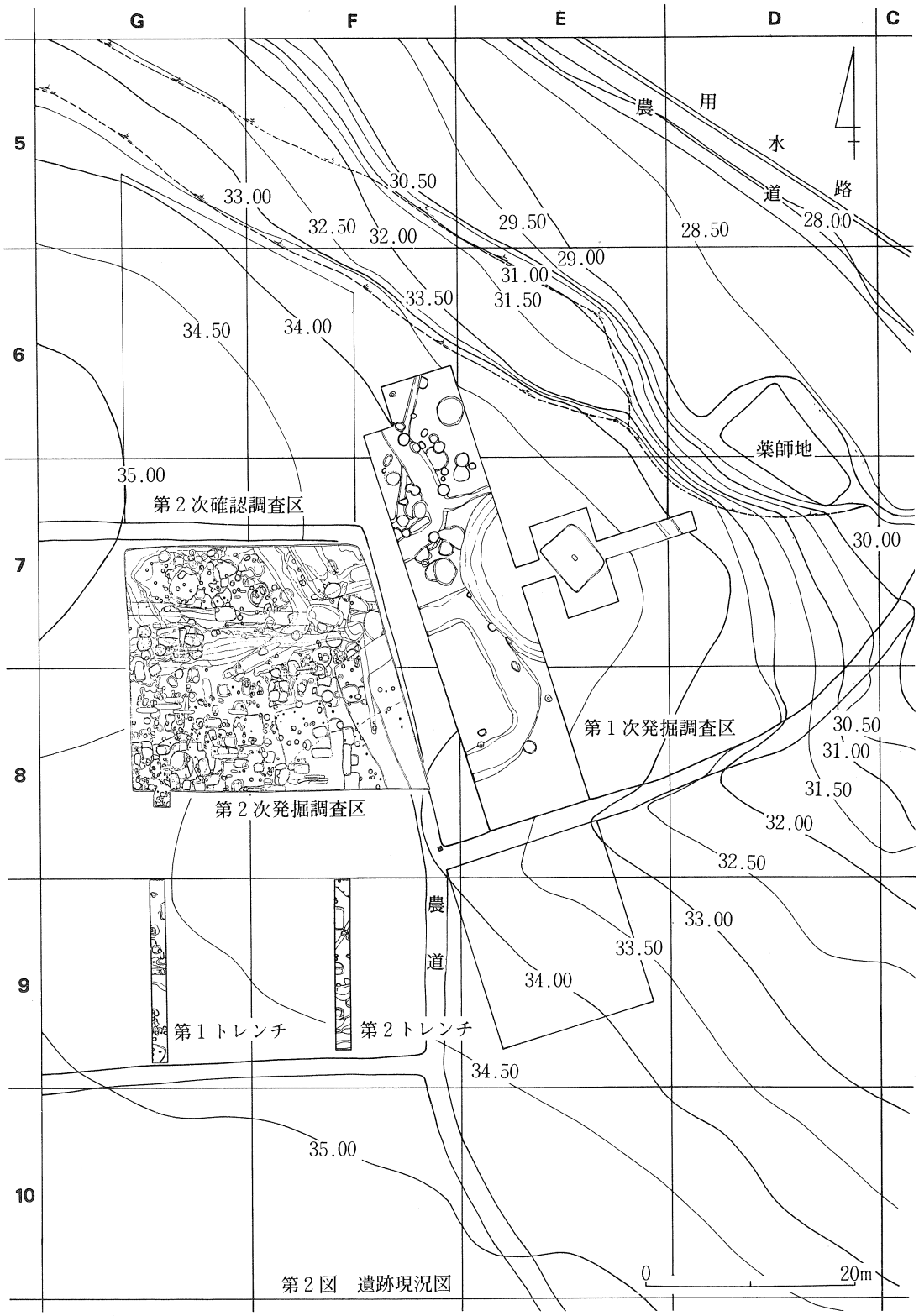
倉持遺跡は水田地帯に面した台地の縁辺部に位置しているが、同様に水田地帯を挟んで東側の低段丘や西側の台地縁辺部にも遺跡が広がっている。倉持遺跡のすぐ北側の小支谷をはさんで宮前遺跡（表１－92）、その北には宮北遺跡（表１－90）がある。南側には古墳時代から平安時代にかけての富士山遺跡（表１－94）や倉持前畑遺跡が存在している。水田を挟んで対岸の微高地（標高24m 、水田面との比高差は１～２m 程である）は南北に細長くのびる沖積地で、西側の大村排水路に沿って遺跡が展開している。倉持遺跡の調度真北の方向には、縄文時代中期から晩期、さらには古墳時代、歴史時代の遺物がみられる複合遺跡の山王堂遺跡（表１－13）がある。ここは山王堂合戦の古戦場であるが、縄文時代晩期の好資料が多くみられる。山王堂遺跡の南側には宮先遺跡（表１－85）、狭間遺跡（表１－86）、台遺跡（表１－87）など縄文時代から弥生、古墳時代さらには奈良、平安時代、中世に至るまでの遺跡が低段丘上に存在している。このことは旧河川によって形成された微高地がかなり早い時期に拓かれていたことを示している。倉持遺跡の北側には雲井神社と呼ばれる郷社があり、以前は、流鏑馬も行なわれいたと聞く。そして南側には東石田に平国香の館跡、墓地が明確ではないが存在していること等を考え合わせると、中世この地が歴史の舞台となり、動乱の中にあったことが想像される。



第１図　明野町の遺跡

表１　明野町の遺跡（明野町資料第七集「明野町の遺跡と遺物」から…一部欠番）

No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考	No.	遺跡名	備考
1	台畑古墳	前方後円墳	34	八坂神社古墳	円墳	82	有田西遺跡	古墳～平安	115	新畑遺跡	中世
2	灯火山古墳	前方後円墳	50	駒込古墳群	円墳２基	83	有田北遺跡	古墳～中世	116	池ノ台遺跡	中世
3	えんなみ台古墳	縄文～平安	51	陣場遺跡	古墳～平安	84	有田東遺跡	縄文～平安	117	清水頭遺跡	古墳～中世
4	鶴田石葉山古墳	縄文～古墳	52	犬場場遺跡	縄文～平安	85	宮先遺跡	縄文～平安	118	孤ケ宮遺跡	古墳～中世
5	六丁部遺跡	縄文～中世	53	硲西遺跡	古墳～中世	86	狭間遺跡	縄文～中世	119	山ノ入遺跡	中世
6	東叡山承和寺跡	平安時代	54	向台遺跡	古墳～中世	87	台遺跡	古墳～中世	120	鶉田遺跡	中世
7	北峰遺跡	縄文～平安	55	硲西南遺跡	古墳～中世	88	堂前遺跡	中世	121	鳥ノ子島遺跡	中世
8	滝ノ上遺跡	縄文～中世	56	宮山石倉遺跡	（不明）	89	倉持北原遺跡	古墳～平安	122	下山遺跡	中世
9	池ノ上(藤山)遺跡	縄文～平安	57	山合遺跡	中世	90	宮北遺跡	縄文～中世	123	中島山遺跡	中世
10	東石田古墳群	円墳古基	58	矢尻跡跡	古墳～平安	91	水落遺跡	縄文～中世	124	鶴田東遺跡	奈良・平安
11	堂ノ下遺跡	弥生～中世	59	坪内遺跡	古墳～中世	92	宮前遺跡	弥生～中世	125	台山ノ下遺跡	古墳～中世
12	**倉持中妻遺跡**	**縄文～中世**	60	押尾古屋敷遺跡	古墳～中世	93	原久保遺跡	縄文～古墳	126	一丁田西遺跡	縄文～古墳
13	山王堂遺跡	縄文～中世	61	下宮遺跡	古墳～中世	94	富士山遺跡	縄文～中世	127	一丁田東遺跡	奈良～中世
14	宮山古墳群	円墳５基	62	稲荷前遺跡	古墳～中世	95	倉持前原(新井)遺跡	古墳～平安	128	西田向遺跡	中世
15	宮山遺跡	縄文～中世	63	石倉西遺跡	古墳～平安	96	竹垣前遺跡	縄文～平安	129	南久保遺跡	縄文～平安
16	海老ケ島城跡	室町時代	64	石倉東遺跡	古墳～平安	97	上口地前跡	古墳～中世	130	北ノ内遺跡	奈良～中世
17	藤塚遺跡	縄文～中世	65	中根遺跡	古墳～平安	98	金塚遺跡	古墳～中世	131	五軒遺跡	縄文～平安
18	鷺島遺跡	弥生～中世	66	炭焼戸西遺跡	中世	99	東浦遺跡	古墳～中世	132	山ノ下遺跡	古墳～中世
19	宮山観音古墳	前方後円墳	67	炭焼戸東遺跡	中世	100	中坪遺跡	縄文～中世	133	糀屋前東遺跡	古墳～中世
20	三所宮北遺跡	古墳時代	68	新堀遺跡	古墳時代	101	舟塚遺跡	奈良・平安	134	糀屋前西遺跡	古墳～平安
21	三所宮南遺跡	古墳～中世	69	台山遺跡	縄文～平安	102	稲荷窪遺跡	古墳～平安	135	塚ノ上遺跡	古墳～平安
22	村東遺跡	古墳～中世	70	城ノ内遺跡	古墳～平安	103	北門遺跡	古墳～中世	136	我仁内前遺跡	縄文～中世
23	吉田金井遺跡	古墳～平安	71	田宿炭焼戸遺跡	中世	104	高ケ山遺跡	中世	137	谷原道遺跡	古墳～中世
24	吉田新田前遺跡	古墳～平安	72	菰冠北遺跡	古墳～中世	105	一ツ塚遺跡	中世	138	節子台遺跡	古墳～中世
25	境ノ町遺跡	古墳～平安	73	菰冠南遺跡	古墳～中世	106	成井北原遺跡	古墳～平安	139	光連遺跡	縄文～古墳
26	塔ノ内遺跡	縄文～古墳	74	戸張遺跡	古墳～中世	107	成井古屋敷遺跡	縄文～中世	140	遊内遺跡	古墳～中世
27	内淀西遺跡	古墳～中世	75	岡山遺跡	縄文～中世	108	中島遺跡	縄文～中世	141	篠合遺跡	古墳～平安
28	北浦遺跡	古墳～中世	76	稲荷塚古墳	方墳	109	向山遺跡	縄文～中世	142	作合遺跡	縄文～中世
29	北明遺跡	古墳時代	77	久保山遺跡	縄文～中世	110	十三塚遺跡	縄文～中世	143	香取遺跡	縄文～中世
30	西明遺跡	古墳～平安	78	久保新田遺跡	中世	111	林跡東遺跡	縄文～中世	144	百目畑遺跡	縄文～古墳
31	屋敷付西遺跡	古墳時代	79	海老ケ島東原遺跡	古墳～中世	112	林跡西遺跡	中世	145	上白畑遺跡	古墳～中世
32	屋敷付南遺跡	中世	80	館野遺跡	縄文～中世	113	狸塚遺跡	縄文～中世	146	宮台遺跡	古墳～中世
33	鍋山東原遺跡	縄文～中世	81	赤町遺跡	古墳～中世	114	大地遺跡	縄文～中世	147	西原北遺跡	縄文～中世

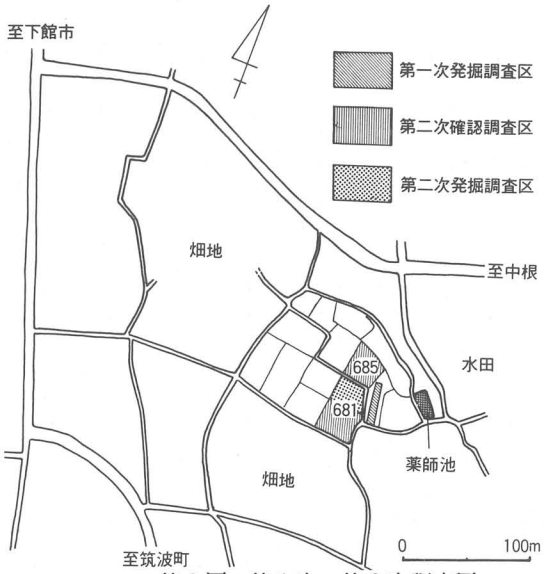

G
F
E
D
C
5
6
7
8
9
10
農用水路
農道
28.00
28.50
29.00
29.50
30.00
30.50
31.00
31.50
32.00
32.50
33.00
33.50
34.00
34.50
35.00
薬師地
第2次確認調査区
第2次発掘調査区
第1次発掘調査区
第1トレンチ
第2トレンチ
0
20m

第2図　遺跡現況図

第２章　発掘調査に至る経緯

第１節　第２年次発掘調査に至る経緯

明野町が昭和55年から同57年にかけて行なった遺跡の分布調査では、埋蔵文化財の包蔵地、所謂遺跡が151 ヶ所確認されている。こうした多くの遺跡が町内各所に分布しているにもかかわらず、郷土の歴史を知る上に重要な埋蔵文化財として、正しく理解し、活用する機会にあまり恵まれていなかった。そのため、地域住民の文化活動に対する認識も消極的であった。一方では地域開発における自然環境の破壊が進み、変りゆく社会構造の中で先人達から受け継いできた尊い文化遺産に対して、ともすれば自分達のあるべき姿、心を忘れがちであった。



第３図　第１次・第２次調査区

こうした現状をふまえて、文化活動の開発を推進することがこれからの課題であるとして、文化財に対する町民の意識を高揚させていくために、町の文化財保護体制を整備する計画をもち、文化財保護審議会の答申に基づいて長期的な展望に立った具体的な調査計画が作成された。

以後、一連の協議の中で埋蔵文化財を開発から保護し、活用していくためには町民の埋蔵文化財に対する理解と協力が必要であるとして、昭和56年４月、社会教育活動の一環として、遺跡の継続的な学術調査を実施するために発掘調査の年次計画と予算が計上され、遺跡調査会が設置された。そして、昭和56年７月には初めて倉持遺跡の予備調査が実施されたのである。

予備調査の結果をもとに、さらに協議、検討が加えられ遺跡調査会では倉持遺跡の全容を究明するために総合的、体系的な調査が必要であるとして、以後、継続的な学術調査を実施していくことを決議した。こうして昭和56年８月、倉持遺跡の第１年次発掘調査は開始されたのである。２ヶ月間の調査は様々の成果をあげて終了、検出された遺構も現状のまま再び土中に保存されたのである。第１年次の調査で検出された遺構や出土した遺物については、その後 整理され、昭和58年３月に報告書にその成果をまとめている。そして、第１年次の調査を基にした倉持遺跡の今後の調査方針が決定され、昭和57年11月、第２年次の調査が開始されたのである。

第２節　第２年次調査の方法

第２年次の発掘調査は、第１年次発掘調査区に隣接した西側地区について実施された。第１年次の調査で設定した基準杭を基に基本軸を南北にして、調査区に20m ×20m の方眼をかけた。方眼は南北軸に北から０，１，２‥‥６，７，８と算用数字を使い、東西軸に西側からＡ，Ｂ

C，…F，Gとつけた。20mの各方眼を大グリッドとして、さらにこれを4m×4mの小方眼に区分し、西から縦（南北）にそれぞれ1，2，3，4，5，6～10，11～15と25までの番号をつけ、各方眼を7F25，8G1のように小グリッドに分けて呼び、遺構、遺物もグリッド別に記録していった。調査区の南側（倉持字中妻681 番地）部分については、東端と西端に1.5m×17m，1.5 m×16mの南北トレンチを入れた。また北側（同685 番地）部分については、表土を剝いで遺構の確認のみ実施した。調査面積は全体で約2400㎡で、地形測量は一年次ごとに行ない、耕作の支障がない部分について調査を実施することにした。

調査は表土剝ぎから行ない、遺構のプランを層位ごとに上面から確認して、100分の1の全体図を作成した。確認された遺構は各グリッドごとに遺構番号をつけ、遺物を取り上げた。検出された全体の遺構はヤリ方を組んで縮尺20分の1で平面実測をした。なお、時代的に重複する遺構に関しては上層の調査が済み次第、下層まで観察を行なった。調査区は調査終了後、埋め戻し、ロータリーをかけて耕作できる状態にして全ての作業を終了した。

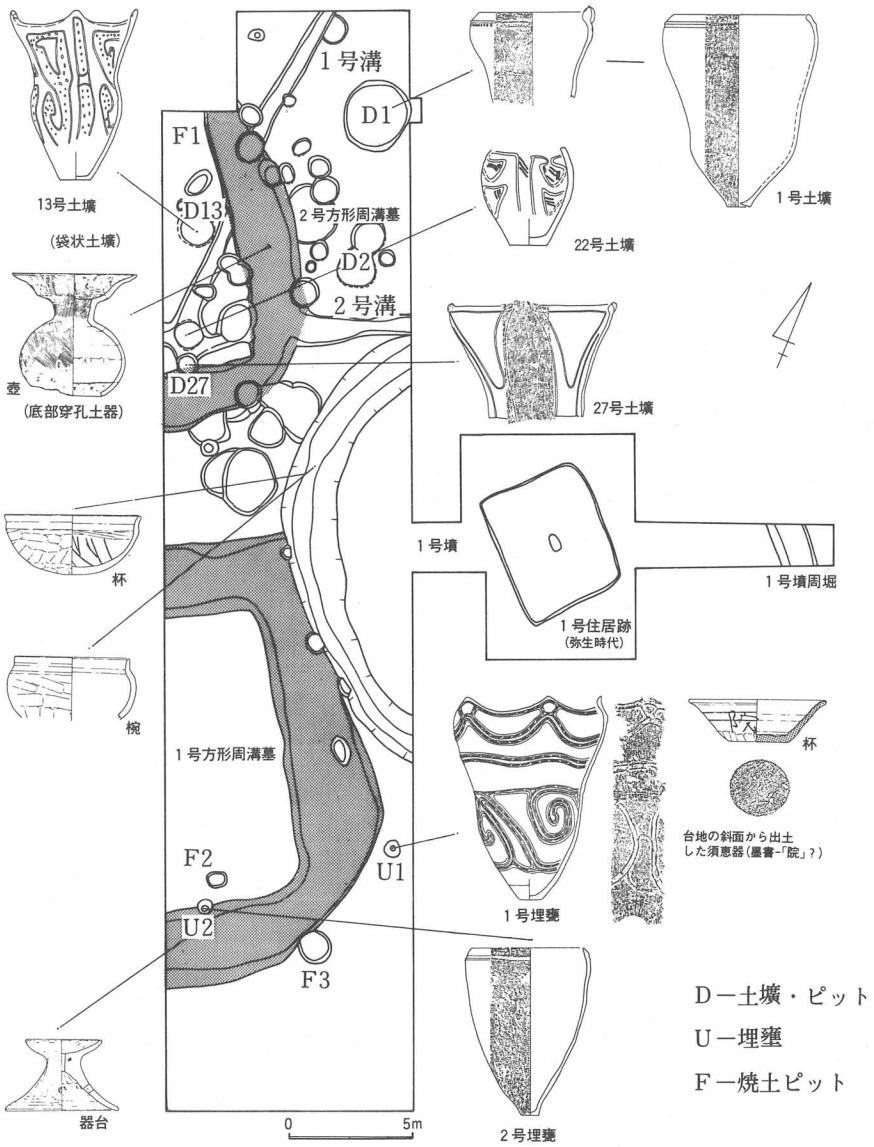
第3節　第1年次調査の概要

昭和56年8月から2ヶ月間にわたって実施された第1年次の調査は、面積約820㎡縄文時代中期後半から後期前半にかけての土壙39基、埋甕2基、焼土ピット3基、弥生時代後期の住居跡1軒、古墳時代前期の方形周溝墓2基、古墳（円墳）1基、中世の溝2条が確認されている。縄文時代の土壙は調査区の北側に集中する傾向があり、墓址的な性格をもっている。また弥生時代の住居跡は古墳（封土を削平された円墳）の周堀の内側ほぼ中央部に検出されている。

遺物は平箱で60箱以上（約2万点）出しており、縄文時代から中世までの長期にわたっている。縄文時代は中期の阿玉台式、加曾利EⅠ～EⅣ式、後期の称名寺式、堀之内式が主で他に草創期初頭の撚糸文系土器群の井草式土器や晩期前半と思われるものがみられる。石器については打製石斧、磨製石斧、石鏃、石皿等が出土している。弥生土器は多くなく、破片が数10点みられるだけである。古墳時代のものとしては、方形周溝墓の溝内から底部穿孔壺形土器、器台形土器が出土し、古墳の周堀からは椀形土器や鉄製刀子が出土している。他に谷部のⅢ層上面から須恵器（「院」と読める墨書土器）や内耳片が出土している。

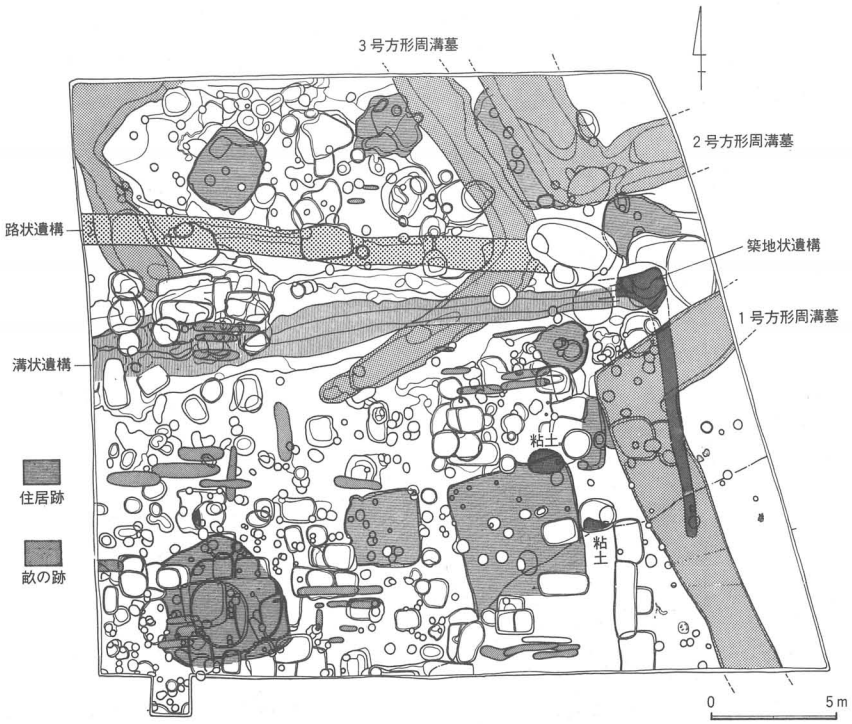
第4節　第2年次調査の概要

第1年次に引き続いて実施された第2年次発掘調査ではさらに多くの土壙及び住居跡が検出され、集落が丘陵の縁辺部から内陸部に向かって展開していることを予想させる。また、これまで明野町では明確にされてなかった歴史時代の遺構や、旧石器時代のナイフ形石器や尖頭器などもみつかり、今後の研究調査に新たな資料と課題を提示した。



第４図　第１年次調査遺構全図（遺物の縮尺不同）

なお、２年次の調査で検出された遺構は重複しているものが多く、遺物も混同している。そのために上面からの観察だけでは不充分で、堆積土層や遺物の検討をしなければ明確な時期、性格については決定できないであろう。また、遺構だけでなく遺跡をとりまく自然環境や歴史的、地理的諸条件等も地形の生成と考え合わせて重要な問題になるであろう。２年次の調査では、限定された調査区内で検出された遺構のみについて報告する。



第3章　検出された遺構

第1節　第1トレンチ

調査区の南側に設定した第1トレンチは幅1.5mで長さ17.5mの範囲から、土壙、小竪穴、溝柱穴と思われるピット群が検出されている。堆積している土層は上から暗褐色の耕作土（第Ⅰ層）、次に比較的しまっている暗褐色土（第Ⅱ層）、第Ⅲ層が比較的細い粒子の黒褐色土層で第Ⅳ層がやや黄色味を帯びた茶褐色土層である。これ等の土層は攪乱もみられず、自然に堆積したものと思われる。上面から90cm程で地山の粘土層にあたり、土壙や柱穴の一部は第Ⅳ層から掘り込んで、粘土層まで達している。また、地形をみると南側から北側に緩く傾斜しており、北側からもやや傾斜しているところから、浅い窪みのような地形であると考えられる。南側のピット群はこの窪みの調度外周に位置している様な状態であり、この窪みの周りに巡らされたものかも知れない。P1は深さ55cm、P2は65cm、P6は46cmを測る。窪みの中央部には溝状の落込みがあり、さらにその下層には土壙が検出されている。土壙の南北幅（東西幅は不明）は60cmで、内耳の破片と河原石が底面よりはやや浮いた様な状態で出土している。その周辺には土壙（ピットを含む）が集中している。P4とP3は第Ⅳ層から掘り込んでいる土壙であるが、外周に粘土の高まりがみられる。P4では径約15cm程の柱痕が残っており、粘土層まで掘り込んでいる。

なお、トレンチの南端部には小竪穴がみられる。形状は部分的にしか検出されていないので不明確ではあるが、不整形で南北幅は1.7ｍ（東西幅は不明）、壁の立ち上がりは南側、東側がやや急であるが、北側は緩く傾斜している。掘り込みの深さは南側で25cmを測る。床面は比較的しまっており、ピットが北側に１個（径20cm、深さが床面まで47cm）、東側に２個（径15cm深さが床面まで26cm）検出されている。出土した遺物は縄文時代後期のものが主で（第９図）型式的には堀之内式に比定されるものであろう。

第２節　第２トレンチ

第１トレンチと同様に調査区の南側（東端）に幅1.5ｍ、長さ16ｍの規模で設定した第２トレンチ内で確認された遺構は溝、土壙、ピット（小穴）で、北側には遺跡の東側から入り込む谷地形の一部が検出されている。幅は1.８ｍ程で深さが表土から1.2ｍ、これが南端部であるから第１年次の調査で確認されている谷はかなり深く入り込んでいたものと考えられる。そして調査区で検出された南東部の遺構は縄文時代以降中世に至るまで、この谷が埋没して土が堆積した後に構築されたものであることがわかったのである。

谷の落ち込みの上面は比較的平らな部分（標高33.6ｍ）が６ｍ程続き溝状の落ち込みにはいる。溝の幅は３ｍ、深さ65cm（最深部）で南側、北側とも立ち上がりは緩くなっている。溝の南側にやや緩やかに傾斜するテラス面が形成されているが、地山の粘土層が露出している。粘土面が表われるのは表土から60cm（標高34.13ｍ）程の所で、溝状の遺構やテラス面は粘土層を掘り込んで構築されている。テラス面から40cm程立ち上がった南側には幅70～80cm、深20cmの溝が東西に走っている。溝の立ち上がりは北側が緩く、南側がやや急になっており、底面も緩く蛇行して西側から東側へ緩い傾斜になる。溝に堆積している土層は暗褐色土でややローム ブロックが多く混入しているが、基本的にはテラス面の上面に堆積している層とほぼ同じである。

トレンチの北側には不整形の土壙やピット（小穴）が検出されている他、長方形の土壙（幅80～90cm、長さ2.2m、深さは35cm、主軸方向を南北にもつ）や、南西方向から北東方向へ走る小溝（幅30～40cm、深さ６～10cmの浅い溝）が検出されているが、これらのほとんどが地山の粘土層まで掘り込んでいる。主な出土遺物としては、土壙１や土壙５で内耳片、土壙３で砥石がやや浮いた状態でみつかっている。他には遺構が埋没する段階に周囲から流れ込んだか、あるいは縄文時代の遺構を破壊したものか、かなりの量の縄文土器及び石器が出土している。時期は中期から後期にかけてのものであるが（第10図）、南側に集中していることや浮いた状態で検出されたことを考えると、ある時期にまとめて廃棄されたものかも知れない。

第２トレンチの中央部に検出された溝は第１トレンチに続くものであろうと思われるが、北側の小溝は第１年次の調査で検出された溝の類であろう。さらに溝の上段のテラス面やその上の溝等は、谷が埋没した後に構築されたもので相当規模の施設と考えられる。時期も明確ではないが、出土遺物からみて平安時代以降のものであろう。

第３節　堆積土層

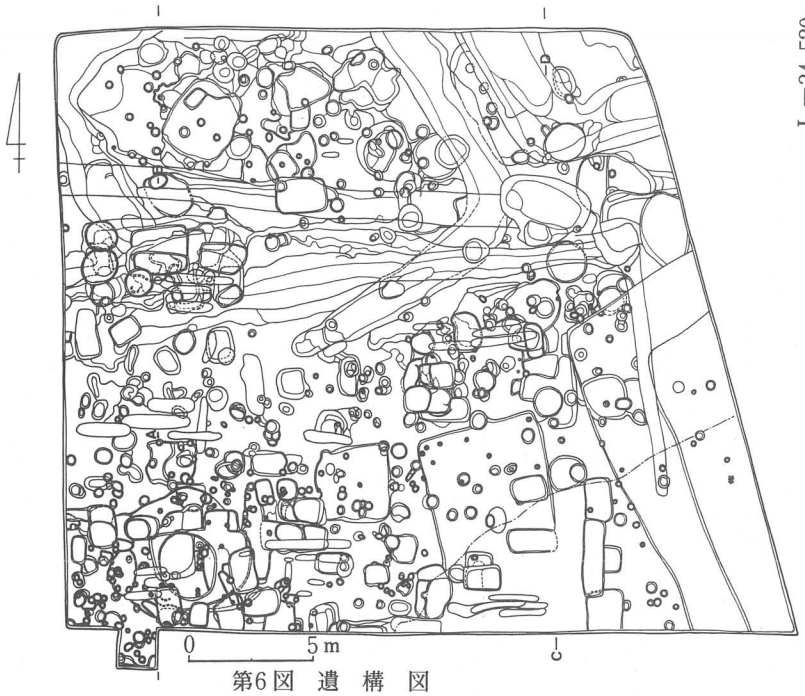
調査区の西側と東側にそれぞれ幅30cmの南北セクションベルトを設定、堆積土層の観察を行なった。調査区は北から南へ緩く傾斜しているが、谷地形が埋没した部分なのでかなり厚く堆積（深い）している。すなわち、丘陵の奥部はやや薄く、斜面に向かうほど厚く堆積しているのである。現耕作土（表土）の厚さは20～30cmの暗褐色土層である。第Ⅱ層は暗灰褐色土で厚さは10～20cmと薄い。最も新しい遺構である畝状の遺構や土壙の一部は、この層を掘り込んで構築されている（第Ⅰ期）。第Ⅲ層はやや堅くしまった明茶褐色土で、平安時代の土壙や、縄文時代の袋状土壙やピット等はこの層より掘り込んで、地山の白色粘土層まで切り込んでいる。白色粘土層は標高33.5m程の所で、上面にはソフトローム層が30cm程堆積している。方形周溝墓等はローム層まで掘り込んでいるが、溝のフク土は自然埋没によるものである。西側では遺構が複雑に重複して、溝の埋没後遺構が構築されており、土地利用が頻繁であったらしい。

第４節　縄文時代の遺構

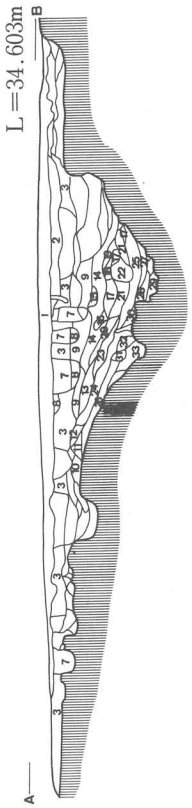
第２年次の検出された遺構は縄文時代から歴史時代にわたっているが、密度が高く遺構の重複が著しいために明確な性格（時代）を明らかにすることは困難である。特に土壙と称した遺構は攪乱があったり、遺物の出土状態がはっきりしないために、分類するのが難しかった。

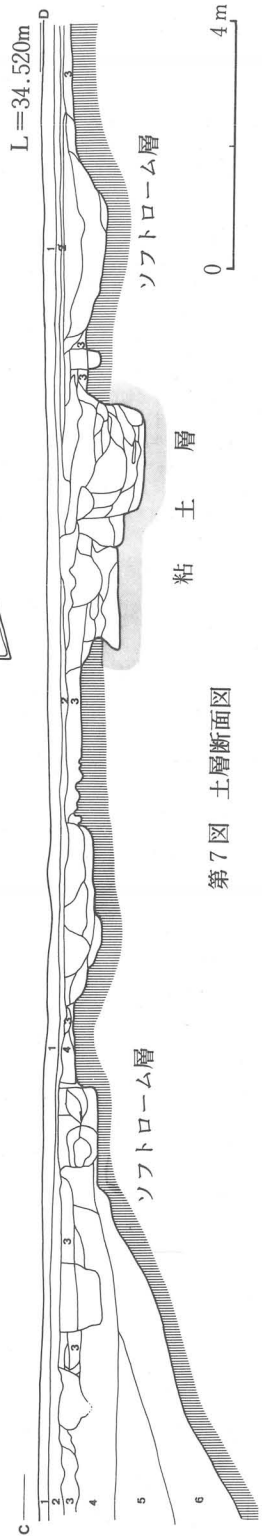
縄文時代の遺構は大きく分けて住居跡と土壙の２種類に分かれる。さらにこの土壙は（１）小竪穴、（２）袋状土壙、（３）土壙、（４）ピット（小穴）の４種類に分けられる。住居跡については使用期間が短かいせいか、あるいは後世の遺構に破壊されたものか、形状がはっきりしない。柱穴は数個みられる程度で、炉跡と考えられるピットについても焼土が残っていない。辛うじて床面と壁の立ち上がりが確認できる程度である。遺物の出土状態をみても、フク土に検出されるものがほとんどで、これらは周囲から流れ込んだものと推定される。遺構に確実に伴うと判断されるのは極くわずかである。

小竪穴は住居跡とは異なるものだが、住居に似た形態を示す。ただ住居跡よりは小規模で、不整形なものが多い。床面は住居に似て平らで比較的しまっている。柱穴と確認できるピットは少なく、中央部に１個ぐらいというのが多い。壁の立ち上がりも短かいが、原形はもっと高く、しっかりした上部構造をもつものかも知れない。



第6図　遺　構　図



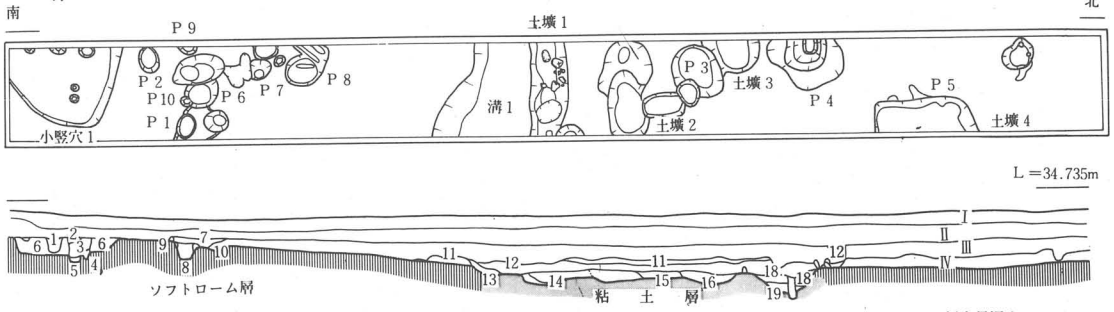


第7図　土層断面図

凡　例

1　暗褐色土　ローム粒少量、焼土、炭（耕作土）化粒混入
2　暗褐色土　ローム粒、粘土粒、焼土炭化粒少量混入
3　茶褐色土　ローム粒、粘土粒多量、細ロームブロック少量混入
4　暗褐色土　ローム粒少量、焼土炭化粒極少量混入
5　暗茶褐色土　ローム粒、細ロームブロック粘土少量混入
6　暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック少量焼土、炭化粒極少量混入
7　暗褐色土　ローム粒少量混入
8　暗褐色土　ローム粒やや多く混入
9　明茶褐色土　ローム粒、粘土粒やや多く混入
10　暗茶褐色土　ローム粒少量混入
11　黄褐色土　ロームブロック多く混入
12　褐色土　ローム粒、ロームブロック多く混入
13　明茶褐色土　ローム粒、粘土粒やや多く混入、焼土少量
14　茶褐色土　ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
15　褐色土　ローム粒多く混入
16　黄褐色土　ロームブロック多く混入（ボロボロしている）
17　褐色土　粘土粒、ロームブロック多量、ローム粒やや多く混入
18　暗褐色土　ローム粒、粘土粒、黒色土粒多く混入（堅くしまっている）
19　暗茶褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
20　茶褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
21　暗茶褐色土　ローム粒、粘土粒少量、ロームブロック、炭火粒極少量混入
22　暗茶褐色土　ローム粒、粘土粒やや多く、ロームブロック、黒色土粒少量混入
23　褐色土　ロームブロックやや多く、黒色土粒少量混入
24　茶褐色土　粘土粒やや多く、ローム粒少量混入
25　黒褐色土　ローム粒少量、ロームブロック、炭化粒極少量混入
26　明茶褐色土　ロームブロックやや多く、粘土粒少量炭化粒少量混入
28　褐色土　粘土ブロック、ロームブロック多く混入
29　褐色土　ローム粒、ロームブロック多く黒色土粒少量混入
30　黒褐色土　ローム粒、粘土粒やや多く混入
31　暗灰褐色土　粘土、ロームブロックやや多く、ローム粒少量混入
32　黄灰色土　粘土ブロック多く混入
33　明茶褐色土　粘土粒多く、粘土ブロック少量混入（さらさらした砂質土）

第1トレンチ

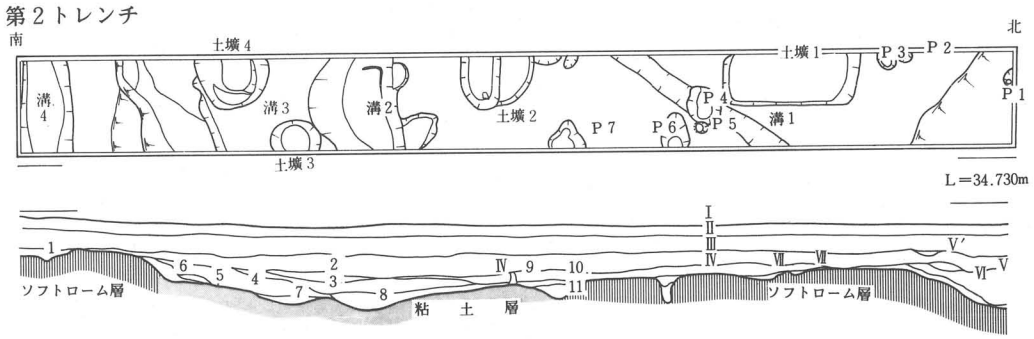


(凡例)

Ⅰ　暗褐色土　耕作土
Ⅱ　暗褐色土　粒子の粗い土、比較的しまっている
Ⅲ　黒褐色土　粒子の細かい粘土粒混入、しまっている
Ⅴ　茶褐色土　ローム粒やや多く、粘土粒少量混入

1　暗褐色土　ローム粒少量混入
2　明褐色土　ローム粒多く、粘土粒やや多く混入
3　黒褐色土　ローム粒やや多く、黒土少量混入
4　褐色土　ローム粒がやや多く混入
5　褐色土　ローム粒がやや多く混入
6　褐色土　ローム粒、焼土粒、CO混入、しまっている
7　暗褐色土　ローム粒極少量混入。
8　暗褐色土　ローム粒やや多く混入
9　黄褐色土　細かいロームブロックやや多く混入
10　暗褐色土　ローム粒多く混入
11　暗褐色土　ローム粒少量混入
12　褐色土　ローム粒、細かいロームブロック多く混入
13　暗褐色土　ローム粒、ロームブロックやや多く混入
14　暗灰褐色土　ロームブロック、ローム粒やや多く混入
15　灰褐色土　粘土粒、ローム粒多く、CO極少量混入。
16　灰褐色土　粘土粒、粘土ブロック、ローム粒子多く混入
17　黄灰色土　粘土粒、粘土ブロック多く混入
18　暗灰褐色土　粘土ブロック多く、ローム粒やや多く混入
19　黒灰褐色土　黒土、粘土粒やや多く混入

第2トレンチ



(凡例)

Ⅰ　暗褐色土　耕作土
Ⅱ　暗褐色土　ローム粒極少量混入、ややしまっている
Ⅲ　暗褐色土　ローム粒少量混入、ややしまっている
Ⅳ　茶褐色土　ローム粒やや多く、粘土粒少量混入
Ⅴ　黒褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入、堅くしまっている
Ⅴ′　黒褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入、ポロポロしている
Ⅵ　黒褐色土　ローム粒少量混入
Ⅶ　褐色土　ロームブロックやや混入
1　暗褐色土　ロームブロック多く混入、ポロポロしている
2　黒褐色土　ローム粒少量混入、堅くしまっている
3　黒褐色土　ローム粒、粘土粒、CO、焼土少量混入
4　暗褐色土　ローム粒少量、粘土ブロック多く混入
5　黄灰色土　粘土ブロック多く混入
6　褐色土　ローム粒やや多く混入
7　灰褐色土　粘土層
8　暗灰褐色土　粘土ブロックやや多く、焼土少量混入
9　黄灰色土　粘土粒、ローム粒やや多く混入
10　褐色土　ローム粒多く混入
11　明褐色土　ロームブロック多量、粘土ブロック少量混入

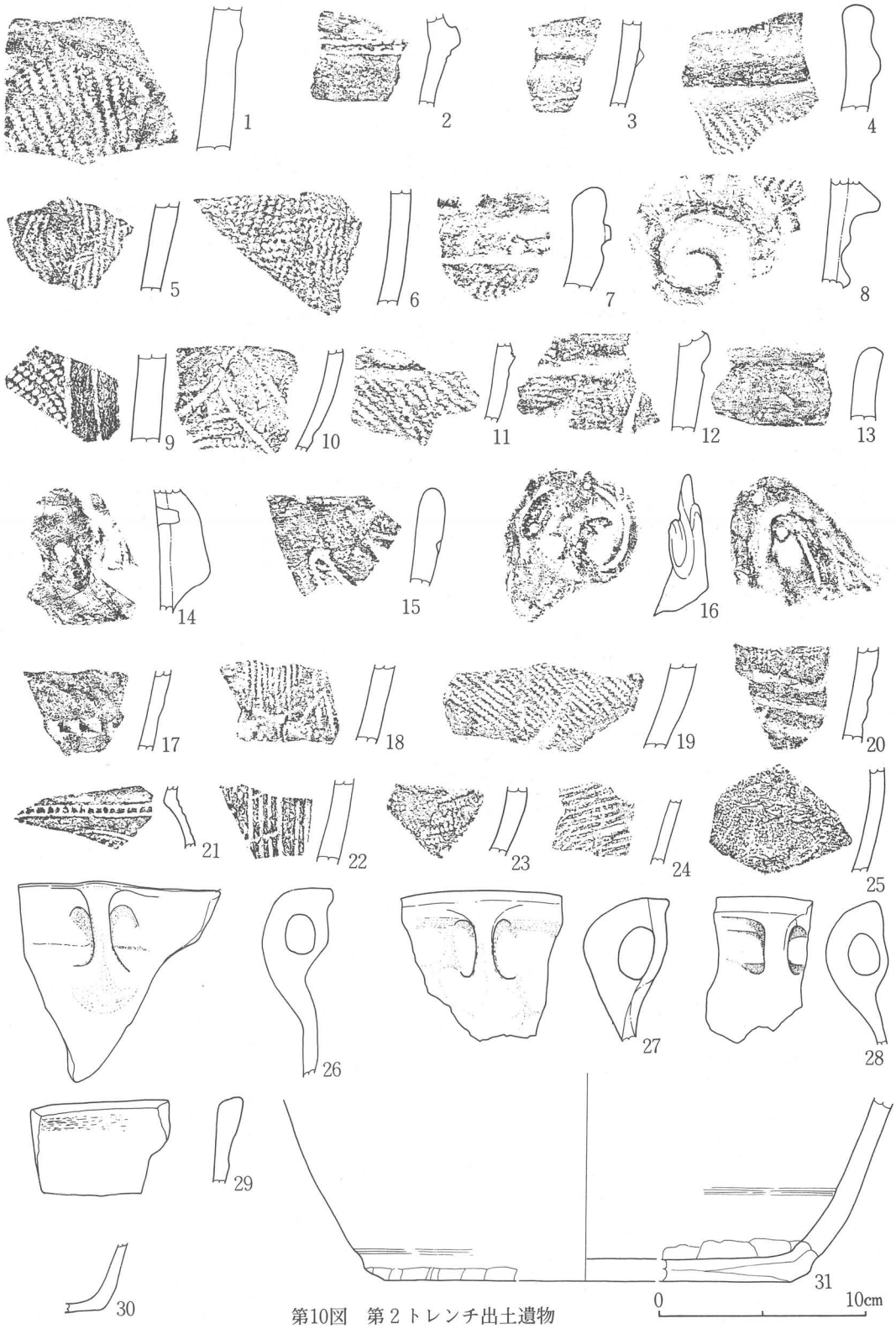
0　4m

第8図　第1・2トレンチ遺構図

第1トレンチ出土土器―1はP3、2(土製円盤)はP5、3はP7、4～8は第Ⅱ層、9はⅢ層、10～15はローム直上出土（加曽利EⅣ）、16～30は小竪穴1出土で30(EⅡ)以外はEⅢ。31はⅢ層出土の灯明皿、32はP7出土の摺鉢、33は硯、34は内耳土器で土壙1出土のもの。

第2トレンチ出土土器―1、7～22、24～26、28～30は第Ⅲ層（暗褐色土）出土。2～6、23、27、31は土壙4出土。2は阿玉台。1、4、10、12は加曽利EⅣ。23～25は弥生土器。

第９図　第１トレンチ出土遺物



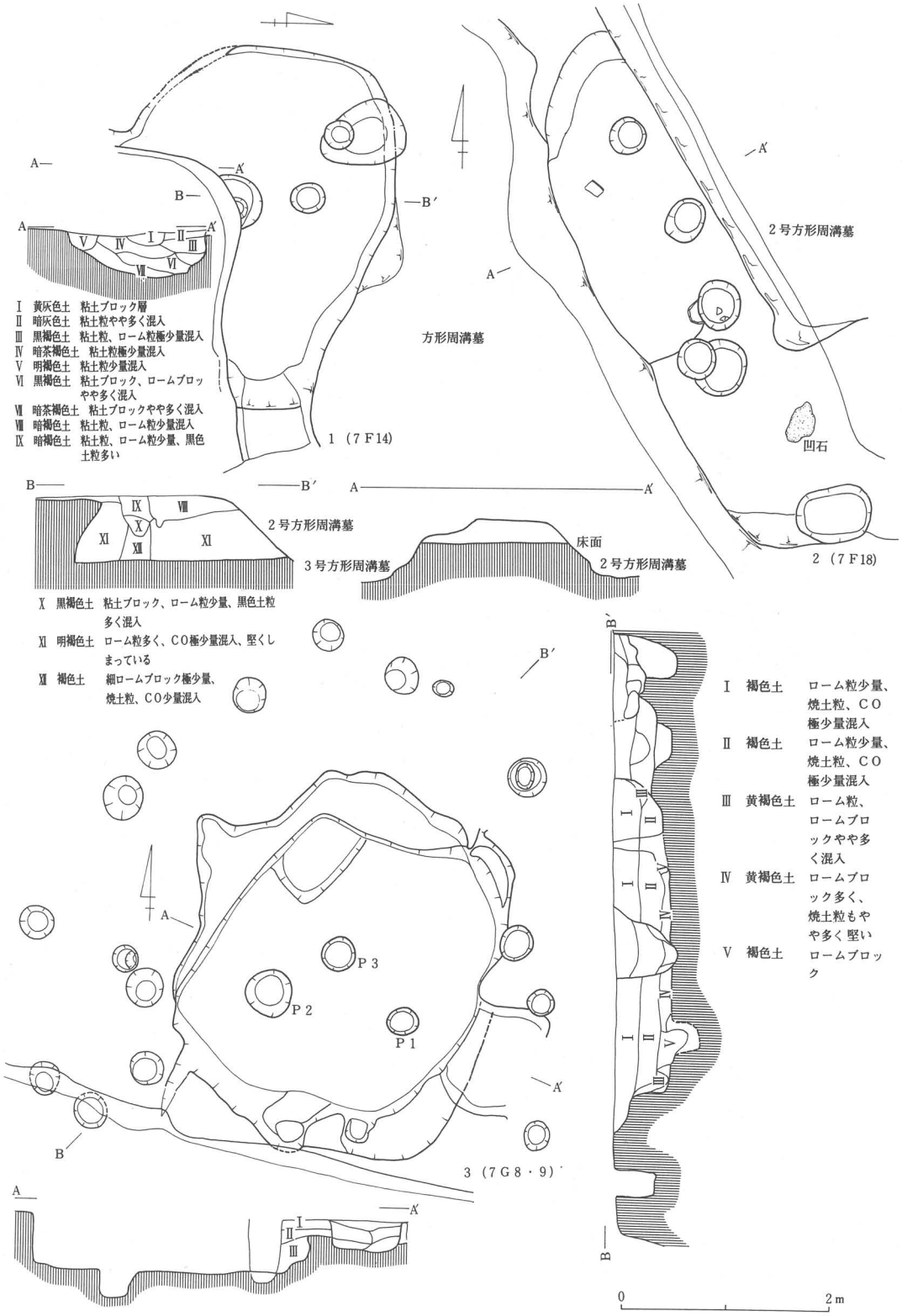
第10図　第２トレンチ出土遺物

第11図　縄文時代の遺構

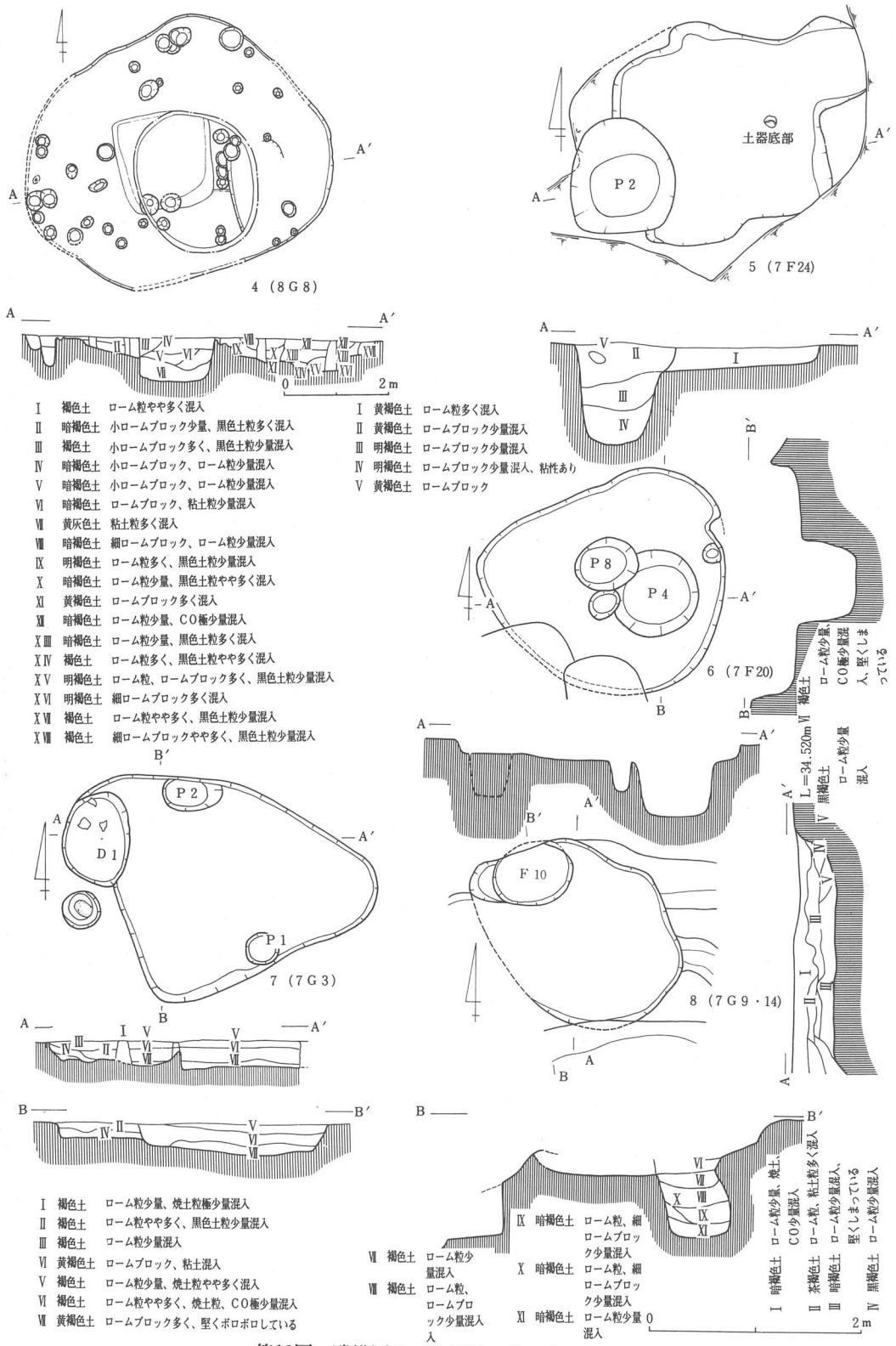
袋状土壙は上面の穴が小さく、底がフラスコ状に広がるもので、内部がオーバーハングするだけのものも含めた。（本来は分けられる）本来、貯蔵用のためと思われるが、骨片や焼土がみられるものもあり、二次的に利用されることも少なくないようだ。遺構の重複が著しいために、他の遺構の精査中に突然見つかる時もある。第25図６に付随する遺構もそうである。

土壙は所謂墓壙と判断されるものであるが、遺物の残存状態が良好でないこと、遺構の規模が小さいこと等、必ずしも墓と判断できるものはほとんどない。形態的に何種類かに分けることができるが、今回は合わせて報告することにした。

ピットは貯蔵穴と考えられる円形の穴であるが、後世の建物の柱穴とまちがえることもあり、土層の観察と上面観察（位置等）に気を配った。遺構は各グリッドごとに番号をつけたが、将来的には統一した記号がつけられる予定である。



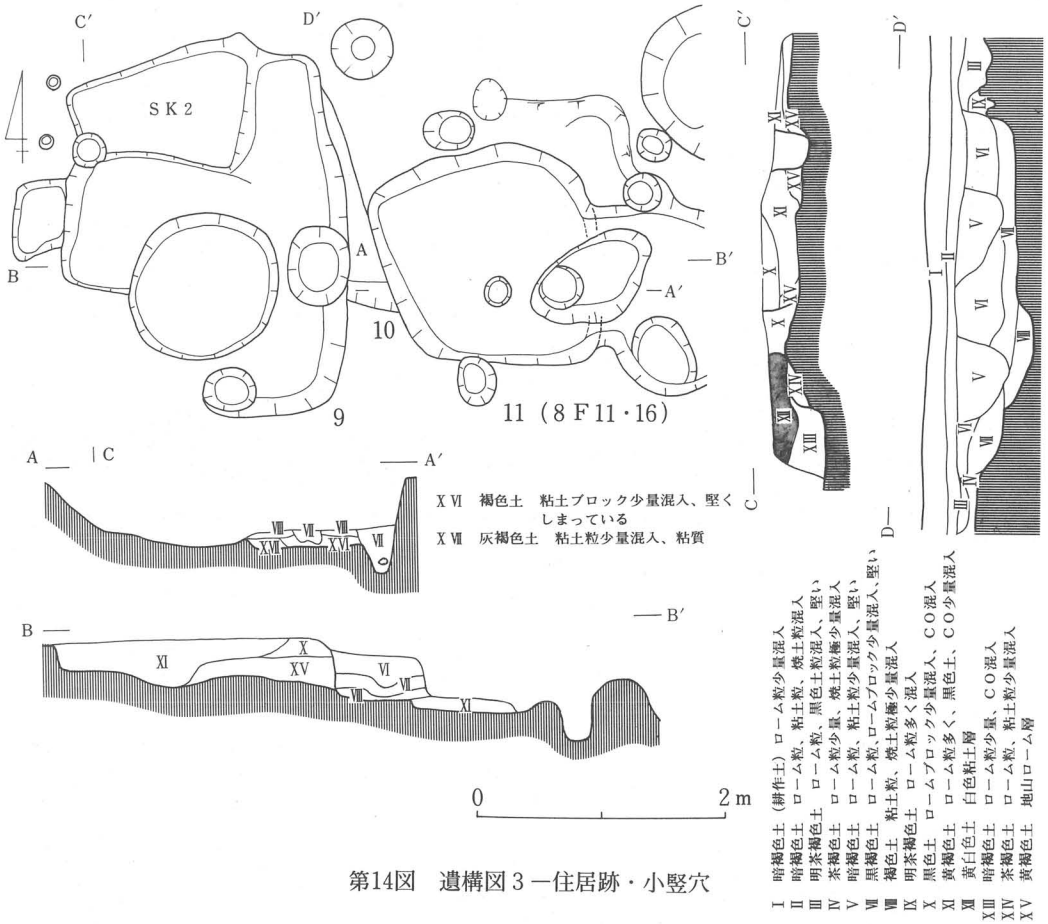
第12図　遺構図1－住居跡



第13図　遺構図２―住居跡・小竪穴

表２　検出された遺構（縄文時代）

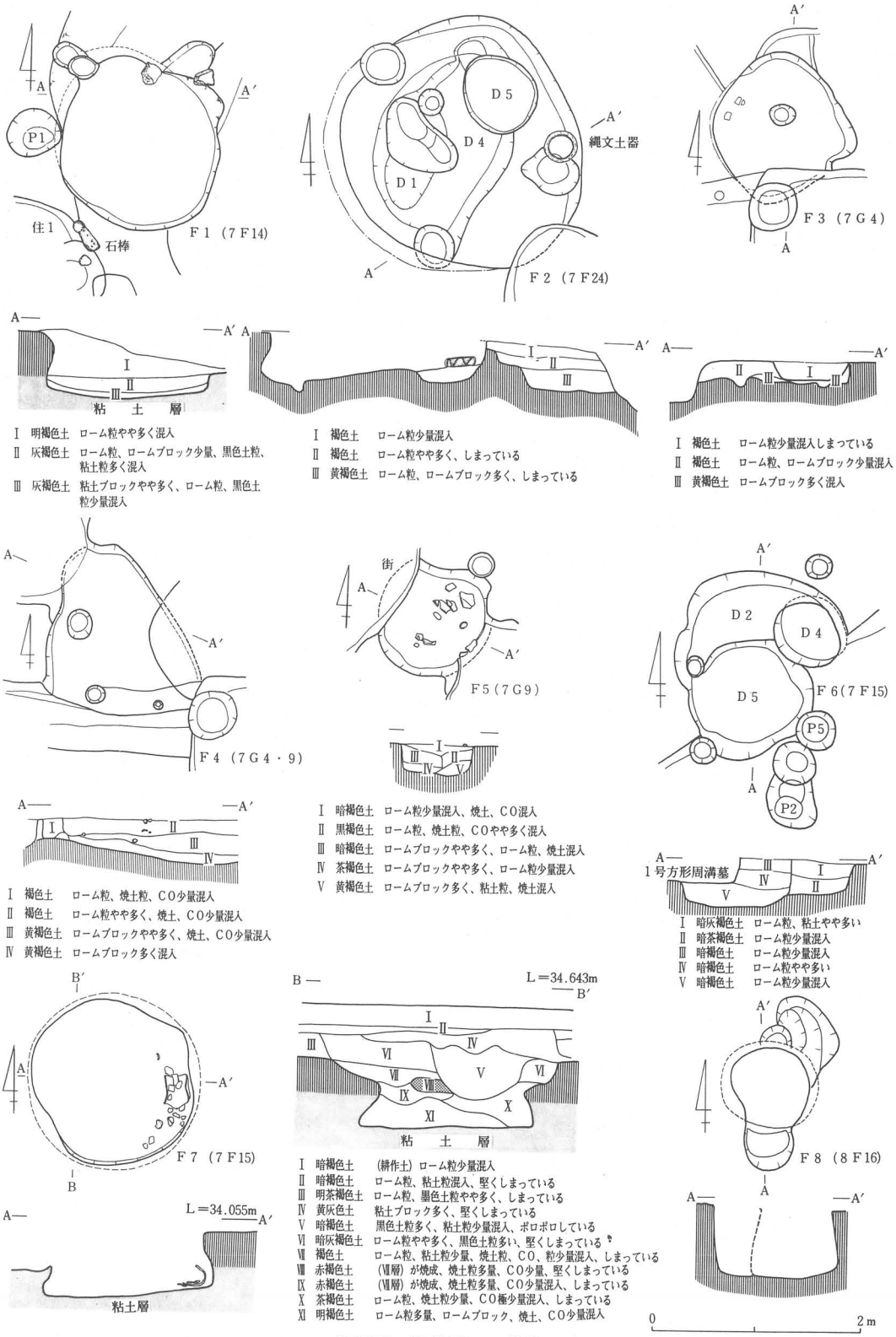
挿図番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第12図1（7F14）	住居跡	3.45×2.65m	楕円形プランで中央に炉跡と思われる掘り込みがある。床面はしっかりしている。	縄文土器(第28,29図),骨粉,磨石阿玉台～加ＥⅣ,弥生土器が混在	炉跡の東側に小ピット１個。
第12図2（7F18）	住居跡	5.4m・(不明)	楕円形プランと思われるが、東西を方形周溝墓で切断されて不明。床面はしっかりしている。	縄文土器(第30図,31図53～59)加ＥⅠ～ＥⅣ,弥生土器も少量出土	
第12図3（7G8･9）	住居跡	3. 3.5×2.5m	不整方形プランで掘り込みは深い。ピットが２個，南壁は緩斜面を形成。	縄文土器(第31図１～19,32図,60図6～8)磨石，プレ（第84図１）等も出土。	炉跡（Ｐ２）に焼土はほとんどない。
第13図4（8G8）	住居跡	5.9×4.8m	不整円形プラン。土壙と複合しており，床面は不明確。ピットも不規則で炉跡も不明。	縄文土器(第33図１～12)弥生土器(13)土製円盤(6)が出土	複合？
第13図5（7F24）	小竪穴	2.4×2.1m	不整形プラン。床面は平坦であるが、壁の立ち上がりは一様でない。Ｐ２によって切断。	土器の底部が床面にもぐりこんでいる。(第45図8)	溝，土壙により攪乱されている？
第13図6（7F20）	小竪穴	2.35×2.1m	不整円形プラン。中央部にピット。床面は平らであるが，Ｐ４，Ｐ８によって攪乱されている。	縄文土器(第33図14～33)阿玉台～加ＥⅠ～ＥⅢ，後期のものが多い。	ピット，土壙により攪乱されている。
第13図7（7G3）	小竪穴	2.5×2.2m	三角形に近いプラン。土壙と複合しており,床面は一様でない。壁の立ち上がりも短かい。	縄文土器（第33図34～43，第34図）加ＥⅠ～ＥⅣ，称名寺プレ（第84図４）	土壙により攪乱されている。
第13図8（7F11･16）	小竪穴	2.0×1.6m	床面はほぼ平らで，壁の立ち上がりは緩く傾斜。土壙，溝等に攪乱されている。	縄文土器(第35図,56図１)阿玉台～加ＥⅠ～ＥⅢ,称名寺	F10は袋状土壙で小竪穴より新しい。
第14図9（8F11･16）	住居跡 小竪穴	2.9×2.3m	遺構の重複が著しく形状は不明だが，方形プランと推定される。床面はほぼ平らで，壁は緩斜面。	縄文土器(第35図,～38図),石鏃,加ＥⅠ～ＥⅣ,称名寺	複合，小竪穴，土壙が集中している。
第14図10（8F11･16）	小竪穴	(不明)	南壁の立ち上がり及び床面のみ検出。床面は堅くしまっており，南壁の立ち上がりは緩やかである。	9，11と混在。	9，11にそれぞれ切断されている。
第14図11（8F11･16）	小竪穴	1.7×1.7m	方形プランで床面は堅くしまっている。中央付近に小ピットがあり壁は緩く立ち上がる。	9，10と混在。	床面下に土壙が検出されている。
第15図F1（7F14）	袋状土壙	1.65×1.55m	ほぼ円形プランに近い。西壁が抉り込んでいる。床面は緩い傾斜をもち，粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器片(第39図1～22)や石片が床に密着，南側付近で石棒(第92図４)が検出される。	２号方形周溝墓のコーナーで検出。
第15図F2（7F24）	袋状土壙	2.4×2.35m	ほぼ円形プランに近い。西側壁が抉り込んでいる。床面はしまっているが攪乱が著しい。	東壁近くで，ピットの上に深鉢の口縁部(第92図４)が逆さまに出土。(第39図23～32)	土壙によって攪乱している。
第15図F3（7G4）	袋状土壙	1.25×1.2m	隅丸方形プラン。西側壁が部分的に抉り込んでいる。床面はしまって，中央付近に小ピットがある。	縄文土器片出土（第45図25～30）阿玉台，加ＥⅡ～Ⅳ	
第15図F4（7G4･9）	袋状土壙	1.65×1.5m	不整形プラン。北側壁と西側壁が抉り込んでいる。床面は堅くしまっており，ピットが２個検出される。	縄文土器片出土	



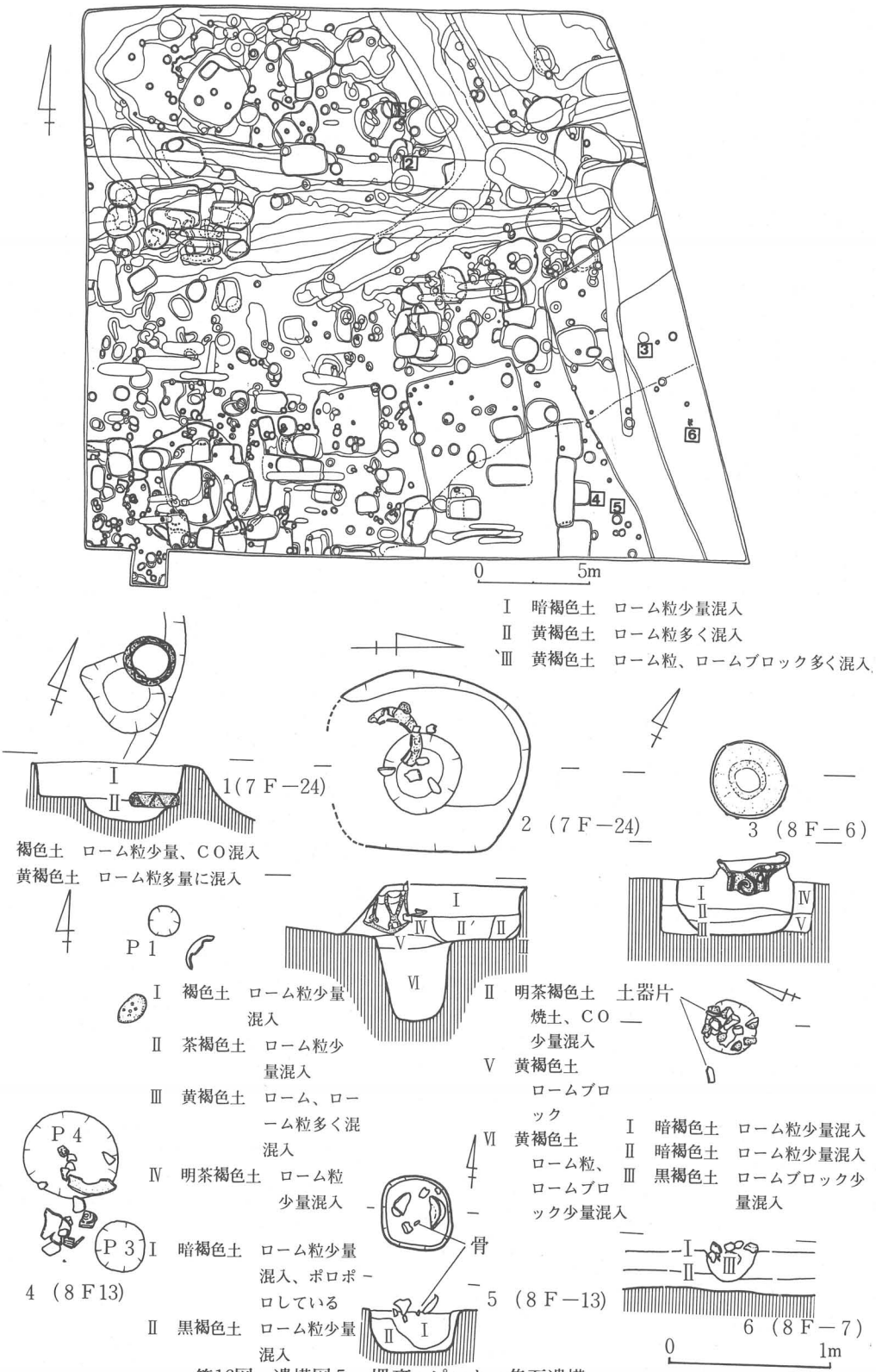
第14図　遺構図３－住居跡・小竪穴

表３　検出された遺構（縄文土器）

挿図番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第15図 F5(7G9)	袋状土壙	1.05×1.05m	ほぼ円形に近いプラン。壁のほとんどは崩れて明確でない。床面はほぼ平らでしまっている。	床面に縄文土器片や石が散乱している。	
第15図 F6(7F15)	袋状土壙	70×65cm	楕円形プラン。深さが80cmで，やや斜めに掘り込まれている。F10と形状が似ている。	縄文土器（第40図１～６）フク土より出土。	P4，遺構の重複が著しい。
第15図 F7(7F15)	袋状土壙	1.65×1.60m	ほぼ円形に近い。床面は粘土層まで掘り込んでおり，フラスコ状の形状をよく残す。上部に焼土層がある。	東側隅の床面に一括出土。（第40図７～18，56図６，58図26～35，59図36～49）	上面は溝によって攪乱されている。
第15図 F8(8F16)	袋状土壙	90×85cm	円形プラン。深さが60cm，床面は堅くしまっており，ほぼ平らである。南壁は崩れている。	縄文土器（第40図19～30）石鏃，骨粉出土。	
第18図 F9(8F21)	袋状土壙	（不明）	円形プランと推定される。床面は平らで深さ37cm。抉り部分は10cmで上面は削平されている。	縄文土器片数点。（第47図９～13）	P14，P5，P7，D1と重複。
第13図 F10(7G9·14)	袋状土壙	77×60cm	小竪穴を切り込んでおり，北側が大きく抉り込んでいる。深さ75cm以上で床面は平らである。	遺物はほとんどない。土器片も小竪穴から流れ込んだものであろう。	小竪穴８の北側を掘り込む。



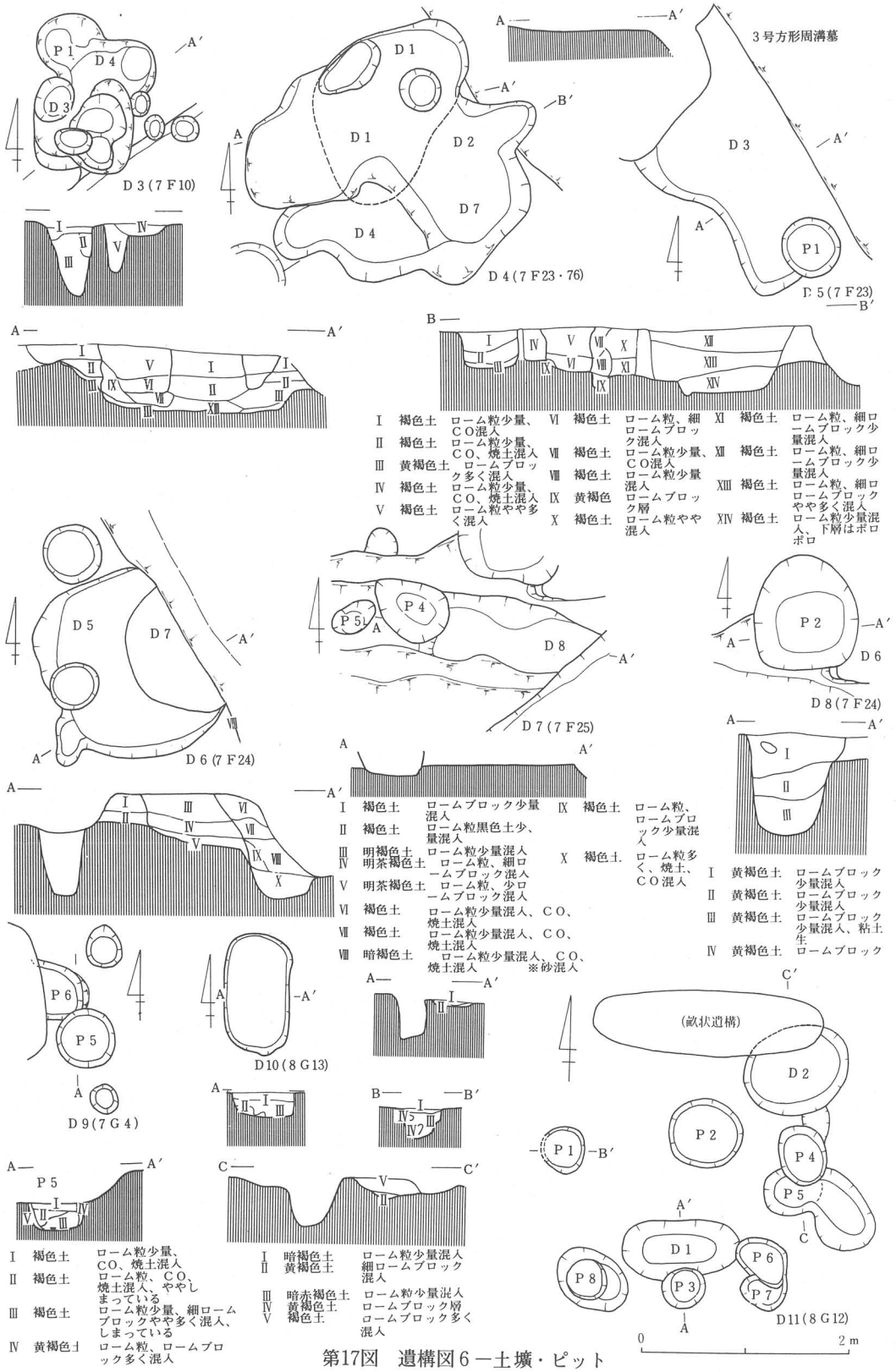
第15図　遺構図4－袋状土壙



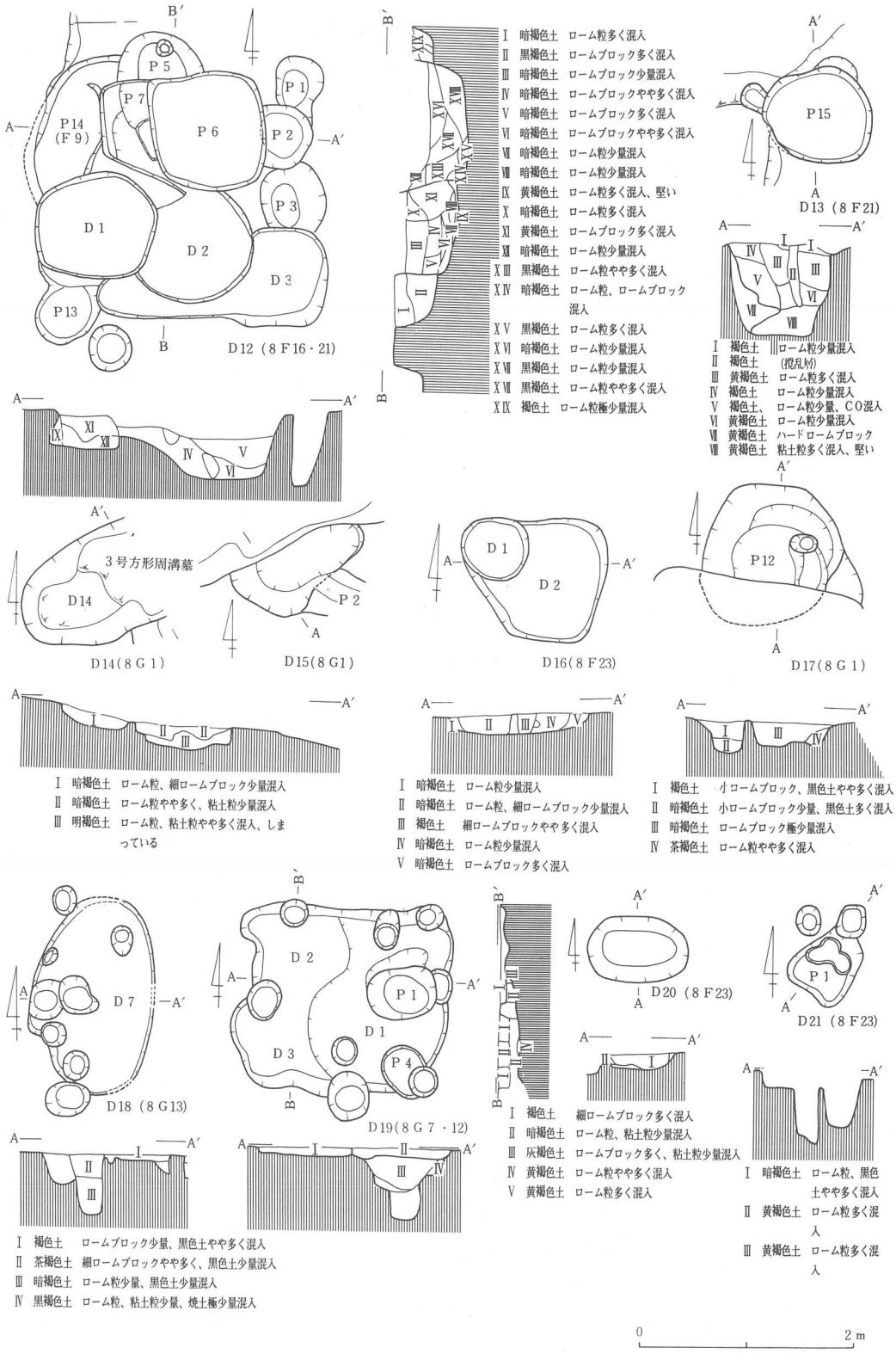
第16図 遺構図5－埋甕・ピット・集石遺構

表４　検出された遺構（縄文時代）

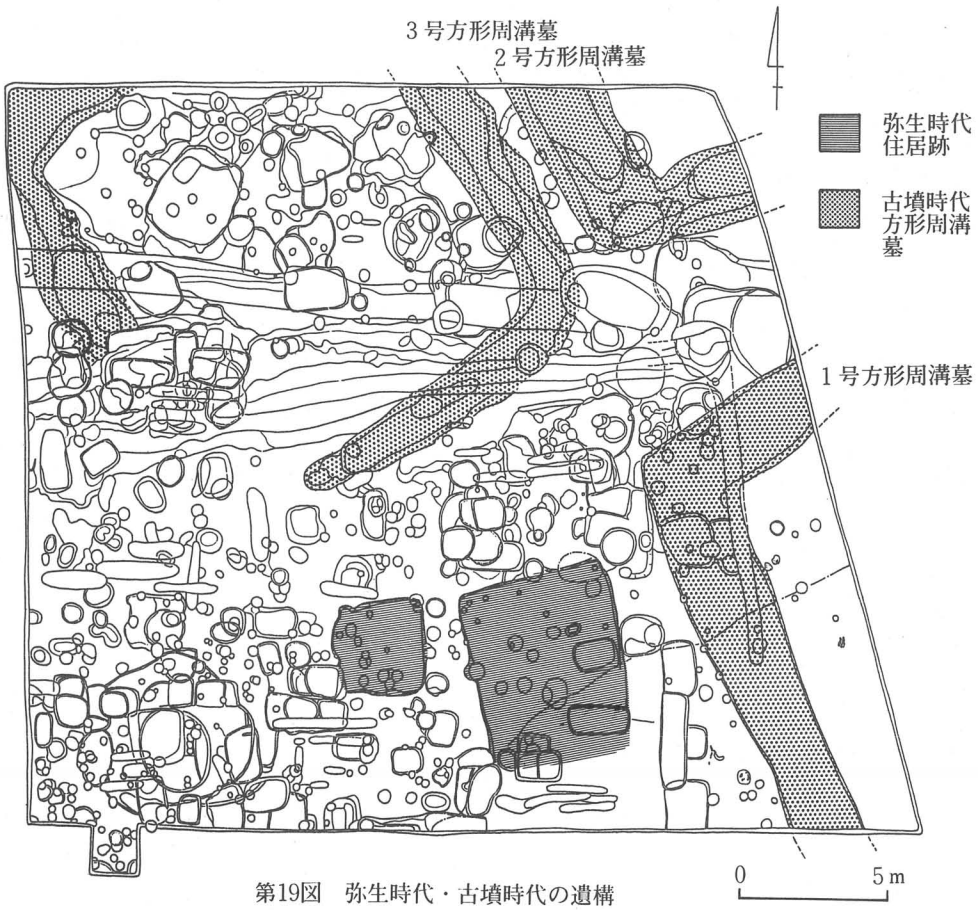
挿図番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第16図1（7F24）	埋甕	55×40cm〔ピット〕	袋状土壙の東側壁に口縁部を下にしている。下には深さ10cm程のピットがある。	（第56図３）周辺に胴部が散乱。加ＥⅡ	埋甕炉か？
第16図2（7F24）	埋甕	1.1×(1.25)m〔土壙〕	土壙の中央付近に口縁部を下にしている。口縁の下方に径50cm，深さ55cmのピットがある。	（第56図７）称名寺	
第16図3（8F6）	埋甕	（不明）	胴下部が損失，径70cm，深さ50cmのピットの中にある。周囲に土器片が散乱している。	（第56図２）加ＥⅡ	住居跡も存在している。
第16図4（8F13）	ピット（埋甕）	60×55cm（Ｐ４）	深さ20cm程のピットの中に土器が集中，周辺にも土器片や石器が同じレベルで出土している。	縄文土器（第54図１～４）凹石や礫器，磨石等も出土。	住居跡の可能性大。
第16図5（8F13）	ピット（埋甕）	50×45cm	やや四角っぽいピットで，上部に土器や骨が検出されている。	土器や石器の他に，骨粉が認められる。周辺の土器（第54図13～22，61図22）	Ｐ６。
第16図6（8F7）	集石遺構	40×30cm（石の範囲）	上面におかれた石は焼けている。下面はピット状に窪んで周辺の土も熱をうけて焼けている。	縄文土器（第55図48～73）石鏃，石皿加ＥⅡ，ＥⅣ，称名寺，内耳片，骨片	
第24図D1（7F13）	土壙	1.25×0.8m	楕円形プランで，東側（深さ25cm）と西側（深さ30cm）に分かれ，粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器片（第59図50～59）加ＥⅡ～Ⅳ，後期初頭。	東側に粘土塊。西側に小ピット。
第17図D2（7F23）	土壙	（不明）	不整形プラン。数基の土壙が重複しており，各土壙のプランは不明。床面はほぼ平らである。	縄文土器（第41図29～38，42図，57図４）加ＥⅡ～Ⅳ，称名寺。	D1A，Bより古くD４よりは新しい。
第17図D3（7F10）	土壙	70×50cm	楕円形プラン。土壙，ピットが集中している。深さは11.5cmで床面は椀状に窪んでいる。	縄文土器（第41図１～15）混在。	Ｄ１，Ｄ３，Ｄ７が重複。
第17図D4（7F23）	土壙	（不明）	数基の土壙が重複。形状は不明。床面はほぼ平らで比較的しまっている。	縄文土器（第41図16～28）混在。	Ｄ１，Ｄ２，Ｄ７が重複。
第17図D5（7F23）	土壙	（不明）	方形に近いプランと思われる。床面はほぼ平らでしまっており，壁の立ち上がりは緩く浅い。	縄文土器（第43図１～15）混在。	Ｄ３，Ｐ１が重複。
第17図D6（7F24）	土壙	1.7m×（不明）	楕円形プラン。床面はしまっているが緩く傾斜している。Ｄ７は径1.4m，粘土層まで掘り込んでいる。	縄文土器（第43図16～41，44図）石鏃炭化物。加ＥⅡ～Ⅳ，堀之内，称名寺	Ｄ５，Ｄ７と重複。
第17図D7（7F25）	土壙	（不明）	東側を３号方形周構墓，西側をＰ４，南側を大溝で切断されて形状は不明。床面は平らである。	縄文土器（第45図１～７）加ＥⅡ～ＥⅣ	Ｄ８，Ｐ４と重複。
第17図D8（7F25）	土壙（ピット）	1.1×1.0m	ほぼ円形に近いプラン。Ｄ６を切り込んでいる。（深さ96cm）壁はバードロームでしまっている。	縄文土器が数点（加ＥⅡ）	Ｐ2，Ｄ６と重複。
第17図D9（7G4）	土壙（ピット）	径55cm深32cm	上面は路上遺構で削平されている。ピットの上部は路上遺構で削平されている。	縄文土器数点（加ＥⅡ），焼土，炭化物混入（第60図11，12）	Ｐ５，Ｐ６と重複。
第17図D10（8G13）	土壙	1.15×0.6m	やや四角っぽい楕円形プラン。床面は平らでしまっている。壁の立ち上がりは15～20cmで急である。	遺物はほとんどなし。	Ｐ１を切断。
第17図D11（8G12）	土壙（ピット）	（不明）	径が50cm程の円形ピットで深さは８～10cmと浅く，壁の立ち上がりは緩やかである。	遺物はほとんどなし。Ｄ１には焼土が充塡。	Ｐ５，Ｐ４他に切断。
第18図D12（8F16・21）	土壙	1.15×1.0m	方形に近いプラン。周囲に数基の土壙，ピットが重複。深さは60cmで床面は平らでしまっている。	縄文土器（第40図31～44，45図１～９）中期初頭～加ＥⅣ，称名寺，石器類。	Ｄ１，Ｐ14，Ｄ２，Ｄ３と重複。
第18図D13（8F21）	土壙（ピット）	1.05×0.9m	ほぼ円形に近いプラン。上面は崩落して明確でないが，やや袋状を程する。床面はほぼ平らである。	縄文土器（第47図14～20）磨石，骨片阿玉台～加ＥⅡ，ＥⅣ。	Ｄ15。深さ85cm。
第18図D14（8G1）	土壙	（不明）	３号方形周構墓で上面を削平されて形状は不明，床面は緩く窪み，壁はややまっすぐ方ち上がる。	縄文土器片数点（第47図37～40）出土。（加ＥⅡ）	
第18図D15（8G1）	土壙	1.3m×（不明）	３号方形周構墓で南側を切断されて，明確な形状は不明。床面は緩く傾斜している。	縄文土器片数点（第47図35，36）（阿玉台）。	Ｐ２を切断。
第18図D16（8F23）	土壙	1.35×1.15m	方形に近いプランで西側に径60cm（深さ15cm）のピットがある。床面，壁は緩く傾斜している。	遺物はほとんどなし。	Ｄ２，Ｄ１と重複。
第18図D17（8G1）	土壙	1.3m×（不明）	不整形プラン。南側は畝状遺構で切断され形状不明。壁の立ち上がりはやや急である。	遺物はほとんどなし。	Ｄ８，Ｐ12と重複。
第18図D18（8G13）	土壙	1.85×1.1m	楕円形プラン。床面は浅く平らで，壁も短く立ち上がりで，西側にピットが集中している。	遺物はほとんどなし。	Ｄ７。
第18図D19（8G7・12）	土壙	1.85×1.7m	方形に近いプランだが，数基の土壙，ピットの重複で形状は不明，床面は浅く平らである。	遺物はほとんどなし。	D1，P1，D2，D3，P4と重複。
第18図D20（8F23）	土壙	93×62cm	楕円形プラン。深さ20cmで床面はほぼ平ら，壁は緩やかに立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	Ｄ３。
第18図D21（8F23）	土壙	65×60cm	不整形プラン。床面は平らで壁の立ち上がりはやや急である。樹根による攪乱を受けている。	遺物はほとんどなし。	Ｐ１。深さ26cm。



第17図　遺構図6－土壙・ピット



第18図　遺構図7－土壙・ピット



第19図　弥生時代・古墳時代の遺構

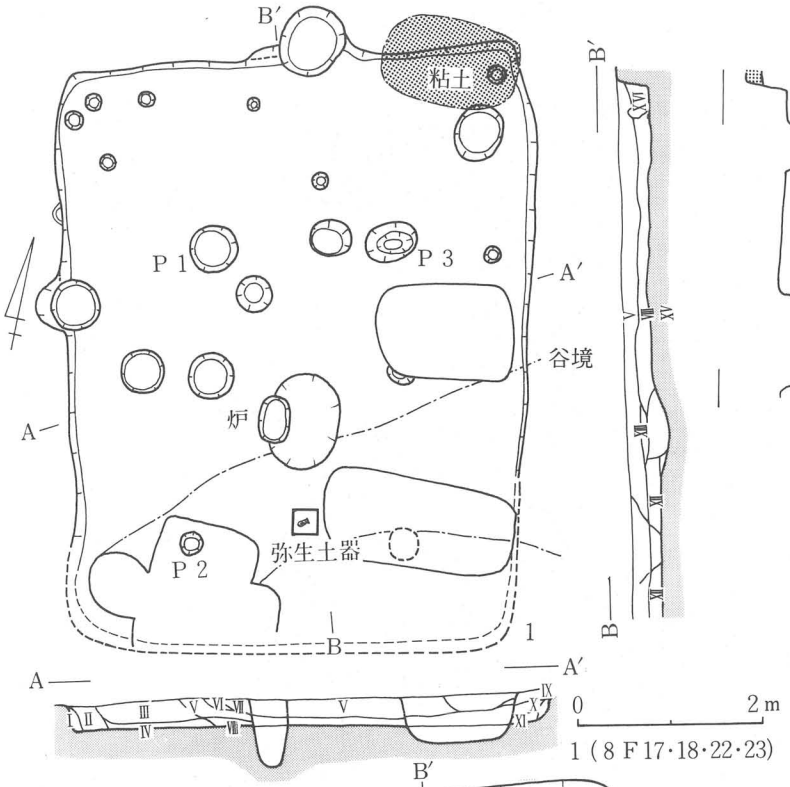
第5節　弥生時代の遺構

検出された遺構の中で弥生時代のものと判断されるのは調査区の南側に検出された住居跡2軒である。埋もれた谷の上面に構築されたもので、1の長軸は南側が攪乱されているため不明であるが6m程で、短軸は5.2m、谷の上面部分を除けば床面は堅くしまっている。柱穴は基本的に2対であろうが、その他のピットもあり不明確である。炉は柱穴間のほぼ中央にあるが、ほとんど焼成を受けていない。出土した遺物はほとんどが縄文土器で弥生土器は少ない。炉の南側の床面に弥生の小型壺（第81図）がほぼ完形で出土している。（第48図～50図91）

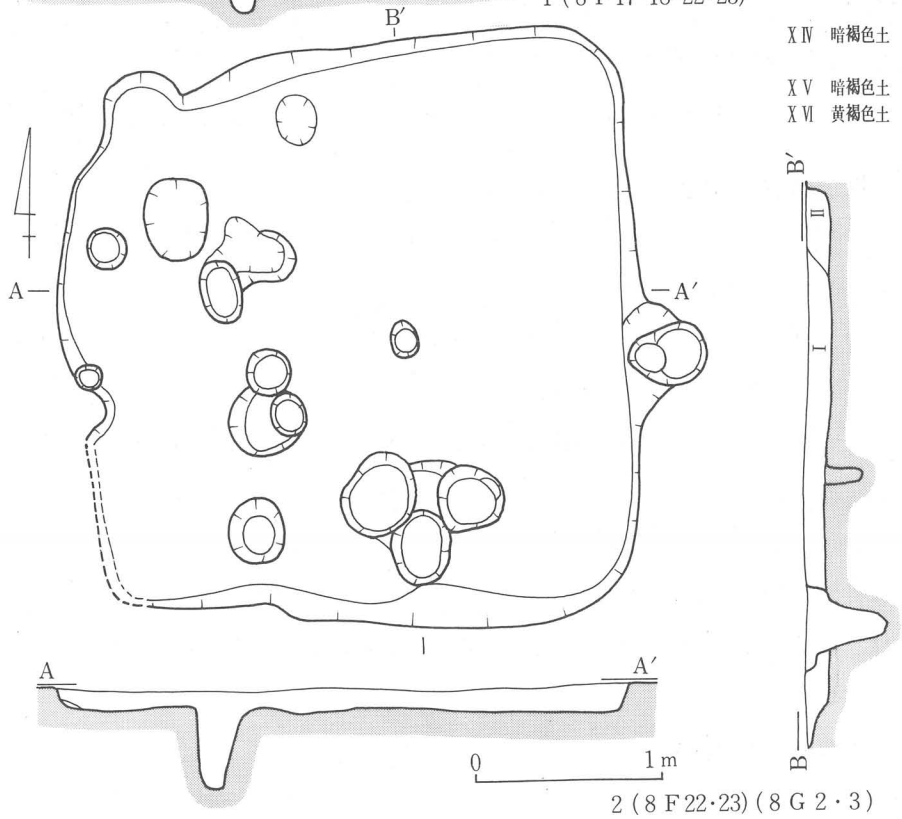
2は1辺が約3m程で、ほぼ正方形に近い。壁の立ち上がりは10cmで柱穴と考えられるピットや炉跡らしきものは不明である。床面もしまっておらず、1の住居の補助的な施設として用いられたのではないか。出土した遺物のほとんどは縄文土器で弥生土器は少ない。(第50図1～9)

第6節　古墳時代の遺構

第一年次の調査によると、円墳1基、方形周溝墓1基検出されており、基域としての性格を強くしていたが、今回の調査ではさらにその感を強める結果が出されている。すなわち、円墳

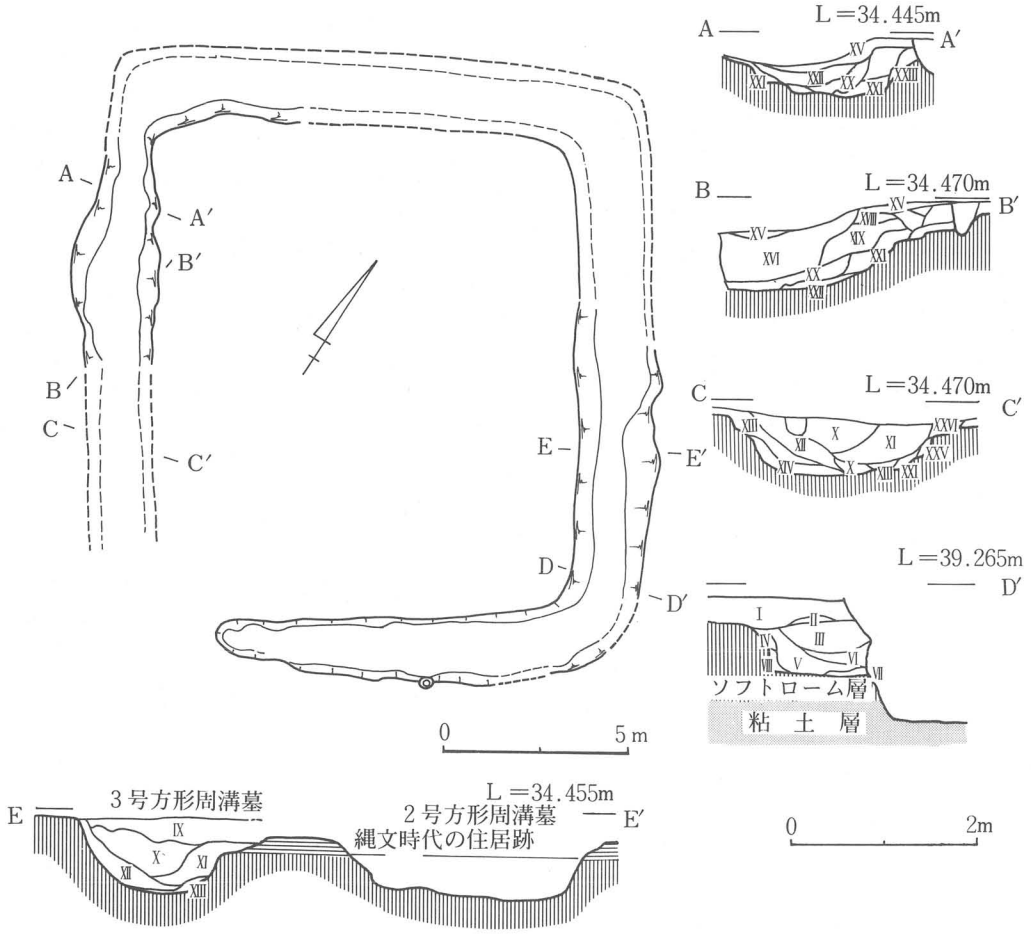


Ⅰ　暗茶褐色土　ローム粒、粘土粒多く混入
Ⅱ　黒褐色土　黒色土粒多量、ローム粒少量混入
Ⅲ　茶褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
Ⅳ　茶褐色土　ローム粒、粘土粒、ブロック少量混入
Ⅴ　暗褐色土　ローム粒、ロームブロック少量、黒色土粒多く混入
Ⅵ　黄褐色土　ロームブロック多く混入
Ⅶ　暗褐色土　ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
Ⅷ　暗褐色土　ロ々ム粒、ロームブロック少量、粘土粒やや多く混入
Ⅸ　暗茶褐色土　ローム粒少量、粘土粒やや多く混入
Ⅹ　暗茶褐色土　ローム粒、ロームブロック少量、粘土粒やや多く混入
Ⅺ　暗茶褐色　ローム粒少量、粘土粒多く混入
Ⅻ　暗褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
ⅩⅢ　黒褐色土　黒色土粒多量、ローム粒極少量混入
ⅩⅣ　暗褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
ⅩⅤ　暗褐色土　（貼り床部分）
ⅩⅥ　黄褐色土　ロームブロック



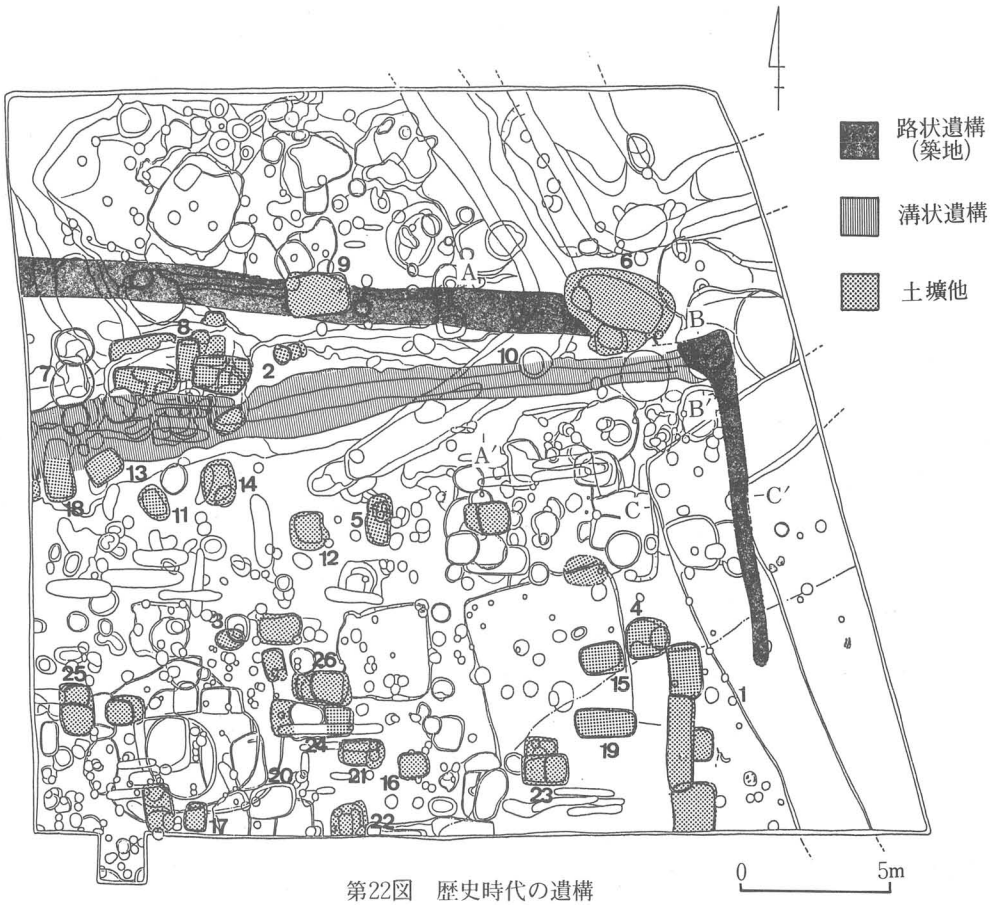
Ⅰ　褐色土　ローム粒、ロームブロックやや混入
Ⅱ　黒褐色土　ローム粒極少量、黒色土粒やや多く混入

第20図　遺構図8 ―弥生時代の住居跡



Ⅰ　茶褐色土　ローム粒、粘土粒、黒色土粒やや多く混入
Ⅱ　明茶褐色土　ローム粒少量、粘土粒少量混入
Ⅲ　茶褐色土　ローム粒やや多く、粘土粒少量混入しまっている
Ⅳ　暗褐色土　ローム粒少量混入するがしまっている
Ⅴ　茶褐色土　ローム粒やや多く、　焼土粒、ＣＯ粒極少量混入
Ⅵ　明茶褐色土　ローム粒多量、粘土粒、黒色土粒やや多く混入
Ⅶ　黄褐色土　ローム粒多量混入（ソフトローム漸移層）
Ⅷ　明褐色土　ローム粒多く混入、ややブロック化　　く
Ⅸ　黒褐色土　ローム粒、粘土粒少量、黒色土粒多く混入
Ⅹ　暗褐色土　ローム粒、粘土粒やや多く、黒色土粒多く混入
Ⅺ　暗茶褐色土　ローム粒少量、焼土、ＣＯ粒少量混入
Ⅻ　暗茶褐色土　ローム粒少量、粘土粒極少量、黒色土下層に混入
ⅩⅢ　黄褐色土　ロームブロック層
ⅩⅣ　暗茶褐色土　ローム粒少量混入
ⅩⅤ　暗褐色土　ローム粒極少量混入
ⅩⅥ　茶褐色土　ローム粒多量、焼土粒、ＣＯ極少量混入
ⅩⅦ　暗褐色土　ローム粒、黒色土粒極少量混入
ⅩⅧ　茶褐色土　ローム粒少量、焼土粒極少量混入、しまっている
ⅩⅨ　暗茶褐色土　ローム粒多量、粘土粒やや多く混入
ⅩⅩ　暗茶褐色土　ローム粒、粘土粒少量混入
ⅩⅩⅠ　褐色土　ローム粒、細ロームブロック混入
ⅩⅩⅡ　暗褐色土　ローム粒やや多く混入
ⅩⅩⅢ　黄褐色土　ソフトローム層
ⅩⅩⅣ　暗褐色土　ローム粒多く混入
ⅩⅩⅤ　褐色土　ローム粒、黒色土粒多く混入
ⅩⅩⅥ　暗褐色土　ローム粒多量、焼土、ＣＯ極小量混入

第21図　遺構図９－３号方形周溝墓



第22図　歴史時代の遺構

の西側に検出されたのはさらに２基の方形周溝墓であった。規模的にはやや小さいようであるが周溝幅や深さ、方向等はこれまでのものとほとんど変わらないものである。１号方形周溝墓は17.4×17m で南北にやや長い。溝幅は1.4～1.7m 、深さは32～44cm。北西コーナーほぼ直角に折れる。溝のフク土に骨片や縄文土器が多く検出されているが骨は後世のもの(墓壙)で縄文土器はかなりの量であるが、攪乱によるもので周囲から流れ込んだものである。（１号方形周溝墓の西側と内側には縄文時代の住居跡と思われる地点がある。）２号方形周溝墓は１号方形周溝墓と方向を同じくして2.2m 北側に構築されている。南側の一辺は15.5m 、溝幅は2.5～３m 、深さは36～56cm。南西コーナー部で縄文時代の住居跡や袋状土壙等を切り込んでおり、周溝のフク土には縄文土器が多く検出されている。3号方形周溝墓は2号方形周溝墓と並んで西側に検出されている。主軸方向は他の２基と同様に北北西にもつ。一辺の長さが約15m で溝幅が２～2.4m 、深さは50～80cm。他の２基に比較して、溝幅（底面）がやや狭い。２号方形周溝墓とほとんど接近して構築されているが切り合い関係は見られない。南西隅が切れているが、東西に走る溝の斜面なので、攪乱されたものかも知れない。遺構に伴う遺物は検出されていない。

第７節　歴史時代以降の遺構

歴史時代以降の検出された遺構は路状遺構，築地状遺構，溝，土壙等である。土壙については性格を示す遺物がほとんどみられず，確認された平面プランのレベル，土層の状態，形状等で判断せざるを得なかった。

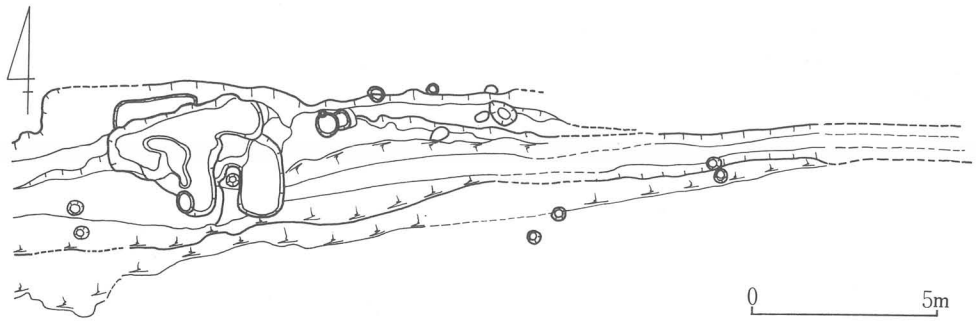
路状遺構は幅1.2～1.5ｍ（厚さ25～36cm）で東西に走る。東側で築地状遺構と接続するかのように消滅している。土層は堅くしまっており，土器が細片になって混入している。遺構の北側下面には遺構の方向に沿って幅30～40cm（深さ10cm）の小溝が走っている。堅い土を取り除くと下面はテラス状に平坦になっており，南端沿に大溝が平行して走っている。築地状遺構は南北に細長く構築されており，長さ約11ｍ（厚さ15～20cm），幅70～90cmで繊維質の混入する粘土で帯状に造られている。路状遺溝も溝も東側はここで終わっており，この築地状遺構は路状遺構と共に，内側の施設を囲む（区画する）遺構であったのかも知れない。

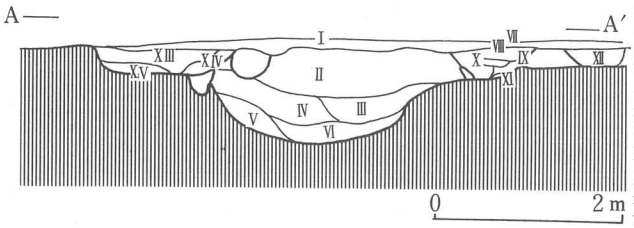
表５　検出された遺構（歴史時代）

挿図番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第24図1（8F12	ピット	径 26cm 深さ 33cm	ピットの中央にやや東に傾いた状態で出土。上から12cmの所に，赤茶化た有機物が付着。	（第82図）割れた瓶子を接合して再使用している。	P4 13世紀。
第24図2（7G5）	ピット	径 64cm 深さ 24cm	溝の北側壁そばに他のピットと共に確認されている。溝上面からあけられたとも考えられる。	内耳片，河原石がピットの上面で出土。	P1→P2→P1 （古→新）
第24図3（8G7）	土壙	1.1×0.7ｍ	楕円形プラン。上方には炭化物（粉状）が土壙の形状にそって検出されている。深さ18cm。	縄文土器片(第57図1,2)	
第24図4（8F12）	土壙	1.56×1.4ｍ	円形に近いプラン。深さは38cmで床面は平らで，立ち上がりは垂直。南側に粘土塊が堆積。	床面から10～30cmに粘土塊，土器片が集中して出土。	土器焼成遺構。 12世紀。
第24図5（8G1）	土壙	1.67×0.75ｍ	やや傾斜している地形に構築されている。南側床面はほぼ平ら。P1の深さは71cm。	P2の土部に内耳片（第57図6）がやや浮いて出土。（第57図3～5）	土壙，ピットが重複
第25図6（7F14･19）	土壙	3.75×1.6ｍ	粘土層まで掘り込んだ楕円形プランの土壙。床面は平らで，西壁下にピットがみられる。	フク土の中央部に灯明皿，石，貝殻が出土。（第57図7～28）	深さ1.2ｍ。 南壁に土壙あり。
第25図7（7G15）	土壙	径1.4～1.55ｍ 深さ 40cm	円形プラン。床面はほぼ平らであるが溝のフク土に構築されたもので重複が著しい。	縄文土器，弥生土器片。（第57図29～39） 内耳片（第83図6，14）	P4。P3→P4→P1（古→新）
第25図8（7G10）	土壙	1.94×1.28ｍ	不整形の方形プラン。溝のフク土に集中して構築され重複が著しい。床面はほぼ平ら，深さ77cm。	縄文土器や内耳（第83図1，2）や灯皿明(61図18，19)（60図13～29）	P5。P1とP5が最も新しい土壙。
第25図9（7G4）	土壙	2.14×1.46ｍ	路上遺構の上に検出された残存状態が最も良好で方形プラン。底面は平らでしまっている。	縄文土器片，河原石片が出土。	北東隅は小ピット。（P1）に切断。

表6　検出された遺構（歴史時代）

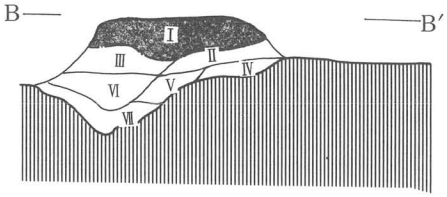
挿図番号	遺構	規模	検出状況	出土遺物	備考
第25図 10(7F20)	土壙	径0.97～1.12m 深さ 33cm	ほぼ円形プラン。溝を切って構築されているが深さ10cmで床面も弱く不明確である。	遺物はほとんどなし。	
第25図 11(8G6)	土壙	1.22×0.88m	楕円形プラン。深さ80cmで床面はほぼ平らで北側から粘土層が入り込んでいる。	遺物はほとんどなし。	
第26図 12(8G1)	土壙	1.24×1.12m	正方形に近いプラン。壁の立ち上がりは乗直に近く，床面はほぼ平らで粘土層まで掘り込んでいる。	遺物はほとんどなし。	深さ54cm 東側に小ピットあり
第26図 13(8G11)	土壙	1.22×0.93m	長方形プラン。溝の傾斜面に構築されている。立ち上がりは直立気味で，床面は粘土層まで切り込む。	遺物はほとんどなし。	深さ40cm
第26図 14(8G6)	土壙	1.42×1.14m	陽刃の長方形プラン。上面で2つの土壙に分かれるが，下面は平らで1つの土壙である。	遺物はほとんどなし。	深さ30cm 粘土層に切り込む
第26図 15(8F17)	土壙	1.5×1.02m	長方形プラン。弥生時代の住居跡の東側床面に掘り込んでいる。床面は緩く傾斜している。	遺物はほとんどなし。	深さ65cm
第26図 16(8F23)	土壙	1.02×0.9m	長方形プラン。床面は緩く傾斜して，壁はほぼまっ直に立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	深さ25cm 壁に小ピットあり
第26図 17(8G8)	土壙	1.57×1.0m 98×77cm	長方形プラン。床面は粘土層まで掘り込んでいるがほぼ平ら。壁はほぼ垂直に立ち上がる。	縄文土器片(第58図1.2.5)	深さ25～34cm 上部に遺構重複
第26図 18(8G1)	土壙	2.04×1.04m	溝のフク土に掘り込んでいる長方形プランの土壙。北側壁は攪乱を受けて不明。	縄文土器片(加EⅡ)	深さ50cm
第26図 19(8F18)	土壙	(2.05)×0.97m	弥生時代の住居跡の南東隅床面を切り込んでいる。床面はほぼ平らである。	縄文土器片(加EⅡ～Ⅲ)	深さ60cm
第26図 20(8G8)	土壙	1.8×1.1m	不整形の方形プラン。床面は平らで，下部には遺溝が重複している。	縄文土器片(第58図5)，内耳片(4)，摺り鉢(5)	西側壁に小ピットあり。
第26図 21(8G3)	土壙	1.55×0.9m	長方形プラン。上部はD2や畝状遺構で攪乱されている。床面は平らでまっ直ぐ立ち上がる。	遺物はほとんどなし。	D2は樹根による攪乱か？
第26図 22(8G3)	土壙	(不明)× 1.1m	南側は未発掘で不明だが，長方形プランと推定される。遺構の重複がみられる。	遺物はほとんどなし。	D4，北西隅に小ピットあり。
第26図 23(8F18)	土壙	1.5×1.0m	3基以上の土壙が重複している。上部は長方形プランで床面もほぼ平らである。	縄文土器片(第58図6～12)や内耳片(7)	D2，D3，D4と重複
第26図 24(8G2･3)	土壙	2.8×1.1m	長方形プランの大土壙に小土壙が2基検出されている。西側床と南壁に小ピットあり。	遺物はほとんどなし。	上部は畝状遺構で攪乱
第26図 25(8G12･13)	土壙	1.66×1.14m 1.40×1.0 m	深さ43cm。遺構の重複が著しい。上部では2基以上の土壙が検出されている。	縄文土器片が少量(加EⅡ)	D3，D4と重複
第26図 26(8G2)	土壙	1.88×1.04m 1.28×1.04m	長方形プランで土壙が5基重複している。床面はほぼ平らでしまっている。	縄文土器片(第58図13～16)(加EⅡ～EⅣ)	D6，D4，D7，D8と重複





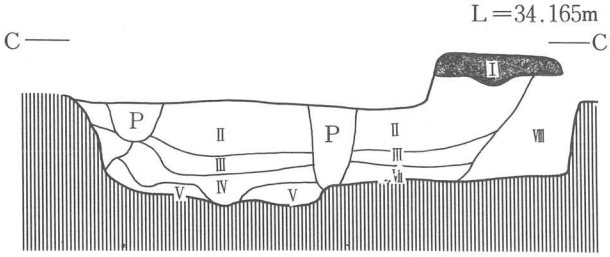
A－A′

Ⅰ　黒褐色土、ローム粒、極少量混入
Ⅱ　暗褐色土　ローム粒の混入、やや粘性をおびる
Ⅲ　黒褐色土　ローム粒、黒色土粒やや多く混入
Ⅳ　暗褐色土　Ⅲ層よりややローム粒まで多く混入
Ⅴ　暗褐色土　ローム粒、粉て粒、黒色土極少量混入
Ⅵ　暗褐色土　ローム粒少量混入
Ⅶ　黒褐色土　ローム粒少量混入、焼土、砂混入
Ⅷ　暗褐色土　ローム粒少量混入
Ⅸ　褐色土　ローム粒、粘土粒多く混入
Ⅹ　暗褐色土　ローム粒、下層に多く、粘土粒やや多い
Ⅺ　灰褐色土　粘土質
Ⅻ　暗褐色土　ローム粒太量混入、ややしまっている
ⅩⅢ暗褐色土　ローム粒やや多く混入
ⅩⅣ黒褐色土　ローム粒やや多く混入
ⅩⅤ暗褐色　ローム粒多く混入



B－B′

Ⅰ　黄褐色土　粘土ブロック、ローム粒多く混入、しまっている
Ⅱ　茶褐色土　ローム粒多く、粘土粒少量混入
Ⅲ　暗褐色土　ローム粒、細ロームブロックやや多く混入
Ⅳ　明褐色土　ローム粒、細ロームブロック多く混入
Ⅴ　暗褐色土　ローム粒数多く、粘土粒少量混入
Ⅵ　黒褐色土　黒色土粒多く、ローム粒少量混入
Ⅶ　暗褐色土　黒色土多く、ローム粒やや多く混入

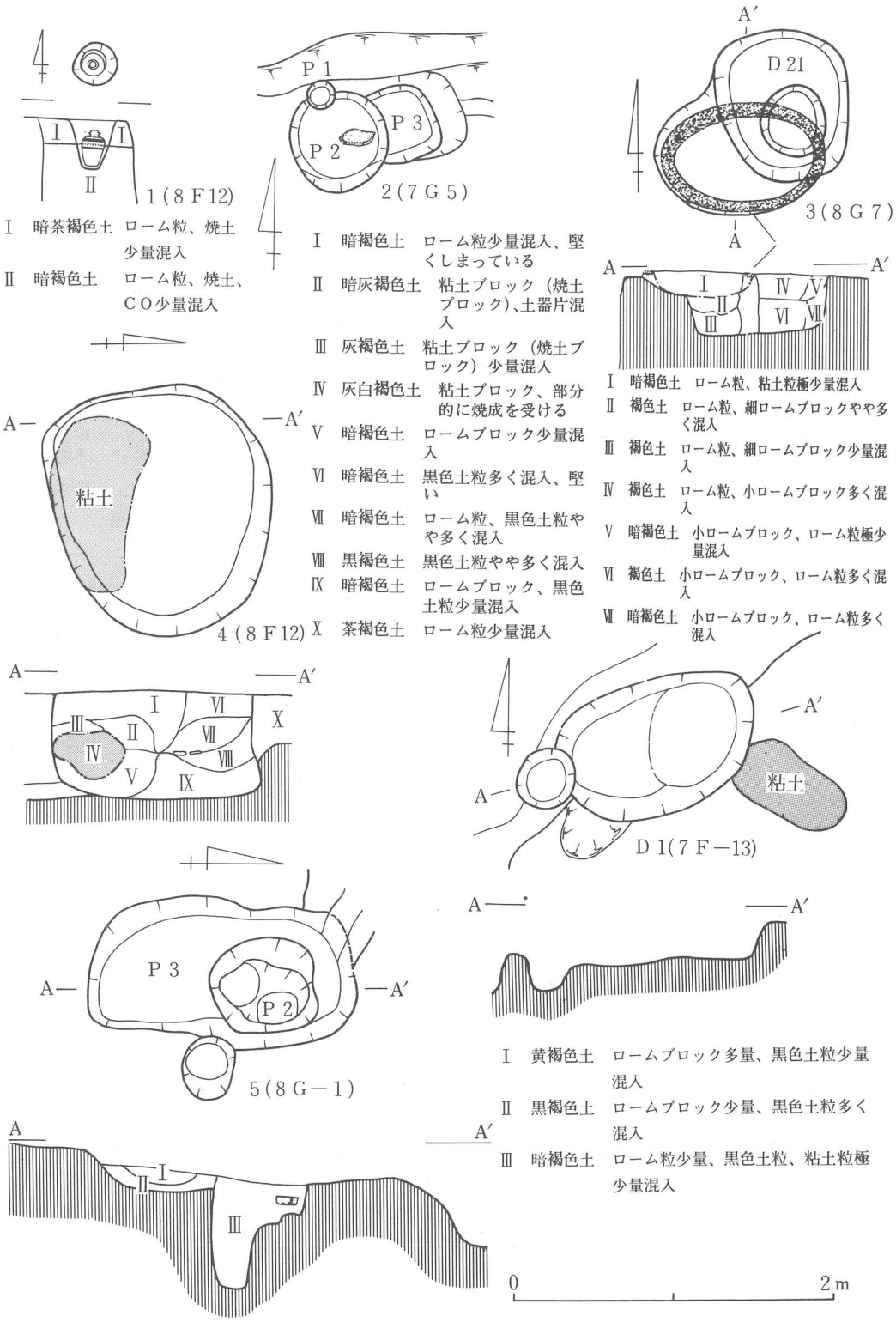


C－C′

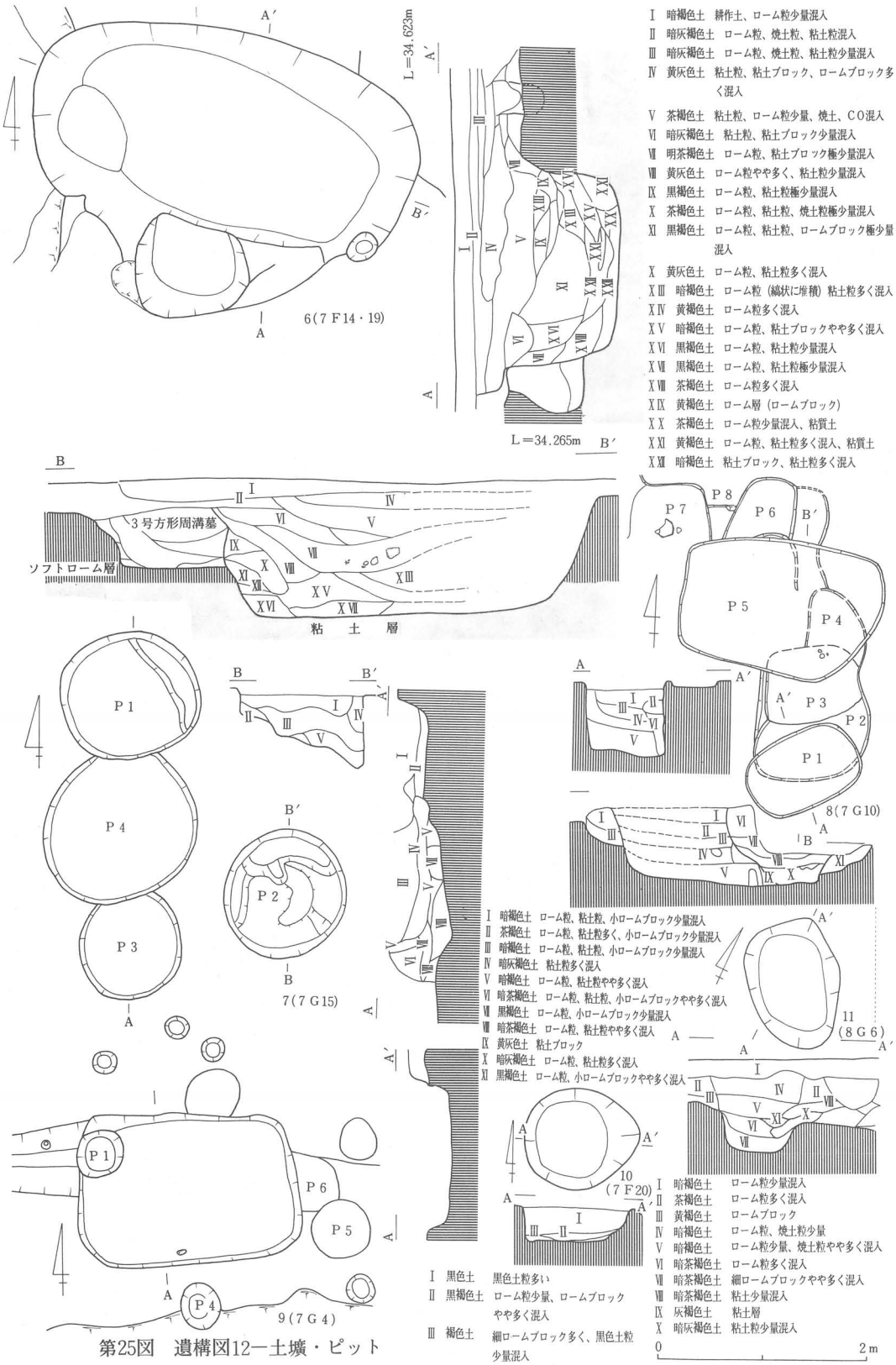
Ⅰ　黄褐色土　粘土ブロック
Ⅱ　黒褐色土　ローム粒少量混入
Ⅲ　茶褐色土　ローム粒、焼土粒少量混入
Ⅳ　茶褐色土　ロームブロック、ローム粒少量混入
Ⅴ　茶褐色土　ローム粒少量、ＣＯ焼土極少量混入
Ⅵ　黄褐色土　ローム漸移層
Ⅶ　茶褐色土　ローム粒やや多く混入
Ⅷ　暗褐色土　ローム粒少量、ＣＯ粒少量混入
Ｐ　黒褐色土　桂穴、ローム粒少量混入

第23図　遺構図10―溝跡・築地状遺構断面

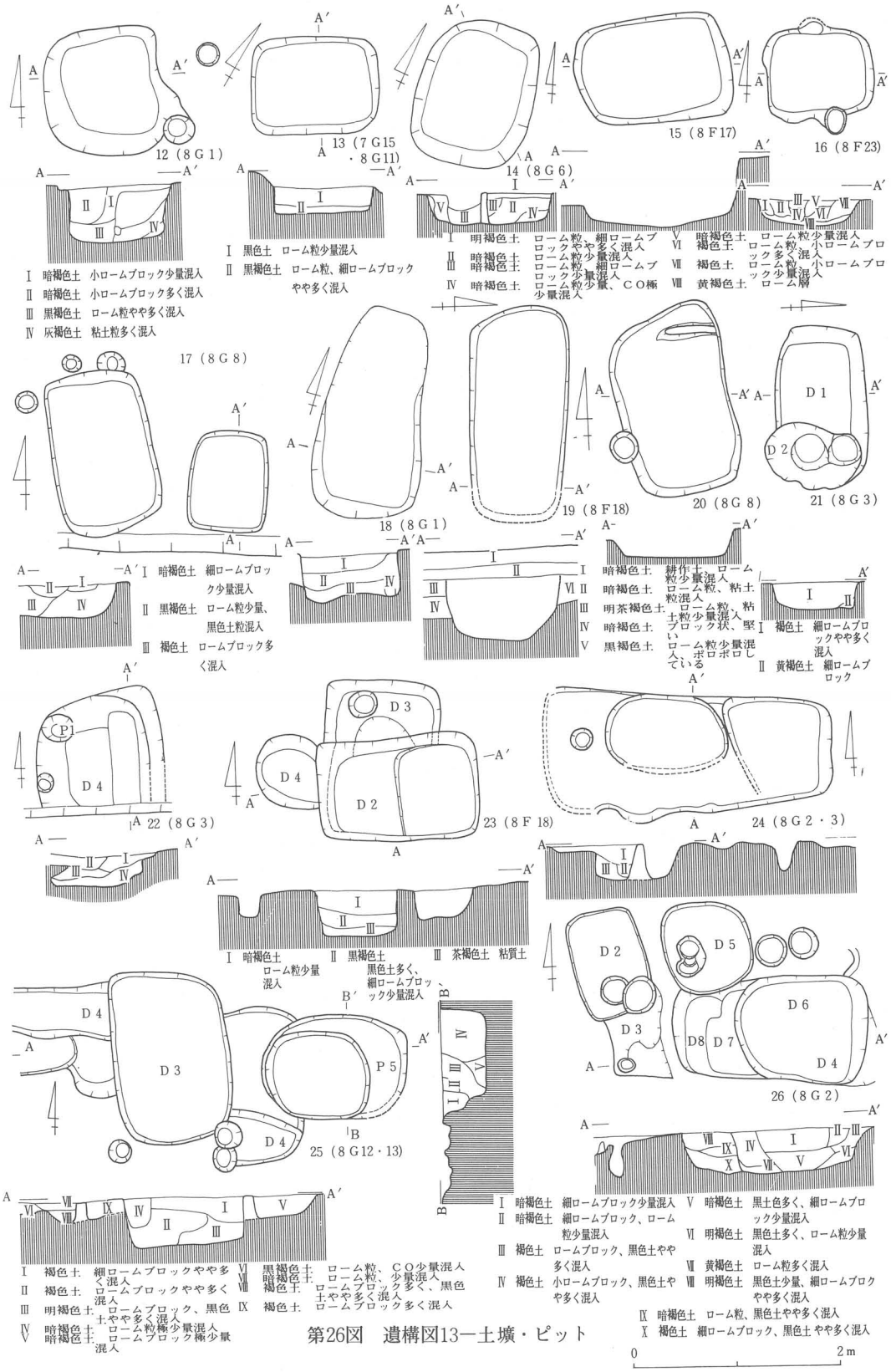
0　1m



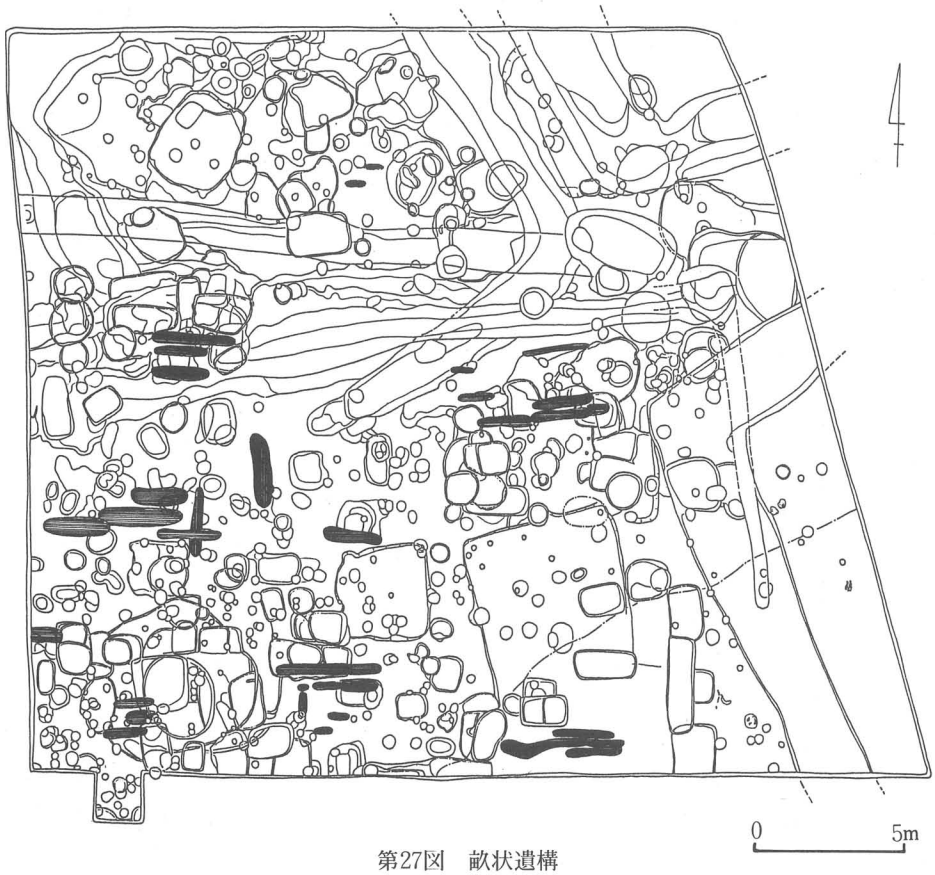
第24図　遺構図11ー土壙・ピット



第25図　遺構図12ー土壙・ピット

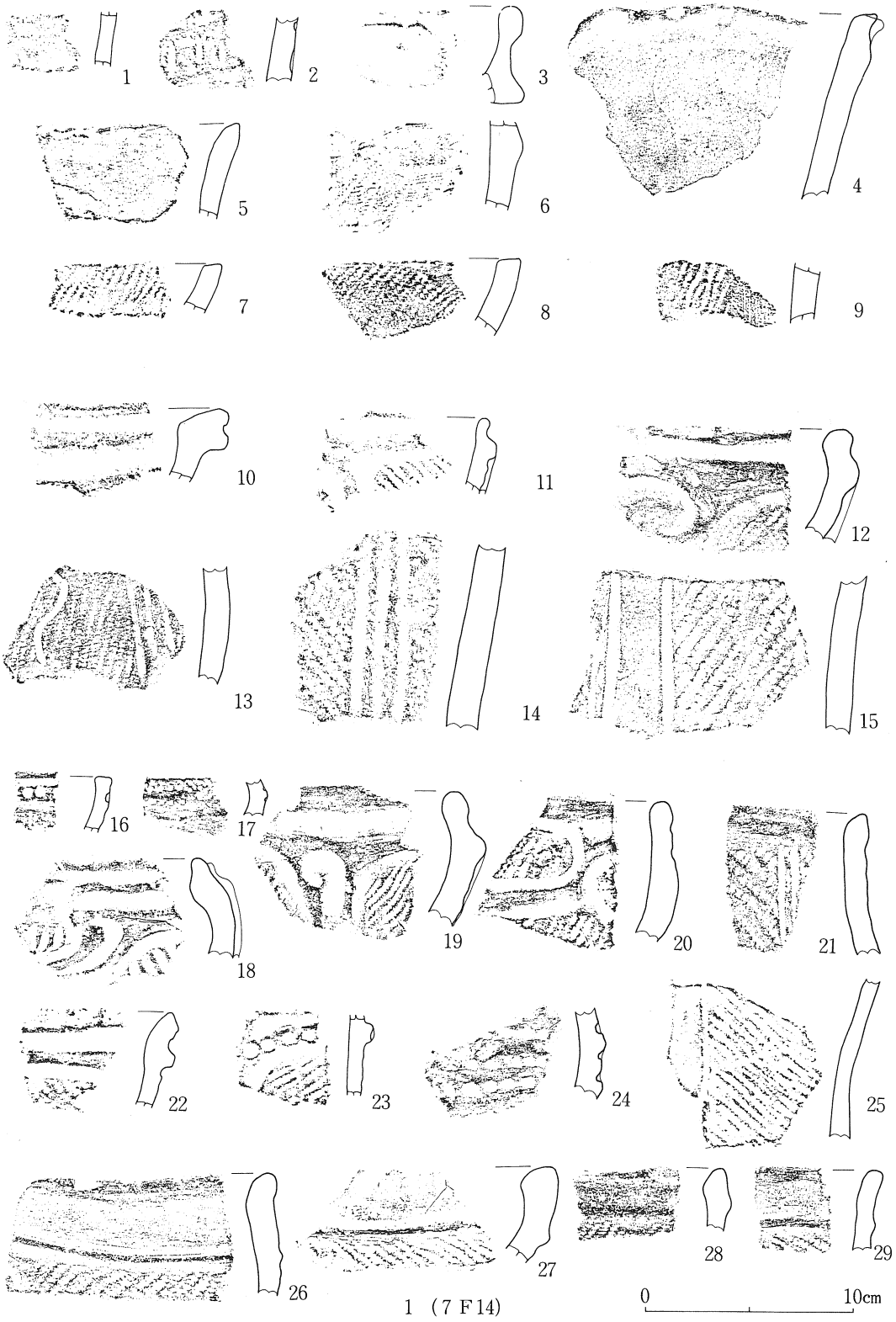


第26図　遺構図13ー土壙・ピット

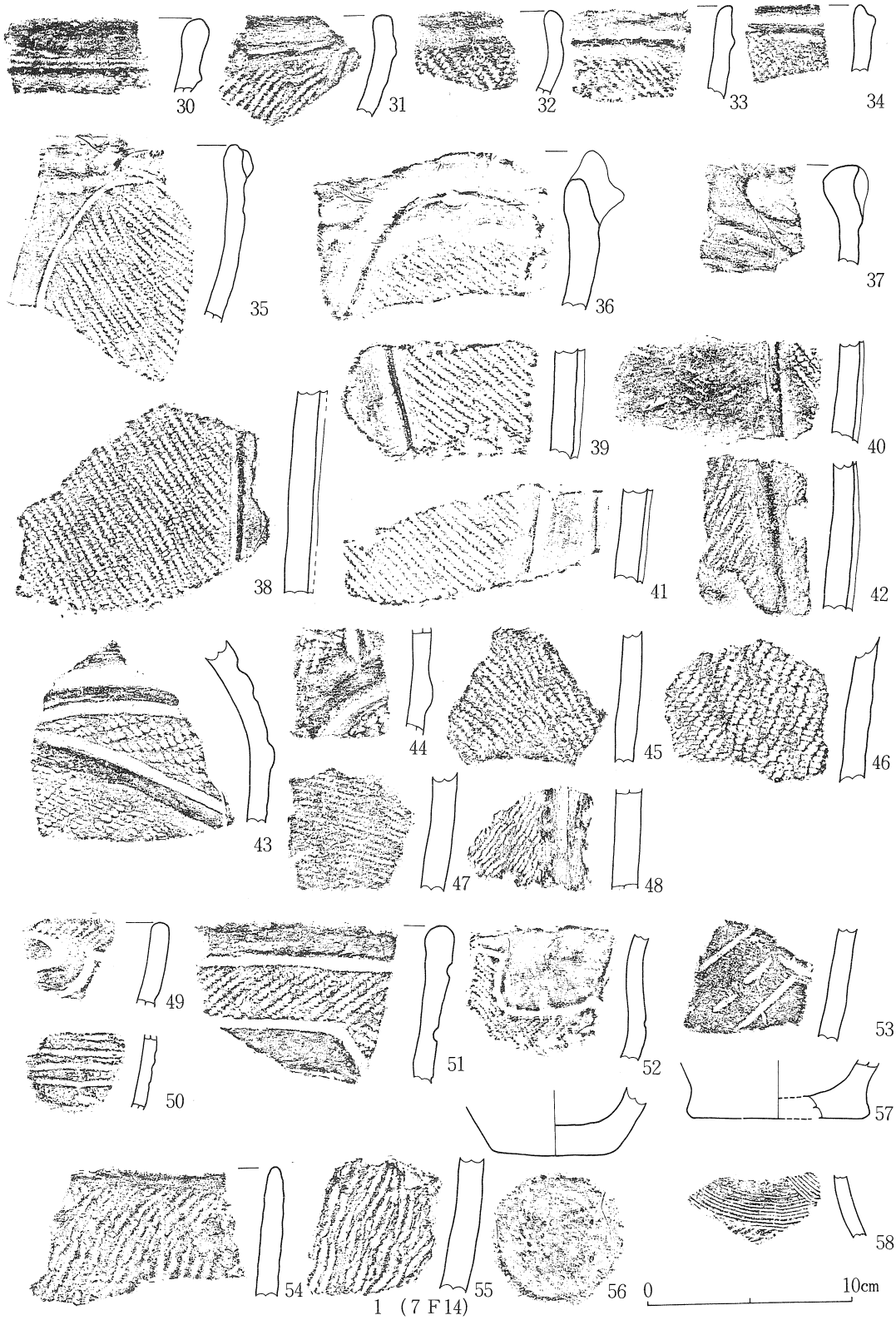


第27図　畝状遺構

溝は調査区の中央付近を東西に走っている。西側は広く（幅4.5m）、東側はだんだん狭くなっており、築地状遺構とほぼ直角になって消滅、先は検出されなかった。溝の深さは場所によって異なっており一様ではないが、東側から西側に緩く傾斜している。さらに西側の土壙等の遺構が集中している部分では、底面を粘土層まで深く掘り込んでいる。この部分は調査区中最も深い所で、溝の両側の傾斜もこの部分に入ってきて、水が流れていれば溜め池の様になる。土壙やピットはこの溝が埋まった後に構築されたものがほとんどで、暗褐色土の中に掘り込まれている。プランはやや隅の丸い長方形や、楕円形のものが多い。特殊なものとして６のような深くて大きな井戸状の遺構もある。これは粘土層まで掘り込んであるが、半分程埋まった段階で墓壙として二次利用されたものらしい。４は土壙の中に粘土ブロックがあり、杯形土器の未焼成のものが多く検出されている。完形になるのはまったくみられず、ほとんどが破片である。土器焼成遺構と考えられるが、詳細は検討中。１は三筋壺と呼ばれる瓶子を検出したピットで、瓶子は一度割れたものをニカワの様なもので接合して埋置されていた。建物の鎮壇具として用られたものかも知れない。これ等の土壙やピットは全て路状遺構と築地状遺構の内側に存在していることから、墓域を区画する施設として構築された可能性がある。なお、この他に畑の畝と思われる細長い落ち込みが多くみられるが、性格については現在不明である。

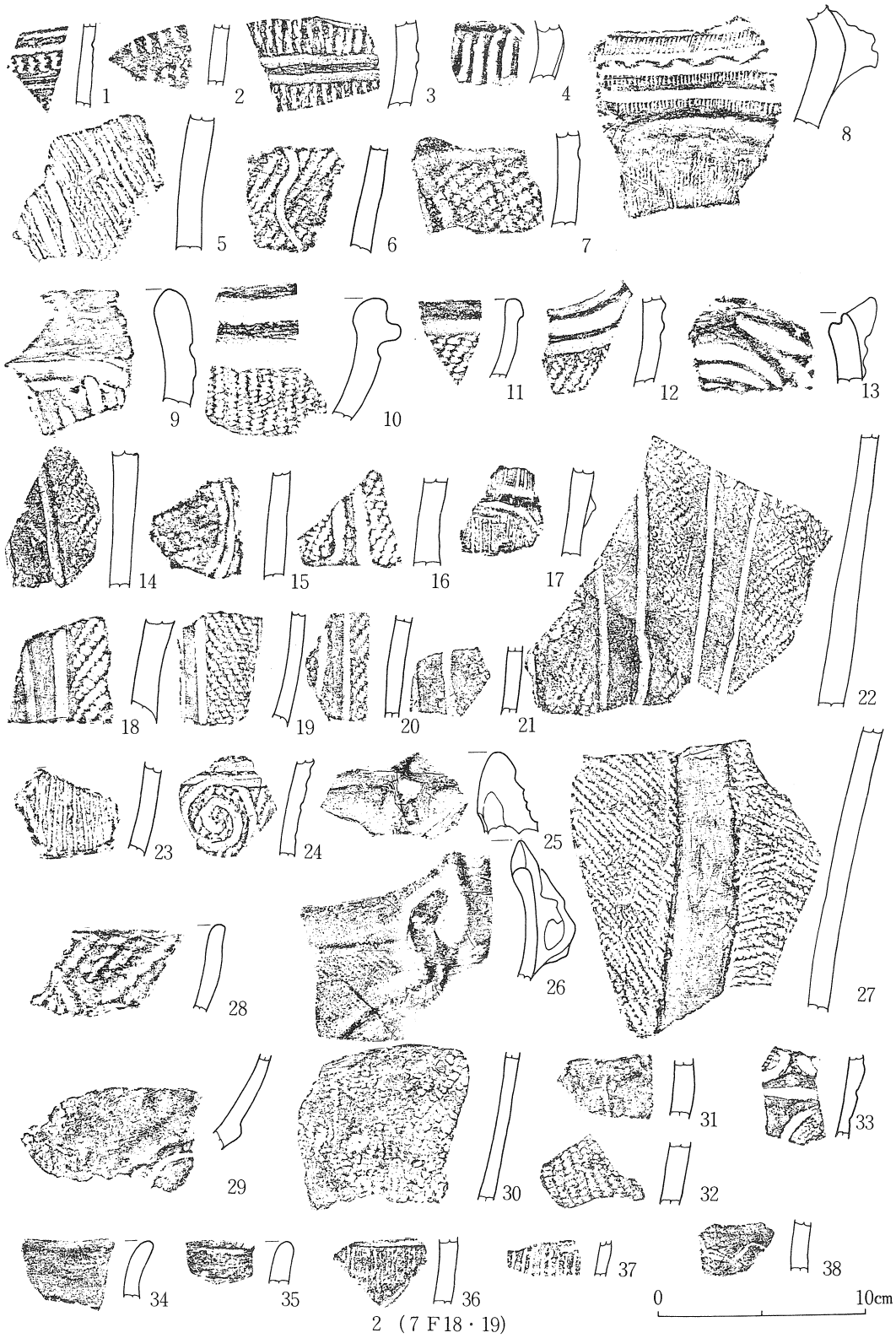


第28図　出土遺物(1)　縄文土器拓影



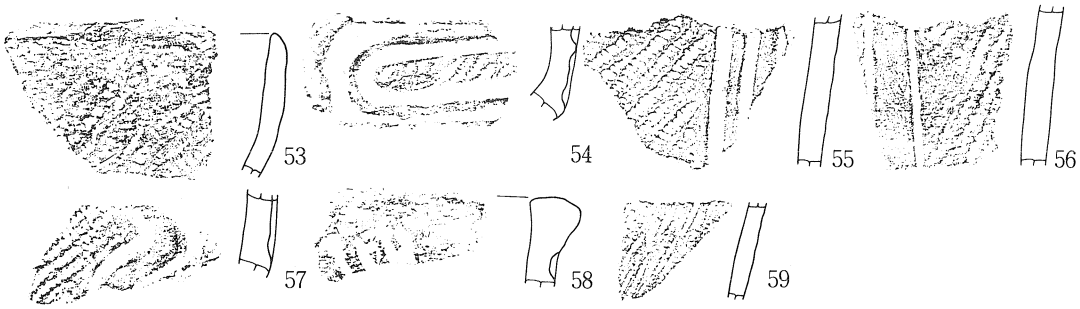
1 （7 F 14）

第29図　出土遺物（2）縄文土器拓影・他

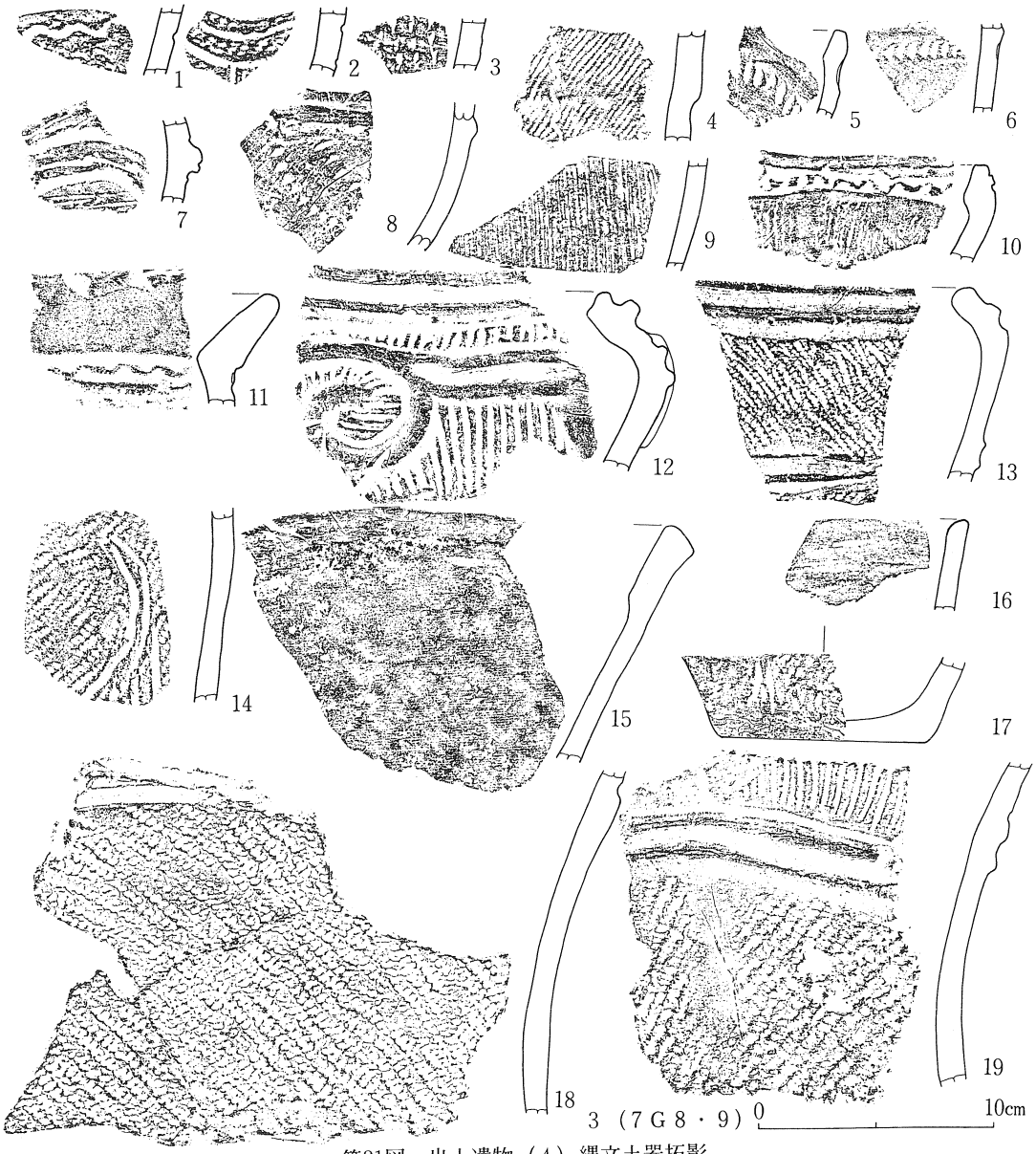


2 （7 F18・19）

第30図　出土遺物（3）縄文土器拓影

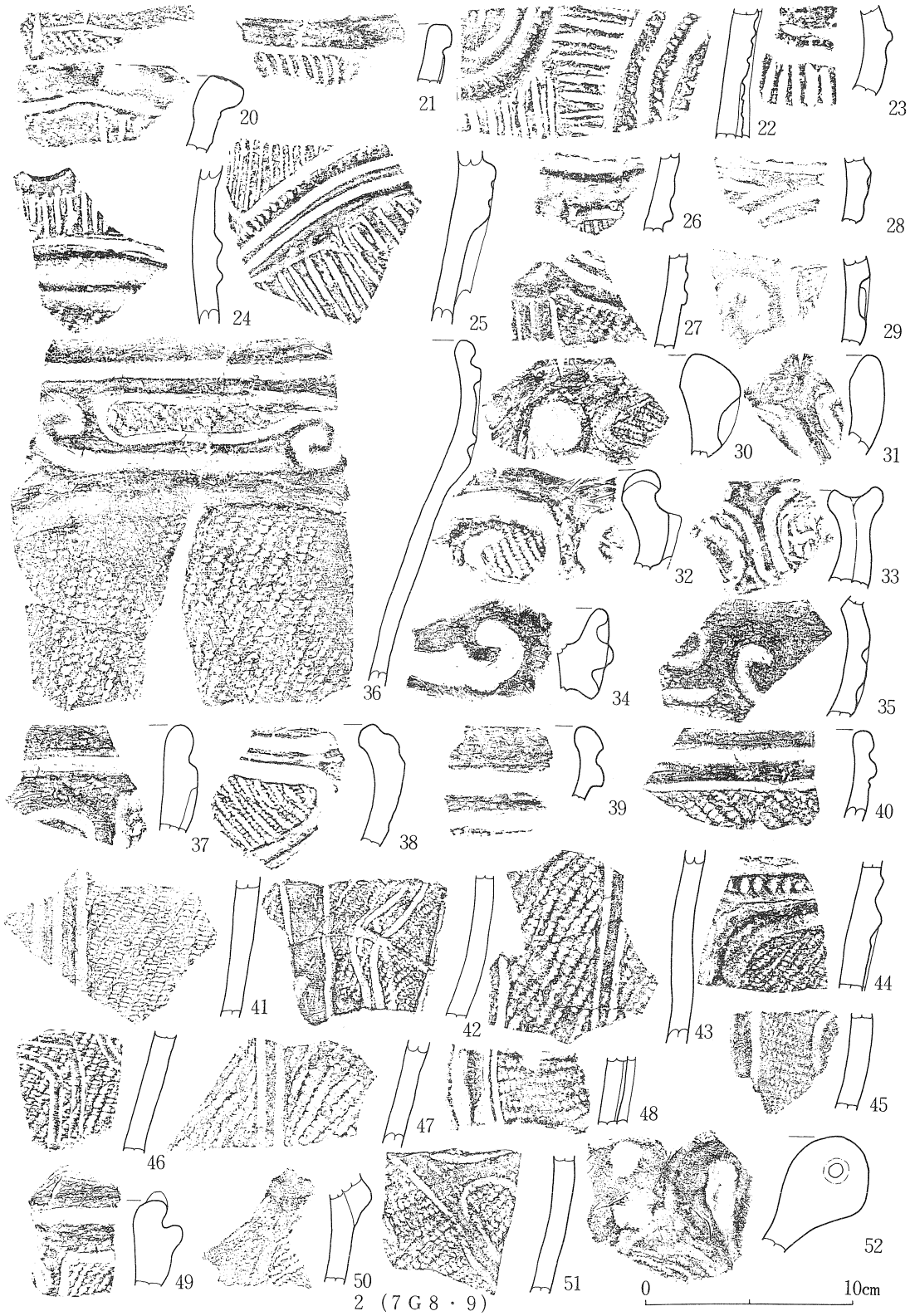


2（7G8・9）



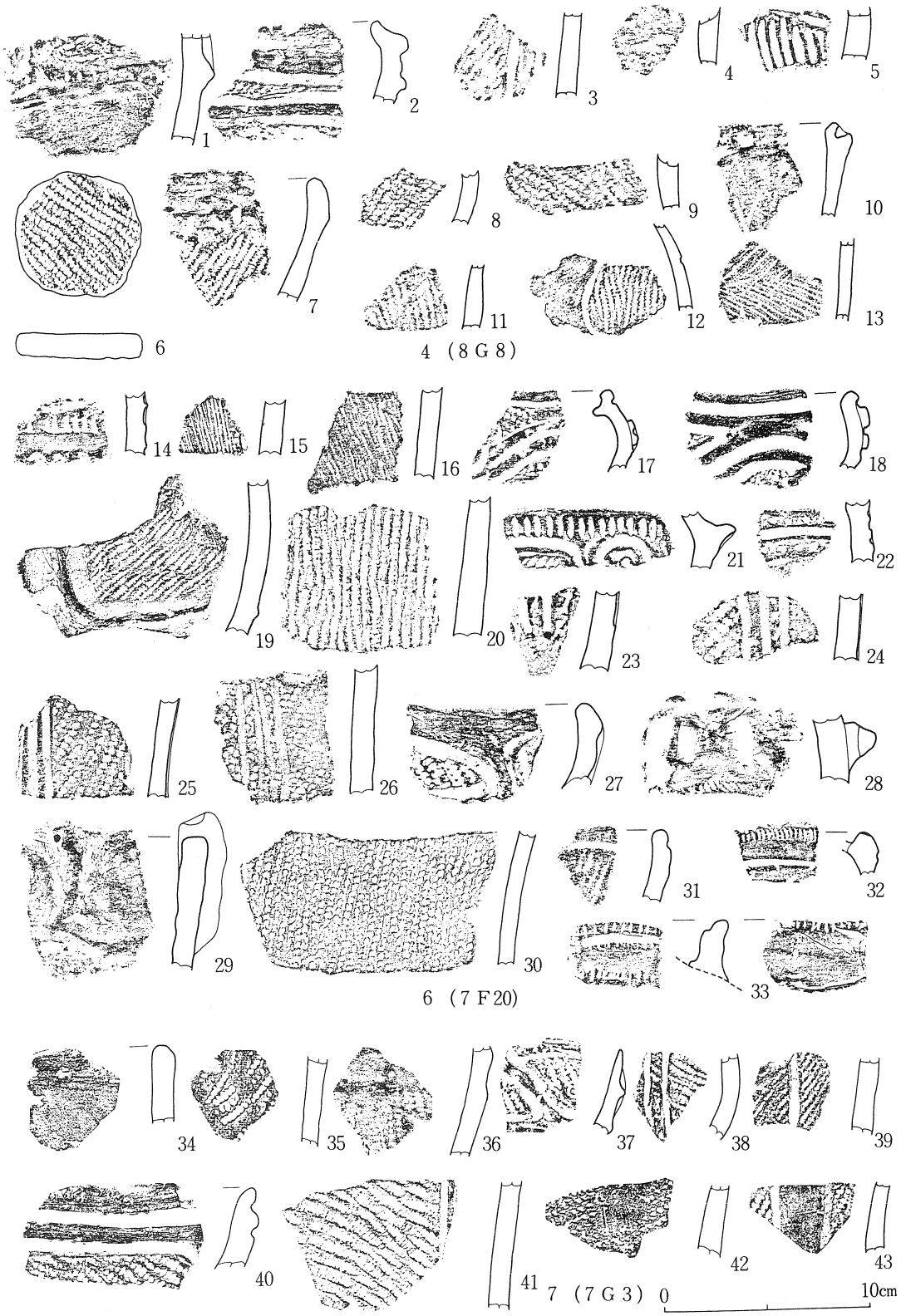
3（7G8・9）

第31図　出土遺物（4）縄文土器拓影

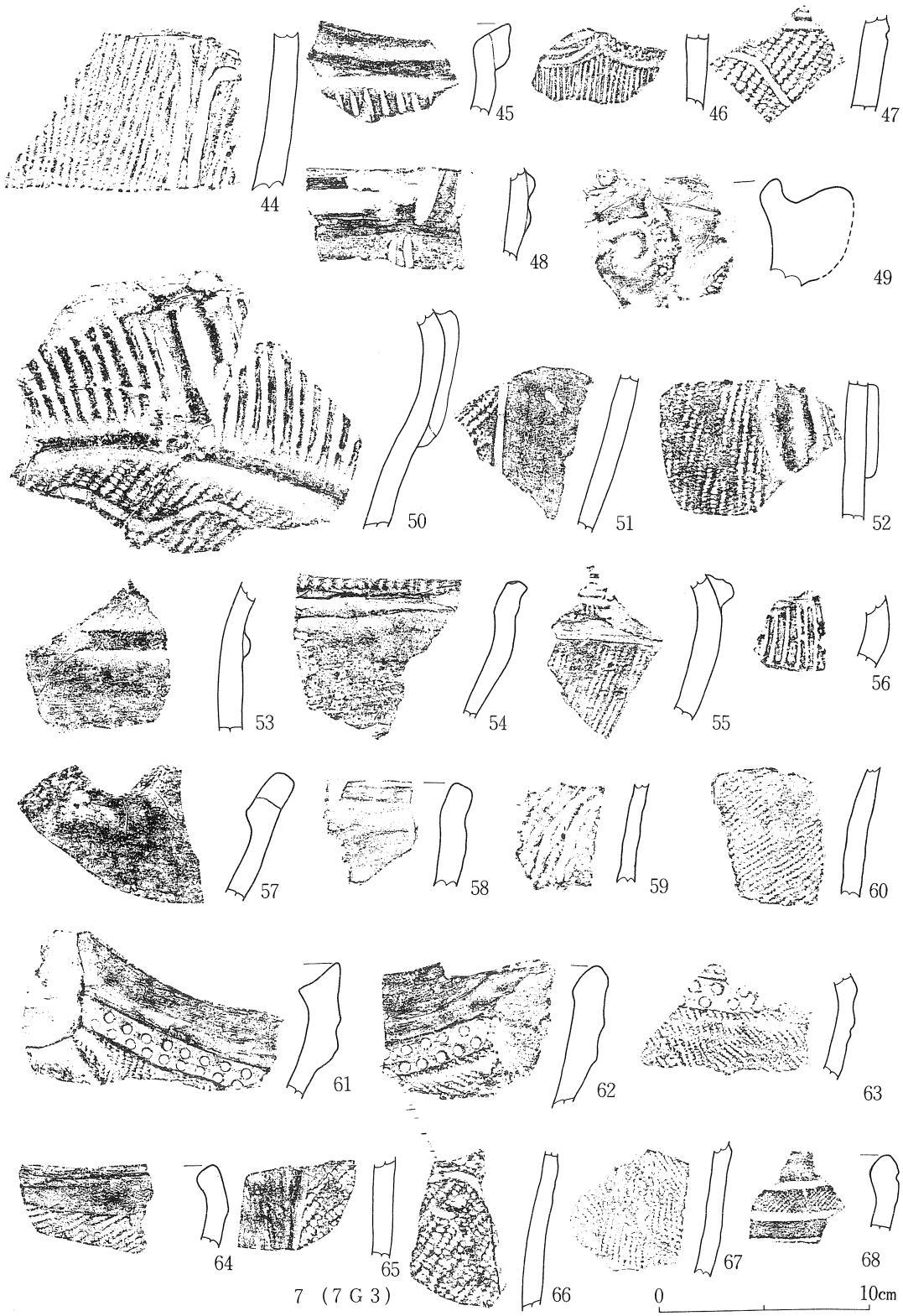


2（7G8・9）

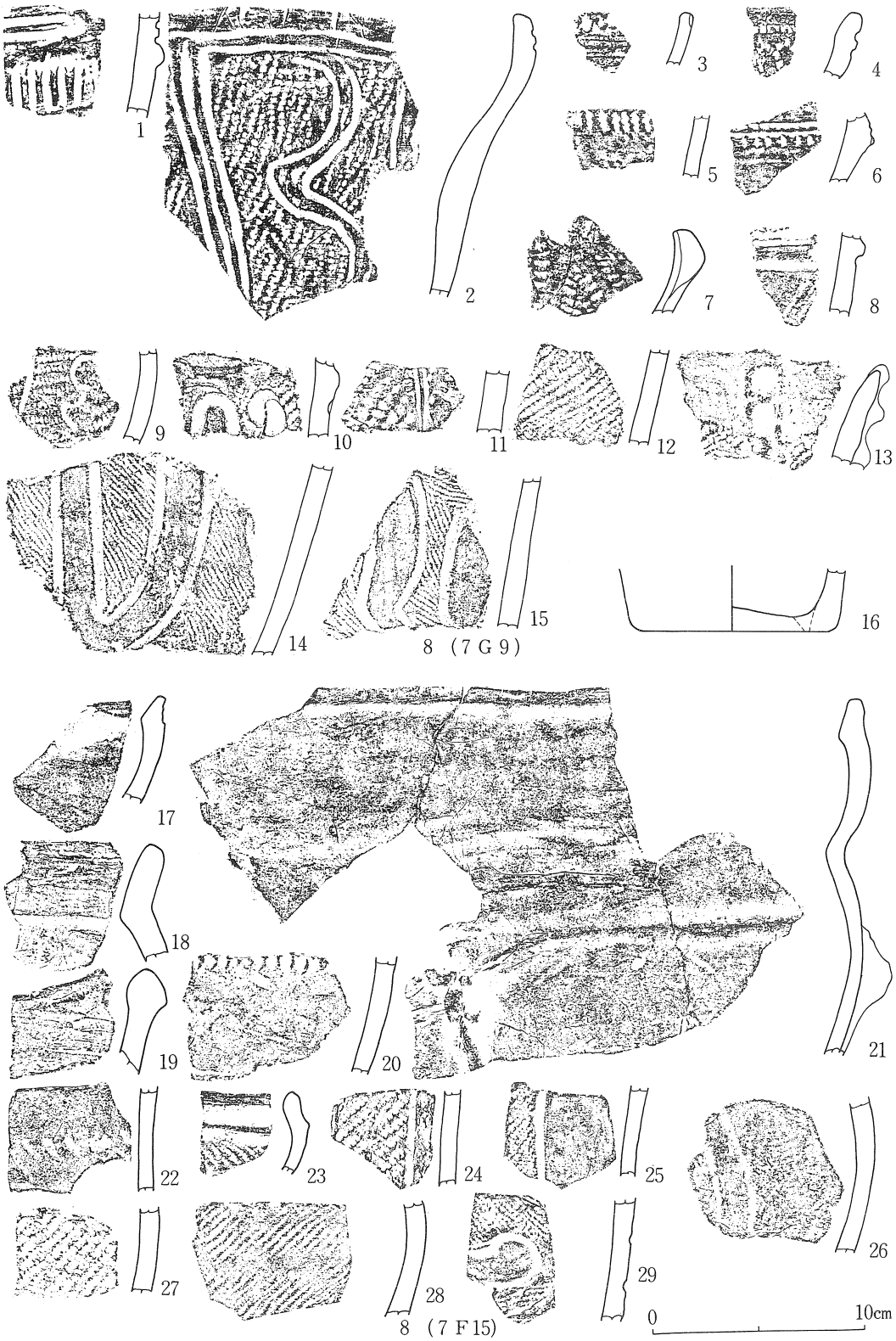
第32図　出土遺物（5）縄文土器拓影



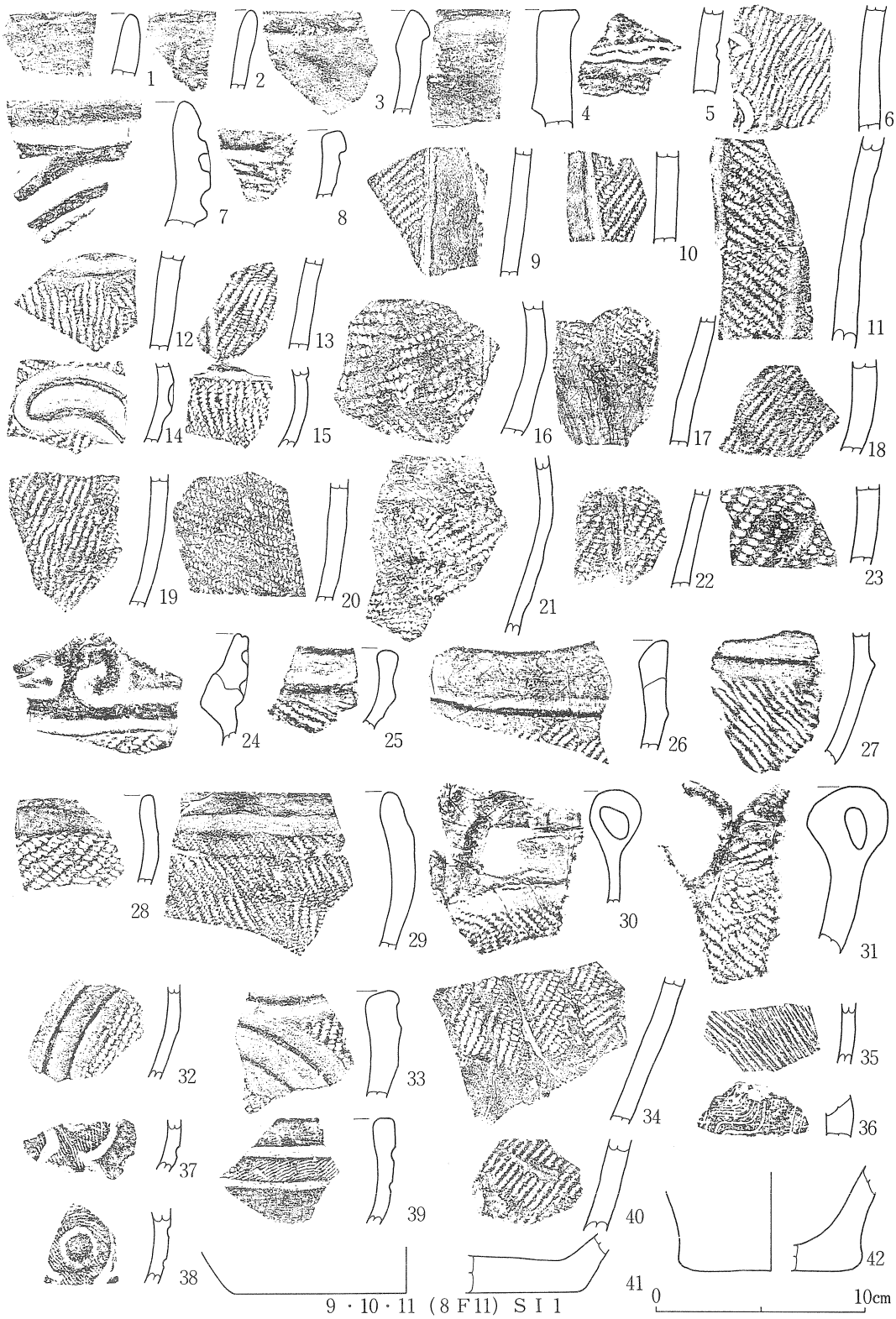
第33図　出土遺物（6）縄文土器拓影



第34図　出土遺物（7）縄文土器拓影

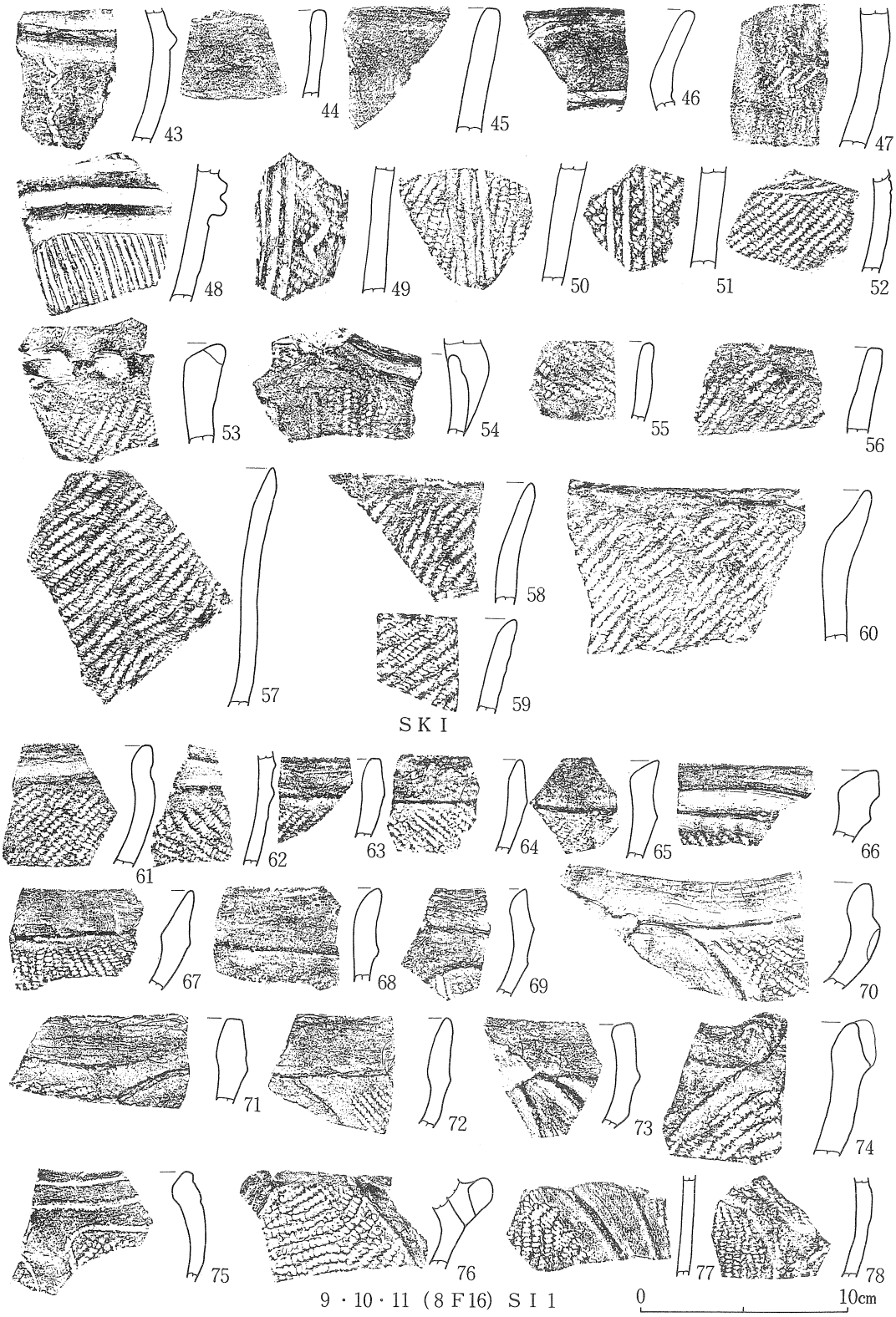


第35図　出土遺物（8）縄文土器拓影

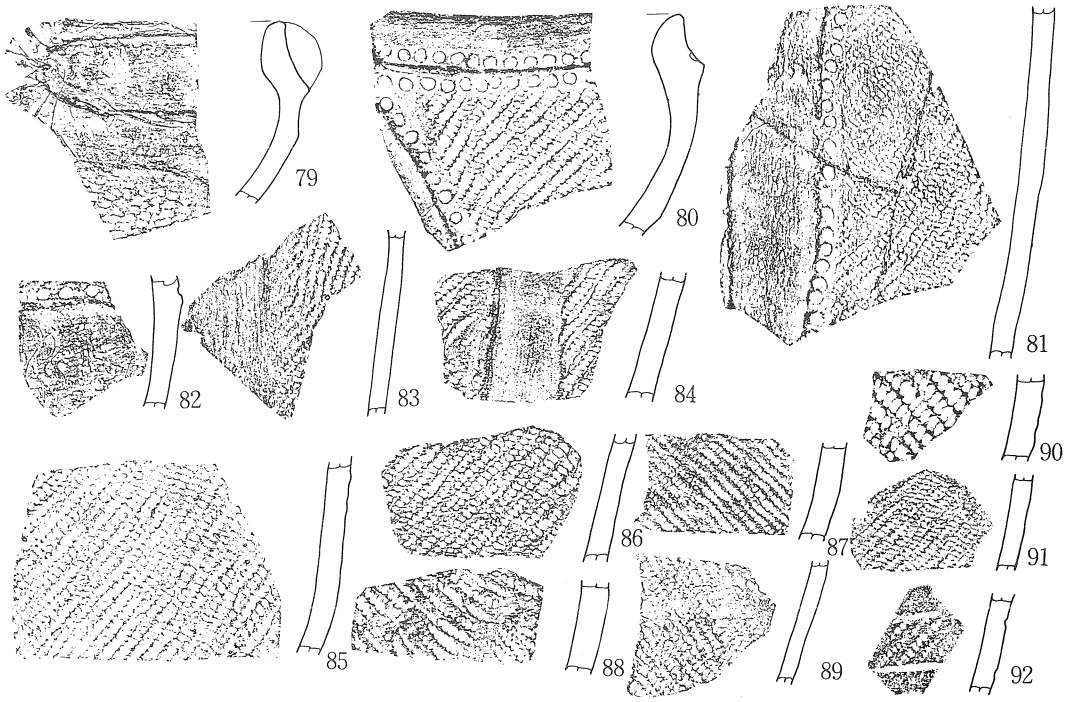


9・10・11（8F11）SI1

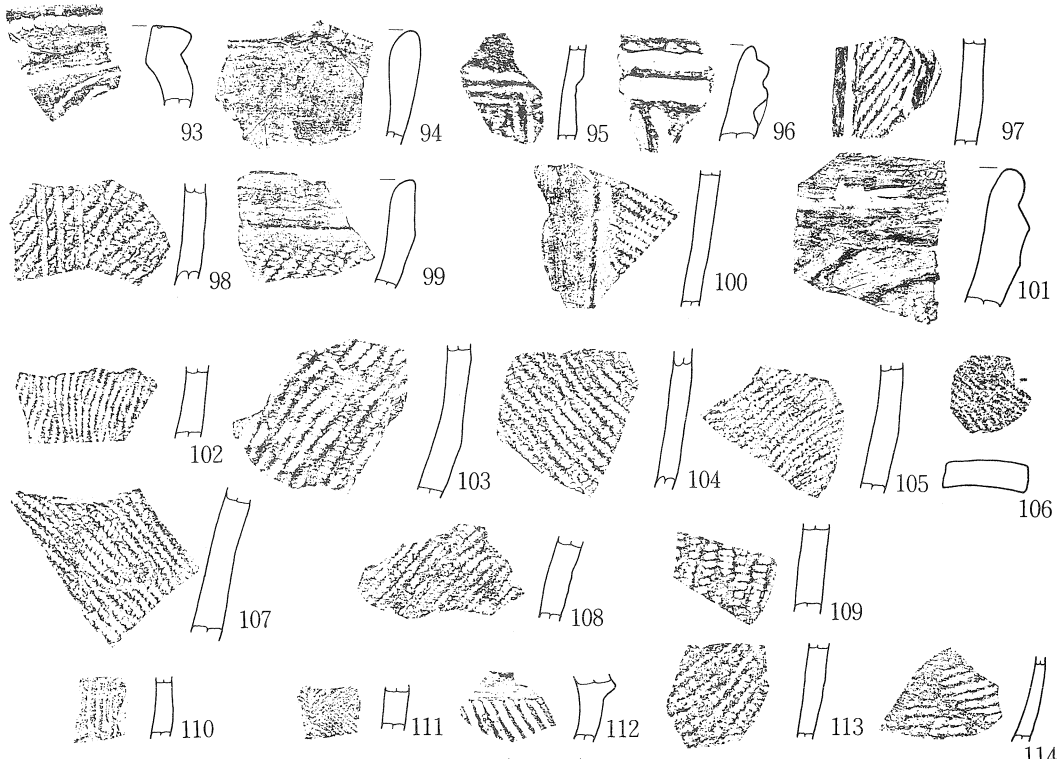
第36図　出土遺物（9）縄文土器拓影



第37図　出土遺物（10）縄文土器拓影

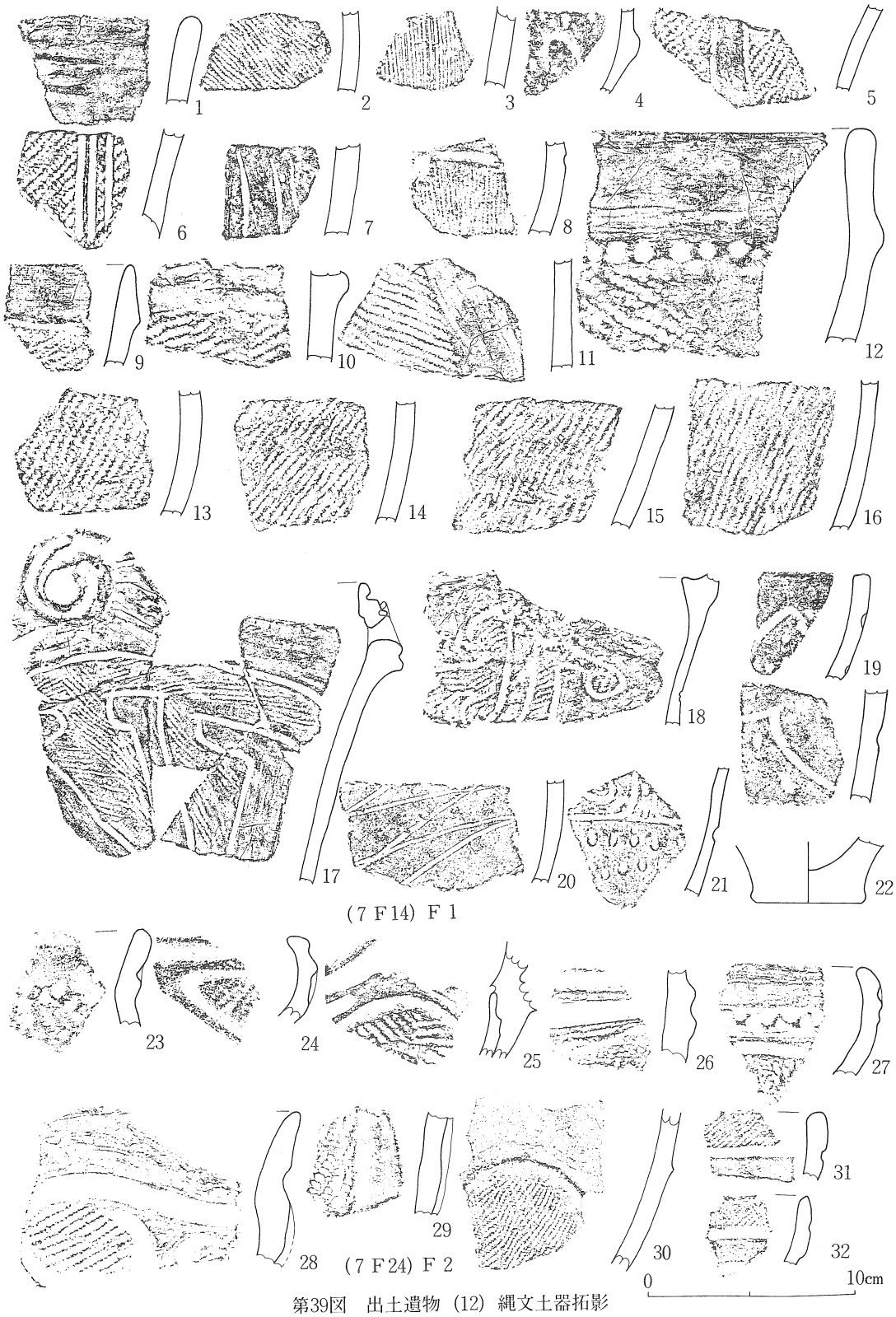


(8 F16) －SK 1

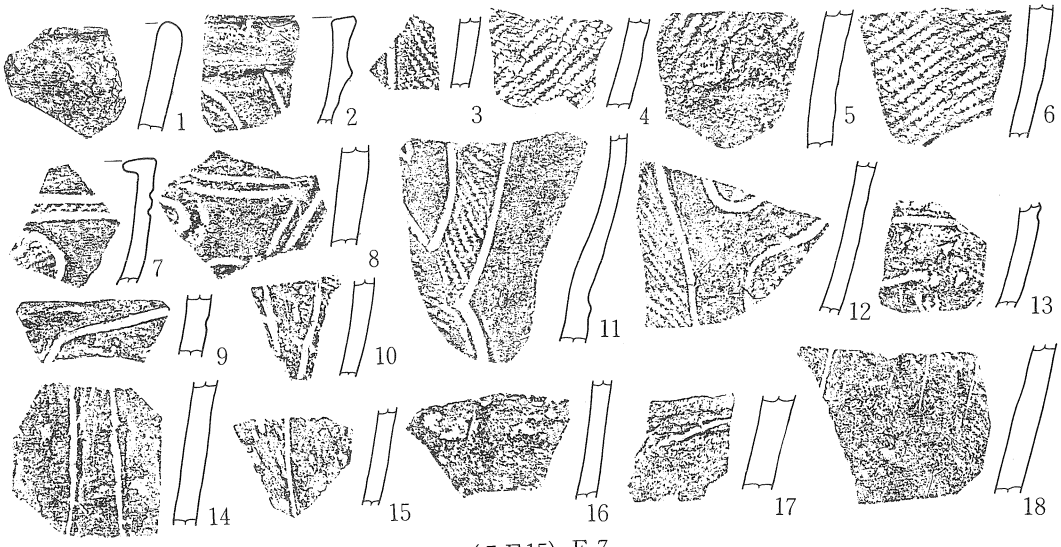


9・10・11 (8 F16) －SK 2

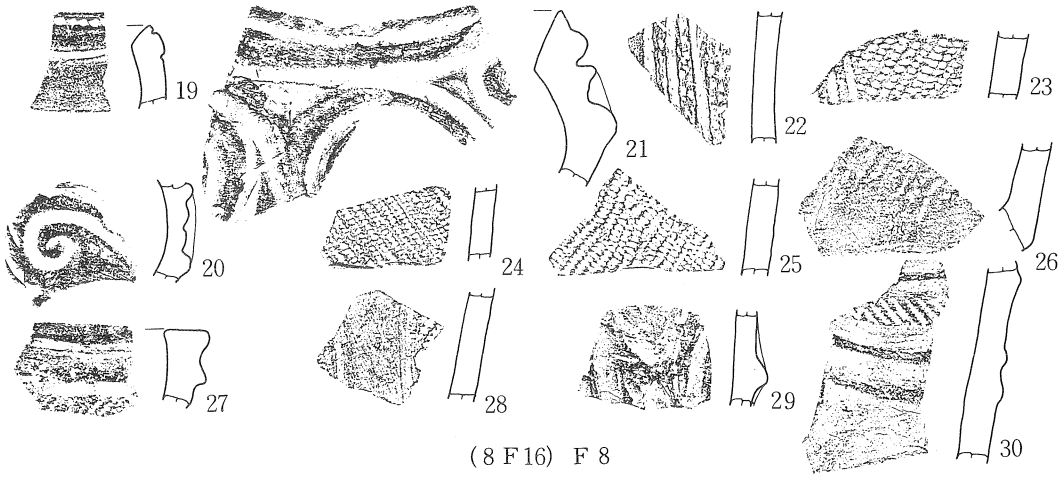
第38図　出土遺物 (11) 縄文土器拓影



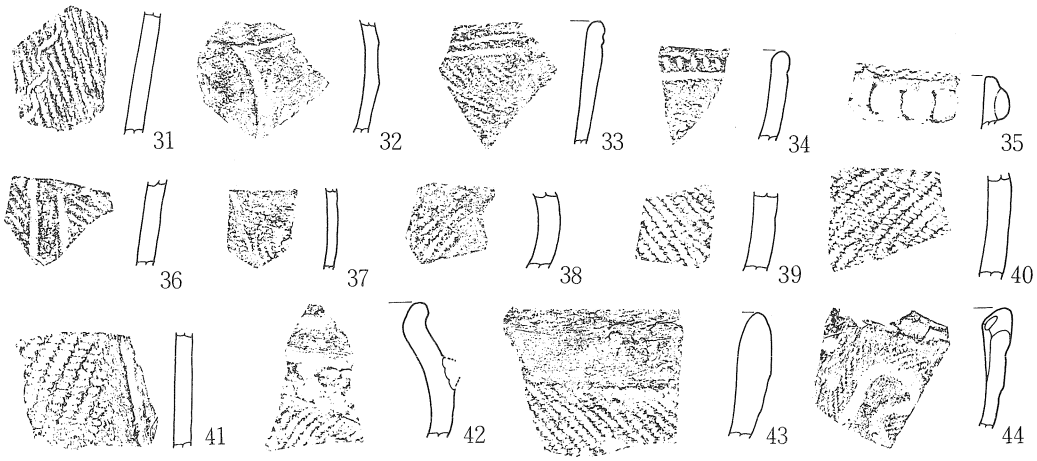
第39図　出土遺物（12）縄文土器拓影



(7 F15) F 7



(8 F16) F 8

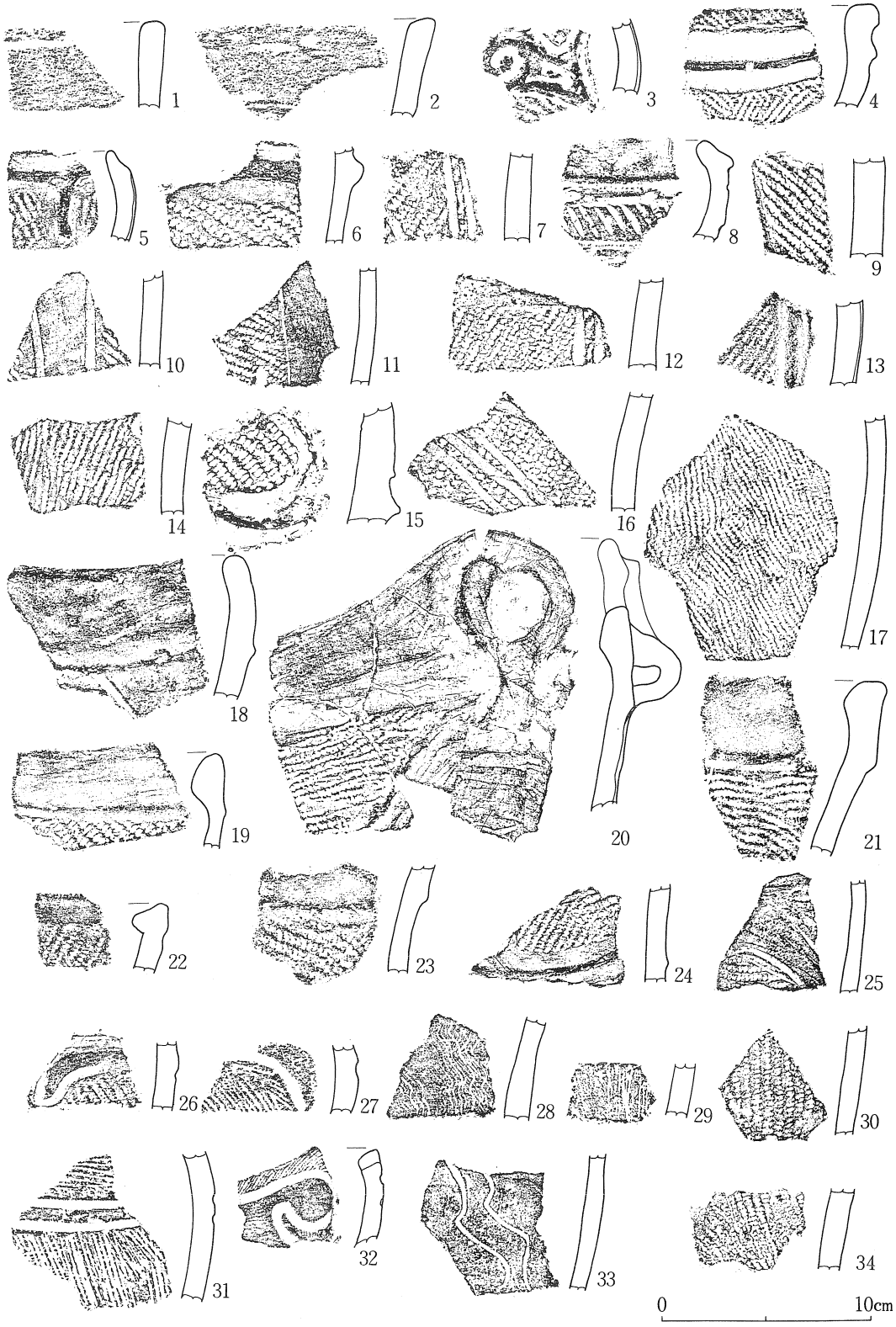


(8 F21) S K 1

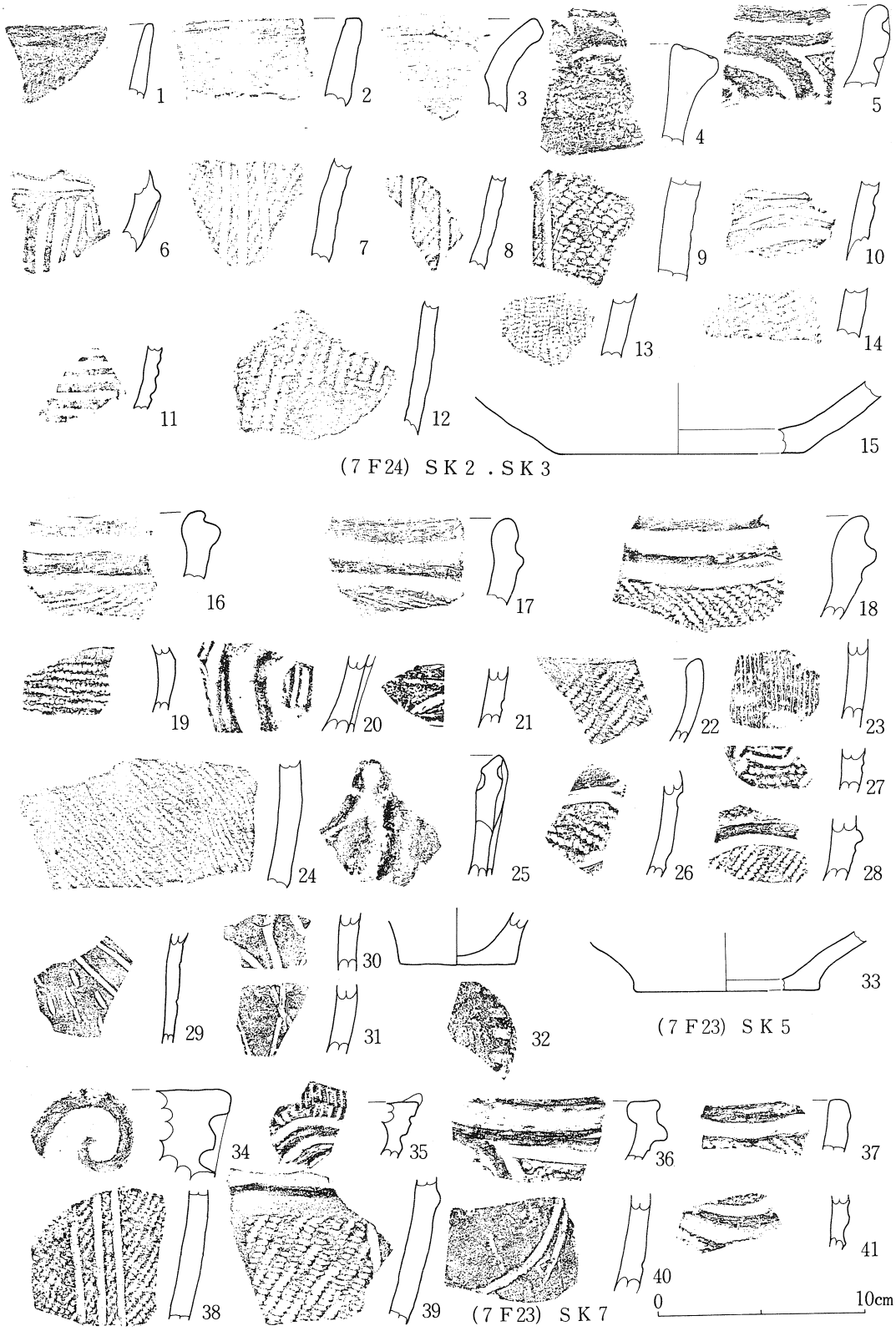
0 10cm

第40図　出土遺物（13）縄文土器拓影

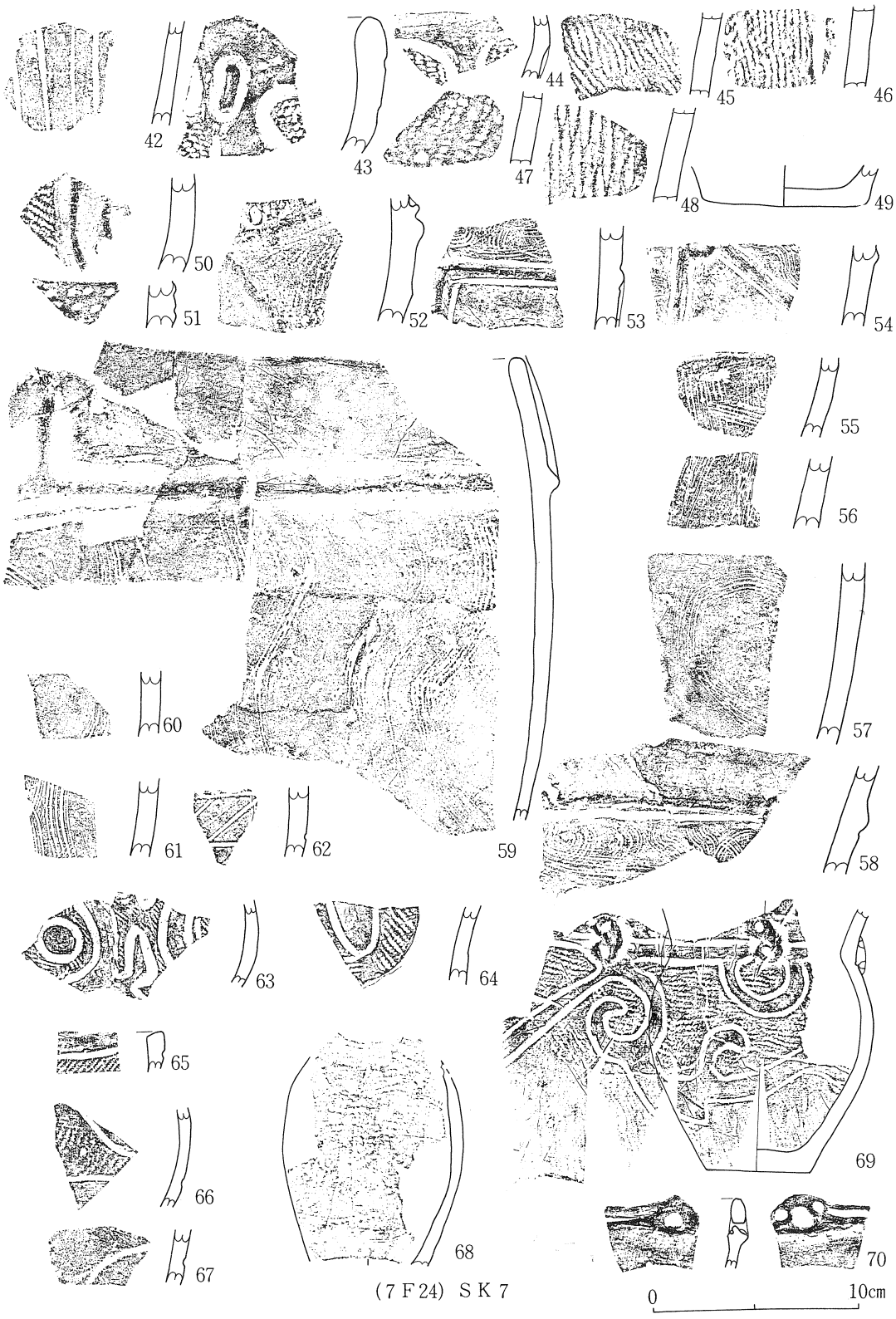
第41図　出土遺物（14）縄文土器拓影



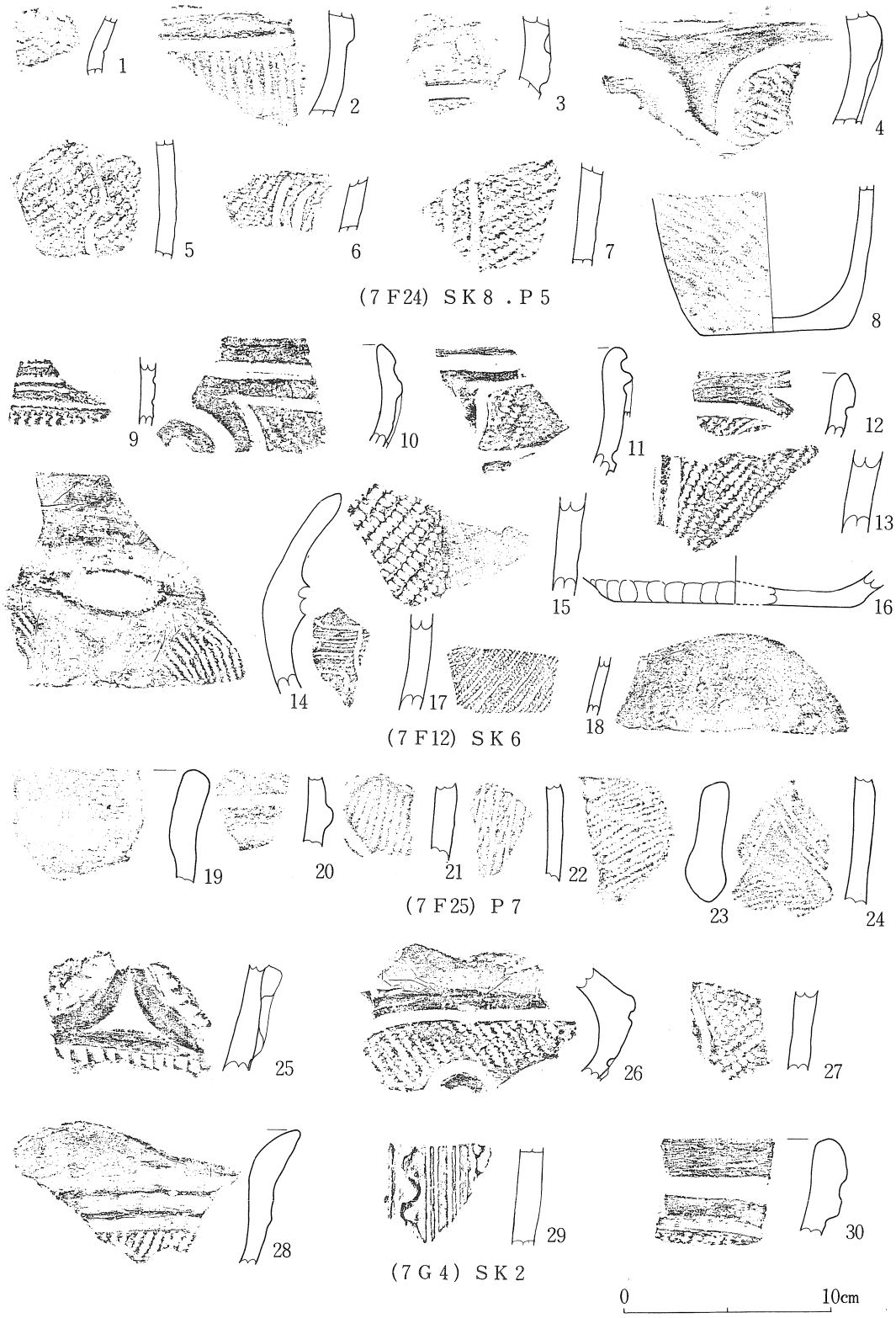
第42図　出土遺物（15）縄文土器拓影



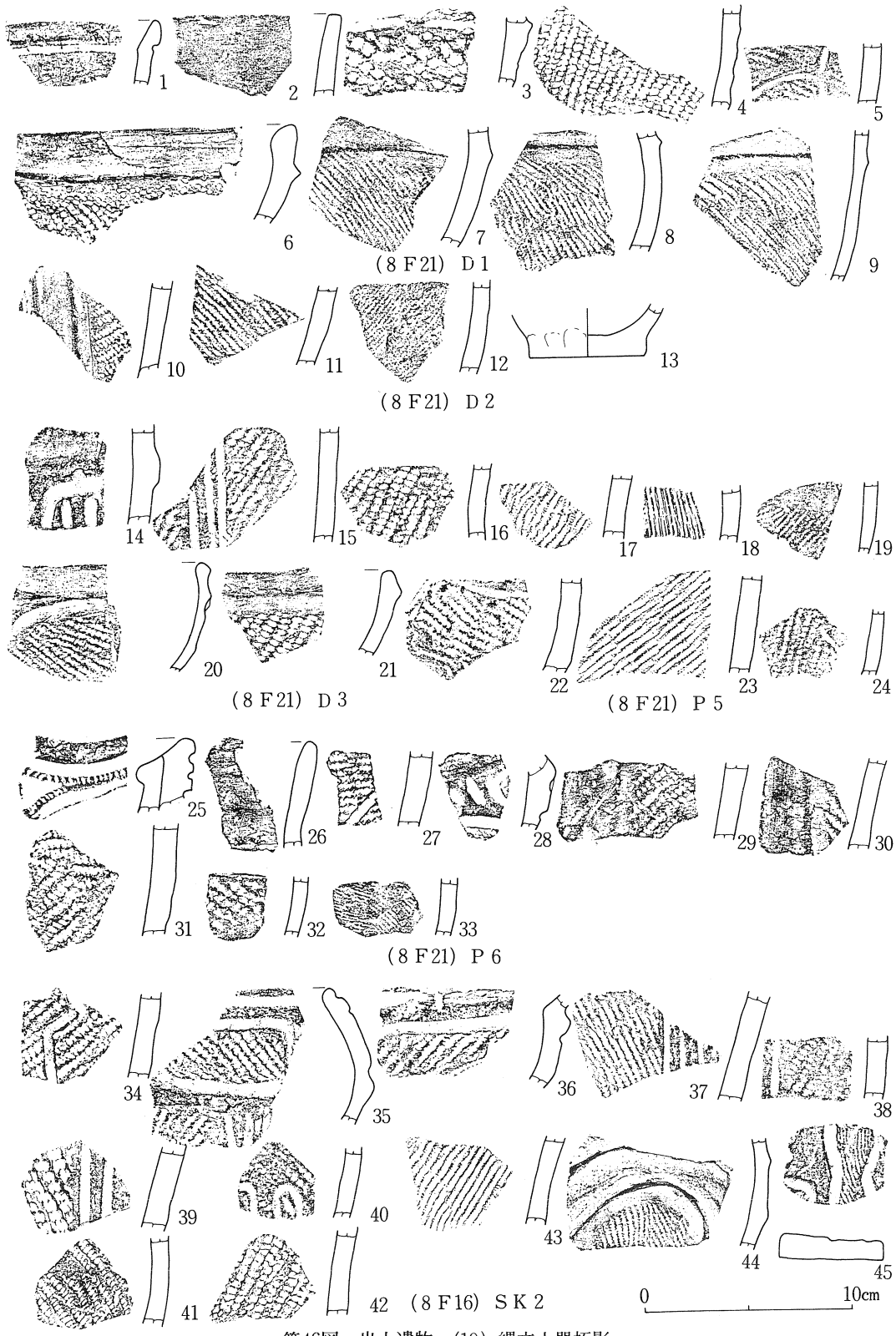
第43図　出土遺物（16）縄文土器拓影



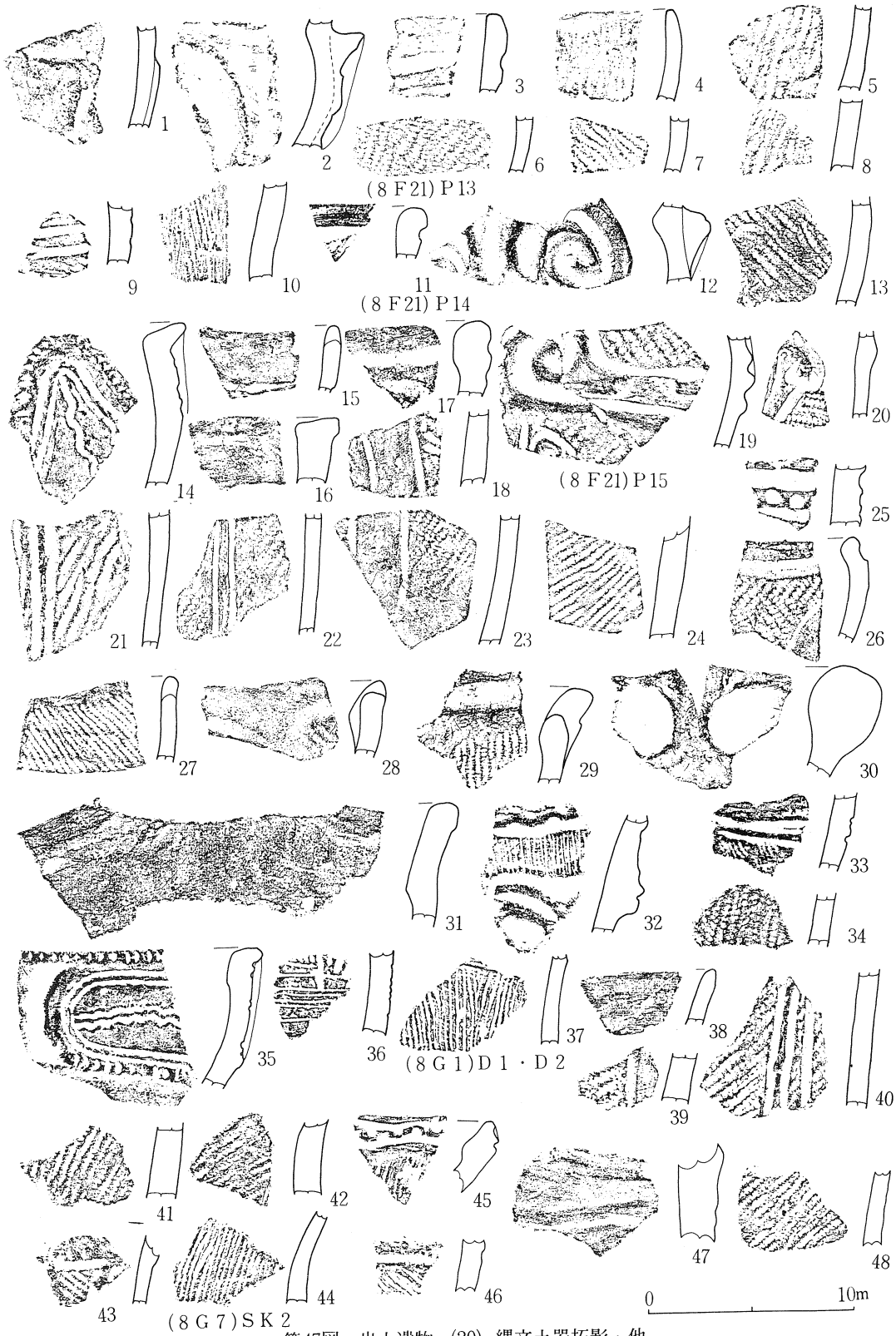
第44図　出土遺物（17）縄文土器拓影



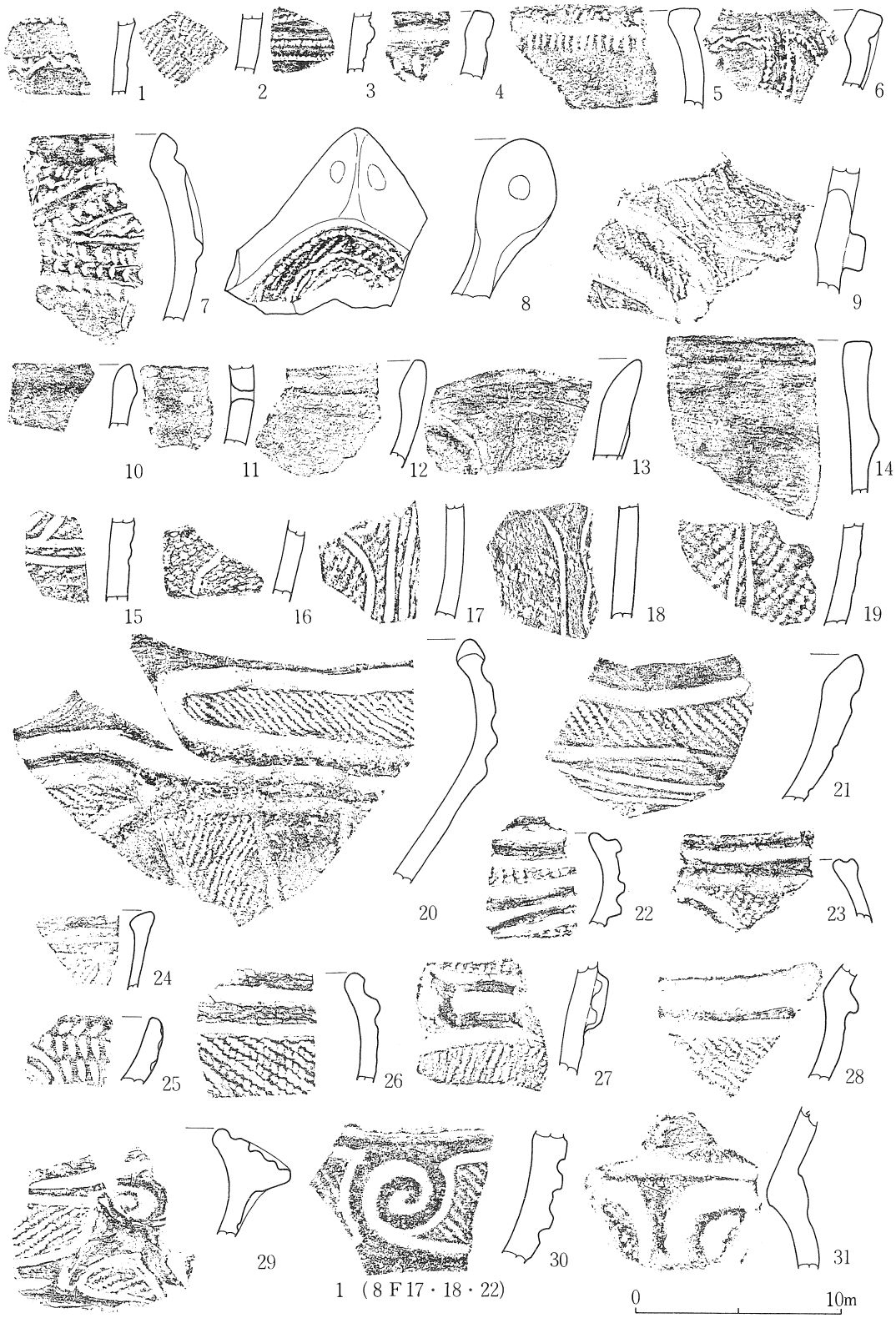
第45図　出土遺物 (18) 縄文土器拓影・他



第46図　出土遺物　(19) 縄文土器拓影

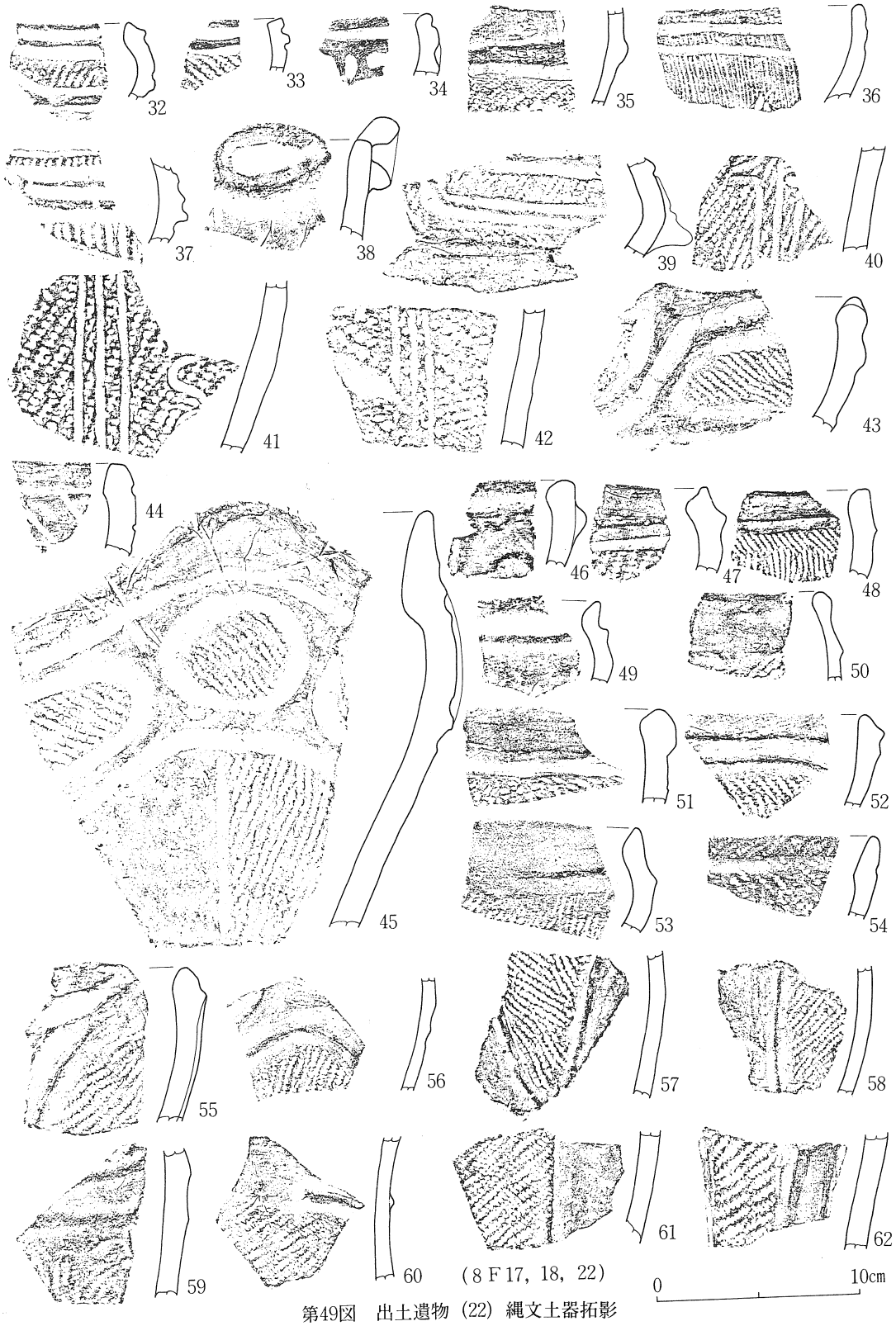


第47図　出土遺物 (20) 縄文土器拓影・他



1 （8 F 17・18・22）

第48図　出土遺物（21）縄文土器拓影



(8 F 17, 18, 22)

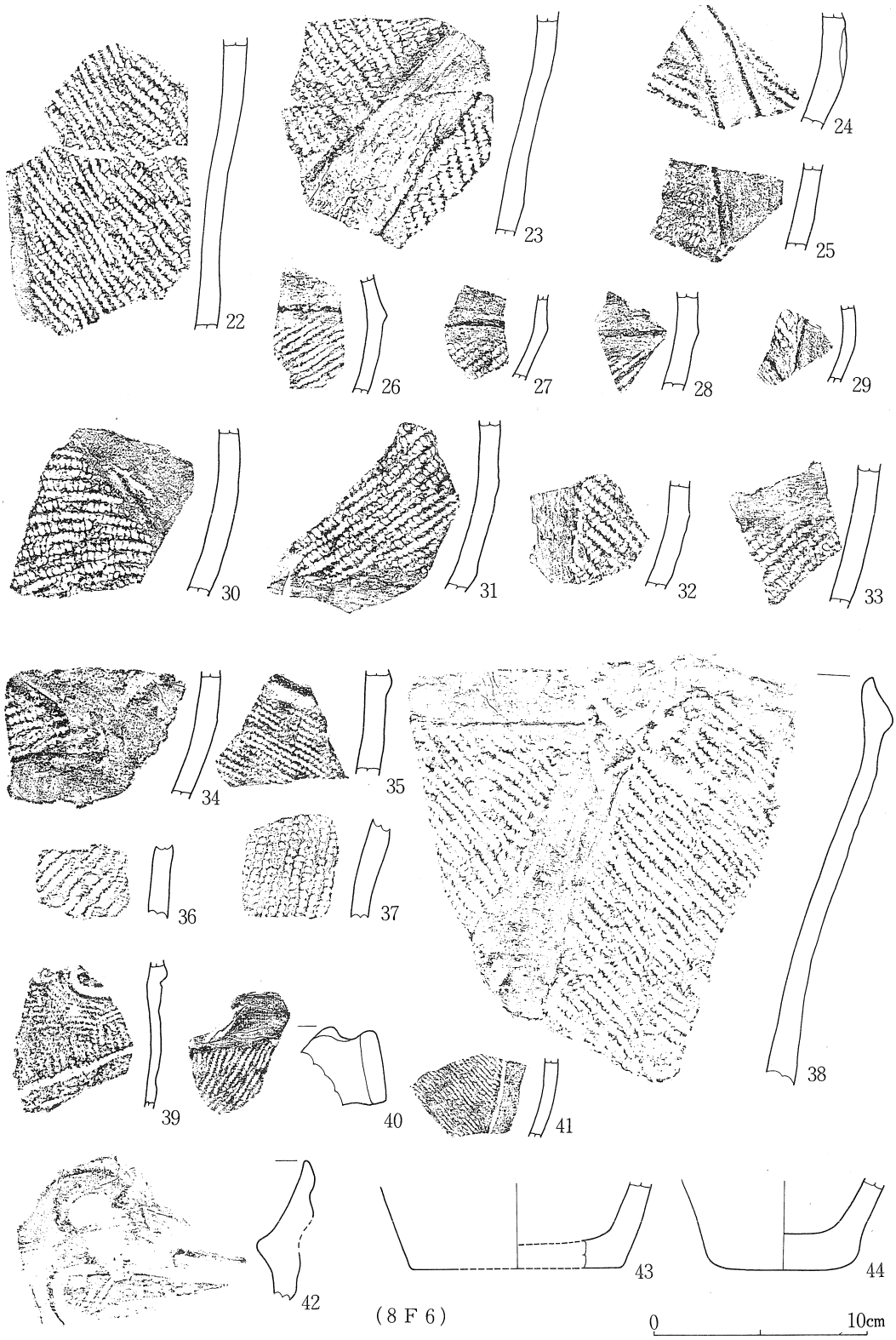
第49図　出土遺物（22）縄文土器拓影

第50図　出土遺物　(23)　縄文土器拓影・他

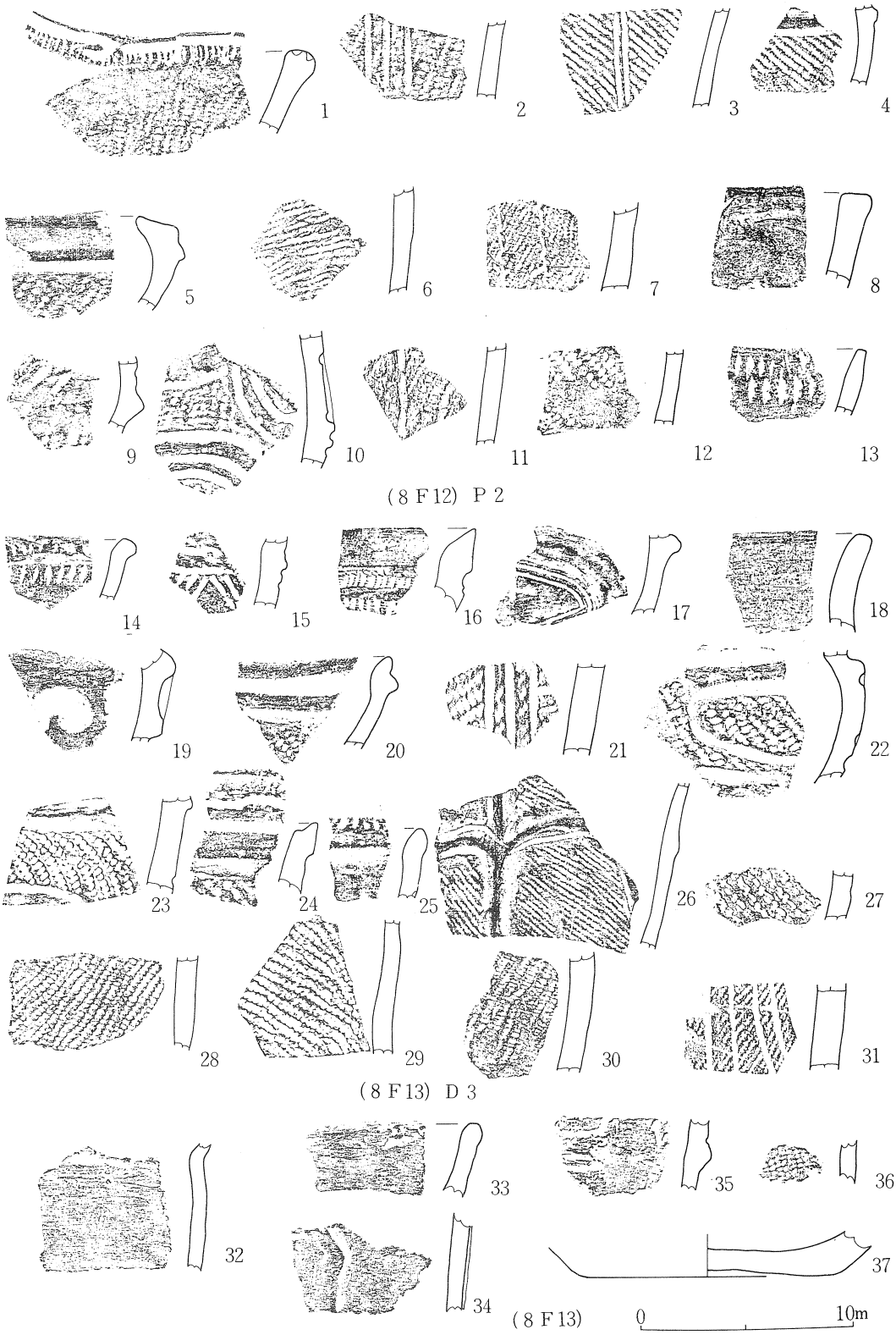
第51図　出土遺物　(24) 縄文土器拓影・他

（８Ｆ６）

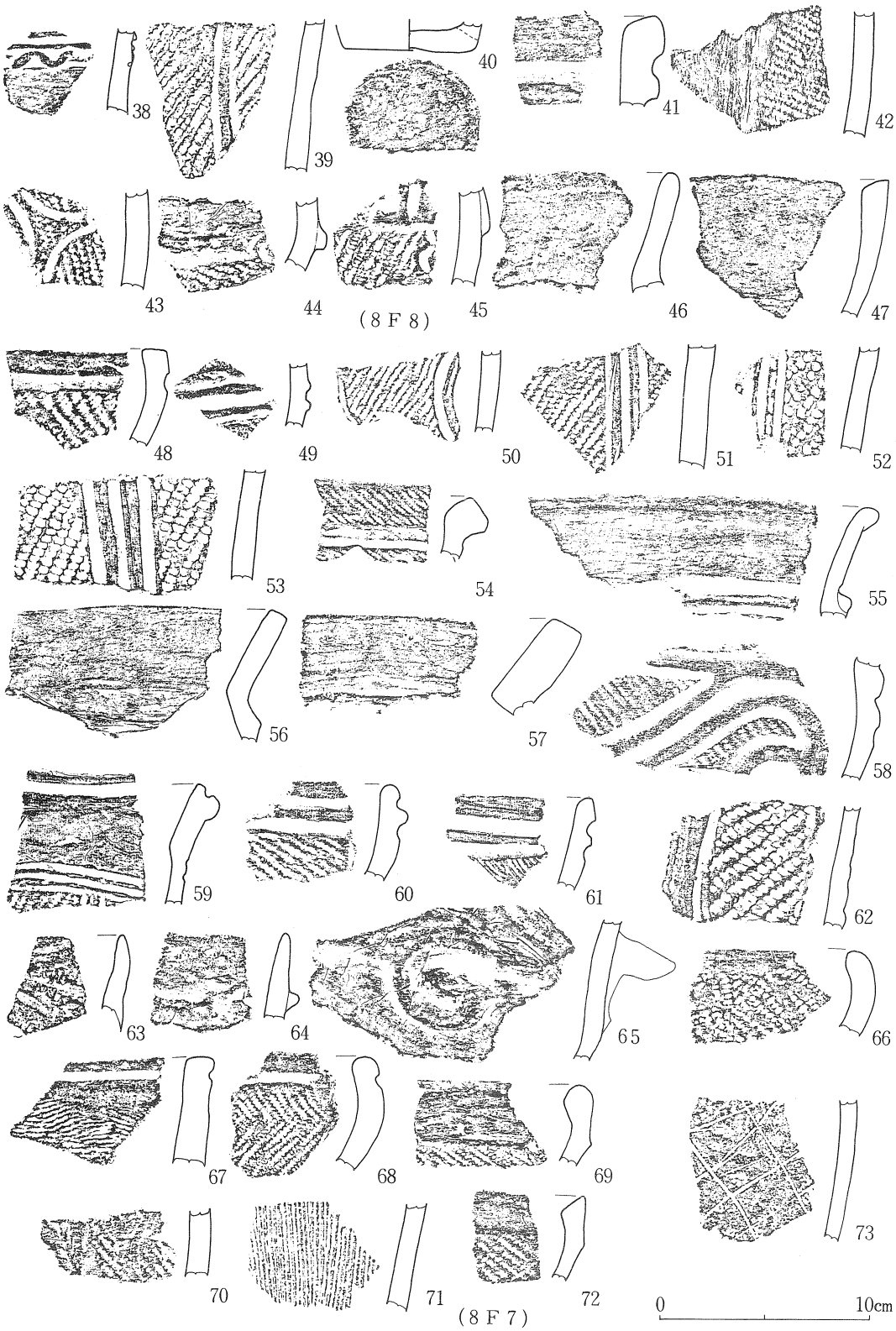
第52図　出土遺物（25）縄文土器拓影



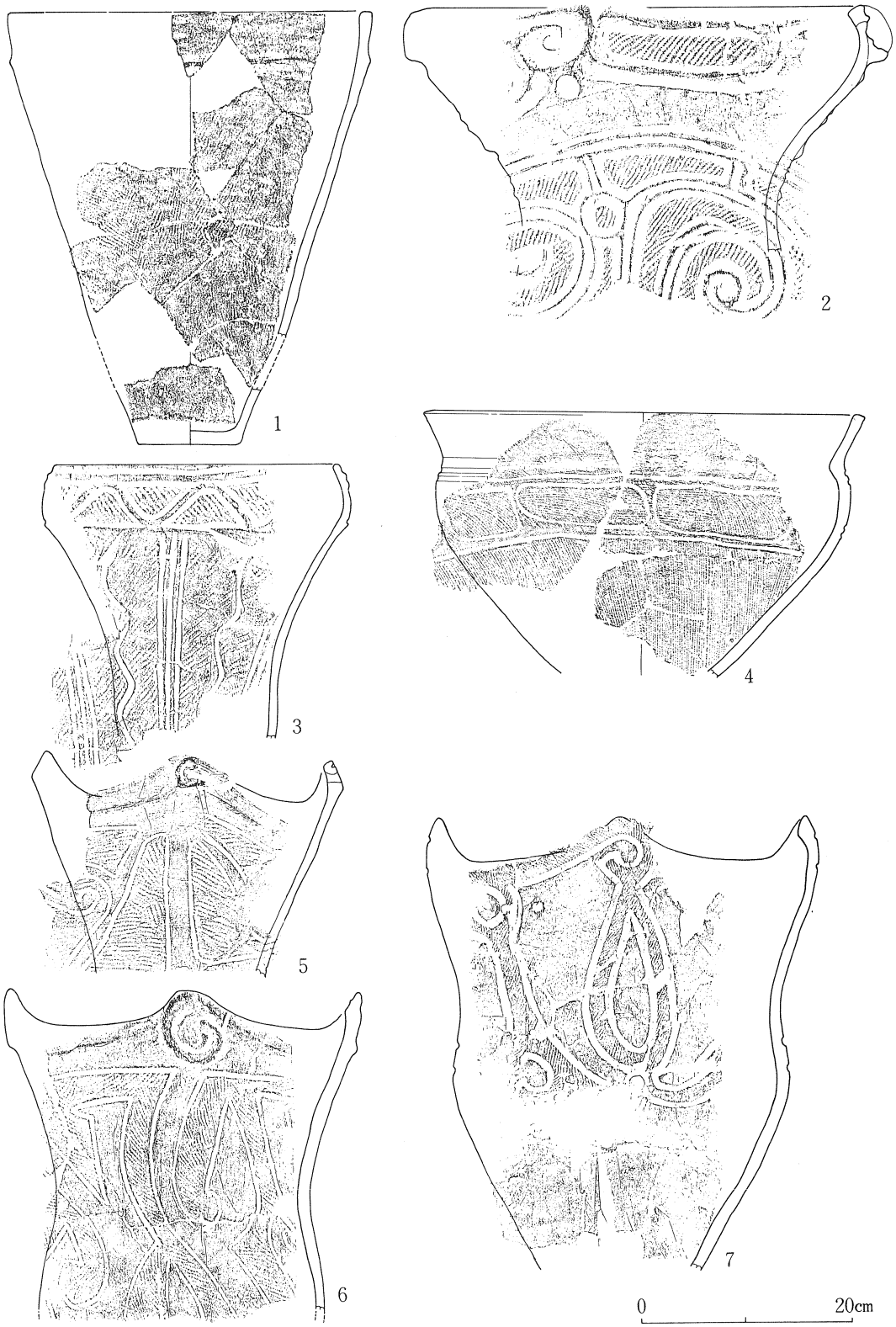
第53図　出土遺物（26）縄文土器拓影



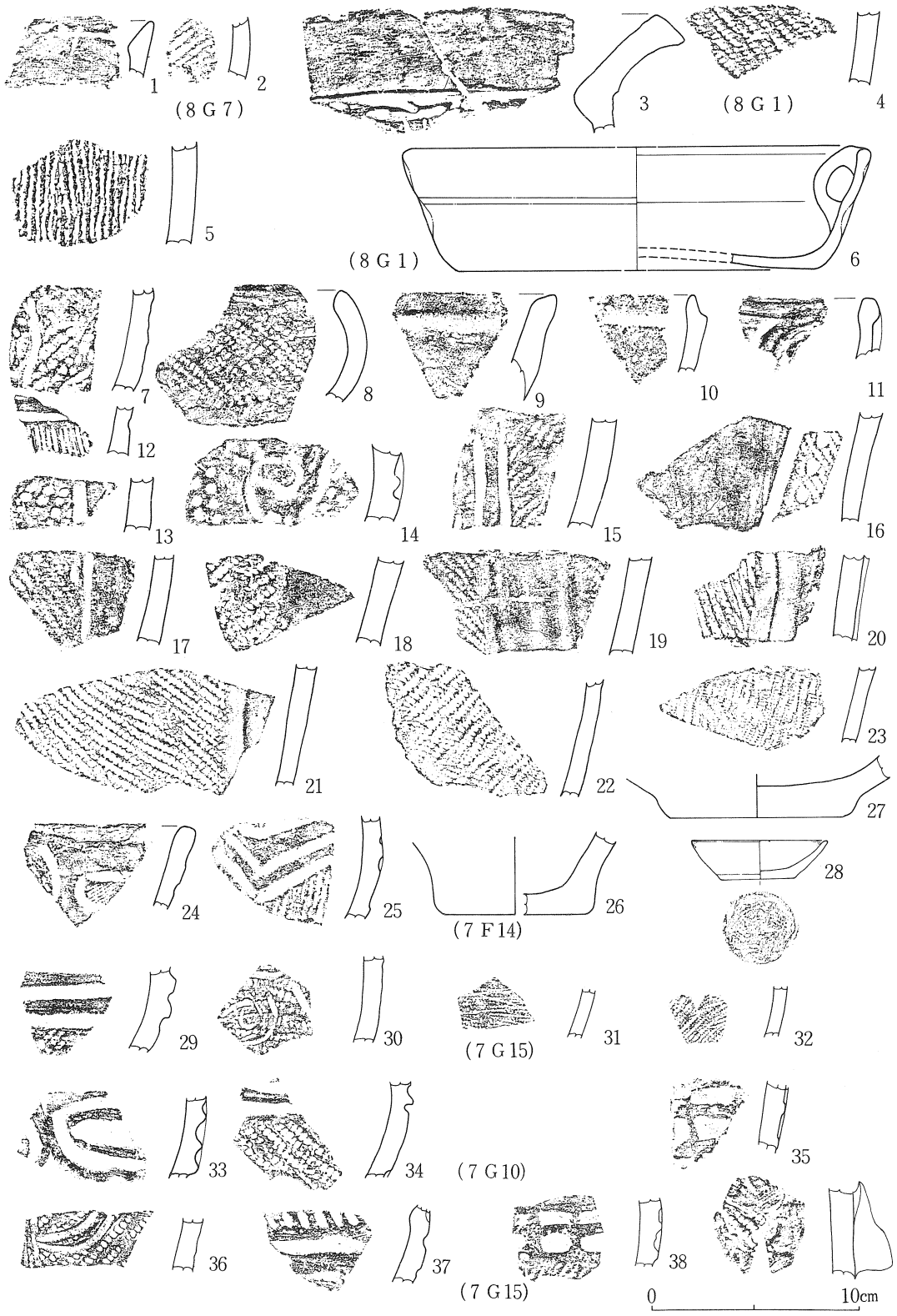
第54図　出土遺物（27）縄文土器拓影



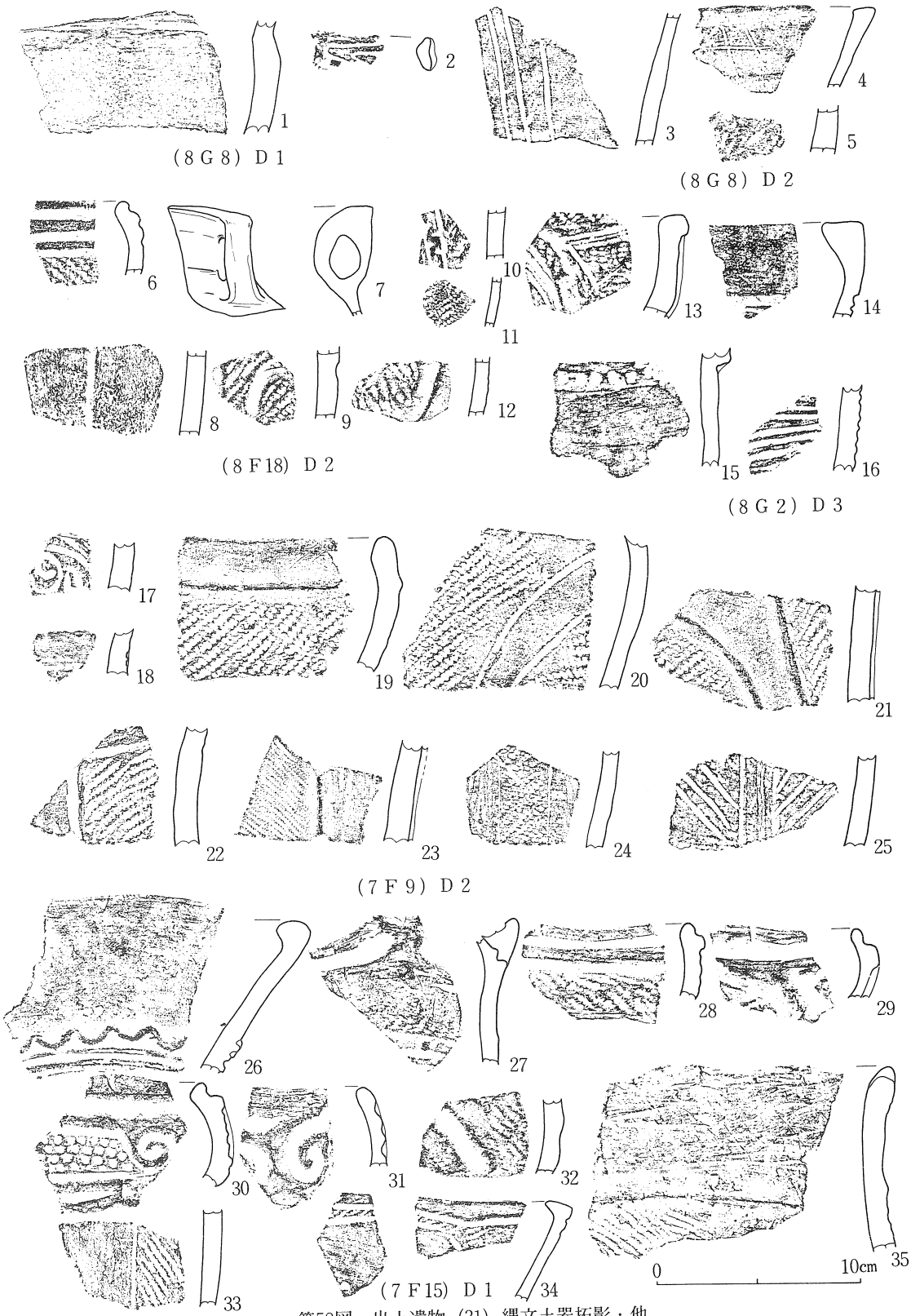
第55図　出土遺物（28）縄文土器拓影



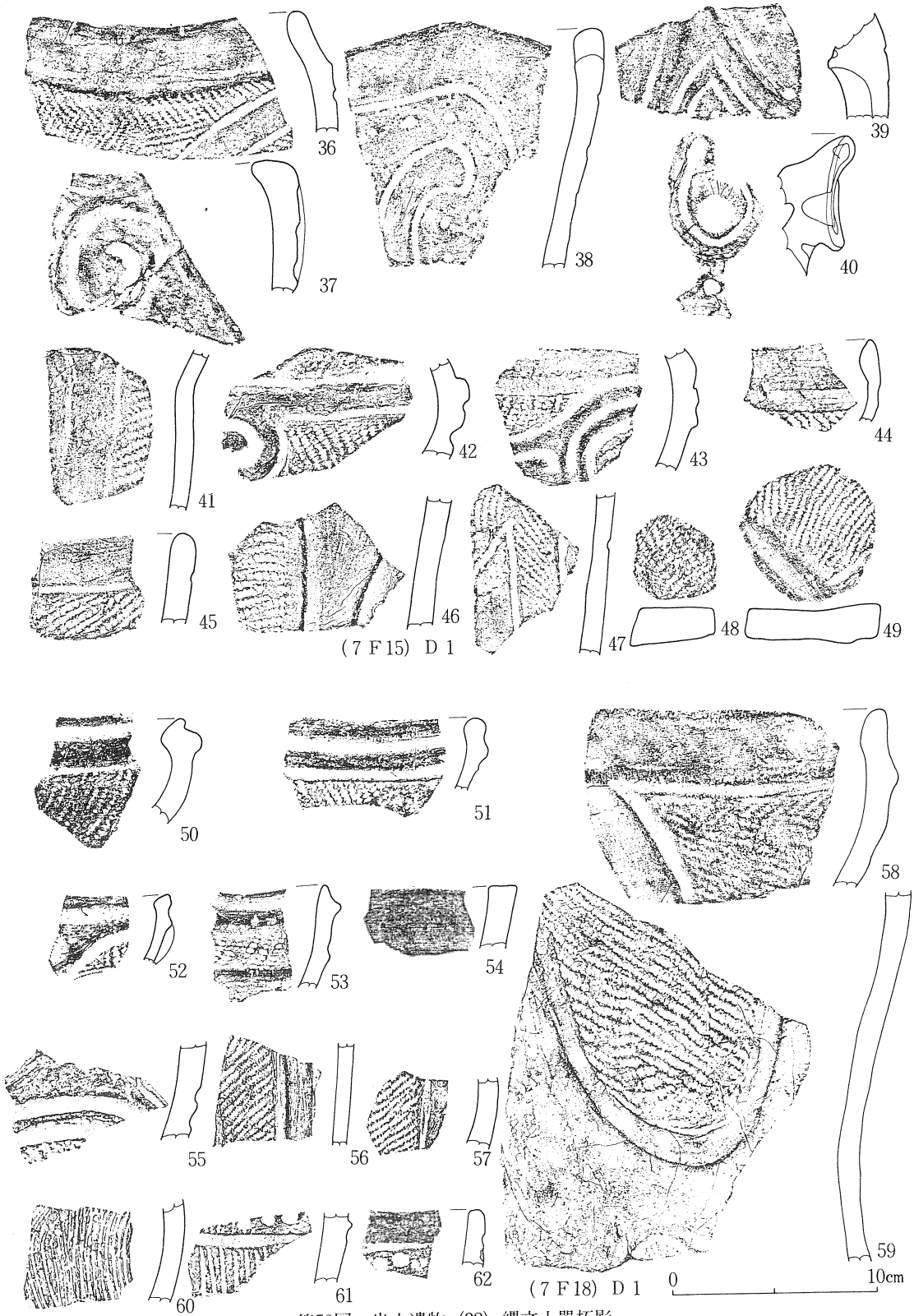
第56図　出土遺物（29）縄文土器拓影



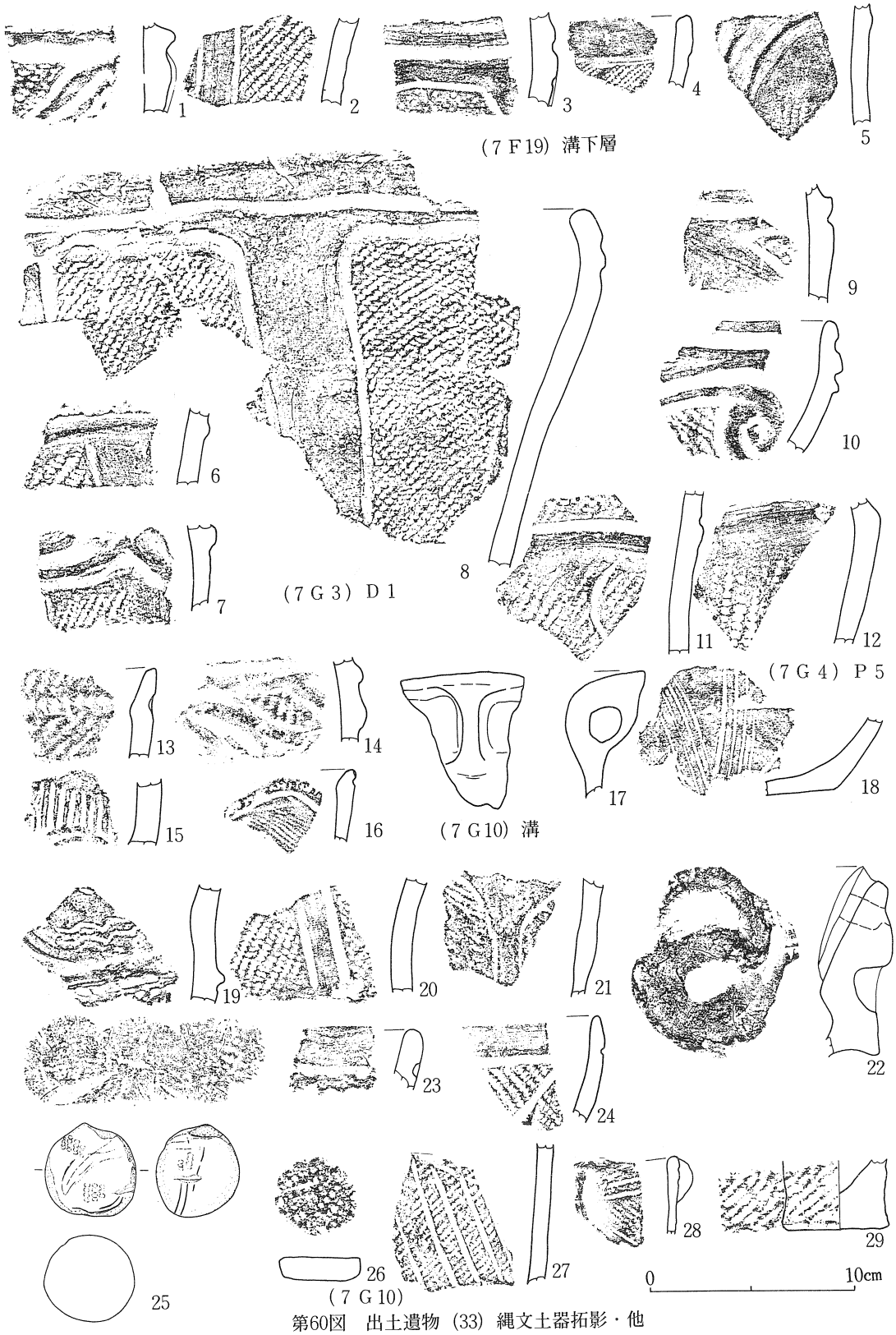
第57図　出土遺物（30）縄文土器拓影・他



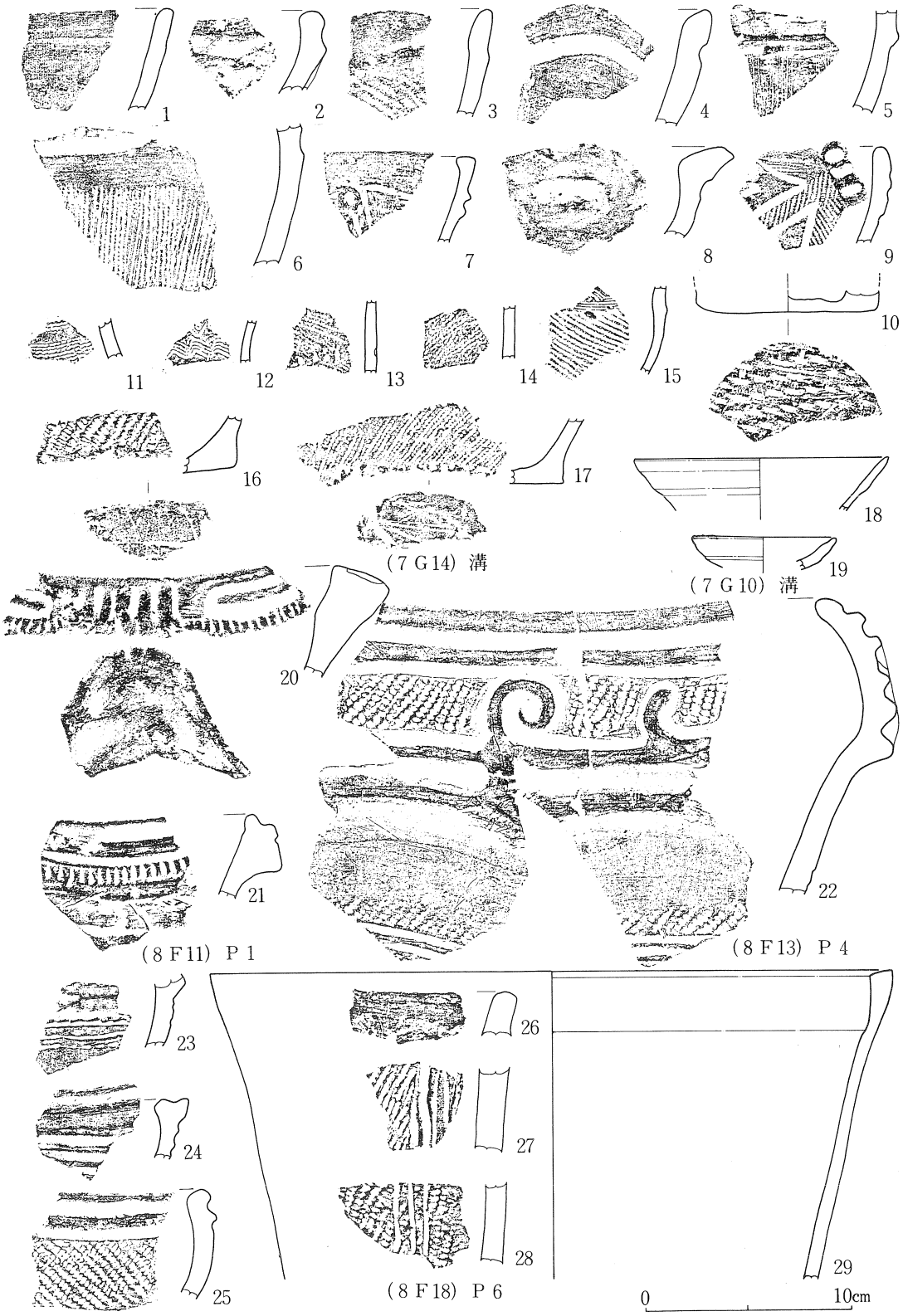
第58図　出土遺物（31）縄文土器拓影・他



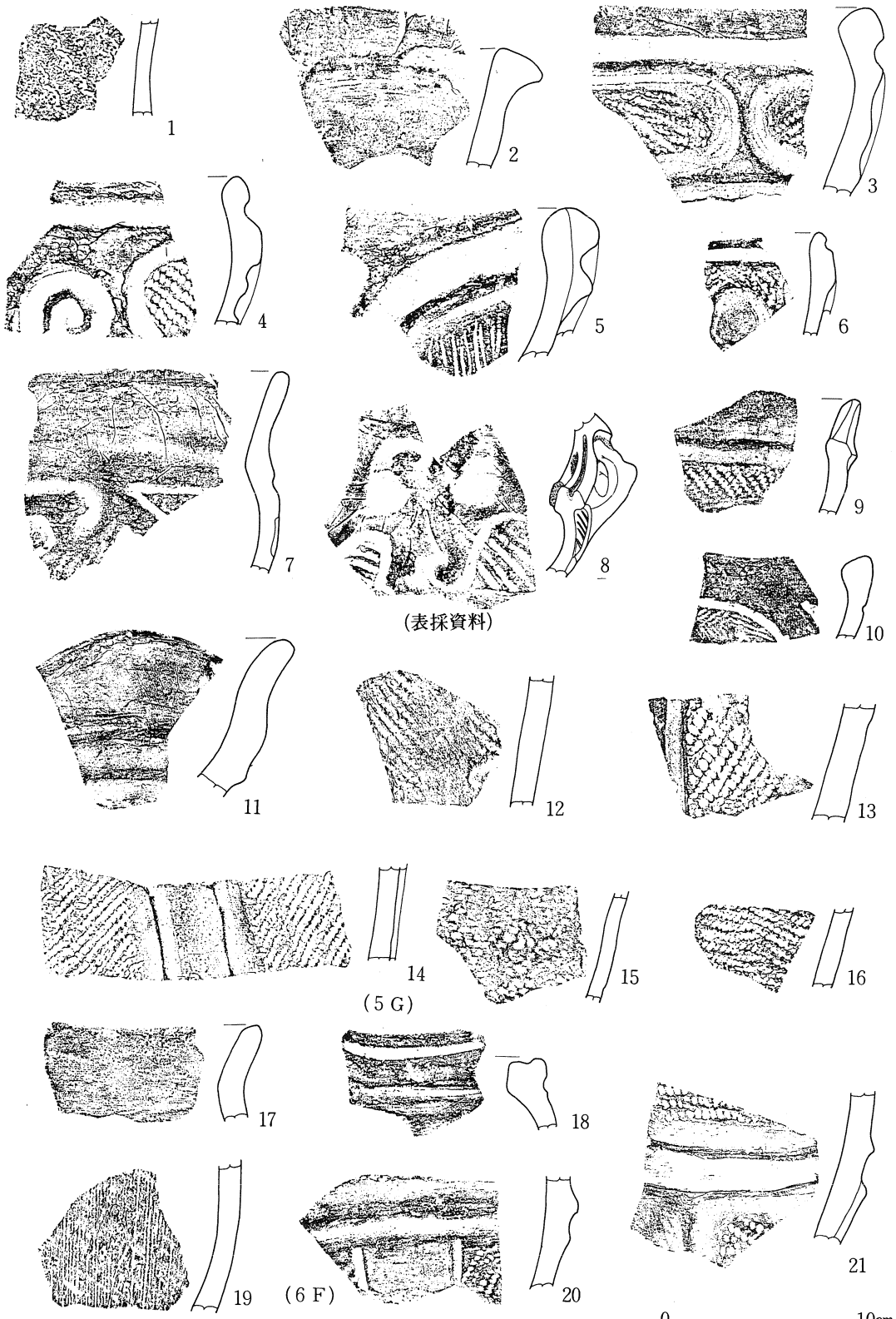
第59図　出土遺物（32）縄文土器拓影



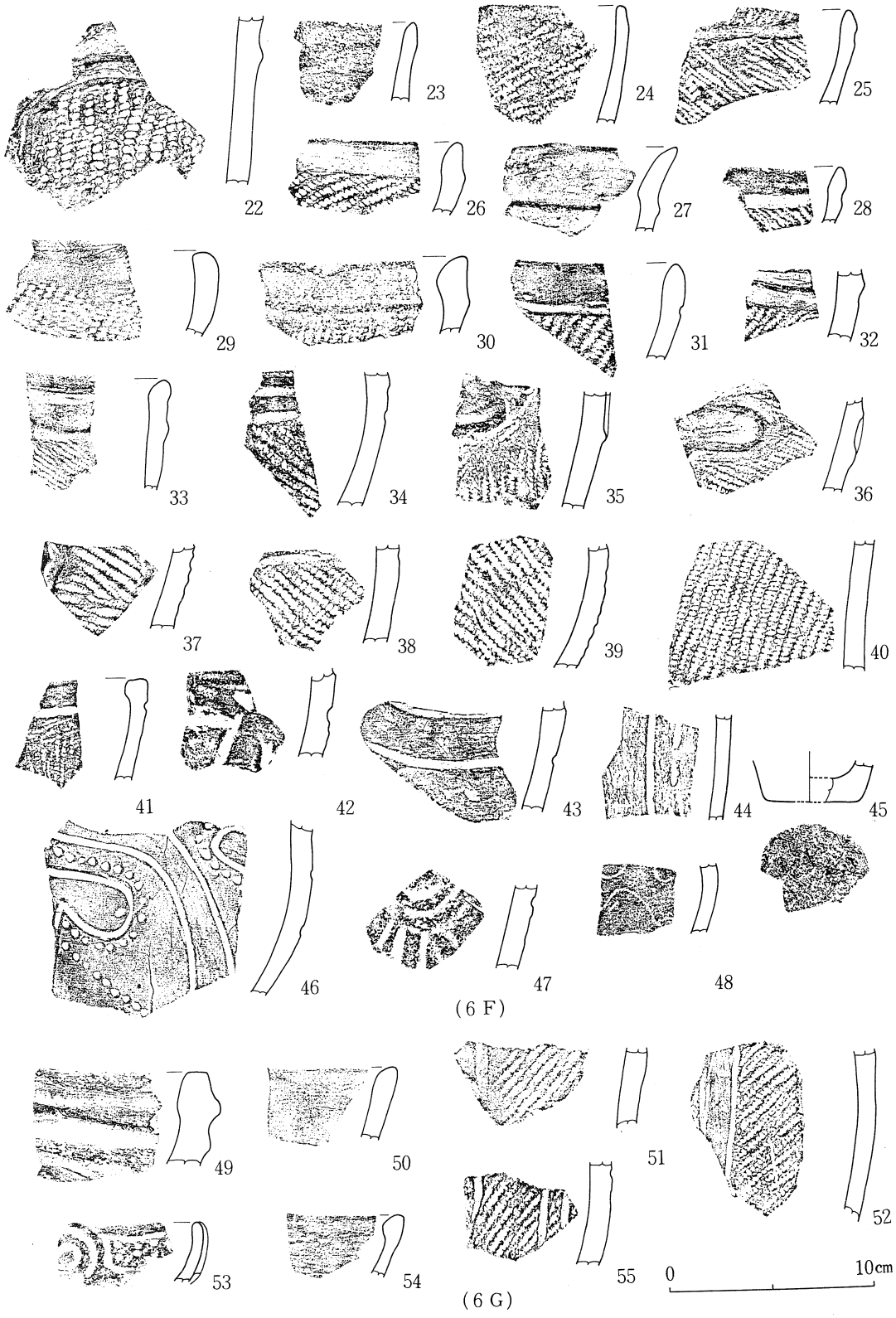
第60図　出土遺物（33）縄文土器拓影・他



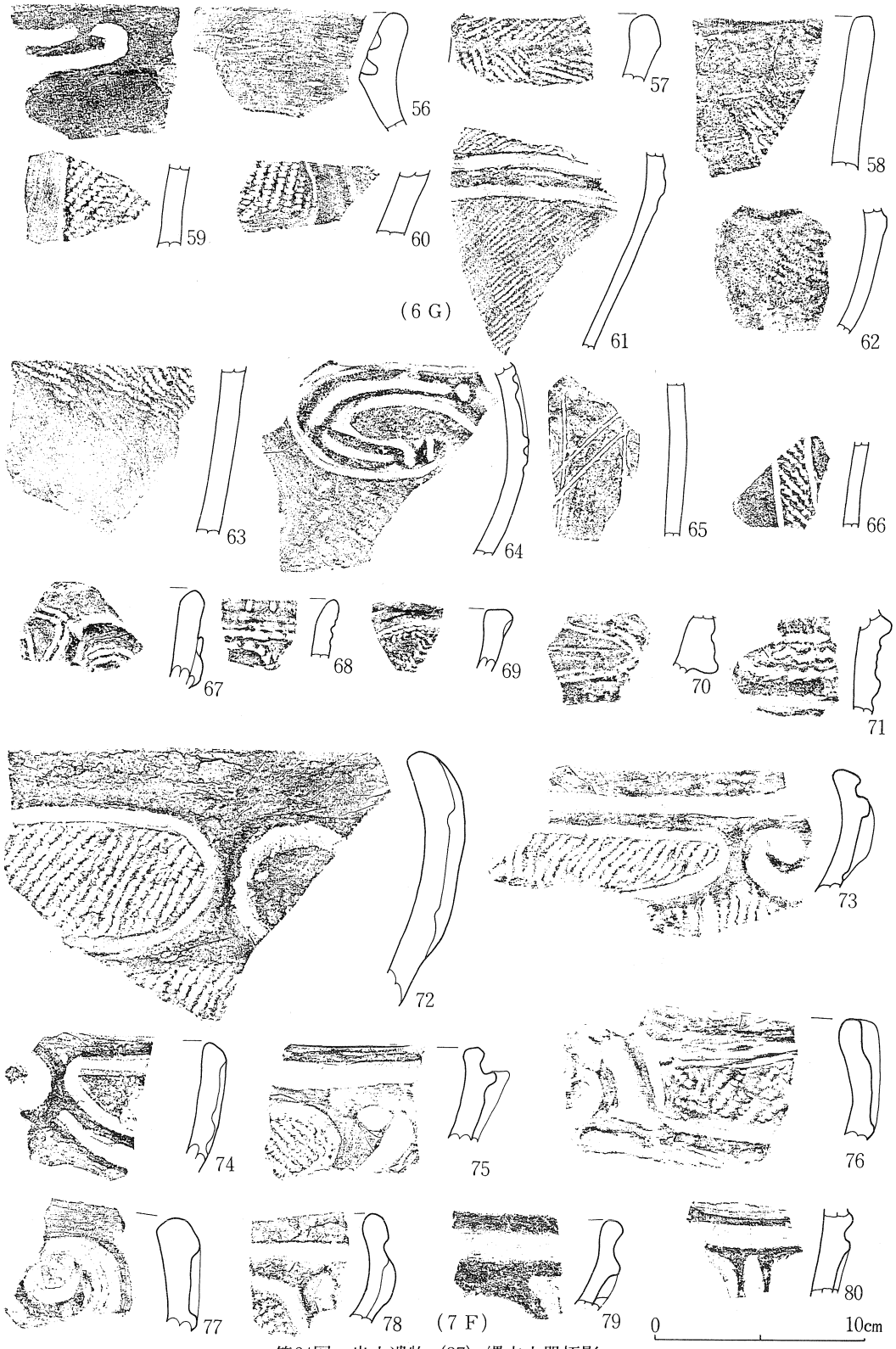
第61図　出土遺物（34）縄文土器拓影・他



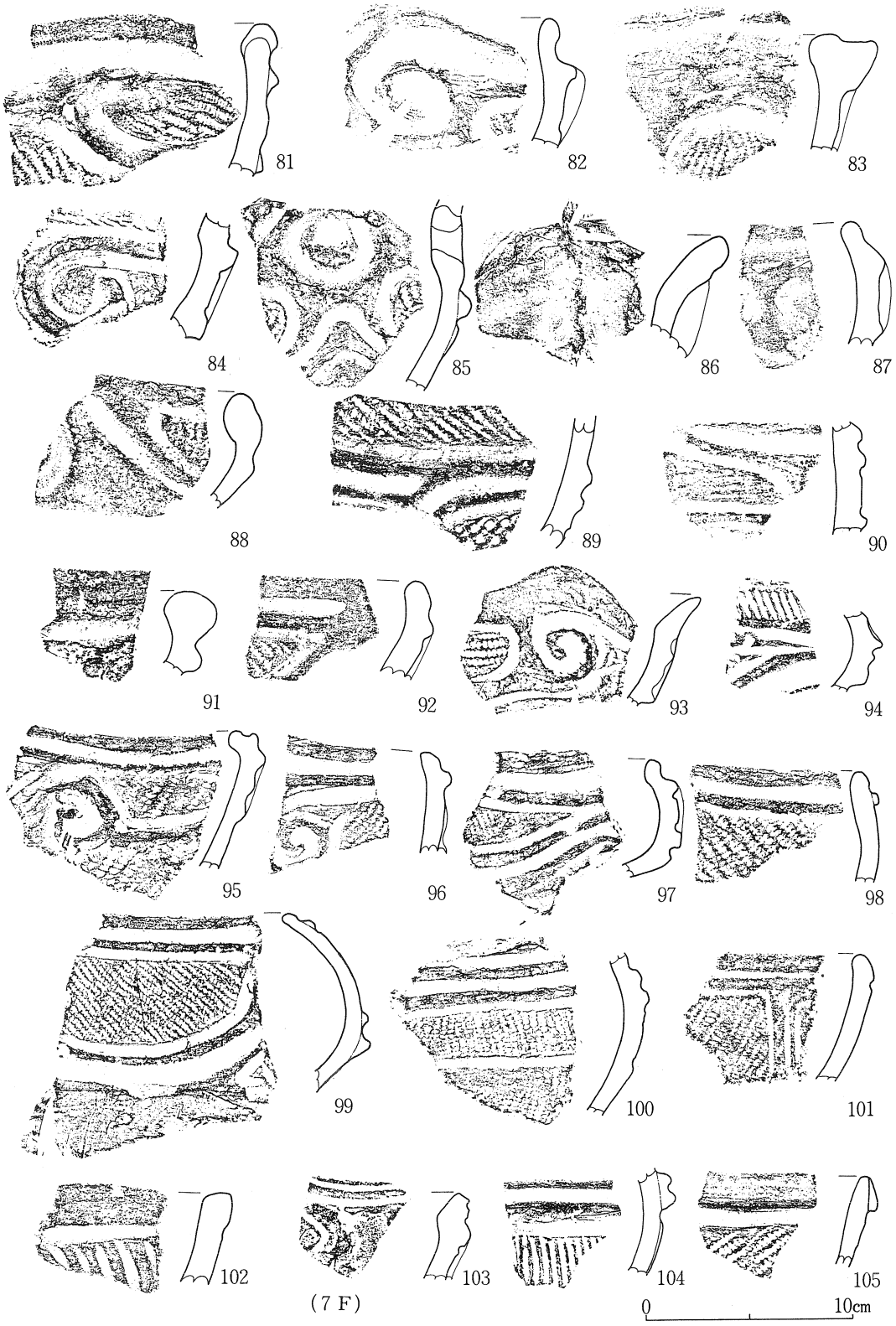
第62図　出土遺物（35）縄文土器拓影



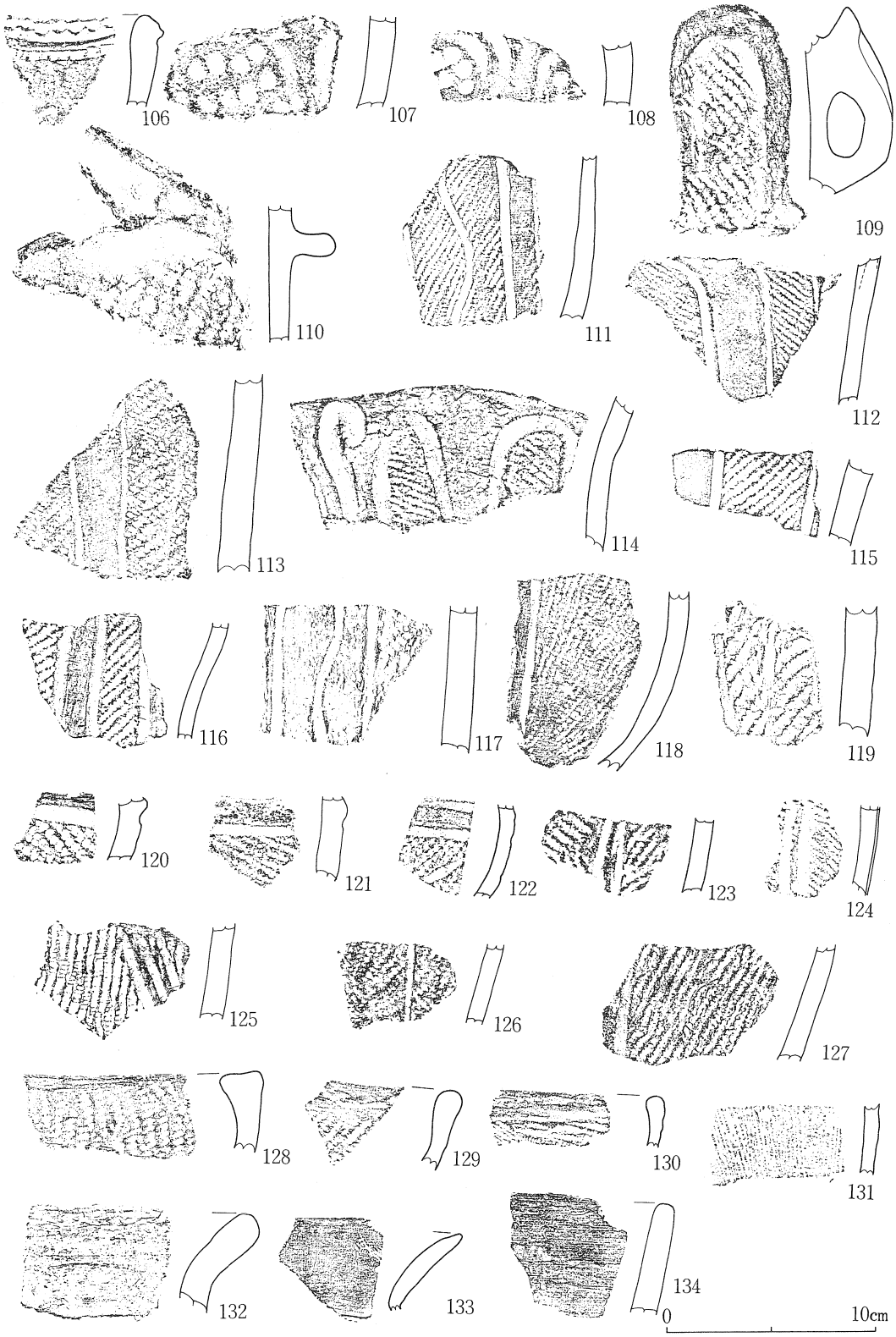
第63図　出土遺物（36）縄文土器拓影



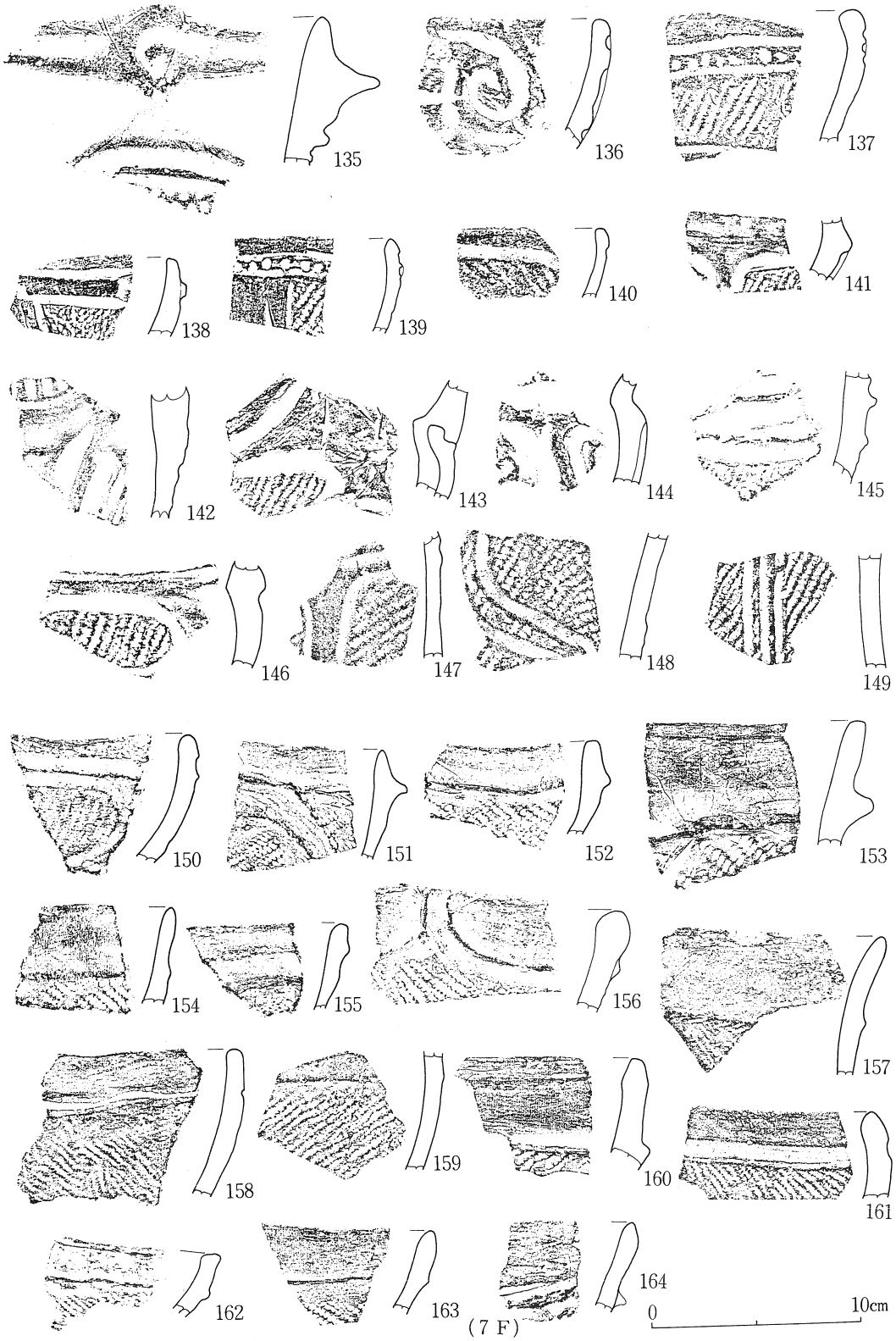
第64図　出土遺物（37）縄文土器拓影



第65図　　出土遺物（38）縄文土器拓影

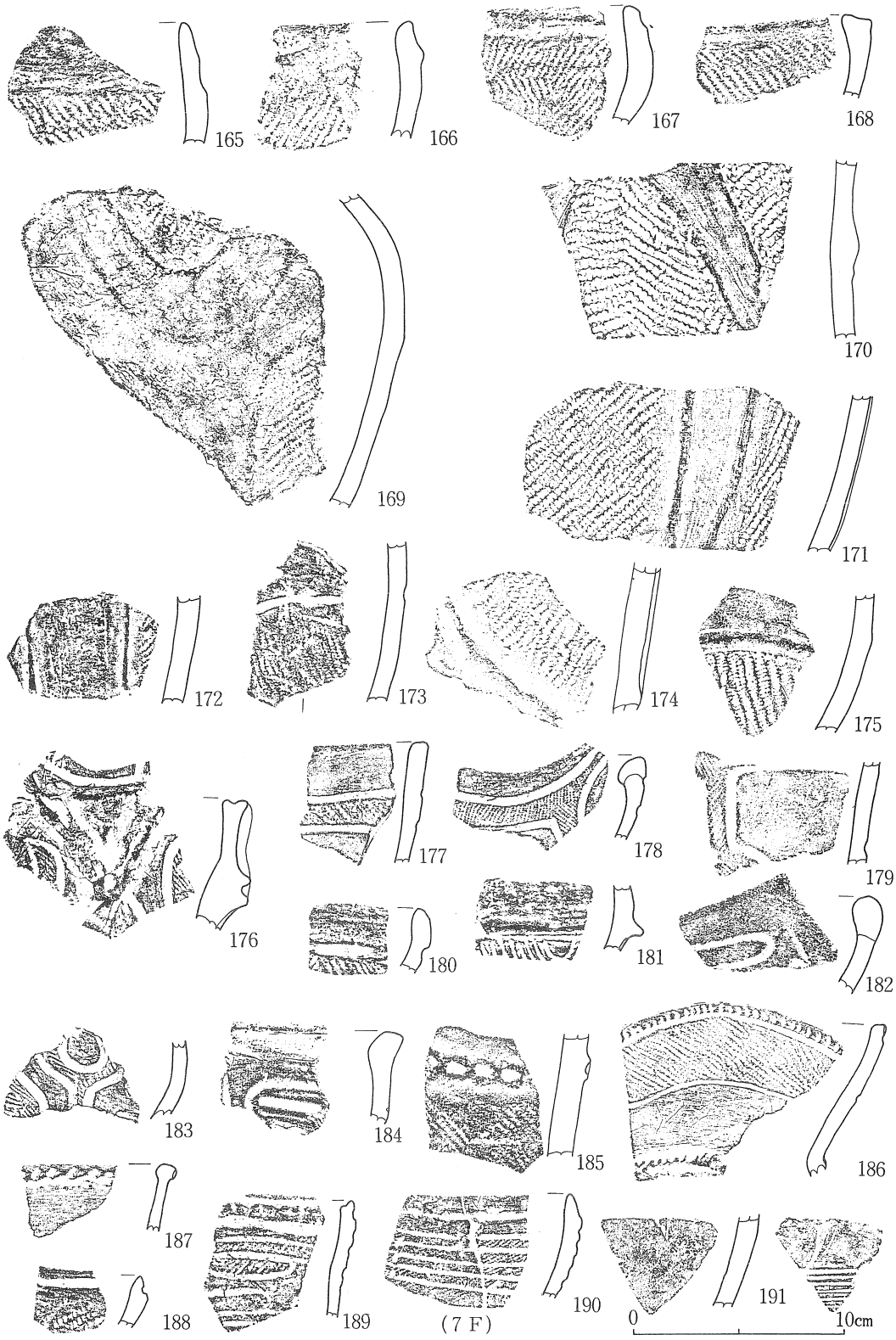


第66図　出土遺物（39）縄文土器拓影

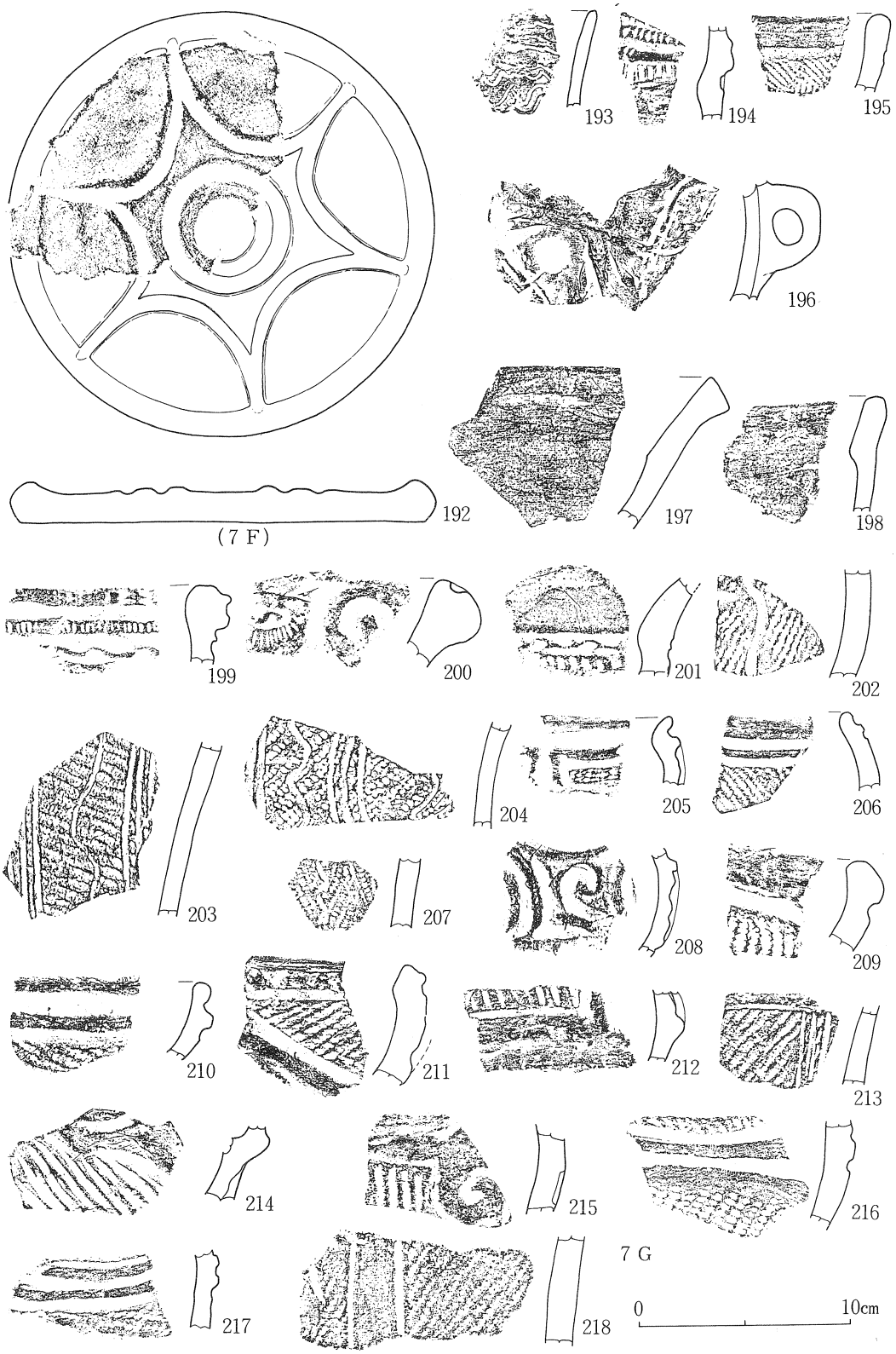


(7 F)

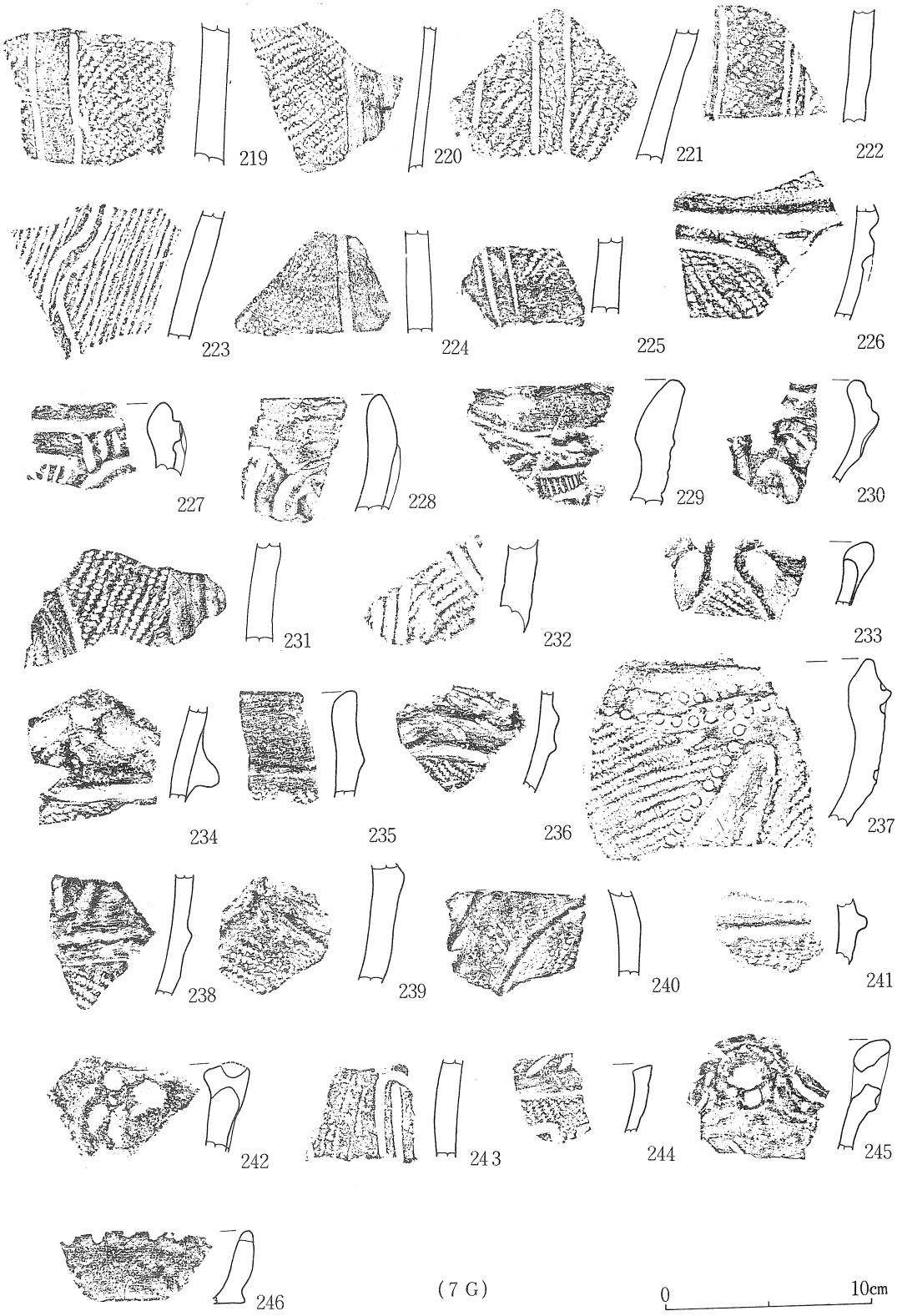
第67図　出土遺物（40）縄文土器拓影



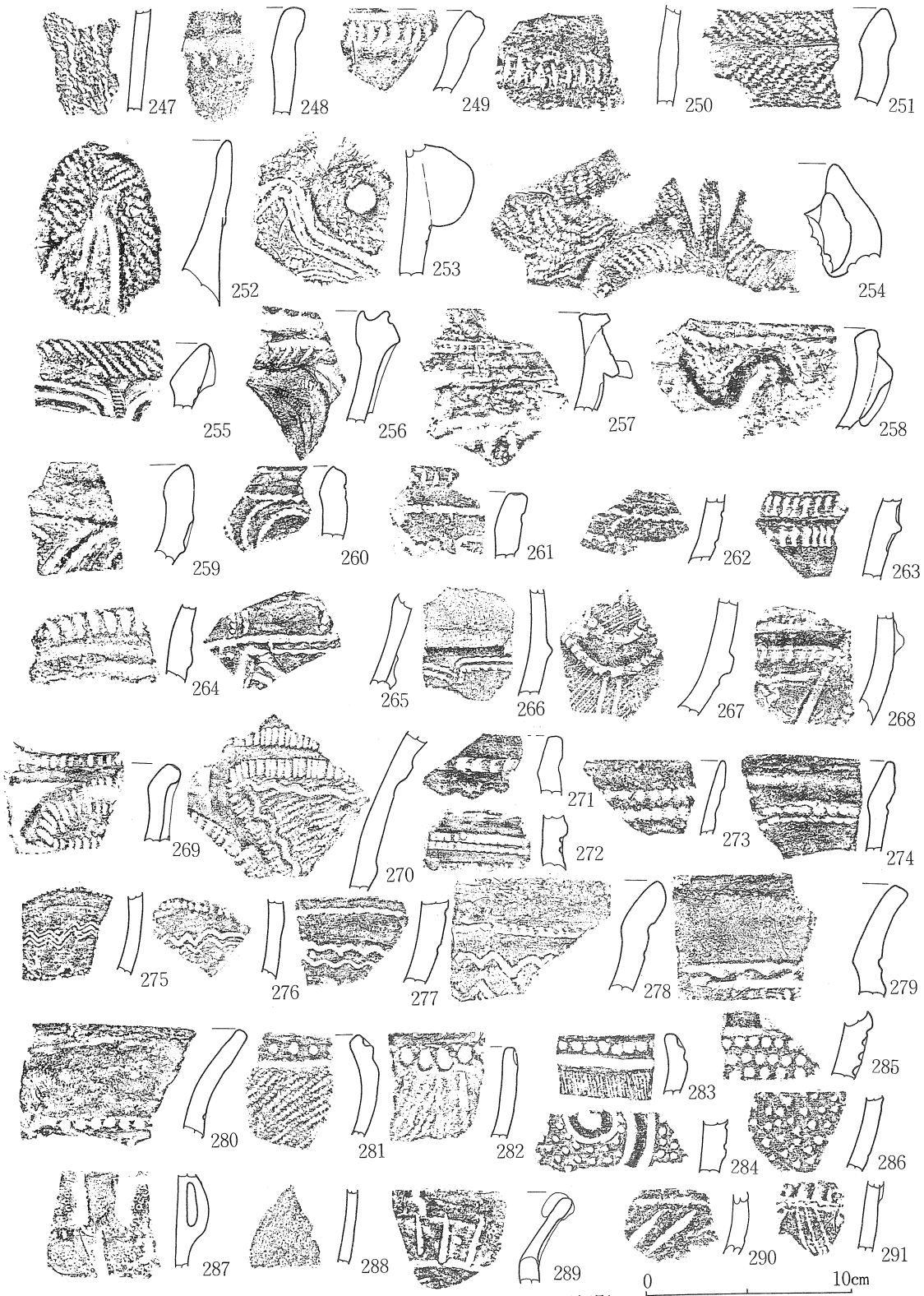
第68図　出土遺物（41）縄文土器拓影



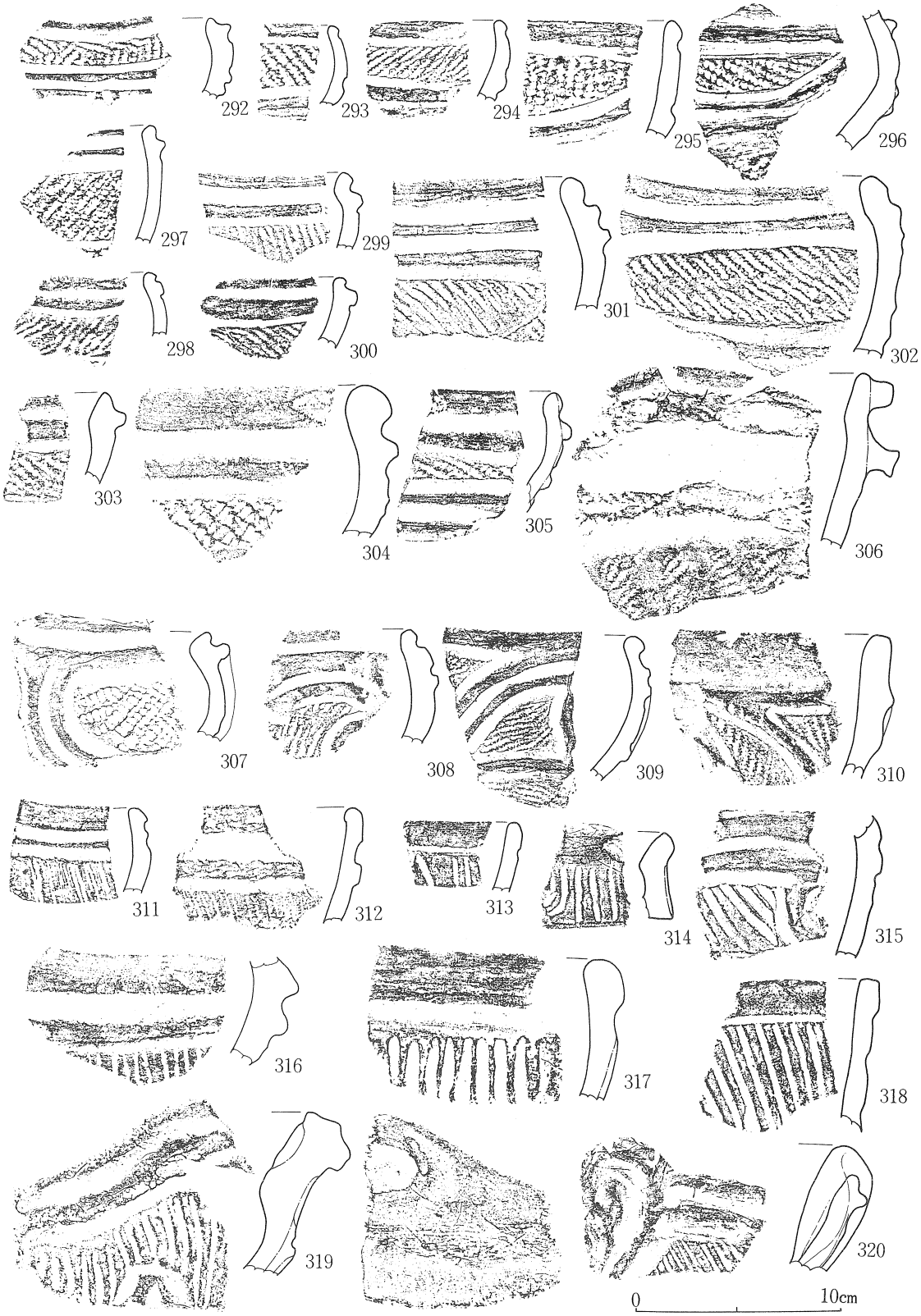
第69図　出土遺物（42）縄文土器拓影



第70図　出土遺物（43）縄文土器拓影

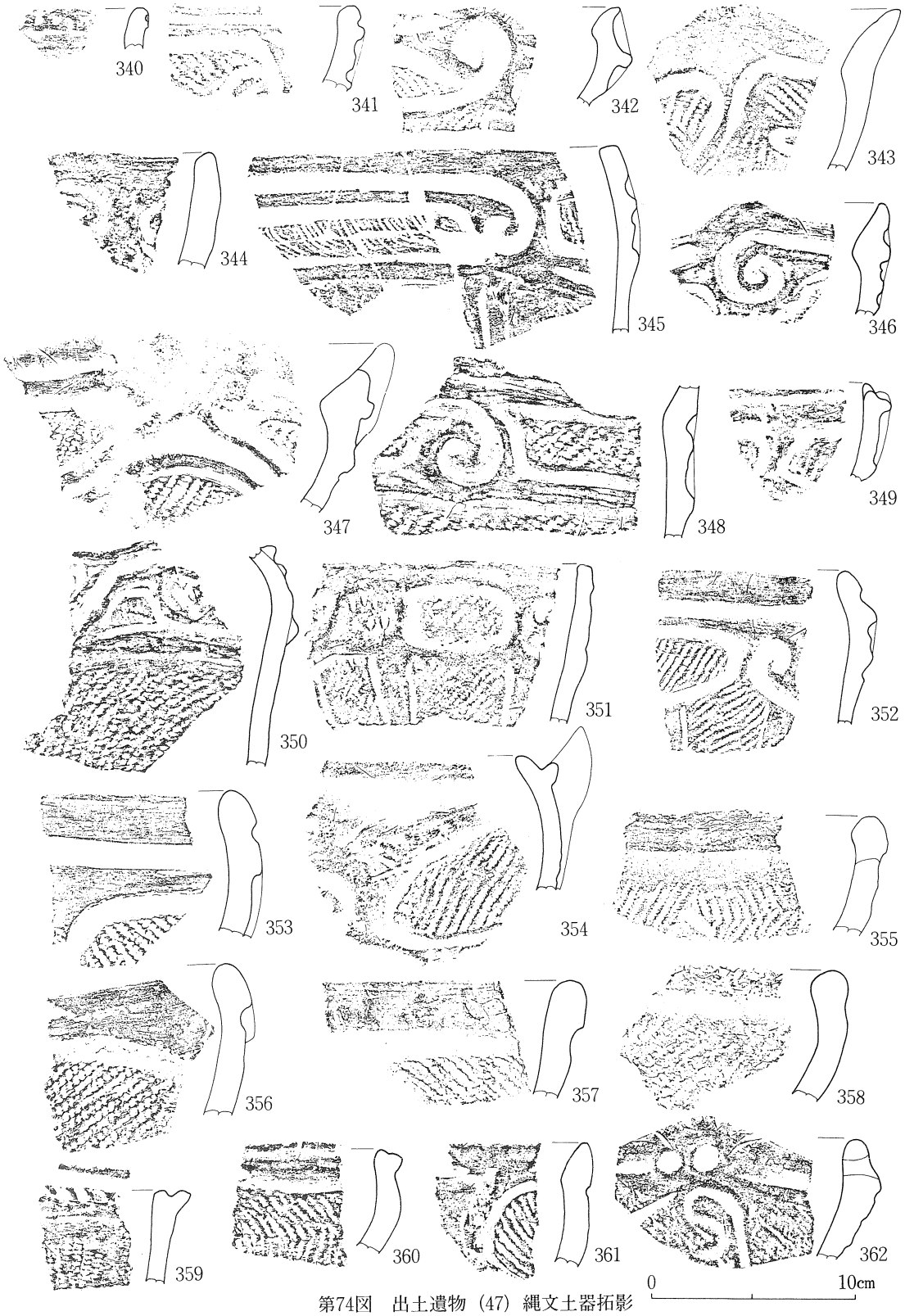


第71図　出土遺物（44）縄文土器拓影

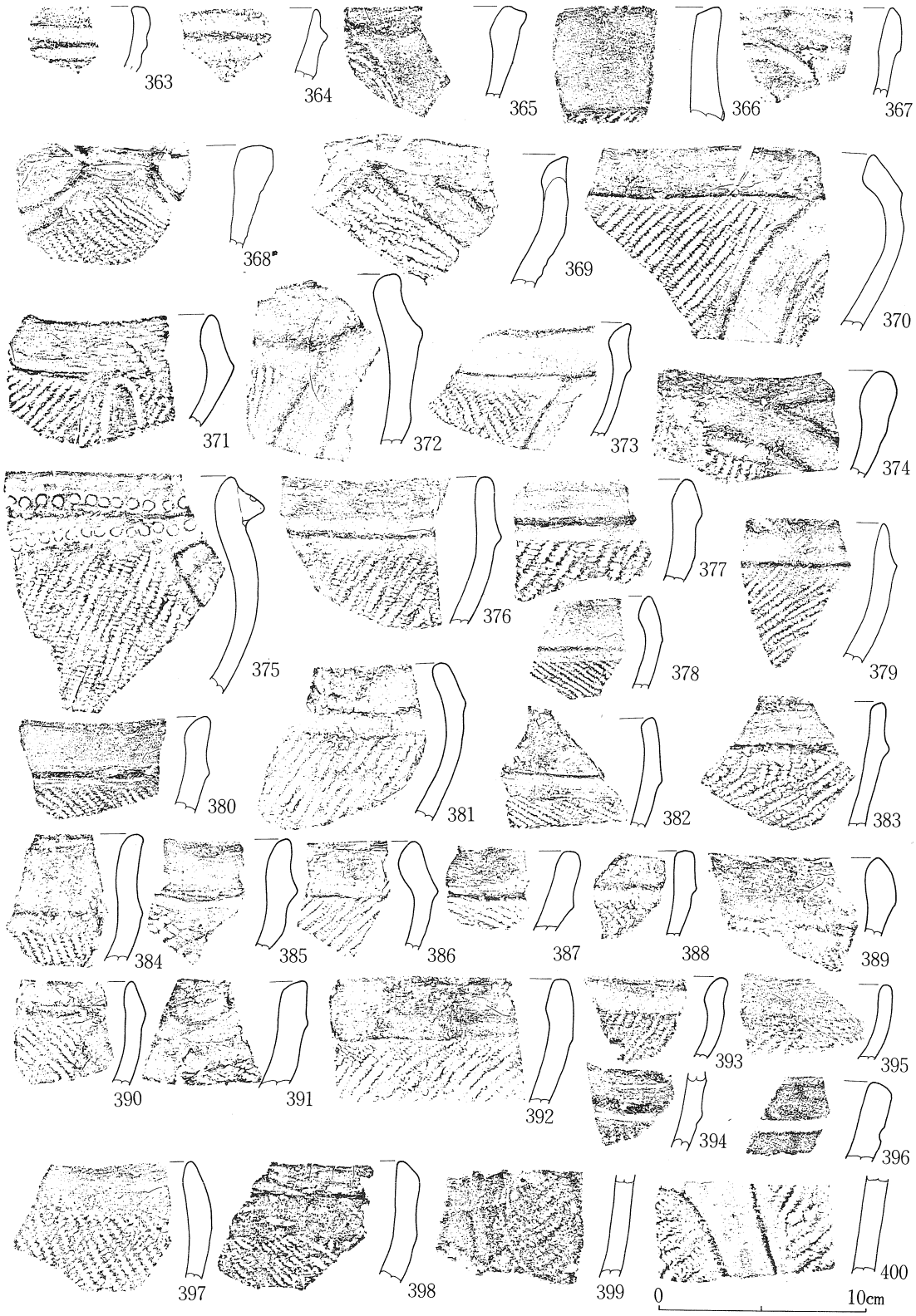


第72図　出土遺物（45）縄文土器拓影

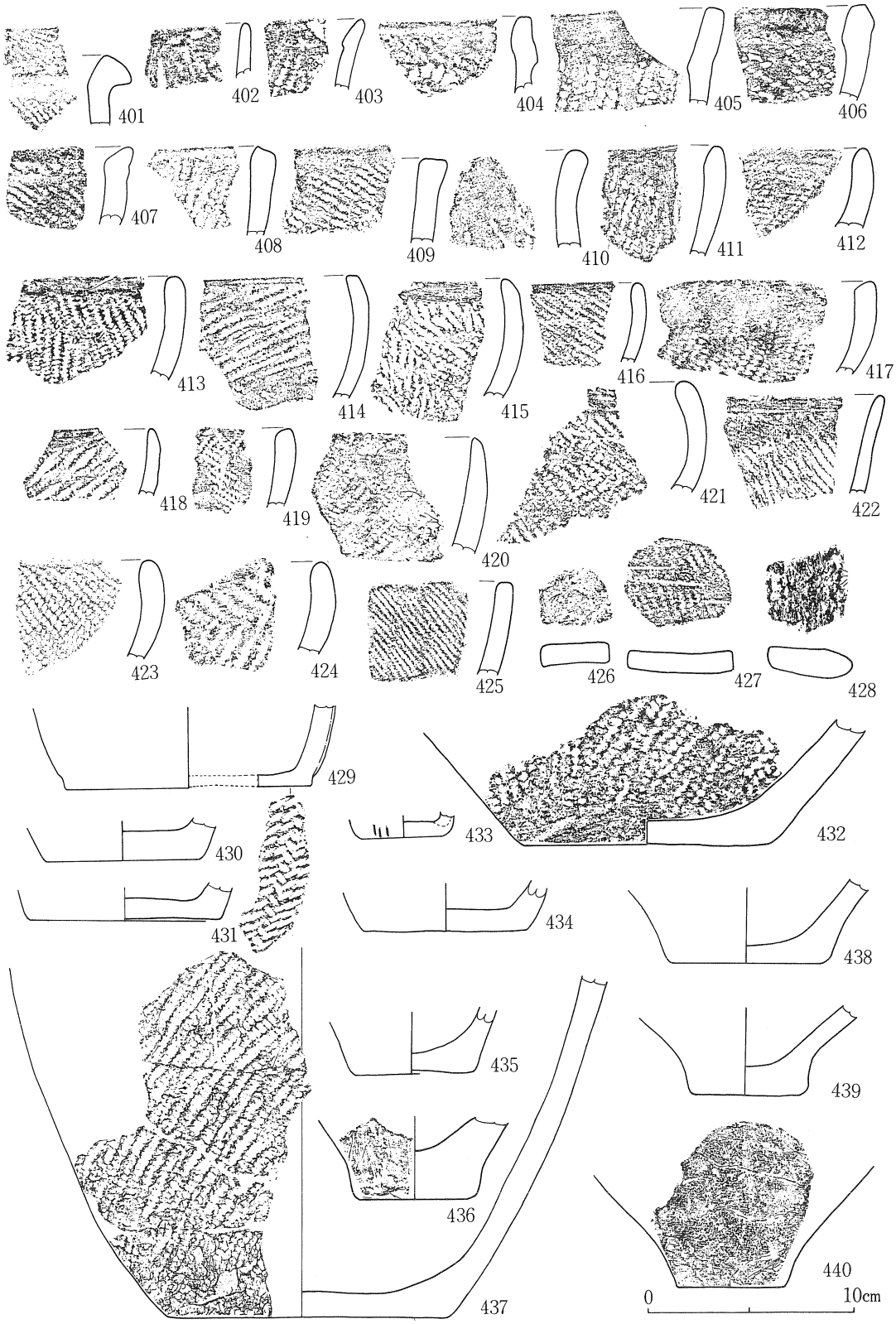
第73図　出土遺物（46）縄文土器拓影



第74図　出土遺物（47）縄文土器拓影

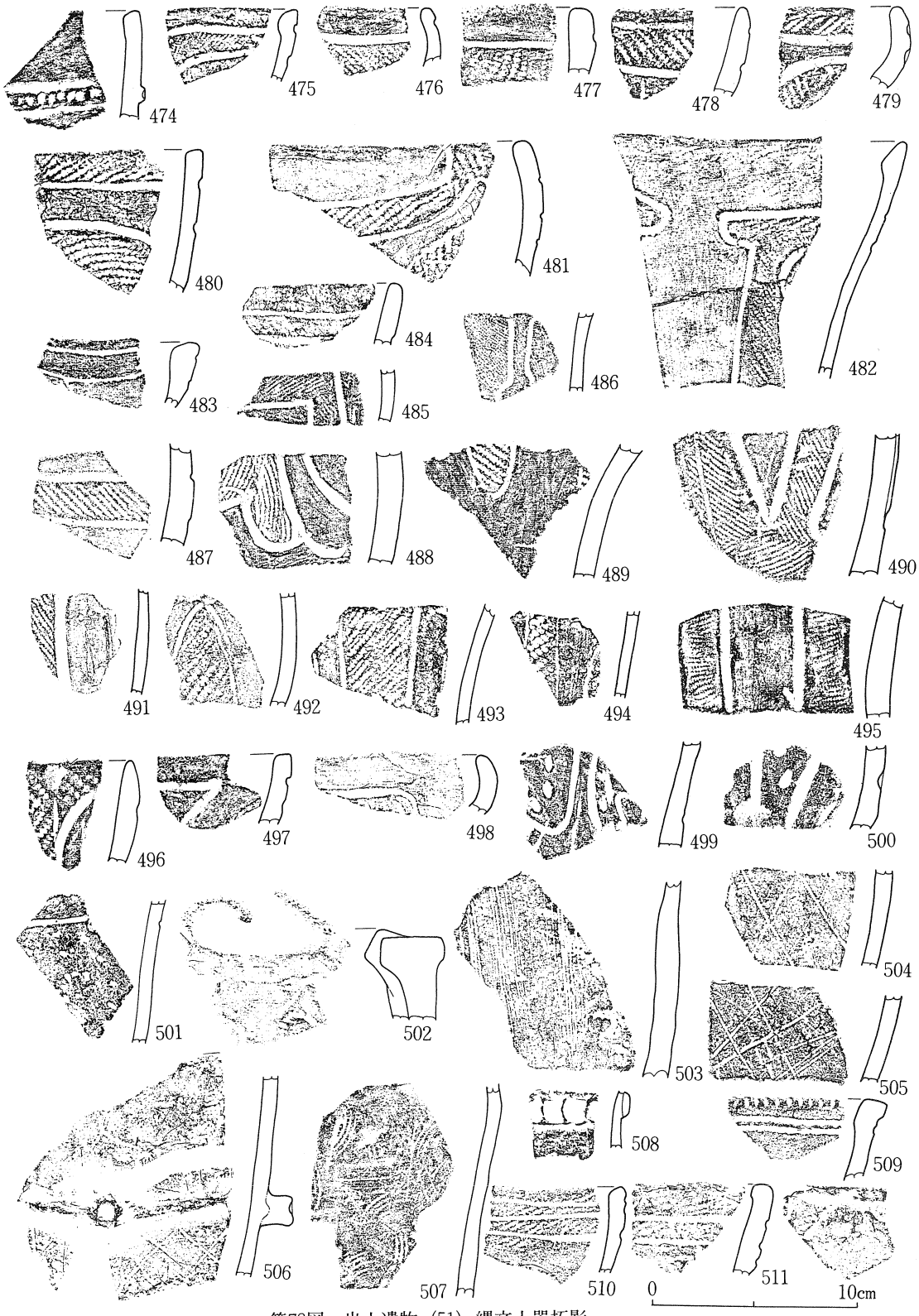


第75図　出土遺物（48）縄文土器拓影



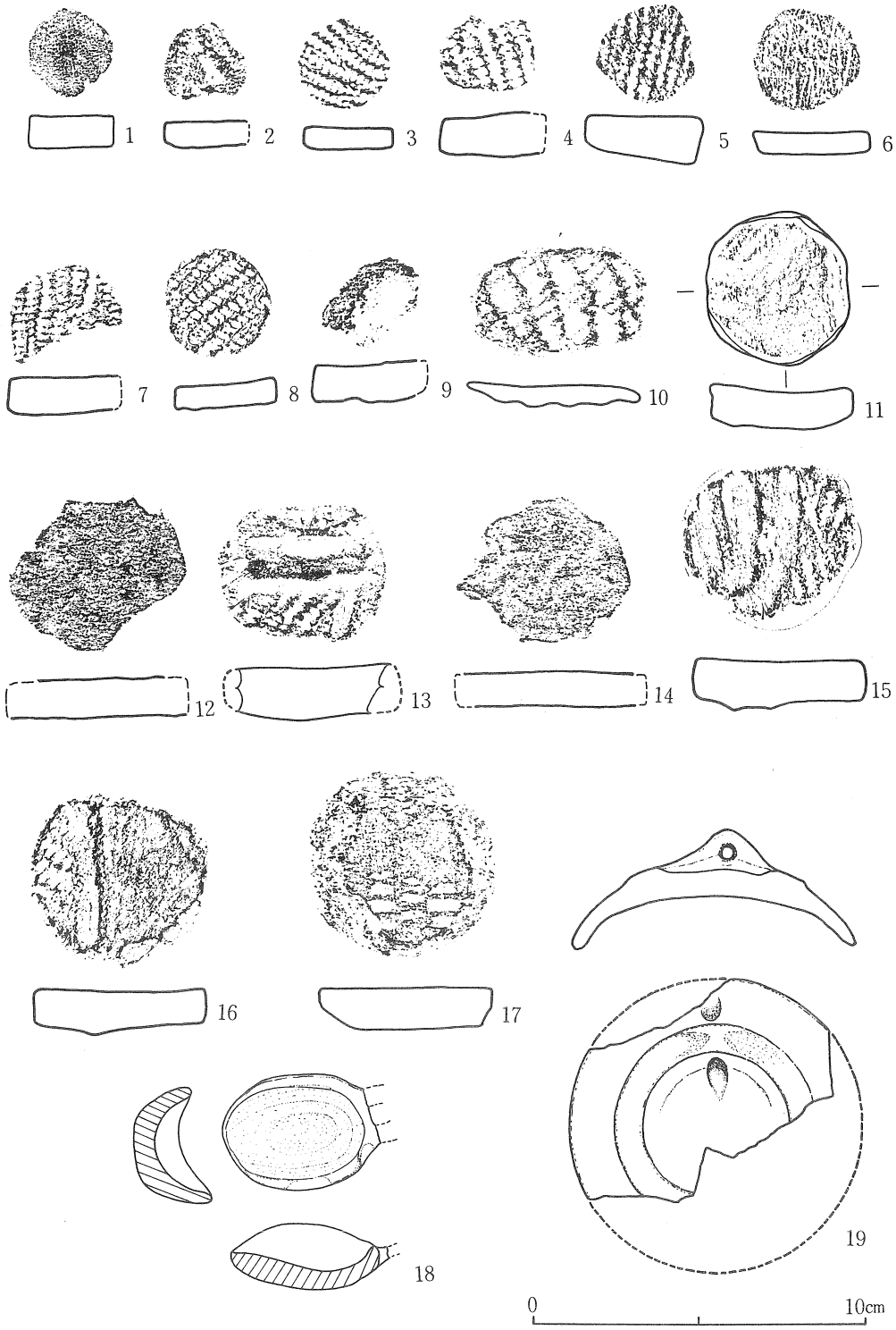
第76図　出土遺物（49）縄文土器拓影

第77図　出土遺物（50）縄文土器拓影



第78図　出土遺物（51）縄文土器拓影

第79図　出土遺物（52）縄文土器拓影

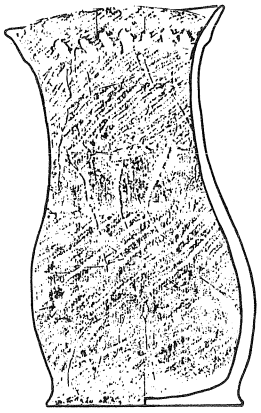


第80図　出土遺物（53）土製品

第4章　出　土　遺　物

第1節　旧石器時代の遺物

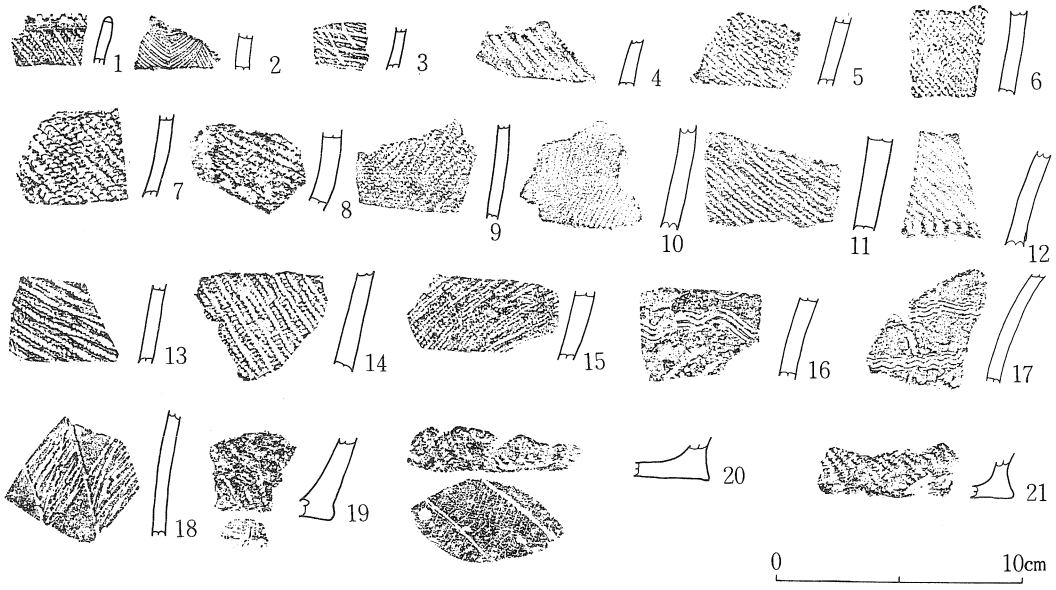
本遺跡内では当初、旧石器は存在しないということであったが、表採資料の中に頁岩の尖頭器（第85図4）が見つかり、その存在の可能性を確信させた。その後も調査中に遺構の中から何点か検出されるに及んで、存在は明確になった。しかし、遺構の重複が著しく、旧石器時代の遺構や遺物をするまでには至らず、今後の課題として残すことにした。検出された遺物はすべて、縄文時代以降の他の遺構を調査中に見つかったものである。第84図1、3は安山岩の石核で、2は剝片、4はやや特異なもので握斧かと思われるが疑問が残るところである。ナイフ形石器（第85図1）、や掻器（2）は片面加工で、尖頭器（3、4）は両面加工で一部を欠く。この他にチャート製の彫器（6）や削器（8）もみられるが、黒曜石の製品は少ない。なお、剝片や他の石器についてはさらに検討する必要があると思われる。



弥生土器（住居跡1出土）

第2節　縄文時代の遺物

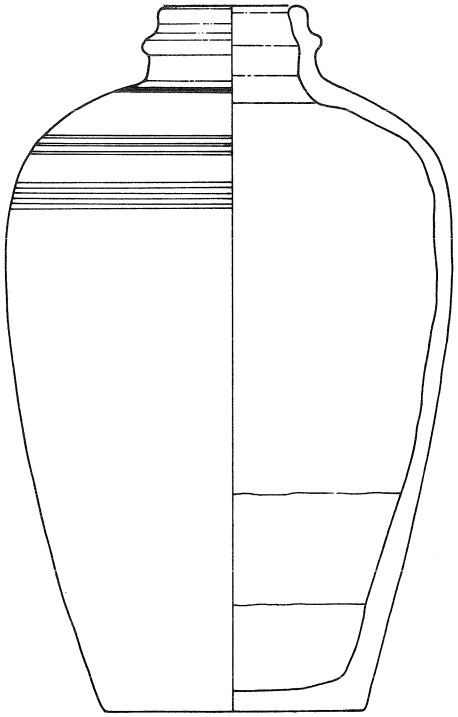
本遺跡では旧石器時代から歴史時代まで長い期間にわたって生活が営まれており、各時代の遺物が検出されているが、縄文時代の遺物が最も多く、倉持遺跡の中心をなしている。



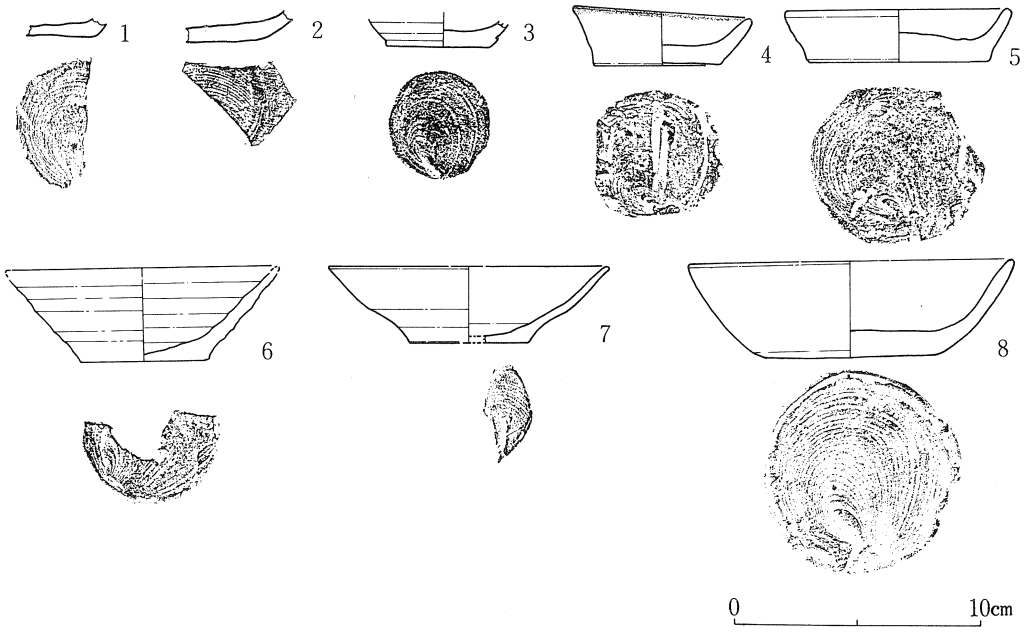
第81図　出土遺物（54）弥生土器

一年次の調査では縄文時代早期のものから晩期に至るまでの土器が検出されているが、二年次の調査では中、後期の土器がほとんどで、特に中期後半から後期前半のものが多くみられる。土器の型式分類については最終的な検討を待って結論を出す予定なので、今回は資料報告にとどめておく。土器は遺構から出土したものを先に載せて、その他のものはグリッドごとにまとめて後に載せた。出土資料の報告ということで細かい説明は加えず、できるだけ多くの資料を掲載することに努めたが、土器の中には東北の縄文土器の影響を受けたものや信州、南関東地方の影響を受けているものも少なくない。これ等の詳細な研究調査に関しては、今後推し進めていく予定である。

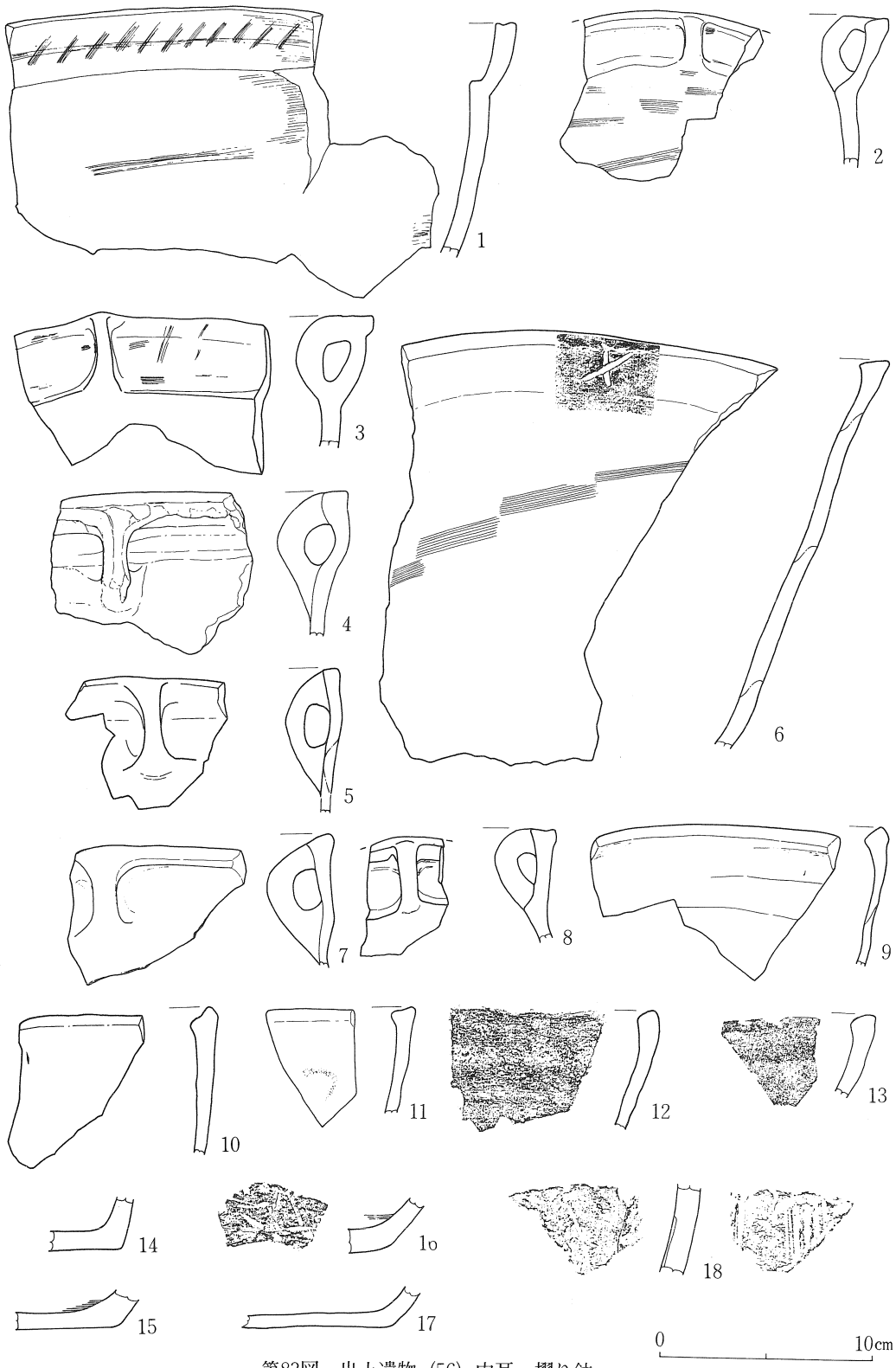
石器については、石鏃や石斧（打製・磨製）、磨石、凹石等が多く、中期後半から後期にかけての遺



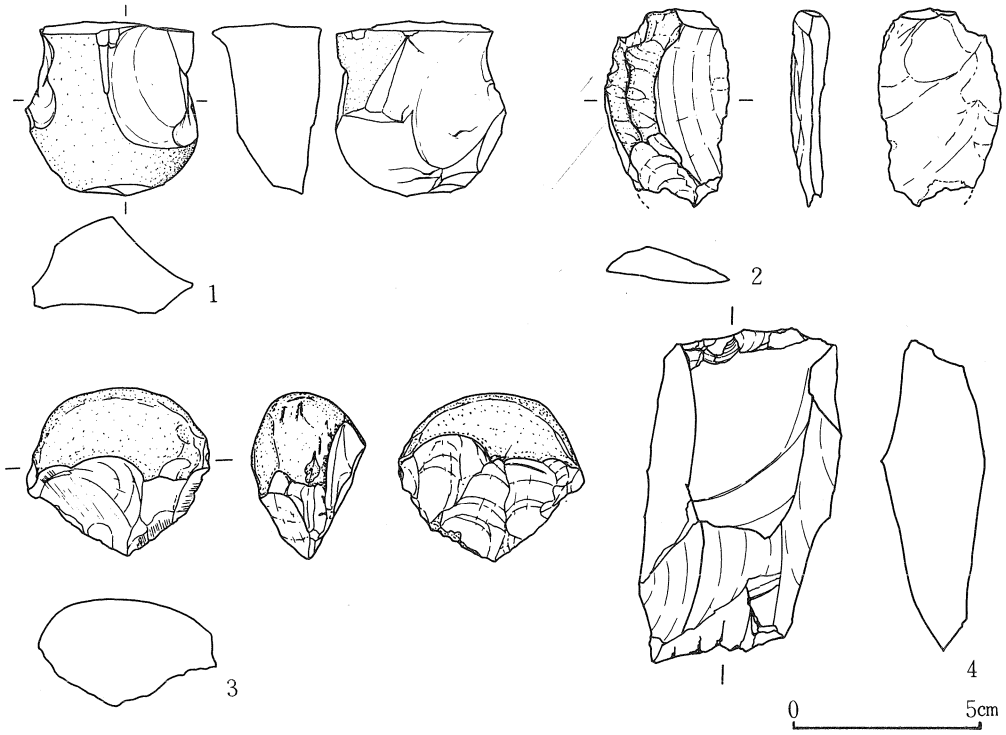
瓶子（8F12P 4出土）



第82図　出土遺物（55）灯明皿・杯形土器



第83図　出土遺物（56）内耳・摺り鉢



第84図　出土遺物（59）石器実測図(1)

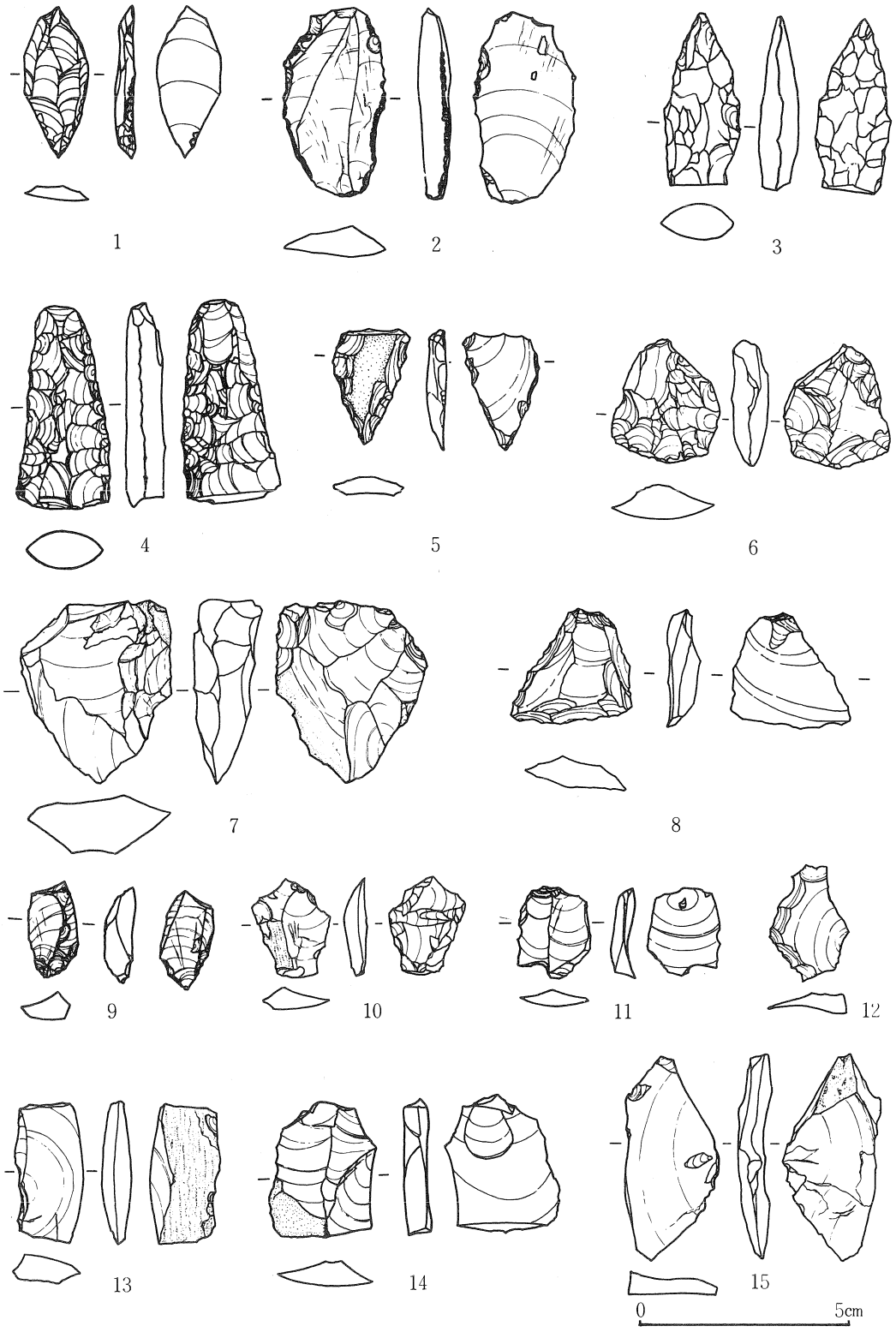
跡の性格を知る上で貴重である。特に叩き石等については、石器の打剝や調整等にも使用されるもので、丸い河原礫の端部に使用痕がみられる。他には石錐、石皿、石棒（凹石と兼用）、装飾品の大珠がある。石錘は１点のみ見つかっている。土製品では土製円盤が多く、他に蓋形やスプーン形のもの、縄文を施した土製丸玉等用途不明のものも検出されている。

第３節　弥生・古墳時代の遺物

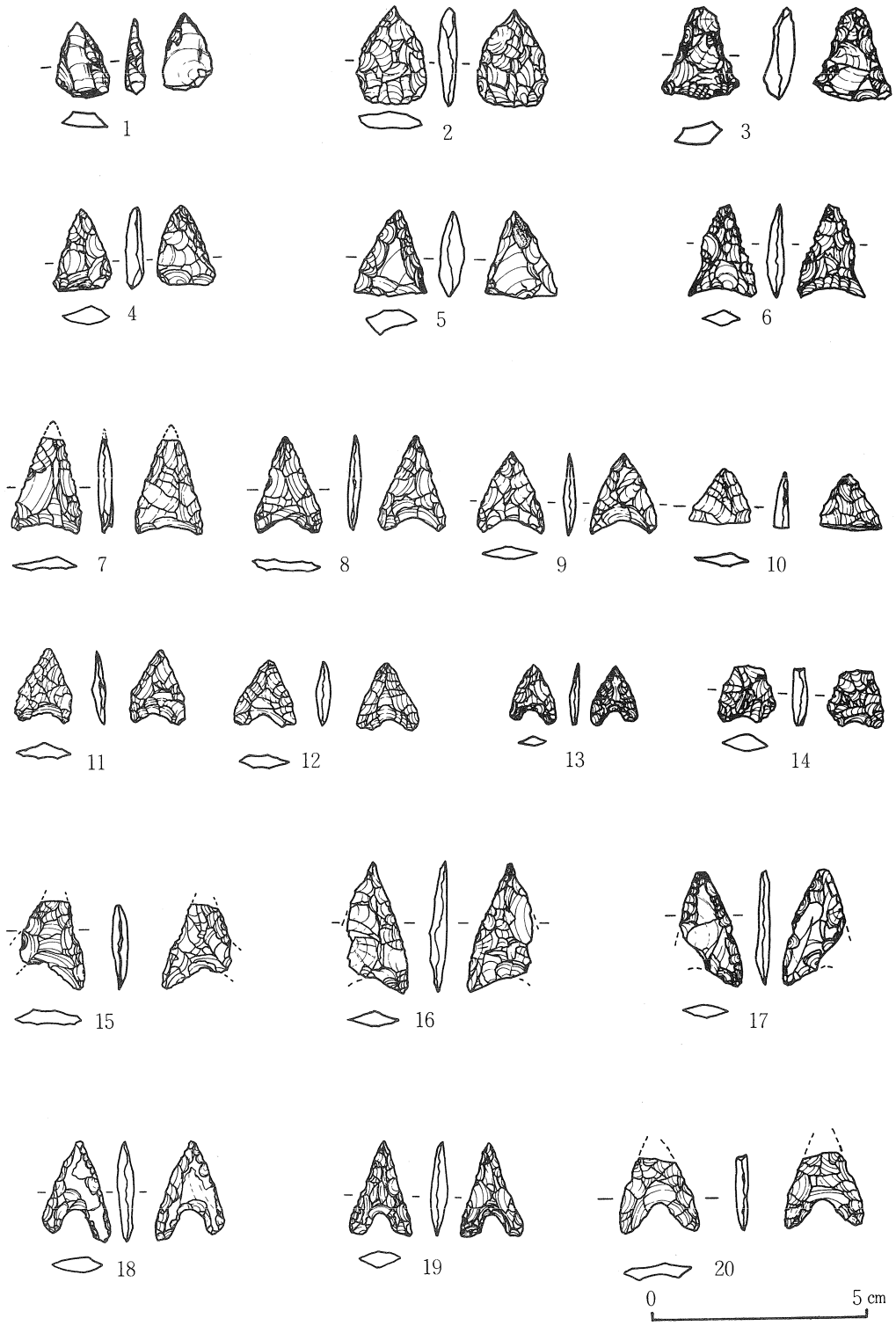
弥生時代、古墳時代の遺物は土器片以外はほとんどみられない。一年次の調査では方形周溝墓の溝から古式の土師器（壺）や器台、刀子等が検出されているが、今回の調査では、弥生時代、古墳時代の遺構が少ないこともあるが、遺構に伴う遺物もほとんど検出されていない。

第４節　歴史時代の遺物

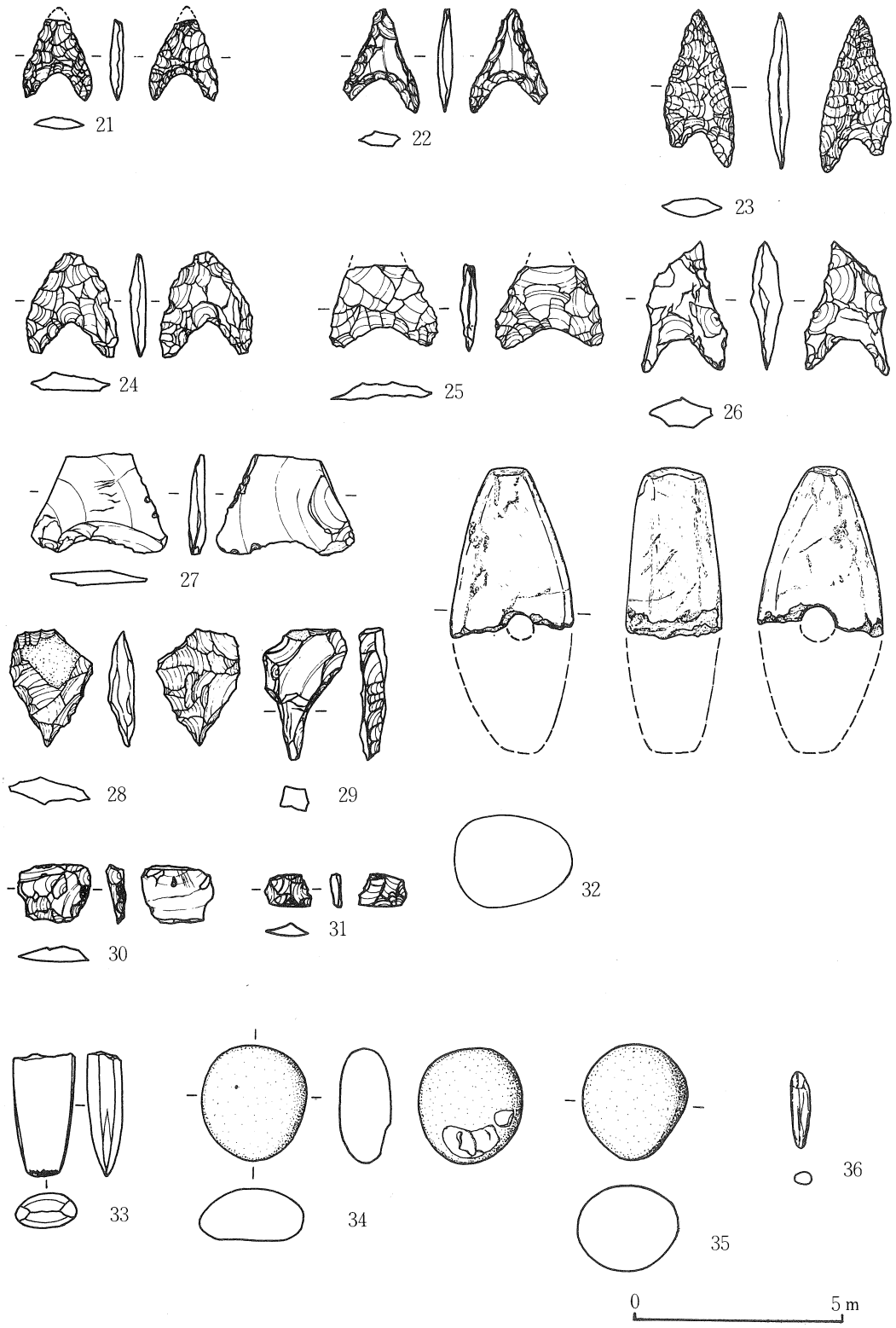
歴史時代のものと考えられる遺構は少なく、遺物もそれ程多くない。遺構に伴うものとしては土壙４の杯類、Ｐ４(８Ｆ12)の三筋壺（瓶子）や内耳土器で、他には摺り鉢片等の陶器片、青磁片、灯明皿、石臼等で極くわずかである。なお、古銭（寛永通宝）も１枚検出されている。



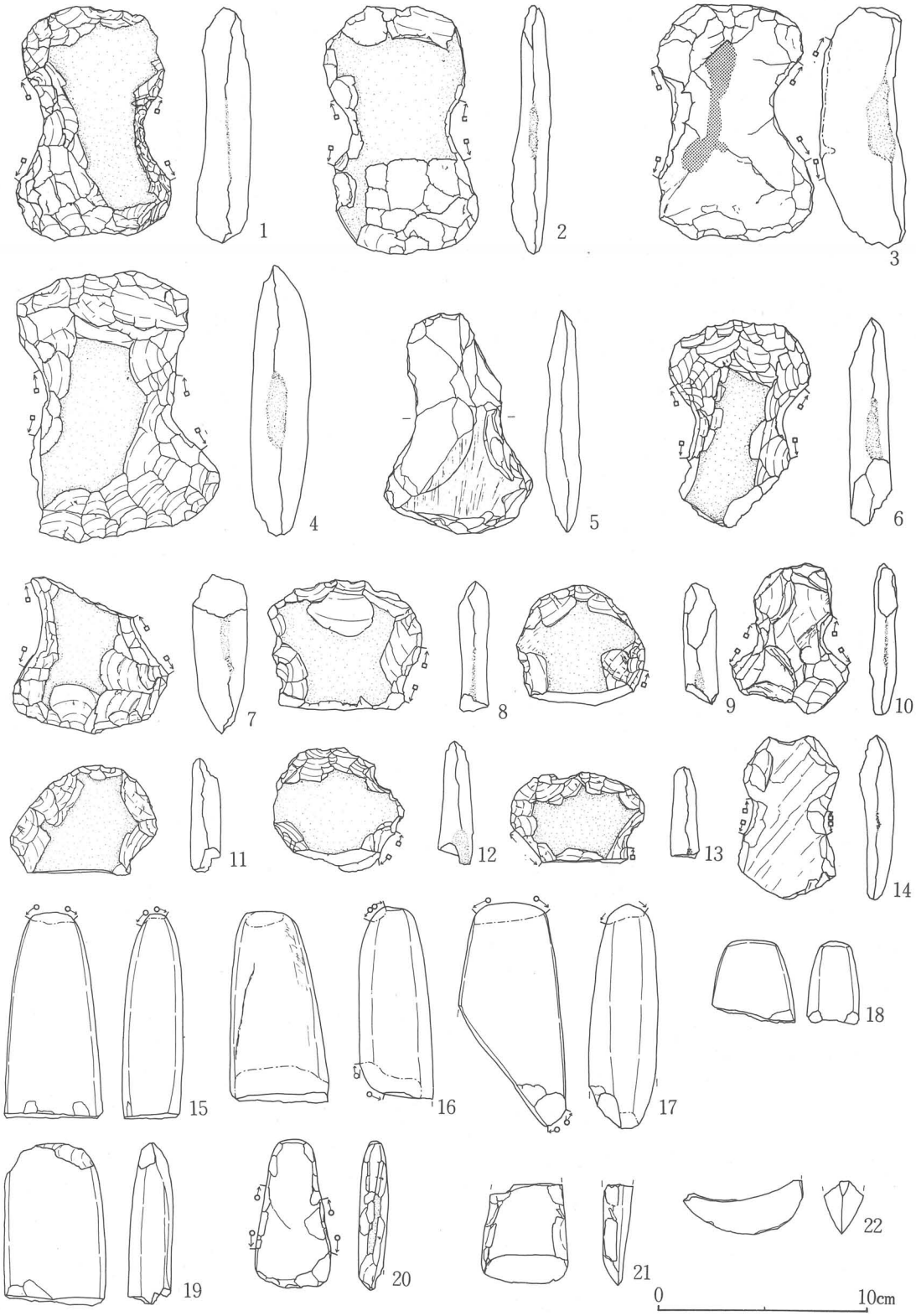
第85図　出土遺物（58）石器実測図(2)



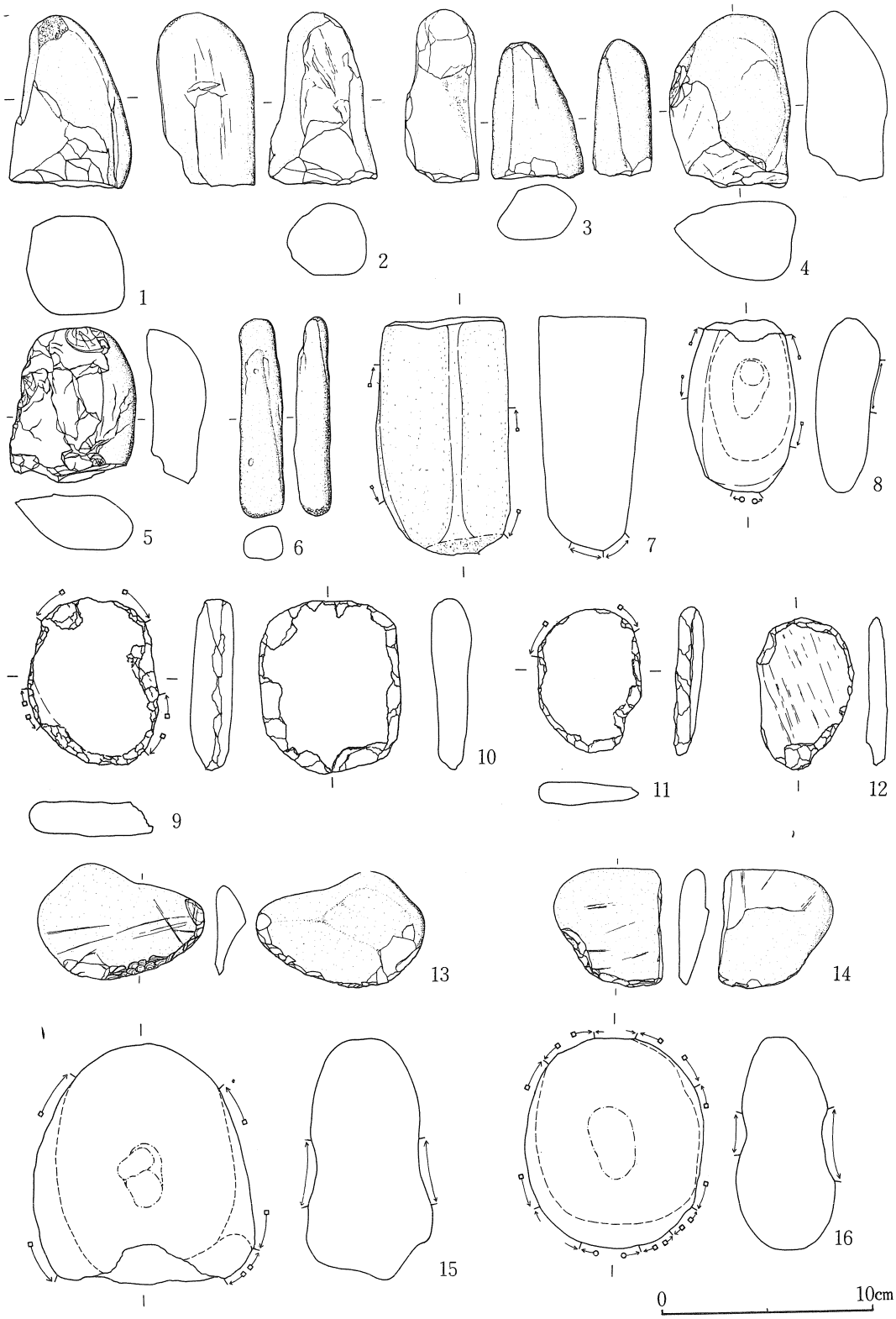
第86図　出土遺物（59）石器実測図(3)



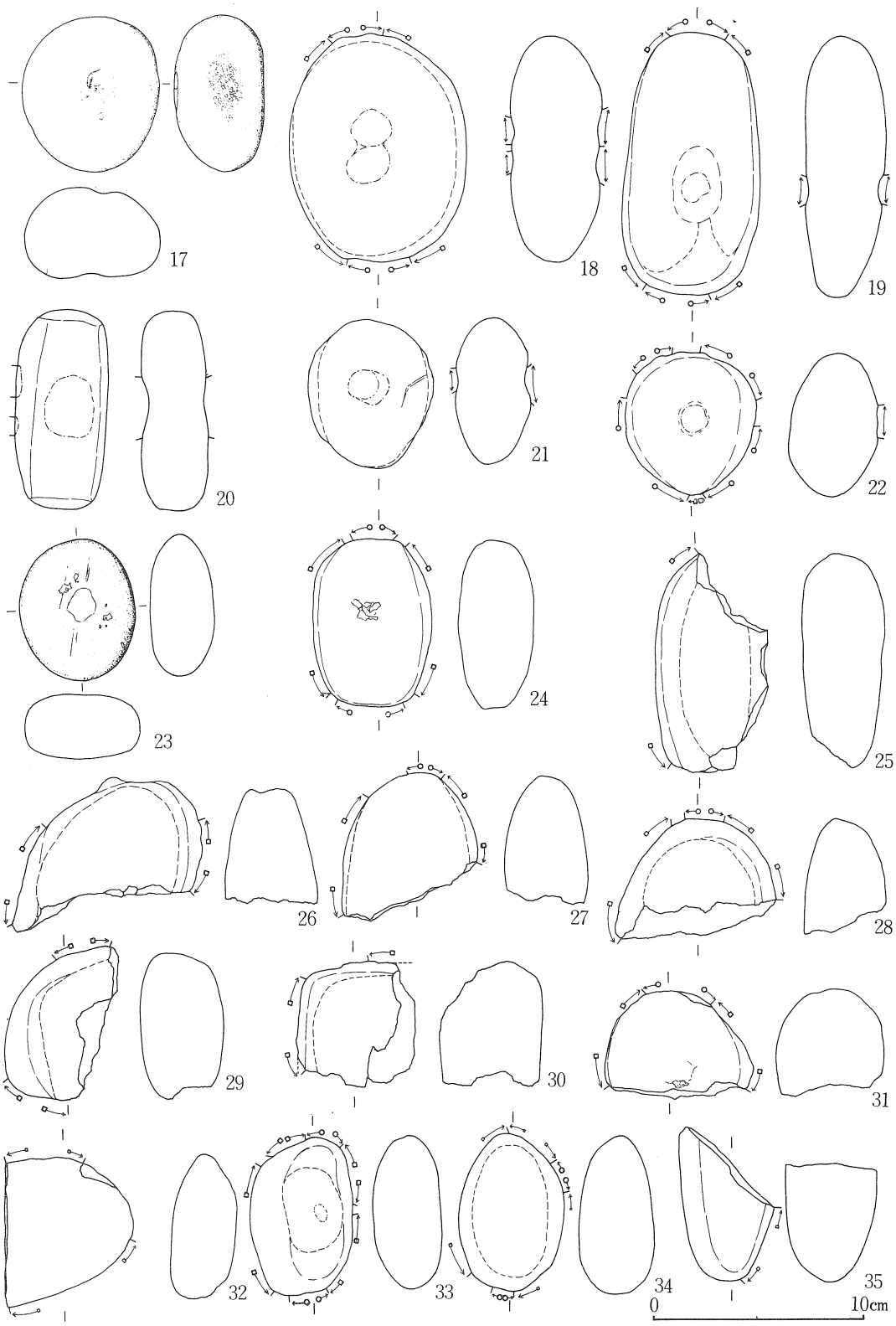
第87図　出土遺物（60）石器・骨角器実測図(4)



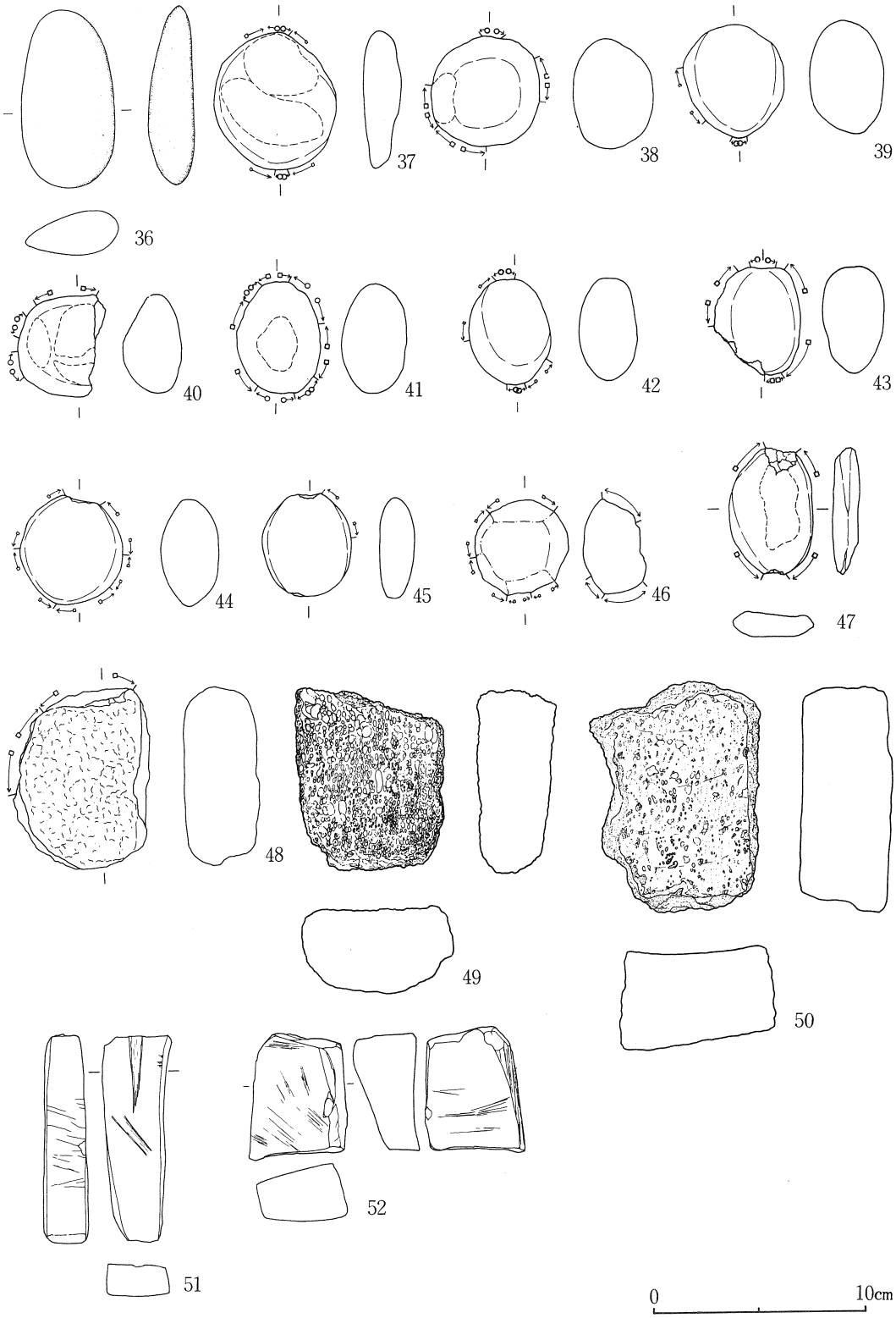
第88図　出土遺物（61）石器実測図(5)



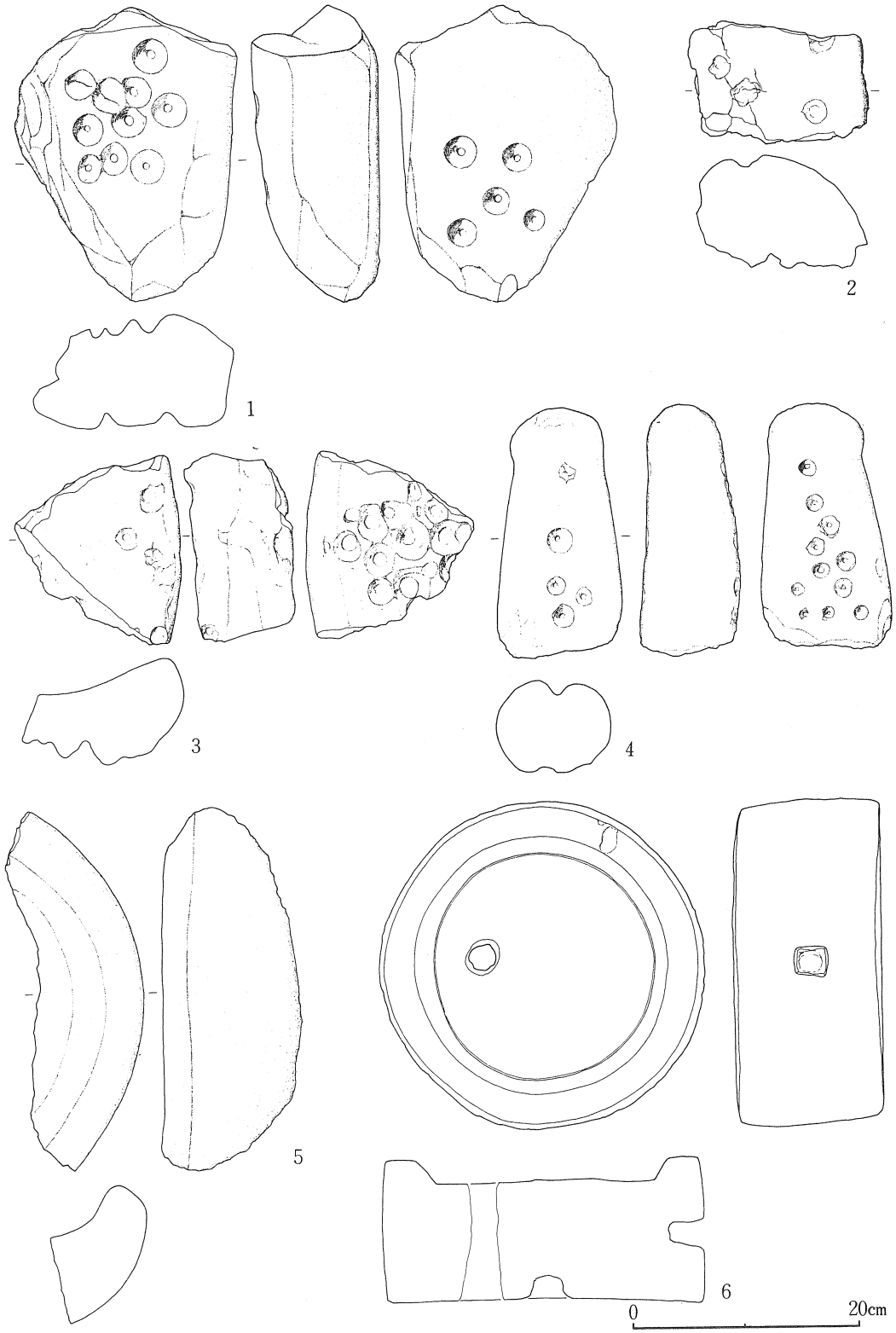
第89図　出土遺物（62）石器実測図(6)



第90図　出土遺物（63）石器実測図(7)



第91図　出土遺物（64）石器・石製品実測図(8)



第92図　出土遺物（65）石器・石製品実測図(9)

出土遺物表

表７　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
第62図　1	表面採集	中・初		32	6 F	加E Ⅳ		63	7 F	中	
2	〃	阿		33	6 F	加E Ⅳ		64	7 F	綱	
3	〃	加E Ⅱ		34	6 F	加E Ⅲ		65	7 F	後	
4	〃	加E Ⅱ		35	6 F	加E Ⅳ		66	7 F	後	
5	〃	加E Ⅱ		36	6 F	加E Ⅳ		67	7 F	阿	
6	〃	加E Ⅱ		37	6 F	加E Ⅳ		68	7 F	阿	
7	〃	加E Ⅲ		38	6 F	中		69	7 F	阿	
8	〃	中		39	6 F	中		70	7 F	阿	
9	〃	加E Ⅳ		40	6 F	中		71	7 F	阿	
10	〃	中		41	6 F	称		72	7 F	加E Ⅱ	
11	5 G	中		42	6 F	称		73	7 F	加E Ⅱ	
12	5 G	中		43	6 F	称		74	7 F	加E Ⅱ	
13	5 G	加E Ⅱ		44	6 F	称		75	7 F	加E Ⅱ	
14	5 G	加E Ⅳ		45	6 F	中		76	7 F24	加E Ⅱ	埋甕２
15	5 G	中		46	6 F	称		77	7 F	加E Ⅱ	
16	5 G	中		47	6 F	堀		78	7 F	加E Ⅱ	
17	6 F	加E Ⅲ		48	6 F	後？		79	7 F	加E Ⅱ	
18	6 F	加E Ⅲ		49	6 G	加E Ⅱ		80	7 F	加E Ⅱ	
19	6 F	中		50	6 G	加E Ⅱ		第65図　81	7 F	加E Ⅱ	
20	6 F	加E Ⅲ		51	6 G	加E Ⅱ		82	7 F	加E Ⅱ	
21	6 F	加E Ⅲ		52	6 G	加E Ⅲ		83	7 F	加E Ⅱ	
第63図　22	6 F	加E Ⅱ		53	6 G	加E Ⅱ		84	7 F	加E Ⅱ	
23	6 F	加E Ⅱ		54	6 G	後		85	7 F	加E Ⅲ	
24	6 F	加E Ⅱ		55	6 G	加E Ⅱ		86	7 F	加E Ⅱ	
25	6 F	加E Ⅳ		第64図　56	6 G	加E Ⅱ		87	7 F	加E Ⅱ	
26	6 F	加E Ⅳ		57	6 G	加E中		88	7 F	加E Ⅲ	
27	6 F	加E Ⅳ		58	6 G	加E中		89	7 F	加E Ⅱ	
28	6 F	加E Ⅱ		59	6 G	加E Ⅳ		90	7 F	加E Ⅱ	
29	6 F	加E Ⅳ		60	6 G	加E Ⅳ		91	7 F	加E Ⅱ	
30	6 F	加E Ⅳ		61	6 G	加E Ⅲ	？	92	7 F	加E Ⅱ	
31	6 F	加E Ⅳ		62	6 G	中		93	7 F	加E Ⅲ	

表8　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
94	7 F	加E Ⅱ		126	7 F	加E Ⅱ		158	7 F	加E Ⅳ	
95	7 F	加E Ⅱ		127	7 F	加E Ⅱ		159	7 F	加E Ⅳ	
96	7 F	加E Ⅱ		128	7 F	中？		160	7 F	加E Ⅳ	
97	7 F	加E Ⅱ		129	7 F	中？		161	7 F	加E Ⅳ	
98	7 F	加E Ⅱ		130	7 F	中？		162	7 F	加E Ⅳ	
99	7 F	加E Ⅱ		131	7 F	中？		163	7 F	加E Ⅳ	
100	7 F	加E Ⅱ		132	7 F	中？		164	7 F	加E Ⅳ	
101	7 F	加E Ⅱ		133	7 F	後？		第68図 165	7 F	加E Ⅳ	
102	7 F	加E Ⅱ		134	7 F	後？		166	7 F	加E Ⅳ	
103	7 F	加E Ⅱ		第67図 135	7 F	加E Ⅱ		167	7 F	加E Ⅳ	
104	7 F	加E Ⅱ		136	7 F	加E Ⅲ		168	7 F	加E Ⅳ	
105	7 F	加E Ⅱ		137	7 F	加E Ⅲ		169	7 F	加E Ⅳ	
第66図 106	7 F	阿		138	7 F	加E Ⅲ		170	7 F	加E Ⅳ	
107	7 F	加E Ⅱ		139	7 F	加E Ⅲ		171	7 F	加E Ⅳ	
108	7 F	加E Ⅱ		140	7 F	加E Ⅲ		172	7 F	加E Ⅳ	
109	7 F	加E Ⅳ		141	7 F	加E Ⅲ		173	7 F	加E Ⅳ	
110	7 F	加E Ⅱ		142	7 F	加E Ⅲ		174	7 F	加E Ⅳ	
111	7 F	加E Ⅱ		143	7 F	加E Ⅲ		175	7 F	加E Ⅳ	
112	7 F	加E Ⅲ		144	7 F	加E Ⅲ		176	7 F	称	
113	7 F	加E Ⅱ		145	7 F	加E Ⅲ		177	7 F	称	
114	7 F	加E Ⅲ		146	7 F	加E Ⅲ		178	7 F	称	
115	7 F	加E Ⅱ		147	7 F	加E Ⅲ		179	7 F	称	
116	7 F	加E Ⅱ		148	7 F	加E Ⅲ		180	7 F	加E Ⅳ	
117	7 F	加E Ⅱ		149	7 F	加E Ⅲ		181	7 F	加E Ⅳ	
118	7 F	加E Ⅱ		150	7 F	加E Ⅲ		182	7 F	称	
119	7 F	加E Ⅱ		151	7 F	加E Ⅳ		183	7 F	称	
120	7 F	加E Ⅱ		152	7 F	加E Ⅳ		184	7 F	後初？	
121	7 F	加E		153	7 F	加E Ⅳ		185	7 F	後？	
122	7 F	加E		154	7 F	加E Ⅳ		186	7 F	加B	
123	7 F	加E		155	7 F	加E Ⅳ		187	7 F	加B	
124	7 F	加E		156	7 F	加E Ⅳ		188	7 F	堀	
125	7 F	加E		157	7 F	加E Ⅳ		189	7 F	加B	

表9　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
190	7 F	加B		222	7 G	加EⅡ		254	8 F23	阿	
191	7 F	加B		223	7 G	加EⅡ		255	8 F23	勝	
第69図192	7 F24	中	方3	224	7 G	加EⅡ		256	8 F13	阿	
193	7 G	中・初		225	7 G	加EⅡ		257	8 F11	阿	
194	7 G	阿		226	7 G	加EⅡ		258	8 F 6	阿	
195	7 G	加EⅣ		227	7 G	加EⅡ		259	8 F 6	阿	
196	7 G	阿		228	7 G	加EⅡ		260	8 F 7	阿	
197	7 G	阿		229	7 G	加EⅡ		261	8 F 6	阿	
198	7 G	阿		230	7 G	加EⅡ		262	8 F 6	五	
199	7 G	加E勝		231	7 G	加EⅣ		263	8 F13	阿	
200	7 G	加E勝		232	7 G	加EⅢ		264	8 F12	阿	
201	7 G	加EⅡ		3233	7 G	加EⅣ		265	8 F23	阿	
202	7 G	加EⅡ		234	7 G	加EⅣ		266	8 F11	阿	
203	7 G	加EⅡ		235	7 G	加EⅣ		267	8 F13	阿	
204	7 G	加EⅠ		236	7 G	加EⅣ		268	8 F 7	阿	
205	7 G	加EⅡ		237	7 G	加EⅣ		269	8 F18	阿	
206	7 G	加EⅡ		238	7 G	加EⅣ		270	8 F12	阿	
207	7 G	中		239	7 G	加EⅣ		271	8 F23	阿	
208	7 G	加EⅡ		240	7 G	加EⅣ		272	8 F18	阿	
209	7 G	加EⅡ		241	7 G	加EⅣ		273	8 F11	阿	
210	7 G	加EⅡ		242	7 F	後		274	8 F 7	阿	
211	7 G	加EⅡ		243	7 G	後		275	8 F 8	阿	
212	7 G	加EⅡ		244	7 G	称		276	8 F11	阿	
213	7 G	加EⅡ		245	7 G	堀		277	8 F 7	阿	
114	7 G	加EⅡ		246	7 G	堀		278	8 F12	阿	
215	7 G	加EⅡ		第71図 247	8 F11	中初		279	8 F 8	中	
216	7 G	加EⅡ		248	8 F12	阿		280	8 F 7	中	
217	7 G	加EⅡ		249	8 F 6	阿		281	8 F12	阿	
218	7 G	加EⅡ		250	8 F	阿		282	8 F 7	中	
第70図 219	7 G	加EⅡ		251	8 F	阿		283	8 F 7	加EⅢ	
220	7 G	加EⅡ		252	8 F 8	阿		284	8 F12	加EⅢ	
221	7 G	加EⅡ		253	8 F13	阿		285	8 F 7	後	

表10　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
286	8 F 7	後		318	8 F 7	加E Ⅱ		350	8 F 8	加E Ⅱ	
287	7 F12	中		319	8 F11	加E Ⅱ		351	8 F 7	加E Ⅱ	
288	8 F12	中		320	8 F 8	加E Ⅱ		352	8 F 7	加E Ⅲ	
289	8 F 6	中		第73図 321	8 F12	加E Ⅱ		353	8 F 7	加E Ⅱ	
290	8 F12	加E Ⅱ		322	8 F12	加E Ⅱ		354	8 F 7	加E Ⅲ	
291	8 F13	加E Ⅱ		323	8 F13	加E Ⅱ		355	8 F17	加E Ⅱ	
第72図 292	8 F13	加E Ⅱ		324	8 F12	加E Ⅱ		356	8 F13	加E Ⅱ	
293	8 F 7	加E Ⅱ		325	8 F13	加E Ⅱ		357	8 F 7	加E Ⅱ	
294	8 F13	加E Ⅱ		326	8 F12	加E Ⅱ		358	8 F 6	加E Ⅱ	
295	8 F 7	加E Ⅱ		327	8 F 6	加E Ⅱ		359	8 F 8	加E Ⅱ	
296	8 F 8	加E Ⅱ		328	8 F13	加E Ⅱ		360	8 F 8	加E Ⅱ	
297	8 F 7	加E Ⅱ		329	8 F12	加E Ⅱ		361	8 F 8	加E Ⅲ	
298	8 F 7	加E Ⅱ		330	8 F13	加E Ⅱ		362	8 F 7	堀	
299	8 F12	加E Ⅱ		331	8 F 7	加E Ⅱ		第75図 363	8 F 6	加E Ⅲ	
300	8 F 8	加E Ⅱ		332	8 F 8	加E Ⅱ		364	8 F18	加E Ⅲ	
301	8 F11	加E Ⅱ		333	8 F 8	加E Ⅱ	大木系	365	8 F 8	加E Ⅳ	
302	8 F11	加E Ⅱ		334	8 F11	加E Ⅱ		366	8 F13	加E Ⅳ	
303	8 F11	加E Ⅱ		335	8 F12	加E Ⅱ		367	8 F12	加E Ⅳ	
304	8 F12	加E Ⅱ		336	8 F13	加E Ⅱ	No.3	368	8 F 6	加E Ⅳ	
305	8 F 8	加E Ⅱ		337	8 F 7	加E Ⅱ		369	8 F 6	加E Ⅳ	
306	8 F 7	加E Ⅱ		338	8 F 7	加E Ⅱ		370	8 F12	加E Ⅳ	
307	8 F18	加E Ⅱ		339	8 F 6	加E Ⅱ		371	8 F 8	加E Ⅳ	
308	8 F11	加E Ⅱ		第74図 340	8 F18	加E Ⅱ		372	8 F12	加E Ⅳ	
309	8 F13	加E Ⅱ		341	8 F 6	加E Ⅱ		373	8 F12	加E Ⅳ	
310	8 F12	加E Ⅱ		342	8 F 8	加E Ⅲ		374	8 F16	加E Ⅳ	
311	8 F 7	加E Ⅱ		343	8 F12	加E Ⅲ		375	8 F 7	加E Ⅳ	
312	8 F12	加E Ⅱ		344	8 F 8	加E Ⅲ		376	8 F 7	加E Ⅳ	
313	8 F 7	加E Ⅱ		345	8 F 7	加E Ⅱ		377	8 F12	加E Ⅳ	
314	8 F12	加E Ⅱ		346	8 F 8	加E Ⅱ		378	8 F12	加E Ⅳ	
315	8 F11	加E Ⅱ		347	8 F12	加E Ⅲ		379	8 F12	加E Ⅳ	
316	8 F12	加E Ⅱ		348	8 F 8	加E Ⅱ		380	8 F23	加E Ⅳ	
317	8 F 7	加E Ⅱ		349	8 F 7	加E Ⅱ		381	8 F 7	加E Ⅳ	

表11　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
382	8 F 7	加E Ⅳ		414	8 F 7	加E Ⅳ		446 4	8 F12	加E	
383	8 F12	加E Ⅳ		415	8 F 7	加E Ⅳ		447	8 F11	加E	
384	8 F 7	加E Ⅳ		416	8 F 7	加E Ⅳ		448	8 F 7	加E	
385	8 F12	加E Ⅳ		417	8 F12	加E Ⅳ		449	8 F11	加E	
386	8 F 7	加E Ⅳ		418	8 F 7	加E Ⅳ		450	8 F 7	加E	
387	8 F 6	加E Ⅳ		419	8 F11	加E Ⅳ		451	8 F11		
388	8 F11	加E Ⅳ		420	8 F 7	加E Ⅳ		452	8 F13		
389	8 F 7	加E Ⅳ		421	8 F11	加E Ⅳ		453	8 F 7		
390	8 F 7	加E Ⅳ		422	8 F 7	加E Ⅳ		454	8 F12		
391	8 F 7	加E Ⅳ		423	8 F12	加E Ⅳ		455	8 F12		
392	8 F 7	加E Ⅳ		424	8 F 7	加E Ⅳ		456	8 F23		
393	8 F12	加E Ⅳ		425	8 F12	加E Ⅳ		457	8 F 8		
394	8 F12	加E Ⅳ		426	8 F12	加E Ⅳ		458	8 F 7		
395	8 F12	加E Ⅳ		427	8 F12	加E Ⅳ		459	8 F12	中？	
396	8 F 8	加E Ⅳ		428	8 F 7	加E Ⅳ		460	8 F22		
397	8 F12	加E Ⅳ		429	8 F 7	加E Ⅳ		461	8 F22		
398	8 F 8	加E Ⅳ		430	8 F 7	加E Ⅳ		462	8 F12		
399	8 F12	加E Ⅳ		431	8 F12	加E Ⅳ		463	8 F12		
400	8 F 7	加E Ⅳ		432	8 F 7	加E Ⅳ		464	8 F 7		
第76図 401	8 F12	加E Ⅳ		433	8 F 8	加E Ⅳ		465	8 F 7		
402	8 F11	加E Ⅳ		433	8 F12	加E Ⅳ		466	8 F 8		
403	8 F 8	加E Ⅳ		435	8 F12	加E Ⅳ		467	8 F 8		
404	8 F11	加E Ⅳ		436	8 F12	加E Ⅳ		468	8 F 8		
405	8 F12	加E Ⅳ		437	8 F13	加E Ⅳ		469	8 F12		
406	8 F23	加E Ⅳ		438	8 F 7	加E Ⅳ		470	8 F 7		
407	8 F12	加E Ⅳ		439	8 F 7	加E Ⅳ		471	8 F 7		
408	8 F 7	加E Ⅳ		440	8 F	加E Ⅳ		472	8 F 7		
409	8 F12	加E Ⅳ		第77図 441	8 F 6	加E Ⅳ		473	8 F12	中？	
410	8 F 7	加E Ⅳ		442	8 F 8	加E Ⅳ		第78図 474	8 F 8	称	
411	8 F 7	加E Ⅳ		443	8 F13	加E Ⅳ		475	8 F 7	称	
412	8 F12	加E Ⅳ		444	8 F12	加E Ⅳ		476	8 F 7	称	
413	8 F 8	加E Ⅳ		445	8 F12	加E Ⅳ		477	8 F11	称	

表12　出土遺物―縄文土器

挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考	挿図番号	出土地点	時　期	備　考
第78図478	8F18	称		501	8F7	称		524	8G8	加EⅢ	
479	8F16	称		502	8F8	中？		525	8G8	加EⅣ	
480	8F16	称		503	8F7	称		526	8G1	加EⅣ	
481	8F11	称		504	8F12	称		527	8G8	加EⅣ	
482	8F6A	称		505	8F7	称		528	8G6	加EⅣ	
483	8F12	称		506	8F12	称	加EⅣ？	529	8G6	加EⅣ	
484	8F7	称		507	8F7	加B		530	8G6	加EⅣ	
485	8F12	称		508	8F12			531	8G6	加EⅣ	
486	8F11	称		509	8F12			532	8G6	加EⅣ	
487	8F7	称		510	8F7			533	8G6	加EⅣ	
488	8F7	称		511	8F7	称		534	8G8	加EⅣ	
489	8F12	称		第79図512	8G1	中初		535	8G2	加EⅣ	
490	8F11	称		513	8G1	加EⅠ		536	8G6	中	
491	8F11	称		514	8G6			537	8G8	中	
492	8F7	称		515	8G6			538	8G11	中	
493	8F16	称		516	8G2	加EⅡ		539	8G11	中	
494	8F7	称		517	8G11	加EⅠ		540	8G1	中	
495	8F7	称		518	8G12	加EⅡ		541	8G12	中	
496	8F7	称		519	8G6	加EⅡ		542	8G12	中	
497	8F11	称		520	8G6	加EⅢ		543	8G12	中	
498	8F7	称		521	8G8	加EⅢ		544	8G12	中	
499	8F7	称		522	8G6	加EⅢ		545	8G12	中	
500	8F23	称		523	8G8	加EⅢ		546	8G11	後初	

※阿…阿玉台　中…中期　加EⅠ～Ⅵ…加曽利EⅠ～Ⅳ
中・初…中期初頭　勝…勝坂　称…称名寺　堀…堀之内
後…後期　加B…加曽利B

表13　出土遺物　弥生土器・内耳・灯明皿・土製品他

挿図番号	出土地点	名　称	時　期	挿図番号	出土地点	名　称	時　期	挿図番号	出土地点	名　称	時　期
第80図 1	8F23	土製円盤		第81図 1	7G15・方3	弥生土器	後　期	第82図 1	7G10溝	灯明皿	〃
2	8F7	〃		2	8F16	〃	〃	2	8G6溝	陶　器	〃
3	8F7	〃		3	7G15溝	〃	〃	3	表採資料	灯明皿	
4	8F7	〃		4	7G10	〃	〃	4	8G1	〃	
5	7F20溝	〃		5	8G6	〃	〃	5	8F11	〃	
6	7F20溝	〃		6	7G14・方2	〃	〃	6	8G1溝	杯形土器（須恵器）	平　安
7	8F7	〃		7	8F7	〃	〃	7	8F11	〃	〃
8	8F7・方1	〃		8	7G14・方3	〃	〃	8	表採資料	〃（土師器）	〃
9	8F2	〃		9	7G14・方3	〃	〃	第83図 1	7G10	内耳口縁	中　世
10	7F12・方2	〃		10	8F11・方1	〃	〃	2	7G10	〃	〃
11	8F6A	〃		11	7F24・方2	〃	〃	3	7G15溝	〃	〃
12	8F7	〃		12	8F11・方1	〃	〃	4	8G1溝	〃	〃
13	8F11・方1	〃		13	7F24・方2	〃	〃	5	7G9溝	〃	〃
14	8F7	〃		14	7G14・方3	〃	〃	6	7G15	〃	〃
15	8F7	〃		15	8F7	〃	〃	7	8F13	〃	〃
16	7F12・方1	〃		16	7G14・方3	〃	〃	8	7G14	〃	〃
17	表採資料	〃		17	7G14・方3	〃	〃	9	7F24溝	〃	〃
18	7F13・方2	(スプーン形)		18	8G1溝	〃	〃	10	7F25溝	〃	〃
19	7F20溝	蓋形土器	加ⅠⅣ	19	7F13・方2	〃	〃	11	7F25溝	〃	〃
				20	7G15溝	〃	〃	12	8G6溝	〃	〃
				21	7G15溝	〃	〃	13	7F20溝	〃	〃
								14	7G15	内耳底部	〃
								15	7F25溝	〃	〃
								16	7G9溝	〃	〃
								17	8G6溝	〃	〃
								18	7G5溝	摺り鉢	〃

表14　出土遺物―石器

挿図番号	名称	出土地点	法量	石質	備考
84図-1	石核(Cove)	7G8・住2	4 5×4.6×2.4	安山岩	旧石器
2	剝片(Frake)	8F7	5.3×3.3×0.8	安山岩	旧石器
3	石核(Cove)	5G5	4.4×4.9×2.9	安山岩	旧石器
4	握斧 ?	7G3・住2	8.4×5.0×2.7	砂岩	旧石器
85図-1	ナイフ形石器	8F6・B	3.6×1.5×0.3	チャート	旧石器
2	掻器	7F13・方2	4.5×2.5×0.7	黒曜石	旧石器
3	尖頭器	表採資料	4.1×1.8×0.9	安山岩	旧石器 茎部欠
4	尖頭器	表採資料	4.8×2.3×0.9	頁岩	旧石器 先端部欠
5	尖頭器	7F23・方3	2.8×1.9×0.4	チャート	片面加工
6	彫器	表採資料	2.4×1.6×0.4	チャート	
7	ナイフ形石器	7G5・溝1	4.8×2.0×0.5	チャート	
8	削器	7F23・方3	2.8×2.9×0.7	チャート	
9	剝片	8F7・方1	2.3×1.2×0.7	黒曜石	
10	剝片	表採資料	2.4×1.6×0.4	チャート	
11	剝片	8F7・A	2.2×1.8×0.4	チャート	
12	剝片	7F24	2.7×1.9×0.4	チャート	
13	剝片	表採資料	2.6×1.7×0.4	チャート	
14	剝片	7G15・溝2	3.2×2.6×0.6	頁岩	
15	剝片	7G5・溝1	4.1×3.6×1.4	チャート	
86図-1	石鏃	8F7	1.8×1.2×0.3	黒曜石	茎部欠
2	石鏃	表採資料	1.9×1.4×0.3	チャート	
3	石鏃	7F10	2.1×1.8×0.5	チャート	
4	石鏃	8G3・D3	1.9×1.5×0.4	チャート	
5	石鏃	表採資料	2.3×1.6×0.4	チャート	
6	石鏃	8F11・住1	2.2×1.6×0.3	チャート	
7	石鏃	8F23・方3	2.2×1.6×0.3	頁岩	先端部欠
8	石鏃	8F8・方1	2.2×1.6×0.3	頁岩	
9	石鏃	8G3・D4	2.1×1.6×0.3	チャート	茎部欠
10	石鏃	7F15・溝1	1.3×1.5×0.3	黒曜石	茎部欠
11	石鏃	8G8・D1	1.3×1.5×0.3	黒曜石	
12	石鏃	8F11・方1	1.5×1.5×0.3	めのう	
13	石鏃	表採資料	1.4×1.1×0.2	黒曜石	
14	石鏃	7F15・D6	1.5×1.4×0.4	黒曜石	部分欠
15	石鏃	6G8・表土	2.0×1.6×0.3	チャート	部分欠
16	石鏃	8G3・D4	1.9×1.6×0.3	チャート	
17	石鏃	8F18・住1	2.6×1.5×0.3	チャート	一部欠
18	石鏃	8F12・D4	2.3×1.7×0.4	頁岩	
19	石鏃	表採資料	2.2×1.5×0.4	チャート	
20	石鏃	8F16・P1	1.8×1.8×0.3	チャート	先端部欠
87図-21	石鏃	表採資料	1.8×1.5×0.3	チャート	
22	石鏃	7F24・方3	2.6×1.9×0.3	頁岩	一部欠
23	石鏃	6F20	3.7×1.6×0.5	チャート	
24	石鏃	7F24・D7	3.1×2.1×0.6		先端部欠
25	石鏃	8F7・溝	2.6×1.9×0.4	チャート	先端部欠
26	石鏃	7F24・方3	2.5×1.9×0.4	頁岩	
27	石鏃	6F22・表土	1.4×2.4×0.3	頁岩	先端部欠
28	石錐	8G13・D4	2.8×1.9×0.7	黒曜石	
29	石錐	7F18・方2	3.1×2.0×0.6	チャート	
30	石鏃	表採資料	1.4×1.7×0.4	黒曜石	部分
31	石鏃	8F21・P4	0.8×1.1×0.3	水晶	部分
32	大珠	8G11	4.0×2.8×2.3	花崗岩	½欠
33	磨製石斧	8G11	2.9×1.5×0.8	緑泥片岩	ノミ形石器
34	磨石	8F12・D1	2.8×2.5×1.2	砂岩	
35	磨石	7F18・方2	2.8×2.5×2.1	砂岩	
36	骨角器	8F6・方1	1.8×0.5×0.3		
88図-1	打製石斧	8F8	11.1×7.3×2.4	砂岩	222g
2	打製石斧	7G3・P3	11.9×6.7×1.6	安山岩	156g
3	打製石斧	2T	11.2×7.3×3.7	花崗岩	352g
4	打製石斧	7F24・D1	12.9×8.7×2.6	安山岩	201g
5	打製石斧	2T	16.7×7.1×1.6	砂岩	
6	打製石斧	6G6	9.9×6.7×2.0	安山岩	148g
7	打製石斧	8F8	7.5×7.3×2.5	硬質砂岩	144g

表15　出土遺物・石器

挿図番号	名称	出土地点	法量	石質	備考
88図-8	打製石斧	表採資料	6.2×7.3×1.4	砂岩	91g
9	打製石斧	6G13・表土	6.0×6.0×1.5	安山岩	73g
10	打製石斧	7F24・溝	7.1×5.5×1.2	スレート	43g
11	打製石斧	7F25	5.3×7.0×1.5	安山岩	55g
12	打製石斧	7F24・D2	5.9×6.2×1.6	スレート	63g
13	打製石斧	8F7	4.4×6.4×1.3	砂岩	41g
14	打製石斧	7F18・方2	7.8×4.6×1.5	スレート	53g
15	磨製石斧	8F17・住1	9.7×4.6×2.8	砂岩	244g
16	磨製石斧	8F17・住1	9.2×4.7×3.4	砂岩	225g
17	磨製石斧	7F20・住1	10.6×4.8×3.1	砂岩	233g
18	磨製石斧	8F8	3.9×3.9×2.5	硬質砂岩	部分66g
19	磨製石斧	7G9・溝	7.7×4.8×2.0	雲母片岩	129g
20	磨製石斧	8F11・方1	7.0×3.6×1.3	緑泥片岩	52g
21	磨製石斧	7F25	4.7×4.1×1.4	緑泥片岩	部分40g
22	磨製石斧	7F18・方2	5.7×2.5×1.9	硬質砂岩	刃部欠 22g
89図-1	礫器	8F17・住1	11.7×8.3×6.5	花崗岩	
2	礫器	8F8・A	11.5×7.1×4.8	花崗岩	スタンプ状
3	礫器	7F10・方1	9.2×6.1×3.6	花崗岩	多孔質
4	礫器	7F10・方1	11.8×8.0×5.3	花崗岩	
5	礫器	8G8・D1	7.4×6.0×2.6	チャート	
6	礫器	8F7・D	13.3×3.0×2.3	花崗岩	敲打器
7	礫器	7G9・D3	11.2×6.2×5.1	硬質砂岩	敲打器
8	礫器	7G3・住2	8.6×5.1×2.7	流紋岩	磨石
9	礫器	8F8・方1	8.0×6.0×2.0	多孔質安山岩	磨石
10	礫器	7G10・溝	8.2×6.6×1.8	砂岩	磨石
11	礫器	8F11・方1	6.8×4.9×1.2	流紋岩	磨石
12	礫器	8F18・方1	7.2×4.9×0.9	安山岩	磨石
13	礫器	7G15・溝	5.5×8.0×1.3	砂岩	
14	礫器	2T・D4	5.6×5.3×1.4	砂岩	
15	凹器	8F8	11.3×10.3×5.9	石英斑岩	磨石
16	凹石	8F11・住1	10.1×8.5×4.6	多孔質安山岩	磨石
90図-17	凹石	7G10	10.1×9.2×6.1	石英斑岩	磨石

挿図番号	名称	出土地点	法量	石質	備考
90図-18	凹石石	7F15	10.8×8.3×4.3	安山岩	磨石
19	凹石	8F13	12.5×6.6×3.7	安山岩	磨石
20	凹石	8F7	9.4×4.4×3.1	多孔質安山岩	磨石 197g
21	凹石	8F7・D7	7.0×6.0×4.0	安山岩	磨石
22	凹石	7F20・方2	6.8×6.2×4.1	石英斑岩	磨石
23	磨石	7F24・D1	9.4×7.7×4.2	安山岩	
24	磨石	8F8・A	8.0×5.6×3.4	安山岩	
25	磨石	7F20・住1	10.3×5.3×3.8	角閃安山岩	
26	磨石	表採資料	8.2×5.3×4.5	砂岩	
27	磨石	8F7	6.3×6.2×3.9	花崗岩	敲打痕
28	磨石	8F17・住1	7.5×5.5×3.8	安山岩	敲打痕
29	磨石	表採資料	6.9×4.6×4.0	安山岩	
30	磨石	8F12・方1	5.9×5.6×4.8	安山岩	
31	磨石	8F8・方1	7.1×5.1×5.1	角閃安山岩	敲打痕
32	磨石	表採資料	6.9×6.1×3.1	安山岩	
33	磨石	6F12・表土	7.5×4.8×3.5	流紋岩	敲打痕
34	磨石	7F15P1	7.5×5.0×3.7	安山岩	
35	磨石	8F7	7.3×4.4×4.2	硬質砂岩	
91図-36	磨石	8F8	5.0×4.5×3.1	安山岩	
37	磨石	7G・住2	6.1×5.8×1.8	流紋岩	
38	磨石	8F12・方1	5.2×5.1×3.8	安山岩	敲打痕
39	磨石	8F8	5.4×4.7×3.5	安山岩	敲打痕
40	磨石	8F7	4.6×4.02.6	流紋岩	敲打痕
41	磨石	8F13・D3	5.2×3.9×3.0	花崗岩	敲打痕
42	磨石	8F6・A	4.8×3.9×2.7	安山岩	敲打痕
43	磨石	7F18・方2	5.1×4.0×3.0	多孔質安山岩	敲打痕
44	磨石	7F24・D1	5.0×4.8×2.8	安山岩	
45	磨石	7F19	4.8×4.2×1.6	流紋岩	
46	磨石	8F13	4.5×444×2.7	斑糎岩	
47	石錐	7F18・方2	6.0×3.8×1.1	安山岩	
48	磨石	7F9・住1	8.4×5.9×3.6	多孔質安山岩	
49	石皿	7G13・D1	8.6×7.0×4.0	多孔質安山岩	部分

表16　出土遺物ー石器

挿図番号	名　称	出土地点	法　量	石　質	備　考	挿図番号	名　称	出土地点	法　量	石　質	備　考
91図-50	石　皿	7G15	10.8×7.4×4.6	多孔質安山岩	部分	92図-3	凹　石	7F18・方2	13 3×12.8×7.1	多孔質安山岩	両面使用 石皿兼用
51	砥　石	7F24・溝	9 6×3.1×1.5	多孔質安山岩		4	石　棒	7F18	24.9×12.7×9.7	花崗岩	凹石兼用
52	砥　石	8F7	6.0×4.7×2.8	凝灰質流紋岩		5	石　皿	8F18	25.6×9.8×6.2	安山岩	部分
92図-1	凹　石	8F13	21.0×16.0×8.4	花崗岩	両面使用	6	石　臼	8F13	φ28.5×12.5	安山岩	孔径2.4
2	凹　石	7F24・D1	12.8×8.5×8.0	花崗岩							

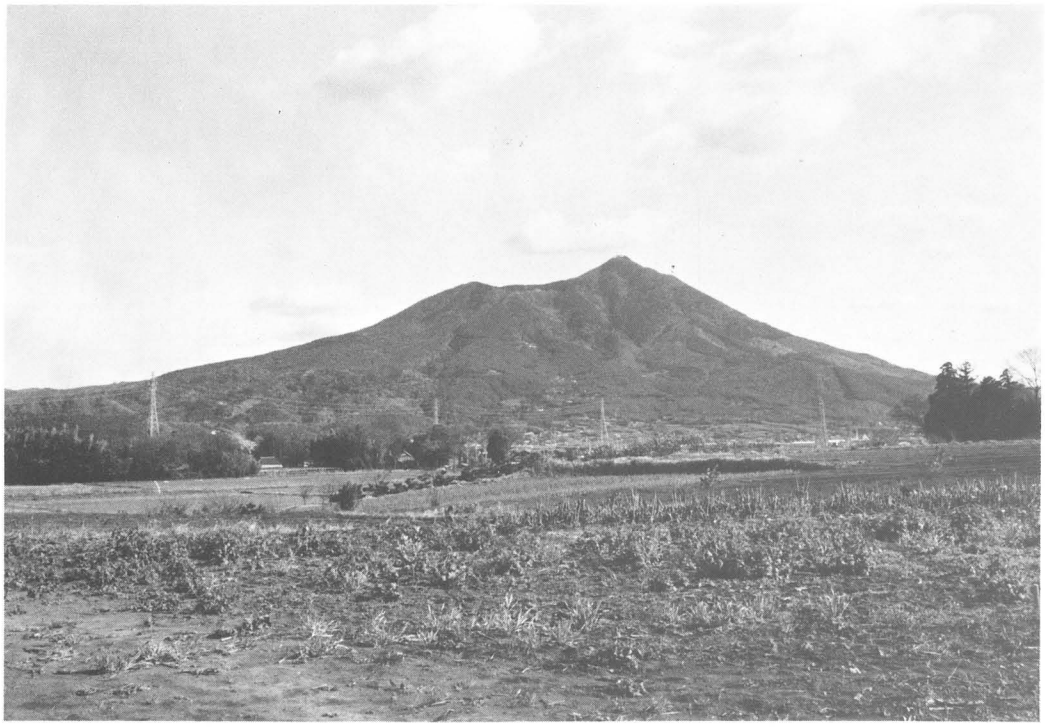
第5章　総　　括

昭和56年に行なわれた倉持遺跡の第１年次調査に引き続いて、第２年次調査は昭和57年10月28日から延べ４カ月にわたって実施されている。倉持遺跡の発掘調査は、全国的にも稀な町単費による学術的発掘調査であり、遺跡の分布調査、保存等基本的な計画を踏まえてのもので、まだ不備な点もあり不充分で今後のあり方が検討されるが、開発ブームの中で消滅していく遺跡の緊急調査の多い中、一石を投じるものとして評価される。

第２年次の調査は第１年次の試掘的な段階から、さらに具体的な遺跡の存り方、性格を知るためのもので、本格的な倉持遺跡の発掘調査はここから開始されたと言っても過言ではない。第１年次で検出された遺構に基いて作成された計画では、遺跡の拡がり、遺構の密度、時代的な性格を明らかにするためのもので、予想以上の成果を得ることができた。遺跡は北から南へ、また、西から東へと展開しており、時代的にも旧石器時代から中、近世に至るまでの複合的な遺跡で、集落における住居跡、墓域等遺構の密度も集中している。また、これ等の遺構は自然地形の谷がある程度埋没した段階で構築されたものであることがわかっている。旧石器時代の遺構は検出されていないが、安山岩の尖頭器、ナイフ形石器、石核等の存在は今後の調査に充分期待できる資料である。縄文時代では中期から後期にわたる時期のものが圧倒的に多く、住居跡、土壙が数多く検出されている。住居跡はプランが不整形なものが多く、炉跡、柱穴等も明確でない。土壙も小竪穴と称される形態をもつもの、円形のプランをもつピット状のもの、袋状土壙等いわゆる土壙的なもの（貯蔵穴、墓壙の性格は断定できない）等があるが、形状だけでは分類できない状況である。埋甕も深鉢土器をさかさまに置いたもの、正常位に置いたもの、不明瞭のものがあり、さらに細かい観察が必要である。時期的な分類は出土した土器で成されるものであろうが、異なる時期のものが混在しているものが多く、断定するまでには時間が費されるであろう。また、在地性の土器に対する外来系、すなわち東北、中部、東海地方の土器のあり方、石器に使用される石（花崗岩、チャート、黒曜石等が多い）の制約的な問題もこの時期倉持遺跡を含めた真壁地方の縄文時代を考える上で重要な課題となるであろう。弥生時代の遺構は住居跡が２軒のみで遺物もほとんどないが、遺跡の拡がりからみて今後はかなり検出されるであろう。古墳時代の遺構も少ないが、１年次の調査と合わせて円墳１基、方形周溝墓３基であるが、こうした墓を構築した集団の村が近くに存在しているものと思われる。歴史時代の遺構としては、土壙、築地状遺構、路状遺構等があり、明確な規模は把握できないながら、「院」の墨書須恵器や、鎮壇具的に埋置された三筋壺（瓶子）等は寺院、館の存在を充分に推察できるものであり、様々の課題を残しながらも今後の発掘調査の展開に注目したい。

図

版



遺跡近景（西側より）

遺跡全景（南側より）

図版 2

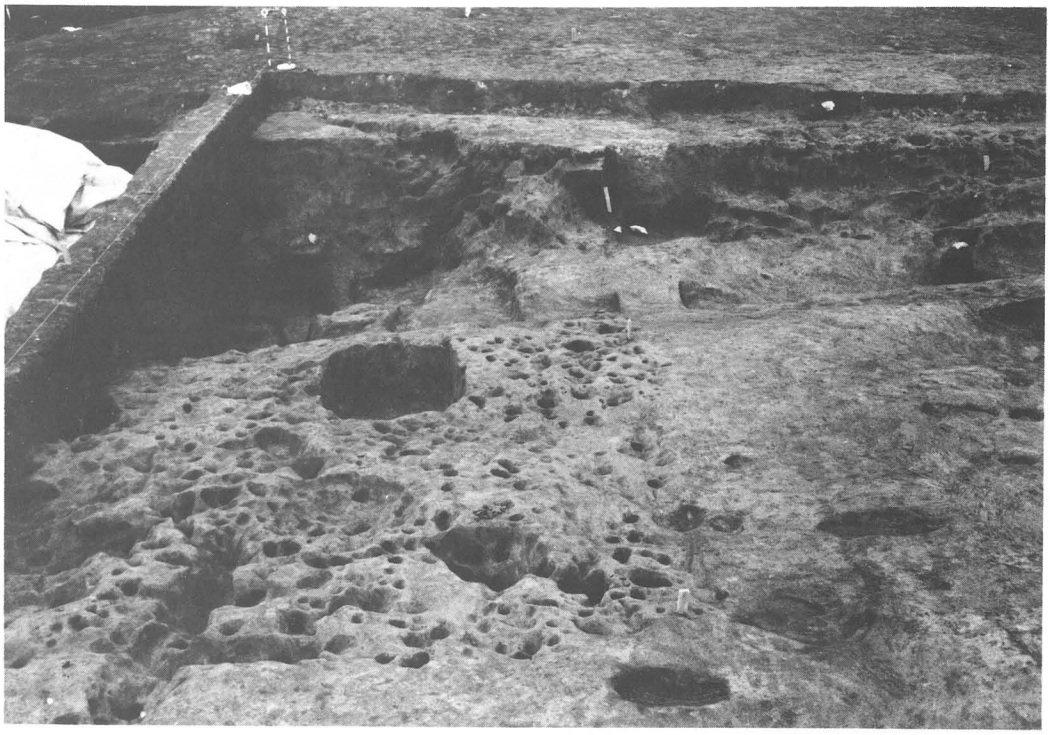
第 1 トレンチ（南側より）

遺跡西側―溝跡（南側より）

路状遺構（南側より）

築地状遺構と周辺の遺物出土状況

図版 4



遺跡西側の遺構検出状況（南側より）

遺跡中央部の遺構検出状況（南側より）

遺跡北側－路状遺構と溝跡（西側より）

遺跡北側の遺構検出状況－住居跡と土壙（西側より）

図版6

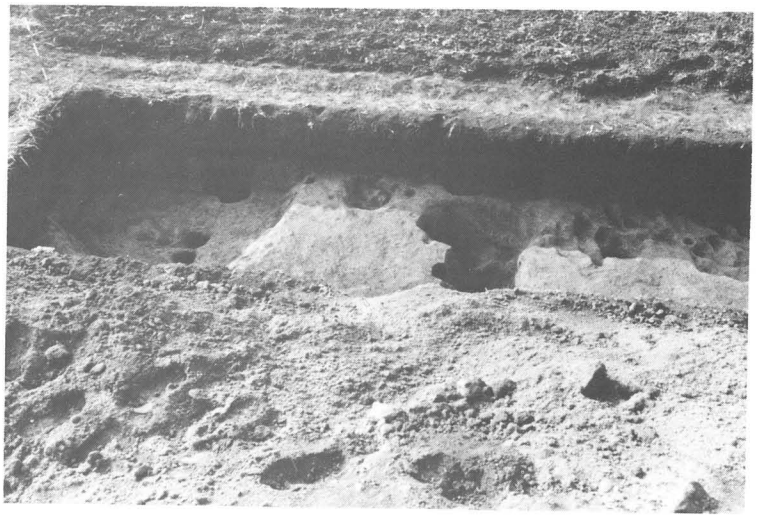
遺跡東南側の遺構検出状況（東側より）

遺跡西側の遺構検出状況（西側より）

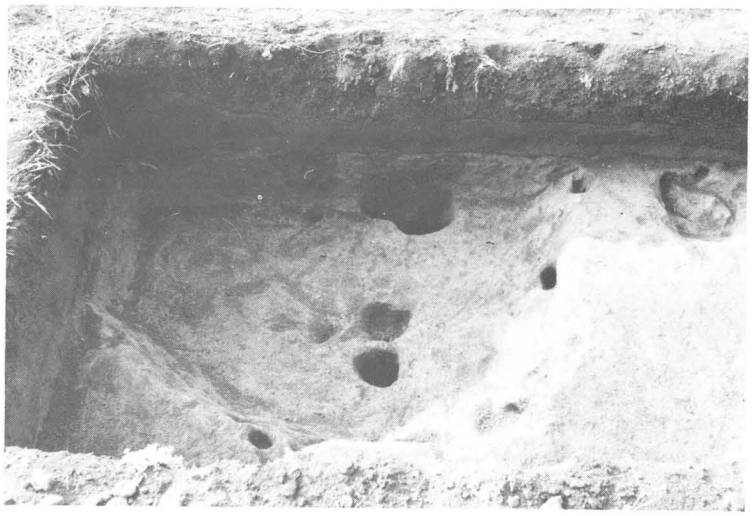
方形周溝墓と周辺の遺構（南側より）

1号方形周溝墓の北西隅（南側より）

図版8



第1トレンチ―南側部分
（東側より）

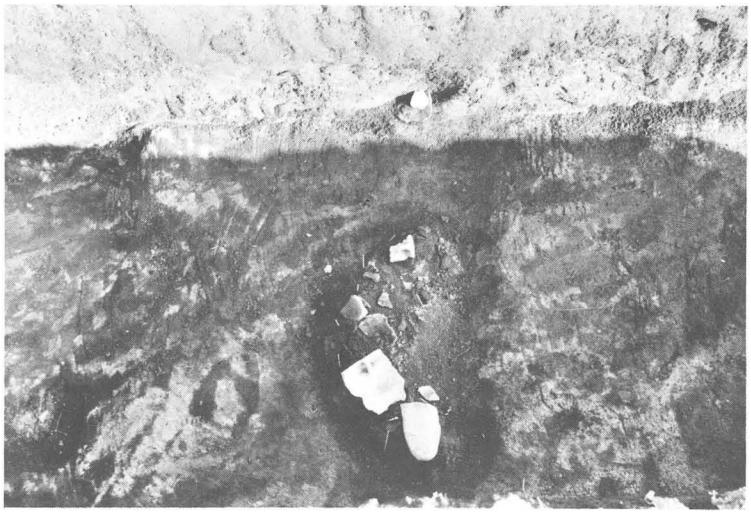


第1トレンチ―小竪穴1
（東側より）

第1トレンチ―柱穴群
（東側より）

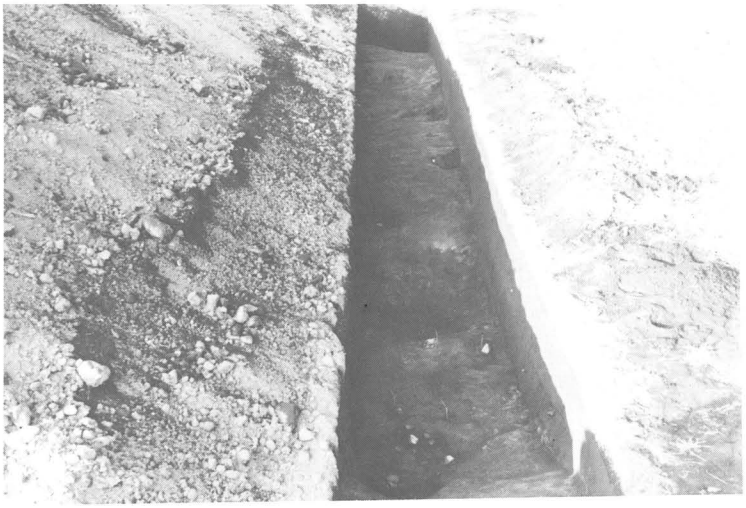
第１トレンチ―(南側より)

第１トレンチ―土壙群
(北側より)



第１トレンチ―土壙１内
遺物出土状況（西側より）

図版10

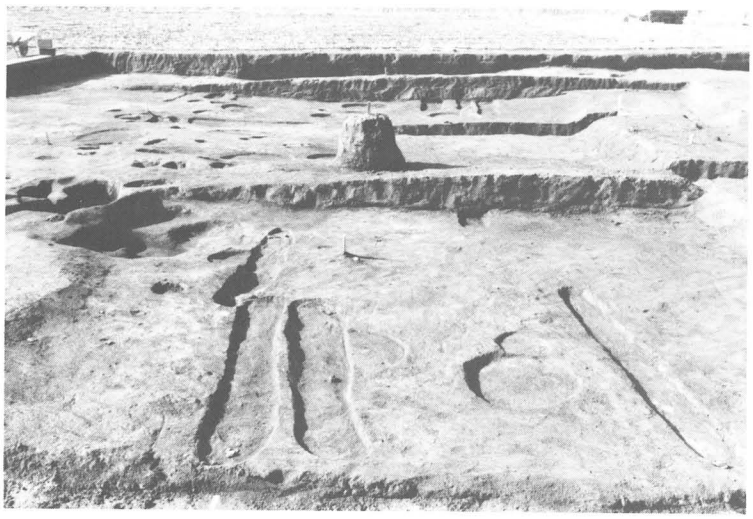


第２トレンチ―(南側より)

第２トレンチ―土壙１
(北側より)

第２トレンチ―遺物出土
状況（東側より）

遺跡西側－遺構プラン
確認状況（南側より）

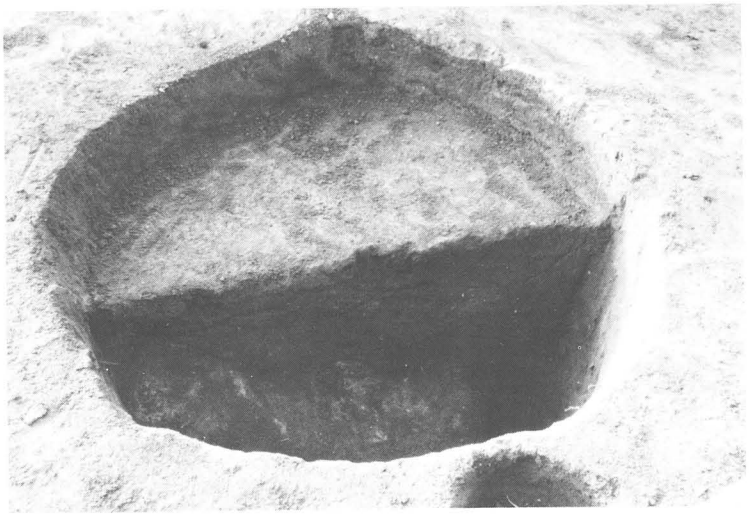


遺跡中央部－畝状遺構の
確認状況（東側より）

遺跡中央部－遺構検出
状況（南側より）

図版12

円形土壙（7 G15P 3）
の堆積土層
（南側より）



円形土壙（7 G15P 2）
の堆積土層
（東側より）

円形土壙（7 G10P 2）
の堆積土層
（東側より）

遺跡北側の遺構 検出状況
（西側より）

遺跡北側の遺構－住居跡
と土壙（東側より）

遺構南側の遺構 検出状況
（西側より）

図版14

遺跡北側の土壙検出状況
（東側より）

遺跡東側の遺構検出状況
（南側より）

遺跡東側の遺構検出状況
（東側より）

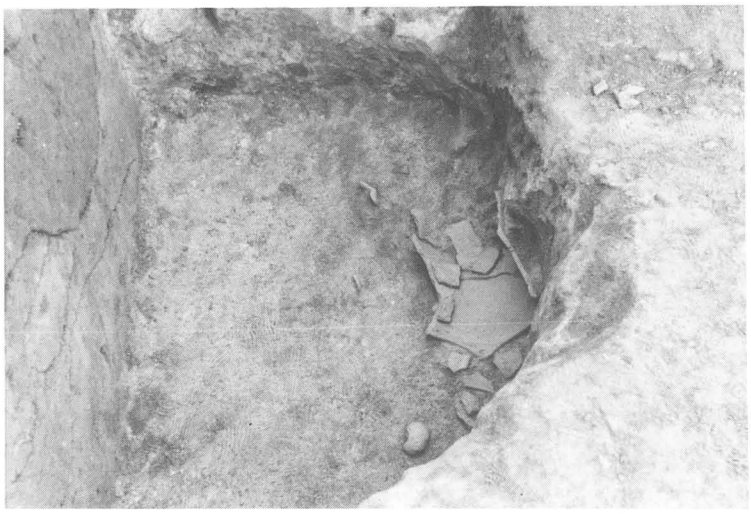
路状遺構と小竪穴（７Ｆ24）
（東側より）

３号方形周溝墓と円形土壙
（Ｄ６　７Ｆ24）（南側より）

１号方形周溝墓の底面に
検出された小竪穴
10（８Ｆ11）（北側より）

図版16

袋状土壙７（７Ｆ15）の
堆積土層（東側より）

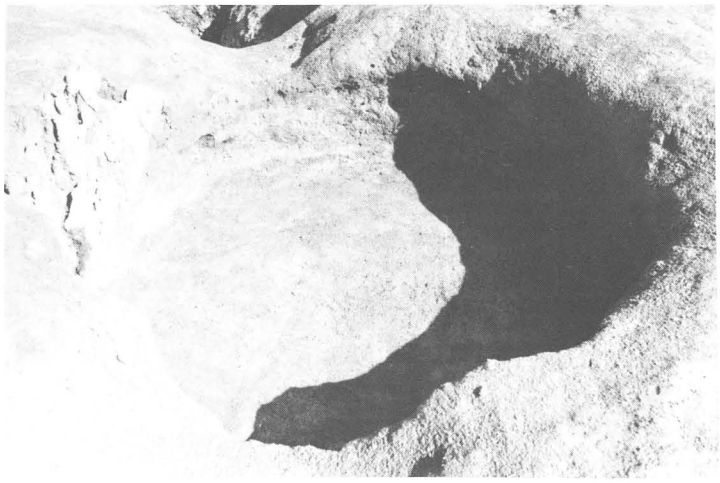


袋状土壙７の土器出土
状況（南側より）

袋状土壙７の土器出土
状況（西側より）

袋状土壙１（東側より）
（７Ｆ14）

袋状土壙４（南側より）
（７Ｇ４・９）



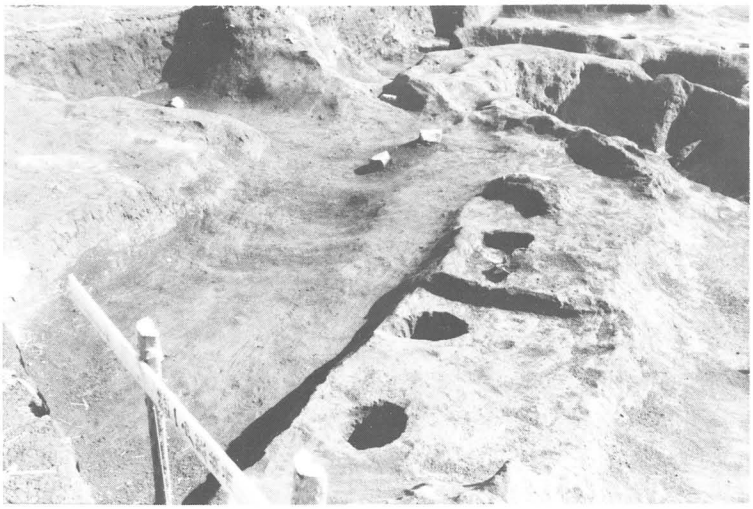
袋状土壙７（西側より）
（７Ｆ15）

図版18

埋甕３（８Ｆ６）と周辺の遺物出土状況（南側より）

埋甕３と周辺の遺物出土状況（南側より）

埋甕３の近景（南側より）

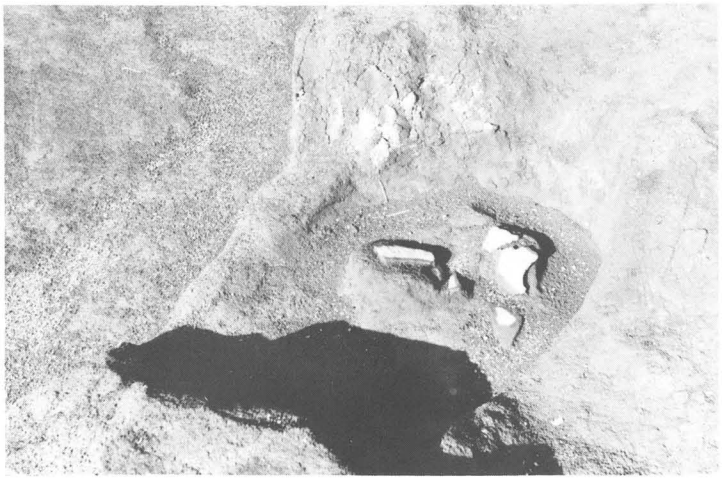


2号方形周溝墓と住居跡2
（7F18）（北側より）

2号方形周溝墓南西隅部分
の遺物出土状況（東側より）

石棒（兼凹石）の出土
状況（北側より）

図版20



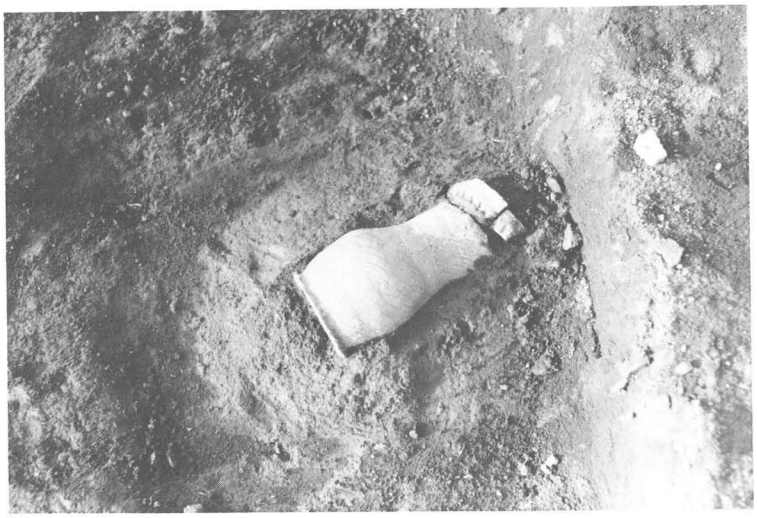
袋状土壙５（７Ｇ９）の遺物
出土状況

遺物（凹石・縄文土器）
出土状況（８Ｆ13）

集石遺構（８Ｆ７）

弥生時代の住居跡
(8F17・18)(西側より)

弥生時代の住居跡
(南側より)

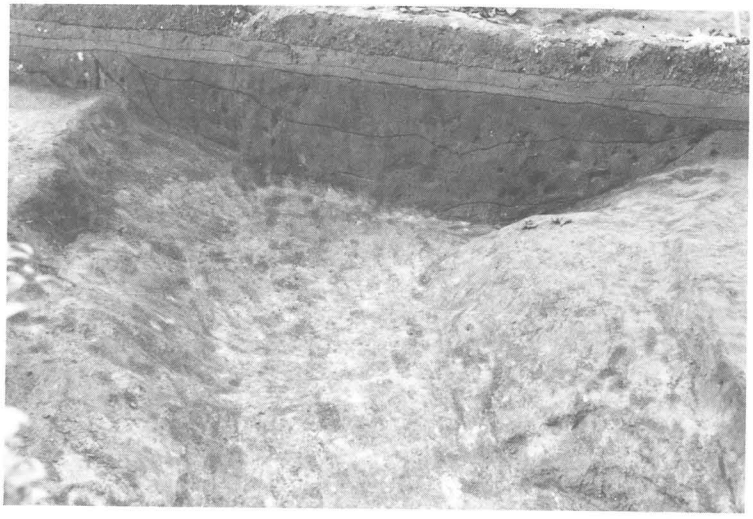


弥生時代の住居跡
(床面の弥生土器)

図版22

3号方形周溝墓西側
（南側より）

3号方形周溝墓南側
（東側より）



3号方形周溝墓東側溝
北壁の断面（南側より）

路状遺構と土壙９（７Ｇ４）
（東側より）

路状遺構と溝跡
（西側より）

路状遺構と溝跡
遺物出土状況（南側より）

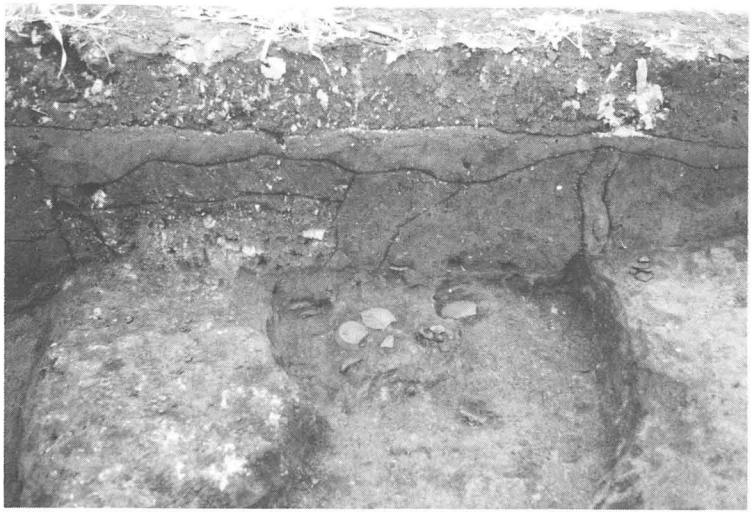
図版24

溝跡と土壙群（７Ｇ10）
（西側より）

溝跡と土壙群
（西側より）

溝跡と周辺の遺構
（東側より）

土器焼成遺構（8Ｆ12）
の粘土堆積状況
（北側より）

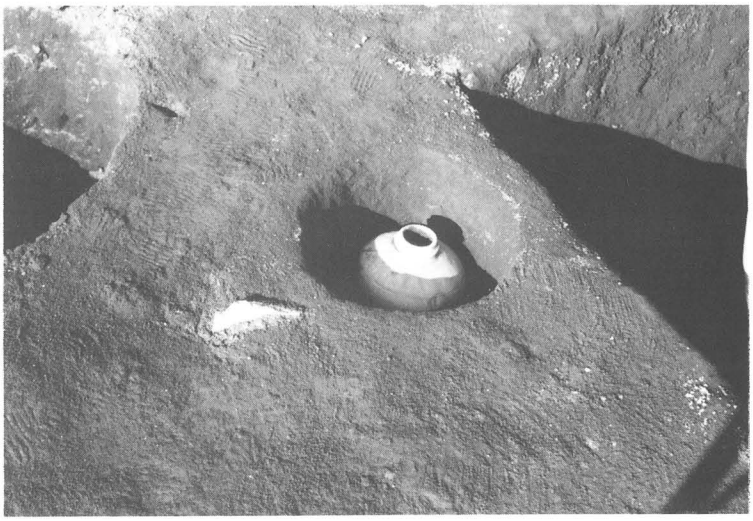


土器焼成遺構の遺物出土
状況と堆積土層
（東側より）

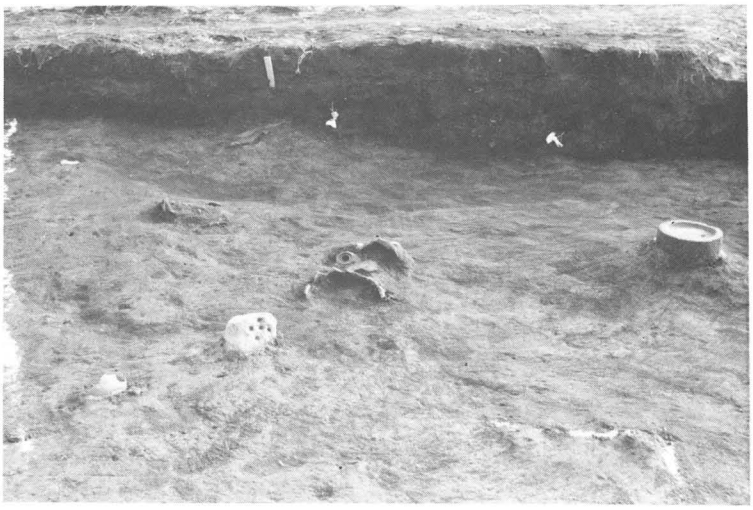
土器焼成遺構の遺物出土
状況
（南側より）

図版26

瓶子出土状況
（8Ｆ12―東側より）



瓶子出土状況
（8Ｆ12―西側より）



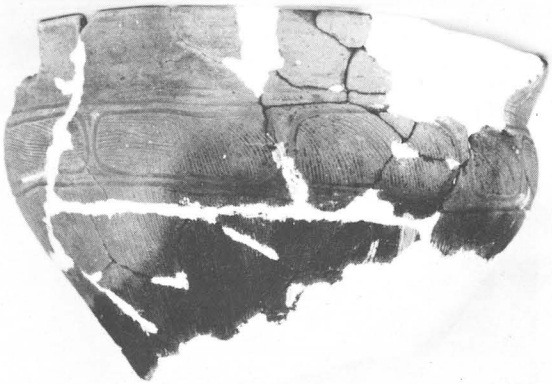
遺物出土状況
（8Ｆ13―北側より）

発掘作業風景
（西側より）

遺跡見学会

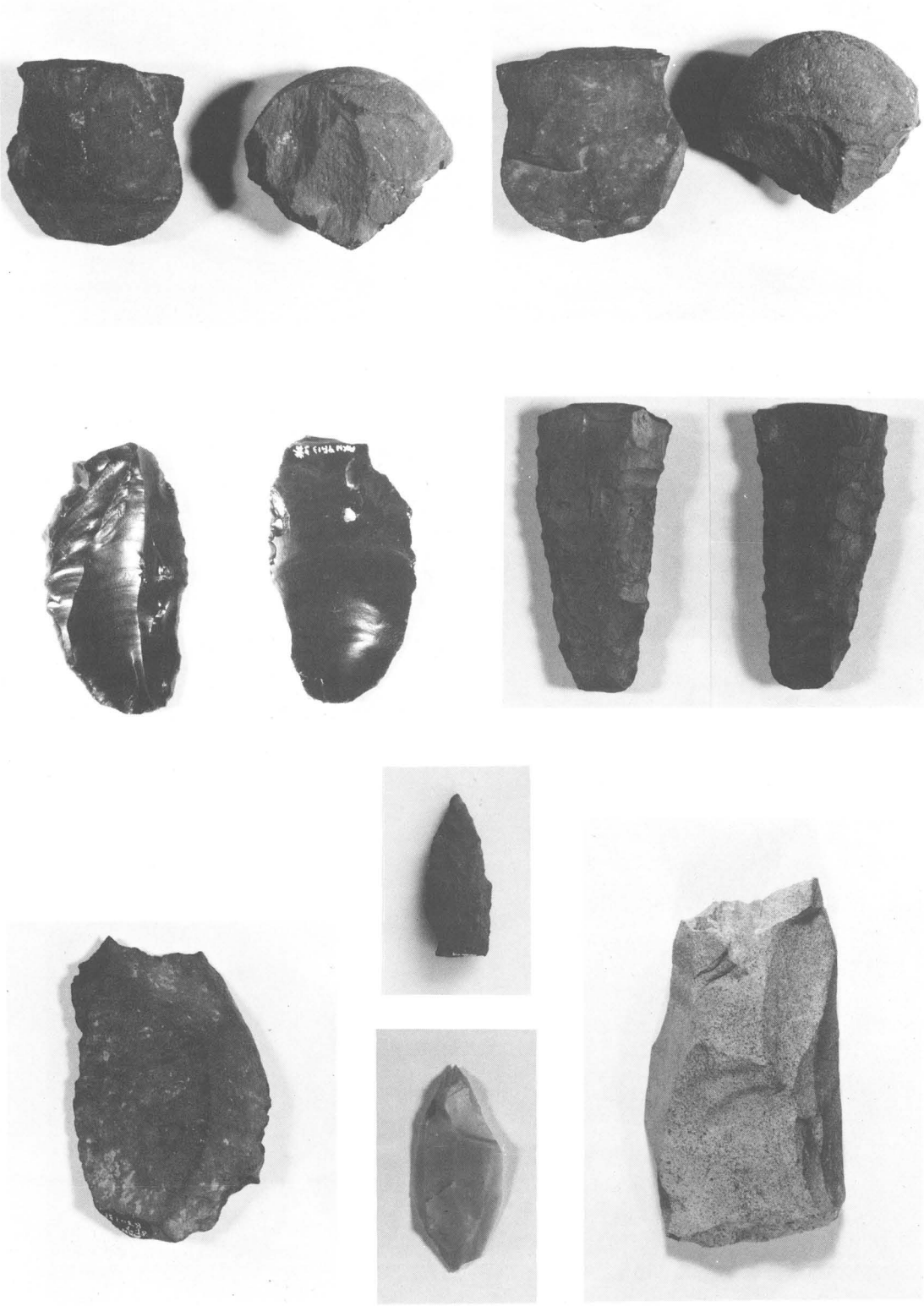
遺跡見学会

図版28

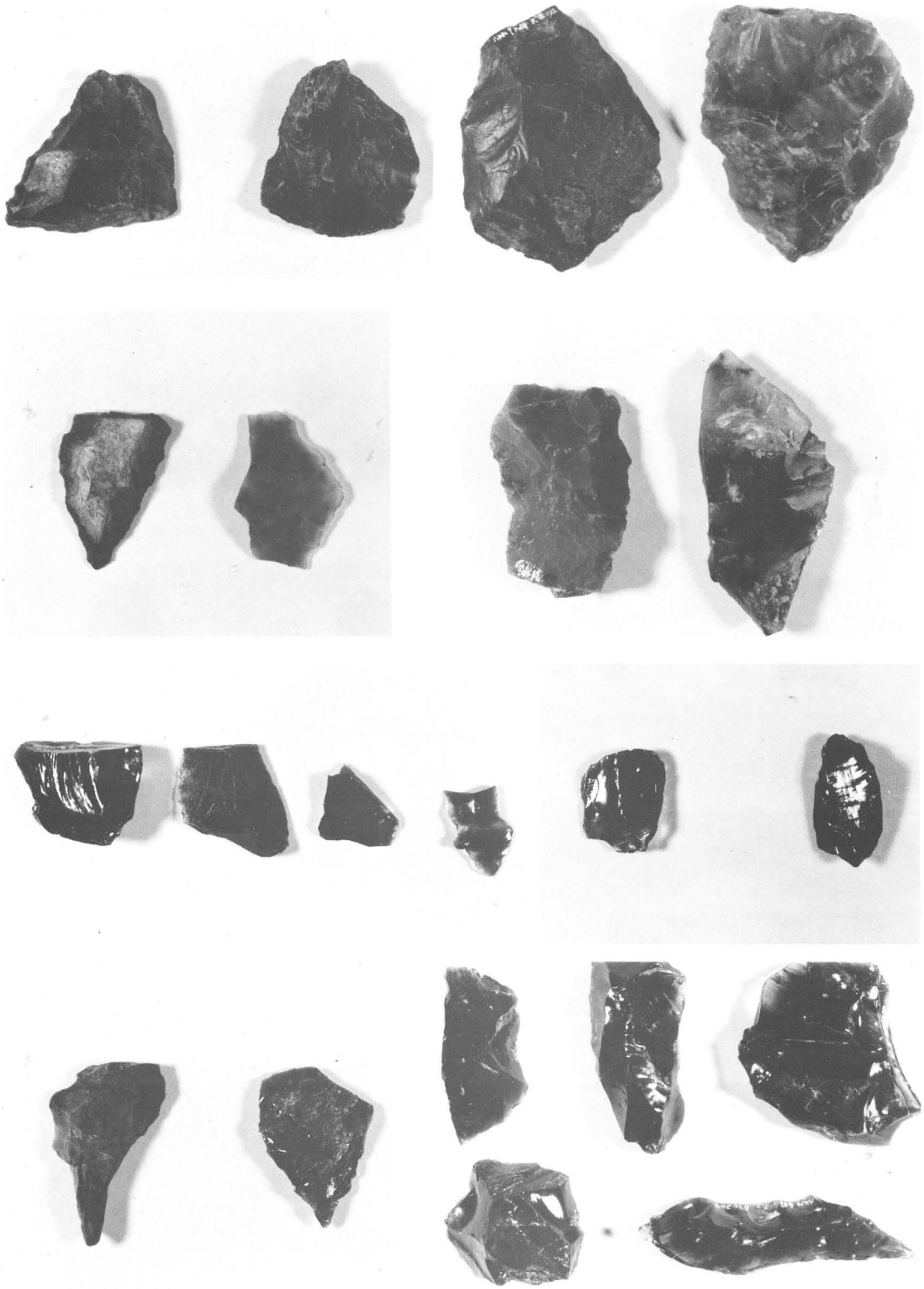


出土遺物１―縄文土器

出土遺物２―縄文土器・土製品

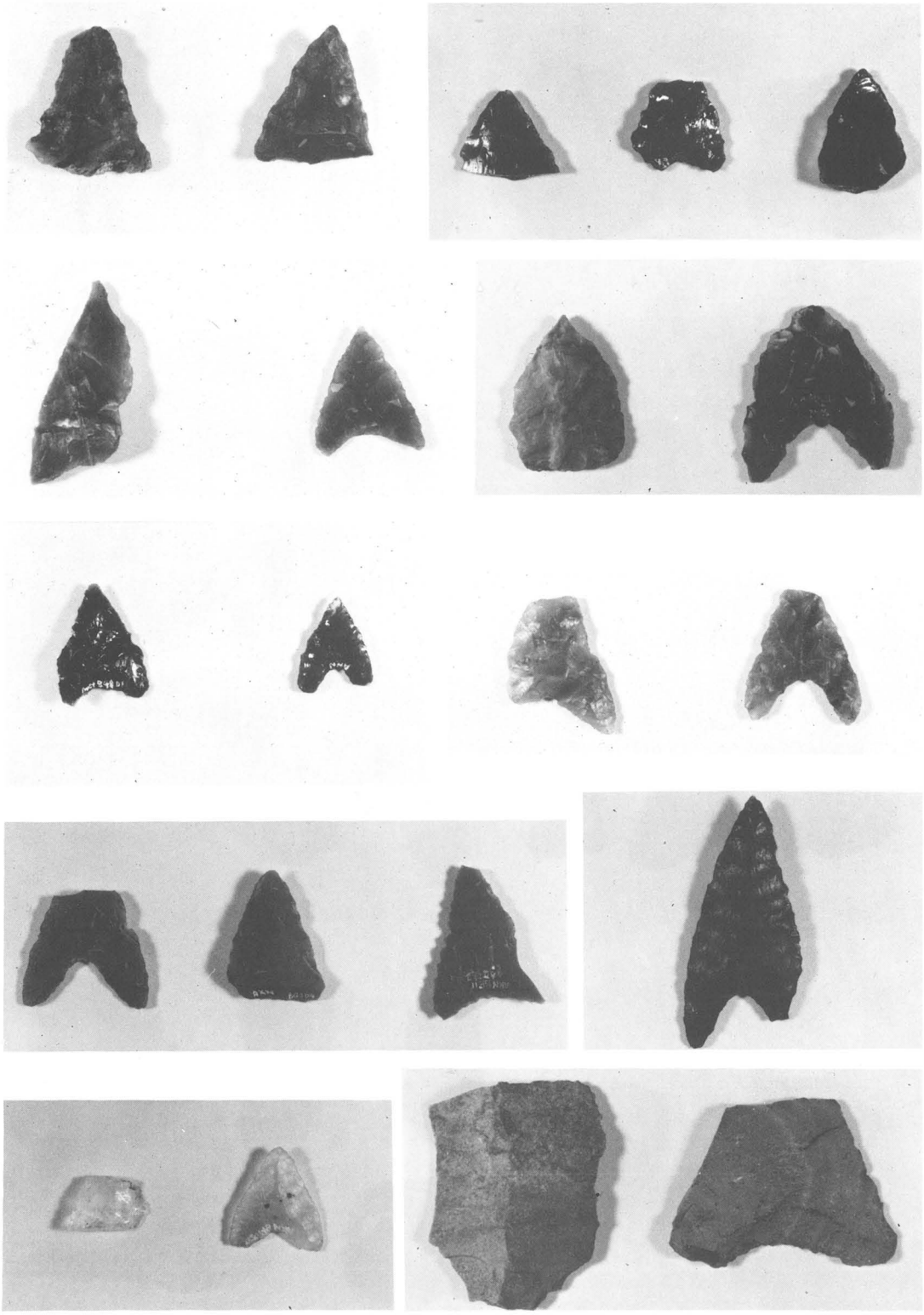


出土遺物３―旧石器

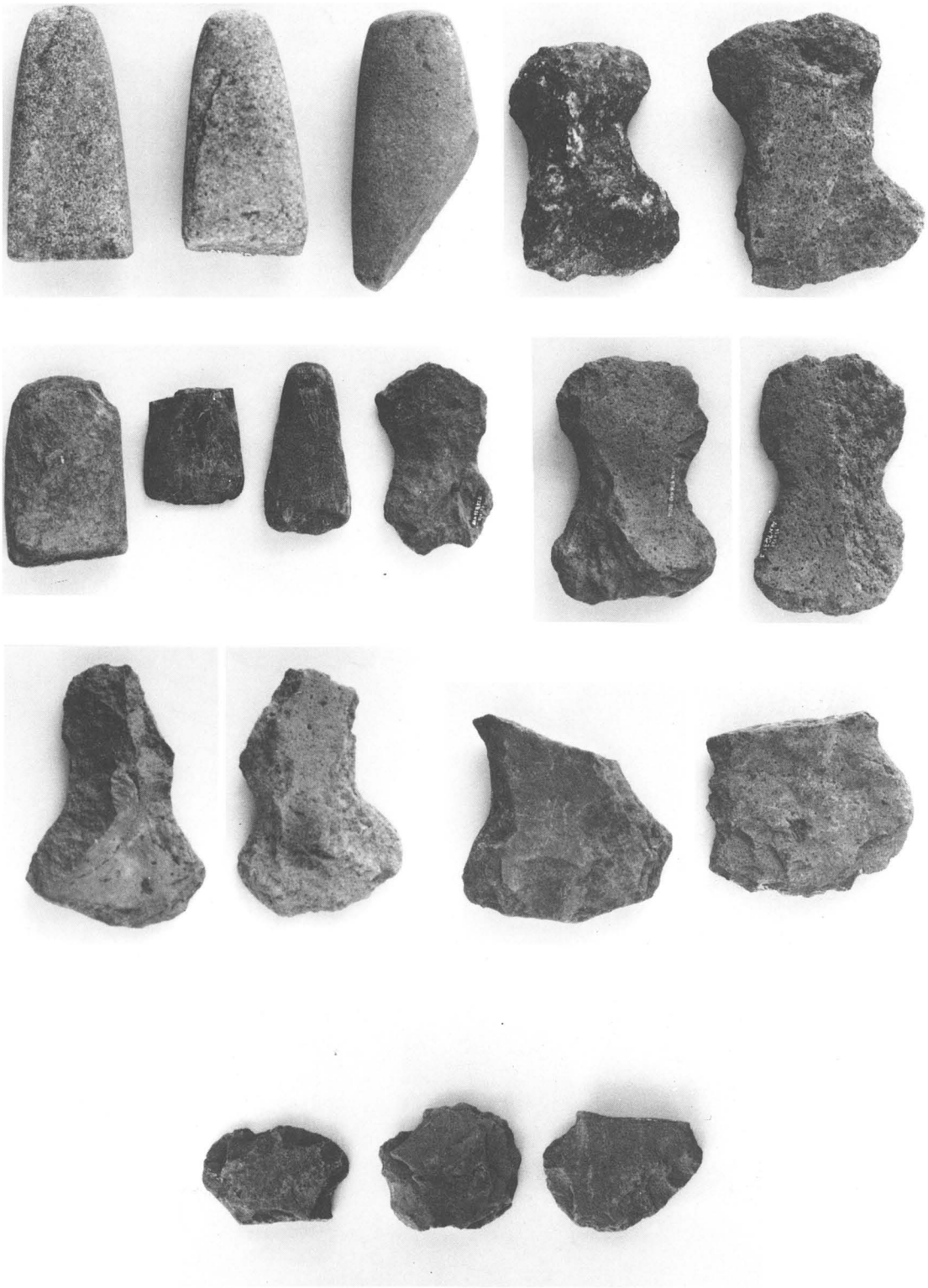


出土遺物４―石器・剥片

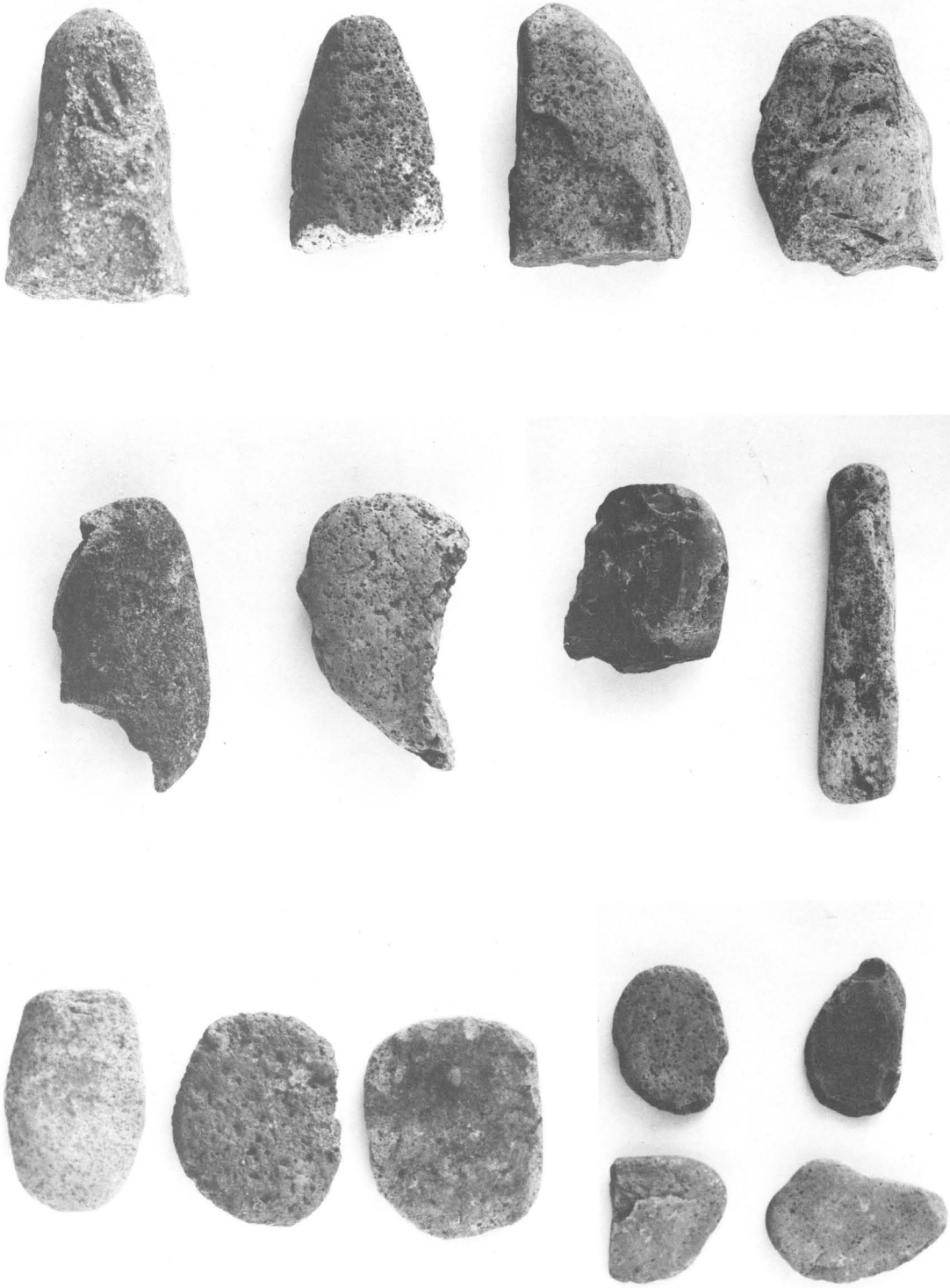
図版32



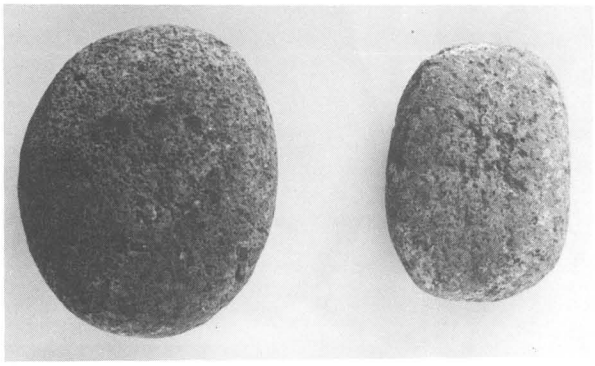
出土遺物５―石　鏃

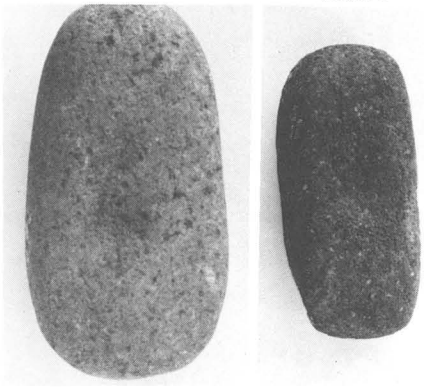


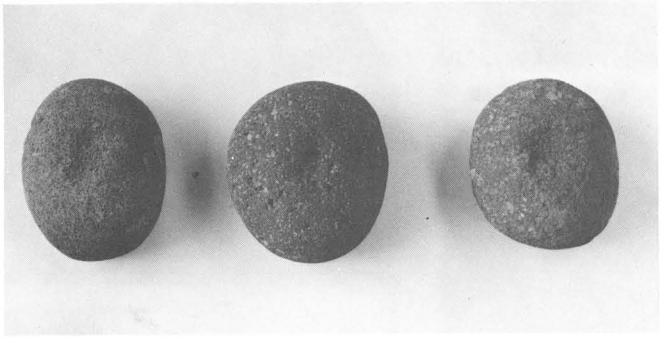
出土遺物６ —磨製石斧・打製石斧



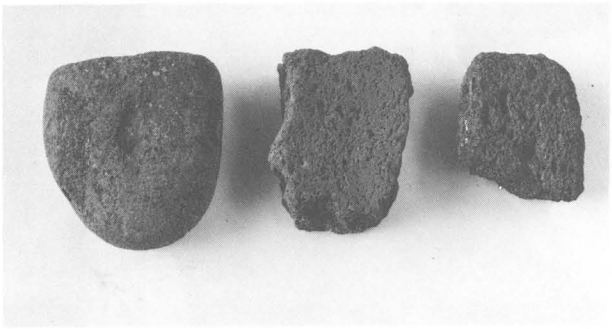
出土遺物７―礫器・叩き石

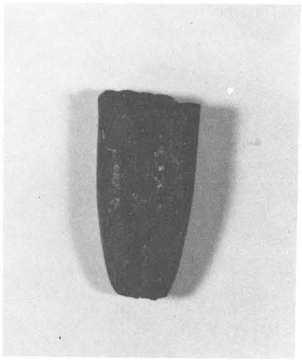


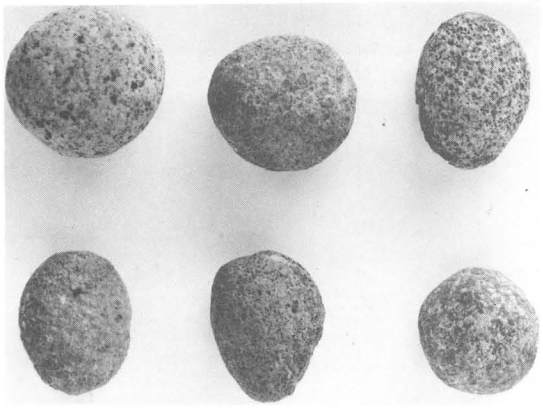


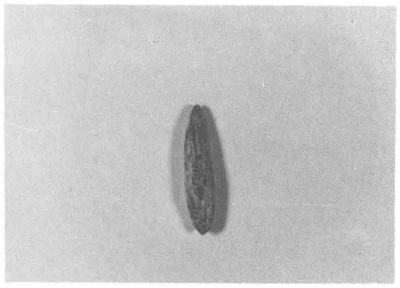


大 珠



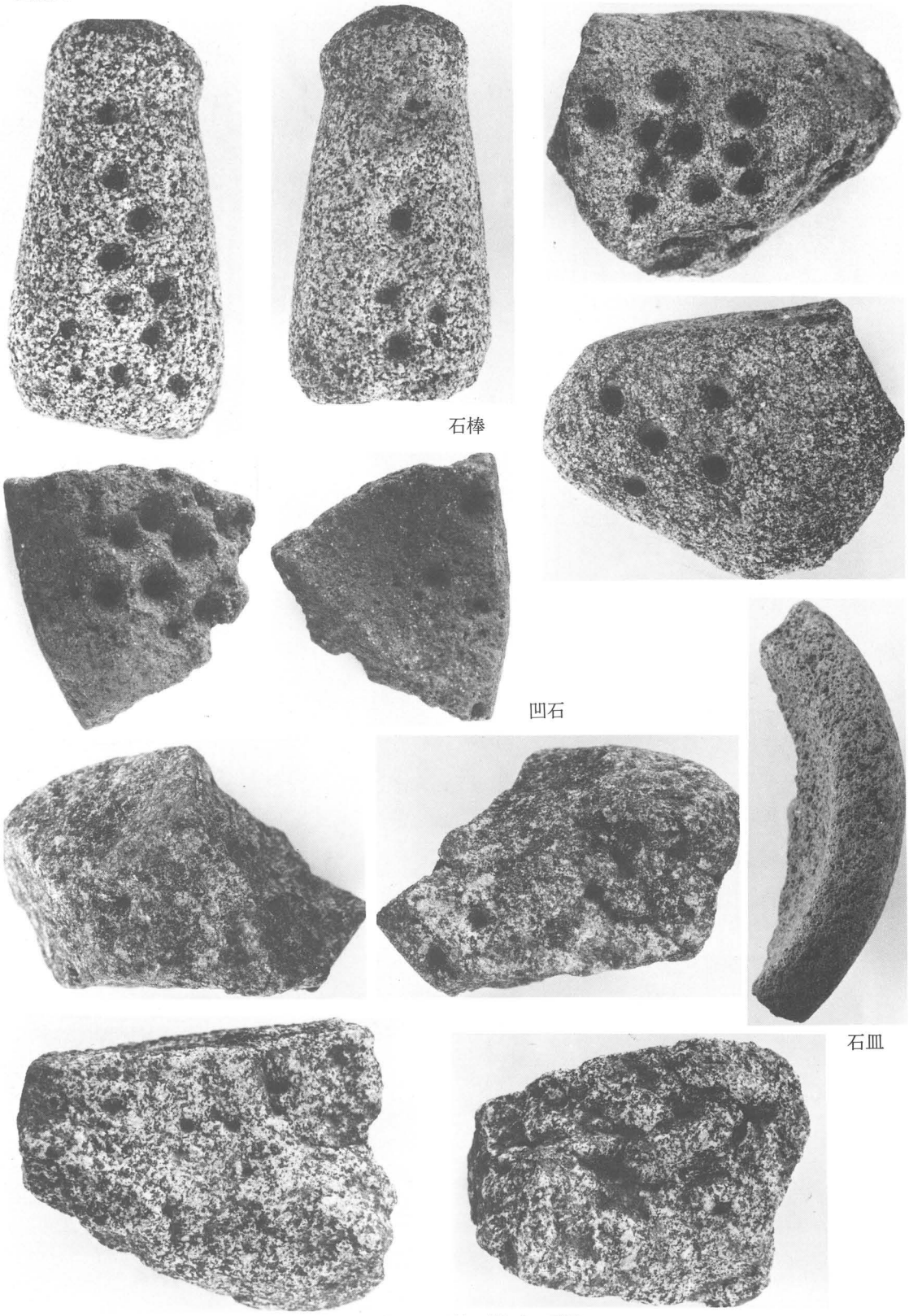






骨角器

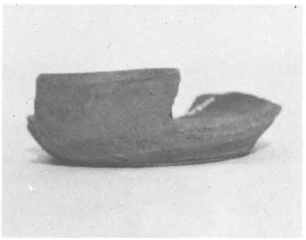
出土遺物８―石器・骨角器

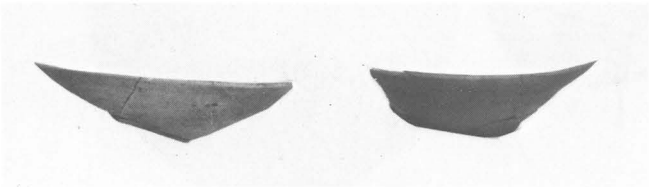


出土遺物９―石棒・凹石・石皿

灯明皿

弥生土器

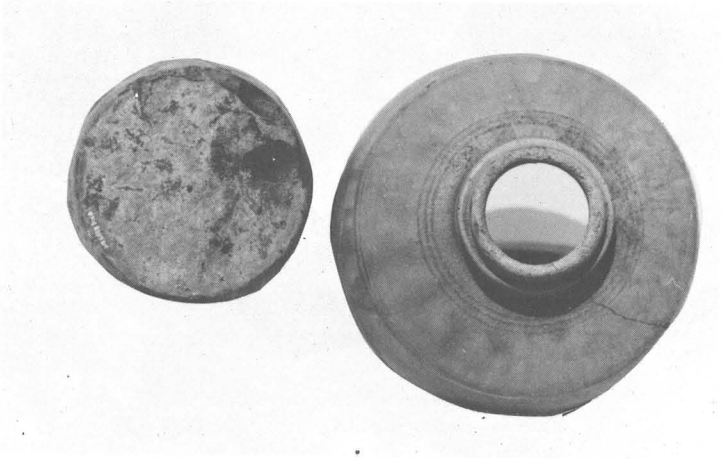




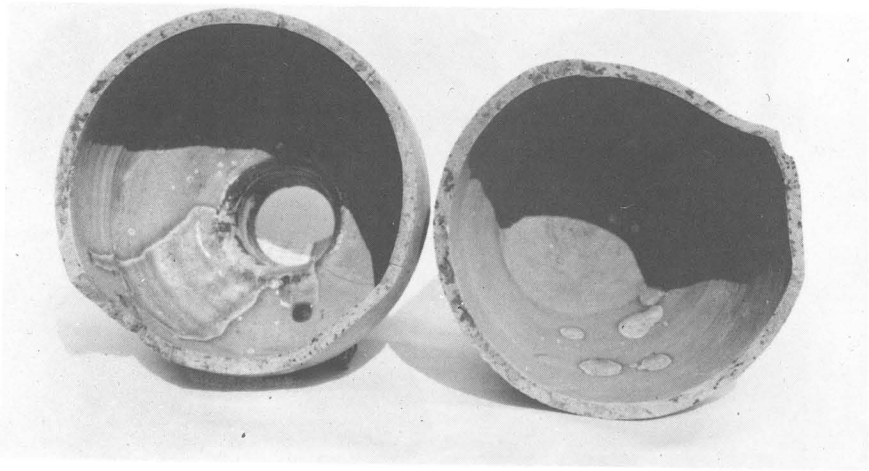
杯形土器

出土遺物10—弥生土器・灯明皿・杯形土器

図版38



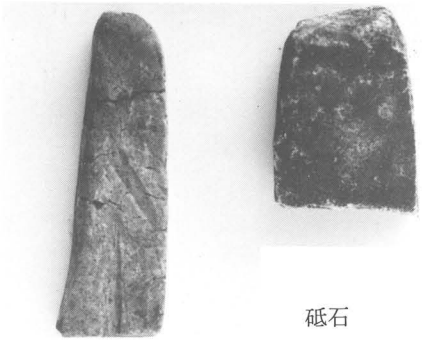
（底部・上面）



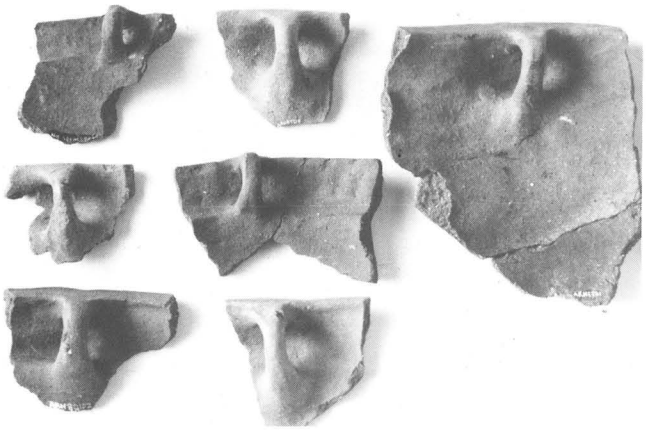
（内面）

出土遺物11—瓶　子

内耳土器



砥石



石臼

出土遺物12—内耳土器・硯・砥石・石臼

茨城県明野町埋蔵文化財発掘調査報告書第２集

倉持遺跡—第２年次調査—

昭和59年３月31日発行

編　集　明野町教育委員会

発　行　明野町長　加倉井　正　利
茨城県真壁郡明野町大字海老ケ島1,300番地

印　刷　石崎印刷株式会社
茨城県西茨城郡岩瀬町岩瀬174